

Table with 2 columns: Year, Amount. Rows for various years and categories like '秋田', '計', '全額'.

間社会事業功勞者として選奨され、同佛教興道會に山形縣成生佛教會は經營費三百圓乃至二百圓を助成金として交付された。

中蘆寺一帶の保存指定 藤原氏三代文化の歴史を語る岩手縣中蘆寺は大泉池附近、無量光院跡の二ヶ所が史蹟として保存されてゐるのみで、秀衡等豪華の跡たる廣大な史蹟が漸次失はれつつある。

馬匹博物館建設 宮城縣岩沼町鎮座縣社竹駒神社では三萬圓の工費で百五十坪コンクリート建の馬匹博物館を建設する。

福島縣内郷村國寶遺蹟式 文部省では昭和十四年四月以來工費七千餘圓を投じて乾技師監督のもとに石城郡内郷村大字白水の國寶阿彌陀堂

の屋根葺替その他の保存工事中であつたが、落成したので昭和十一年五月三日盛大な落成式を舉行し、併せて當日別當願成寺では臨時御開帳を行った。

百尺聖觀音臨時大法要 福島縣相馬郡日立木村三峰山の六岩石に彫りつけた無名の青年彫刻家荒嘉明氏の大事業護國百尺觀世音は手そめてから年を積みすこと六星霜、四萬餘圓の巨費を投じて胸部迄六十餘尺、第二期工事が完了したので、昭和十一年六月二十、二十一日の兩日に亘つて仙臺松壽寺住職金山活牛師の大導師のもとに盛大な臨時大法要を執行した。

運動競技

第八回明治神宮體育大會

明治大帝の聖恩を偲び奉る第八回明治神宮體育大會は、水上競技と、冬季競技が氣候の關係上時期を異にして開催された以外の二十數種類に達する各競技は、明治節前後に明治神宮外苑競技場を中心として帝都の各競技場において花々しく舉行された。

野球競技

中等學校選抜野球 (吳港中學優勝) 東北より秋田商業出場、健闘して準決勝まで進んだが惜しくも敗退。

Table listing baseball tournament results, including school names and scores.

運動競技

府縣對抗の部(朝鮮優勝) 軟式庭球

男子中等學校の部

Table listing boys' high school sports results, including school names and scores.

一般女子の部

Table listing general girls' sports results, including school names and scores.

水泳競技

府縣青年團競技(愛知縣優勝)
△百米青泳 3 内館(岩手)
東北唯一の入選で、岩手縣は得
點4點で第九位となる。

籠球競技

一般男子の部(大同製鋼優勝)
(第一次戦)
東北帝大 26(1611) 16 熊本俱
岐阜俱 63(2439) 13 福島俱
(第二次戦)
東北帝大 34(1711) 31 岐阜俱
山形師範 32(2012) 27 京都俱
秋田俱 44(2123) 18 山梨高工
(第三次戦)
成蹊高校 29(1811) 25 東北帝大
山形師範 32(1220) 23 秋田俱
(第四次戦)
成蹊高校 27(1215) 22 山形師範
一般女子の部(京都一女優勝)
(第一次戦)
大曲高女 18(810) 8 親和高女
山形鳴鳴 31(1318) 15 倉吉高女
山中高女 19(1271) 16 福島女師
(第三次戦)

大曲高女 34(1915) 15 2 愛知第二
久留米高女 24(1014) 13 3 16 山形鳴鳴
(第四次戦)
京都府一 20(1281) 3 11 14 大曲高女
(第一次戦)
宇都宮中 22(1210) 12 8 20 青森師範
福島中 24(1410) 12 8 20 岐阜中
(第二次戦)
新潟師範 37(1341) 20 27 福島中
秋田師範 35(1718) 8 6 14 埼玉師範
(第三次戦)
千葉商業 49(2524) 12 12 24 秋田師範

一般男子の部(吳工廠優勝)
(第二次戦)
神戸高商 栗橋 相馬チム
男子中等學校の部
(藤澤商業優勝)
(第一次戦)
富山師範 (2111619) 秋田中
蹴球競技
(第一次戦)
全國地方對抗選手権大會を兼
ねて舉行、参加十チーム、京城
蹴球團優勝す。
(第二次戦)
蜂章俱樂部 3(310) 2 名古屋高商
(東北) 3(012) 2 (東海)
(第三次戦)
慶應B.R.B. 6(2100) 0 蜂章俱樂部
(藤澤俱樂部)
藤澤谷田 原嶋島 浦野 賀
齋佐大三 北大小 三飯 平
F.W. H.B. F.B. GK 3 5 18 0
CK FK GK PK
7 3 8 0
(藤澤B.R.B.)
(藤澤B.R.B.) 伊岩 一

一般一次豫選(一、三〇〇米)
A組 朝鮮鐵道 四分四三秒五 2 仙
鐵失格
卓球競技
一般男子の部(大阪川上優勝)
(第一次戦)
藤井(青森) 3 1 0 澤本(高知)
前田(山形) 3 1 0 木谷(富山)
田邊(福島) 3 1 0 渡邊(宮城)
吉田(岩手) 不戦勝 秋山(佐賀)
(第二次戦)
藤井(東京) 3 1 2 吉田(岩手)
金(朝鮮) 3 1 1 宮(岩手)
川村(東京) 3 1 1 藤井(青森)
目黒(福島) 3 1 1 藤井(青森)
田村(東京) 3 1 1 前田(山形)
(第三次戦)
森田(大阪) 3 1 0 田邊(福島)
田村(東京) 3 1 2 目黒(福島)
山田(東京) 3 1 1 山中(青森)

排球競技

一般女子の部(廣島専賣局優勝)
(第一次戦)
横濱排球 (21113) 八戸小學校
(第二次戦)
相馬高女 (21115) 八幡高女
東京中村高女 (21211) 石巻實科
長崎高女 (21211) 青森市立高女
岡崎高女 (21218) 秋田高女
(第四次戦)
廣島専賣 (21211) 15 13 相馬高女

潜艇競技

固定席艇選手権競漕
に仙鐵ク
ル1参加、豫選レースで朝鮮鐵
道クル1と對したが、惜しくも
失格す。

一般女子の部

(神奈川松本育子優勝)
(第一次戦)
菅野(福島) 3 1 0 長谷川(宮城)
中村(愛知) 3 1 0 金子(山形)
市野川(岩手) 不戦勝 加藤(埼玉)
三浦(岩手) 3 1 1 鎌田(和歌山)
水戸部(山形) 3 1 2 湯川(和歌山)
妹尾(岡山) 3 1 0 吉田(山形)
小山田(岡山) 3 1 2 鶴野(福井)
(第二次戦)
上田(奈良) 3 1 1 市野川(岩手)
熊澤(東京) 3 1 2 水野(福島)
山(大阪) 3 1 0 水戸部(山形)
鹿内(青森) 3 1 0 吉井(大阪)

一般男子の部

トラック競技 八百メートル 富江(北奥)
羽) 四百米 4 杜城俱樂部(南奥羽)
▽ファイナル競技 棒高跳 4 森山(南奥羽)
深成競技十種競技 1 和賀行雄(北奥羽)
五三三三三(二秒) 走幅(米六) 砲丸
(米七) 走高(米六) 四百(分秒) 高障
(分秒) 圓盤(米五) 棒高(米三) 槍
投(米七) 千五百(分秒)
男子中等八百米競走 3 青森師範

陸上競技

一般男子の部
(愛知縣優勝)
(一回戦) 愛知 2 1 0 山形、宮城 1 1 1 茨
城、秋田 2 1 0 石川、福島 1 1 1 熊本、岡山
2 1 0 岩手、青森 2 1 0 北海道、(二回戦) 岡
鹿兒島 2 1 0 山形、群馬 1 1 1 宮城、秋田 1
1 1 神奈川、高知 2 1 0 岩手、福島 1 1 1 岐阜
1 1 1 神奈川、高知 2 1 0 岩手、秋田 1 1 1
青森 2 1 0 廣島、(三回戦) 宮城 2 1 0 神奈川
福島 1 1 1 大阪、山口 2 1 0 岩手、秋田 1 1 1
1 1 佐賀、鳥取 2 1 0 青森、廣島 2 1 0 山形
(四回戦) 秋田 1 1 1 茨城、福岡 2 1 0 福島
岩手 1 1 1 鳥取、愛知 2 1 0 青森、山形 1 1 1
1 1 栃木、宮城 1 1 1 埼玉

青年團府縣對抗の部

形(七點) 10位秋田 15位福島 22位宮城
▽トラック競技 百米 2 岩間(青森三秒)
6 阿部(岩手) △四百米 1 佐々木正雄(岩
手) 五秒 △千五百米 1 結城井松(山形) 四分
六秒 △一萬米 4 渡邊利信(福島) 6 佐藤政
次郎(岩手) △依傍競走 5 菊地(秋田) △千
米 瑞興競走 5 青森(三浦岩間野村小笠原)
▽ファイナル競技 走高跳 6 和賀(岩手) 一米△
△走幅跳 5 白取(青森) 六米△ 6 石原(宮城)
△米七△砲丸投 3 柴田(秋田) 三米△ 5 千
葉(青森) 二米△

馬術競技

小陣陣連續飛越生徒班
1 清水(弘前工業) 2 久保(弘前工業)
小田島(宮城)

劍道

一般選士の部
(福岡新原五段優勝)
(第二組 保科宮城七勝一敗、戸島(岩
手) 四勝、佐藤(福島) 三勝、優勝者 保科
(第四組 成田(青森) 四勝、岡村(山形)
兼權)
△各組優勝者リーグ戦

柔道

府縣青年團對抗の部
(熊本縣優勝)
(一回戦) 秋田 1 1 1 茨城、福島 1 1 1 千
葉、青森 2 1 0 廣島、山形 1 1 1 京都、岩手
2 1 0 鹿兒島、神奈川 2 1 0 宮城、(二回戦)
山形 1 1 1 香川、青森 1 1 1 京都、宮城 1 1 1
1 高知、群馬 2 1 0 岩手、秋田 1 1 1 千葉、
佐賀 2 1 0 宮城、(三回戦) 東京 2 1 0 岩手
熊本 2 1 0 宮城、(四回戦) 秋田、青森 1 1 1
1 香川、福島 2 1 0 鹿兒島、山形 1 1 1 青森
(四回戦) 宮城 1 1 1 廣島、岩手 1 1 1 栃木
秋田 1 1 1 鹿兒島、群馬 2 1 0 福島、山形 2
1 0 愛媛 △個人試合(飯沼(岐阜) 大内刈
(山形) 黒田)
一般選士の部
(福岡新原五段優勝)
△第二組 保科宮城七勝一敗、戸島(岩
手) 四勝、佐藤(福島) 三勝、優勝者 保科
(第四組 成田(青森) 四勝、岡村(山形)
兼權)
△各組優勝者リーグ戦

新原五段(福岡) 引分 保科五段(宮城) 遠藤六段(京都) 引分 吉浦五段(豊河) 新原五段(引分) 遠藤六段 新原五段(引分) 遠藤六段 保科五段(引分) 遠藤六段 保科五段(引分) 吉浦五段 保科五段(大外刈) 吉浦五段 △決勝試合 新原 勇(横四方) 保科永四郎(宮城)

△中等學校の部(長野中學優勝) 【一回戦】天理中學 1-0 弘前中學、築館中學 1-0 札幌師範、田村中學 2-1 沼田中學、長野中學 5-0 沼田中學、秋田商業一師 柱中學(徳島) 【二回戦】田村中學 1-0 秋田商業、一関中學 1-0 秋田師範 【三回戦】鹿角中學 2-1 築館中學、商 3-1 一関中學、沼田中學 1-0 秋田商業 【準決勝】長野中學 2-1 田村中學、田村中學 先鋒吉田引分、二陳真尾は長野中學を破つて勝星を挙げたが中野謙は長野中學に敗れ、副将高橋は長野石黒に分け、大将戦で田村江川奮闘空しく敵將高橋に名を成さしむ

△府縣青年團對抗の部 (大阪府優勝) 【一回戦】宮城 1-1 鹿角、廣島 2-1 山形、秋田 2-0 熊本、青森 2-1 茨城、北海道 2-0 福島、岩手 2-0 山口、二回戦、宮城 2-0 京都、山形 2-0 東京、秋田 2-1 0 福井、青森 1-1 高知、山口 2-1 0 福島、鳥取 2-1 0 岩手、三回戦、青森 1-1 北海道、福島 1-1 鳥取、鹿角 2-1 0 岩手、宮城 2-1 0 埼玉、山形 2-1 0 熊本、秋田 1-1 大分、四回戦、宮城 2-1 0 熊本、山形 1-1 0 福井、兵庫 2-1 0 秋田、青森 2-1 0 山口、鹿角 2-1 0 福島、岩手 2-1 0 京都(以上後選試合の結果、宮城七勝、山形、青森各六勝)

△陸上競技 【男子中等學校】一百米 二秒六 千葉青龍 △二百米 三秒九 藤井(八中) △四百米 五秒九 泉山(八中) △八百米 二分二秒九 今(青龍) △一千五百米 四分三秒九 今(青龍) △五千五百米 四分三秒九 今(青龍) △一萬米 一分三秒九 今(青龍) △二萬米 四分三秒九 今(青龍) △三萬米 一分三秒九 今(青龍) △四萬米 四分三秒九 今(青龍) △五萬米 一分三秒九 今(青龍) △六萬米 四分三秒九 今(青龍) △七萬米 一分三秒九 今(青龍) △八萬米 四分三秒九 今(青龍) △九萬米 一分三秒九 今(青龍) △十萬米 四分三秒九 今(青龍)

弓道競技

△府縣對抗の部(東京第七優勝) 【第一次】宮城 4 中、青森 8 中、山形 2 中、福島 7 中、秋田 5 中、岩手 4 中 【第二次】宮城 7 中、青森 7 中、山形 4 中、福島 5 中、秋田 6 中、岩手 6 中 △大學高等部の部(早大優勝) 【第一次】東北帝大 9 中、東北學院高等部 4 中、盛岡高等 4 中、東北帝大 7 中 △個人全中者 前田政一(東北大)は優勝戦で敗る

女子中等學校の部

△女子中等學校の部 (愛知第一優勝) 【第一次】秋田高等家政 1 中、山形 1 中、山形女子 2 中、山形女子 4 中 【第二次】山形女子 4 中、山形女子 6 中、山形女子 5 中 【準決勝】山形女子 4 中 三位 保原中學(福島) 【器械體操】(東京府立四中優勝) 第三位 保原中學(福島) 【三三三】

綜合體育大會

聯合青年團體體育大會 中等學校體育大會 (自昭和十年八月至同十一年六月) 秩父宮同妃兩殿下奉迎體育大會 青森縣史上輝かしき光榮の一頁 を飾る秩父宮、同妃兩殿下奉迎式

第十四回全日本スキ一選手権大會を兼ねて昭和十一年二月九日から四日間新潟縣小千谷スキ一場で行なわれた。 【男子の部】(長距離競走) △壯年組 1 金野仁五郎(秋田林友時間二分三秒) 2 五十嵐(山形) 3 山田(青森林友) 4 菊池(沼尻) 5 高田(秋田林友) 6 小林(同) △少年組 1 峰村(沼尻) 2 時間二分三秒 3 山田(直) (青森林友) △成年組 1 松橋(中電) 時間二分三秒 △少年組 1 川合(米峰三秒) △成年組 1 赤倉(三秒) △少年組 1 樋口(中魚沼三秒) 【複合十八キロ】 △壯年組 1 稻葉(北大) △成年組 1 小島(真岡) △少年組 1 峰村(沼尻) 4 山形(弘前中) 【滑降競走】 △壯年組 1 南宮三郎(札幌商) △少年組 1 市村(札幌商) △成年組 1 市村(札幌商) △少年組 1 市村(札幌商) △成年組 1 市村(札幌商) △少年組 1 市村(札幌商)

【飛躍競走】 △壯年組 1 稻葉忠七(北大) △少年組 1 星野昇(北海商) △成年組 1 森敏雄(明大三) △少年組 1 星野昇(北海商) △成年組 1 森敏雄(明大三) △少年組 1 星野昇(北海商) △成年組 1 森敏雄(明大三) △少年組 1 星野昇(北海商) △成年組 1 森敏雄(明大三)

【女子の部】(滑降競走) 1 逸見かつ(妙高小) 四分五秒 2 菅原さか(大館女) 4 中山秀子(大館女) 【射撃】 1 菅原さか(大館女) 2 中山秀子(大館女) 3 鳥羽(水) (大館女) 4 中山秀子(大館女) 5 鳥羽(水) (大館女) 6 中山秀子(大館女)

【相撲】 旗谷、田村、中澤、田中、鳴海、工藤の六名で決勝リーグ戦を行ひ、田村(青森)四勝一敗の成績で優勝 秋田縣男子中等體育大會 昭和十年九月十四日能代中學校運動場で舉行。 【陸上競技】 一百米 三秒六 渡部(秋商) △二百米 五秒九 木村(大館中) △四百米 九秒九 木村(大館中) △八百米 二分二秒九 今(青龍) △一千五百米 四分三秒九 今(青龍) △五千五百米 四分三秒九 今(青龍) △一萬米 一分三秒九 今(青龍) △二萬米 四分三秒九 今(青龍) △三萬米 一分三秒九 今(青龍) △四萬米 四分三秒九 今(青龍) △五萬米 一分三秒九 今(青龍) △六萬米 四分三秒九 今(青龍) △七萬米 一分三秒九 今(青龍) △八萬米 四分三秒九 今(青龍) △九萬米 一分三秒九 今(青龍) △十萬米 四分三秒九 今(青龍)

【相撲】 旗谷、田村、中澤、田中、鳴海、工藤の六名で決勝リーグ戦を行ひ、田村(青森)四勝一敗の成績で優勝 秋田縣男子中等體育大會 昭和十年九月廿二日、廿一日の兩日縣營運動場で舉行。 【陸上競技】 第一部 △一百米 三秒六 齊藤(鶴中) △二百米 五秒九 小林(山師) △八百米 二分二秒九 今(青龍) △一千五百米 四分三秒九 今(青龍) △五千五百米 四分三秒九 今(青龍) △一萬米 一分三秒九 今(青龍) △二萬米 四分三秒九 今(青龍) △三萬米 一分三秒九 今(青龍) △四萬米 四分三秒九 今(青龍) △五萬米 一分三秒九 今(青龍) △六萬米 四分三秒九 今(青龍) △七萬米 一分三秒九 今(青龍) △八萬米 四分三秒九 今(青龍) △九萬米 一分三秒九 今(青龍) △十萬米 四分三秒九 今(青龍)

【相撲】 旗谷、田村、中澤、田中、鳴海、工藤の六名で決勝リーグ戦を行ひ、田村(青森)四勝一敗の成績で優勝 秋田縣男子中等體育大會 昭和十年九月廿二日、廿一日の兩日縣營運動場で舉行。 【陸上競技】 第一部 △六十米 八秒六 柳部(谷地) △二百米 三秒九 藤井(福南) △四百米 五秒九 泉山(八中) △八百米 二分二秒九 今(青龍) △一千五百米 四分三秒九 今(青龍) △五千五百米 四分三秒九 今(青龍) △一萬米 一分三秒九 今(青龍) △二萬米 四分三秒九 今(青龍) △三萬米 一分三秒九 今(青龍) △四萬米 四分三秒九 今(青龍) △五萬米 一分三秒九 今(青龍) △六萬米 四分三秒九 今(青龍) △七萬米 一分三秒九 今(青龍) △八萬米 四分三秒九 今(青龍) △九萬米 一分三秒九 今(青龍) △十萬米 四分三秒九 今(青龍)

【相撲】 旗谷、田村、中澤、田中、鳴海、工藤の六名で決勝リーグ戦を行ひ、田村(青森)四勝一敗の成績で優勝 秋田縣女子中等體育大會 昭和十年九月廿二日、廿一日の兩日縣營運動場で舉行。 【陸上競技】 第一部 △六十米 八秒六 柳部(谷地) △二百米 三秒九 藤井(福南) △四百米 五秒九 泉山(八中) △八百米 二分二秒九 今(青龍) △一千五百米 四分三秒九 今(青龍) △五千五百米 四分三秒九 今(青龍) △一萬米 一分三秒九 今(青龍) △二萬米 四分三秒九 今(青龍) △三萬米 一分三秒九 今(青龍) △四萬米 四分三秒九 今(青龍) △五萬米 一分三秒九 今(青龍) △六萬米 四分三秒九 今(青龍) △七萬米 一分三秒九 今(青龍) △八萬米 四分三秒九 今(青龍) △九萬米 一分三秒九 今(青龍) △十萬米 四分三秒九 今(青龍)





で行。△百米二秒三田中(日大)△二百米三秒〇田中(石巻誠愛)△四百米五秒六會我部(佐伯)△八百米二分三秒六岩瀬(日大)△千五百米四分三秒六岩瀬(日大)△八百米二秒一分四秒石巻誠愛會△砲丸投二米五寺澤(文理大)△圓盤投三米三三三佐藤(若柳)△棒高跳一米七〇村上(關中)△走幅跳六米六岩石(日大)△三段跳一米三五佐藤(若柳)△棒高跳一米七〇村上(關中)

△仙臺、秋保間断競走 仙臺學生陸上競技聯盟の第三回仙臺、秋保間クロスカントリ・レースは昭和十年十一月二十三日舉行。1(時間二分三秒)遠山(東北大) 2(時間二分三秒)木間(二高) 3(時間二分三秒)志村(高工) 4 赤間(學院) 5 和田(高工) 6 川村(同) 7 井上(同)

△仙臺市青年團對抗競走 河北新報社主催、第四回仙臺市青年團リレー・レースは昭和十年十月二十日全市十五青年團參加して舉行、熱戦の末、南小泉青年團優勝す。(コース、二萬米) 1(時間二分三秒)南小泉青年團(高橋勲、中島、佐藤五、高橋清、佐藤三、平岡) 2(差約十米)青葉三長町 4 原町 5 西多賀

十兩日弘前市設トラックで舉行。第二日には秩父宮同妃兩殿下が台覽遊ばされた、競技成績左の如し。

△百米(一般)芝崎(仙臺)二秒七(中等)千葉(青師)二秒七△二百米(一般)北之坊(仙臺)三秒六(中等)千葉(青師)三秒六△四百米(一般)佐々木(金石製鐵)五秒三△八百米(一般)中村(仙臺)二分五秒△千五百米(一般)中村(仙臺)二分五秒△一公里(一般)中村(仙臺)四分三秒△二公里(一般)中村(仙臺)八分三秒△三公里(一般)中村(仙臺)一分二秒△四公里(一般)中村(仙臺)一分一七秒△五公里(一般)中村(仙臺)一分一七秒△六公里(一般)中村(仙臺)一分一七秒△七公里(一般)中村(仙臺)一分一七秒△八公里(一般)中村(仙臺)一分一七秒△九公里(一般)中村(仙臺)一分一七秒△十公里(一般)中村(仙臺)一分一七秒

△女子の部 △百米(一般)菅原(大館高女)二秒七△四百米(一般)菅原(大館高女)五分三秒△八百米(一般)菅原(大館高女)一分一七秒△一公里(一般)菅原(大館高女)二分一七秒△二公里(一般)菅原(大館高女)四分一七秒△三公里(一般)菅原(大館高女)六分一七秒△四公里(一般)菅原(大館高女)八分一七秒△五公里(一般)菅原(大館高女)一分一七秒△六公里(一般)菅原(大館高女)一分一七秒△七公里(一般)菅原(大館高女)一分一七秒△八公里(一般)菅原(大館高女)一分一七秒△九公里(一般)菅原(大館高女)一分一七秒△十公里(一般)菅原(大館高女)一分一七秒

△宮城縣下總走祭 仙臺學生陸上競技聯盟主催、第四回總走祭は昭和十一年五月十日東北帝大競技場で舉行、競技記録左の如し。

△(新)尋女)大館女子小學校チーム一分二秒六 △走幅跳 岡部(秋田高女)一米三 △宮城縣下總走祭 仙臺學生陸上競技聯盟主催、第四回總走祭は昭和十一年五月十日東北帝大競技場で舉行、競技記録左の如し。

△秋田縣陸上競技選手権大會は昭和十一年六月七日小坂町公認グラウンドで舉行。

宮城縣下一般陸上大會 石巻誠愛會主催、第六回縣下一般陸上競技大會は昭和十一年六月七日石巻中學グラウンドで舉行、仙臺優勝す △百米二秒一北之坊(仙臺) △二百米二秒三北之坊(仙臺) △四百米三秒六中村(仙臺) △八百米二分三秒六中村(仙臺) △千五百米四分三秒六中村(仙臺) △二公里二分三秒六中村(仙臺) △三公里四分三秒六中村(仙臺) △四公里五分三秒六中村(仙臺) △五公里七分三秒六中村(仙臺) △六公里八分三秒六中村(仙臺) △七公里九分三秒六中村(仙臺) △八公里一分一七秒中村(仙臺) △九公里一分一七秒中村(仙臺) △十公里一分一七秒中村(仙臺)

△東北第一次豫選(十月十三日於秋田、手形) 秋田鐵専 14(810)0 岩手鐵専

△東北豫選大會 十一月廿三日廿四日の兩日に亘り仙臺スポーツマニヤ球場で舉行、結局二高東北代表と決定し、本年度より北海道地区は獨立して代表を送ることとなる。

秋田鐵専 13(510)0 東北學院 20(614)8 桐生高工 5(510)3 秋田鐵専 5(510)3 秋田鐵専 5(510)3

△全國高専校ラグビー大會 一月三日より三日間大阪花園グラウンドで舉行、東北代表は第一回戦に敗退す。 三重高農 11(1013)3 二高 11(1013)3

△仙臺地區豫選 仙臺市内リーグ戦 九三 格振中學 21 仙臺商業 九元 仙臺工業 39 仙臺二中 九元 仙臺商業 13 仙臺二中 九元 格振中學 27 仙臺工業 〇 格振中學 53 仙臺工業 〇 仙臺商業 〇 仙臺工業 〇 仙臺商業 〇

△秋田地區豫選 秋田工業 55 大曲商業 秋田中學 11 秋田師範 11

△東北豫選大會 十月廿日仙臺市長町グラウンドで舉行、秋田地區代表秋田工業東北代表となる。

△秋田工業 55(2233)0 格振中學 〇 木崎谷沼邊 〇 山崎山藤 〇 佐羽大進川谷 〇 小島山藤 〇 中野山藤 〇 野井山藤 〇 多藤山藤 〇 佐長春佐川梅丸 〇 喜佐福丸 〇

△第六回全國鐵道ラグビー大會 十月廿六日より三日間大宮水川公園グラウンドにおいて舉行、仙臺一回戦に門鐵に敗れ、結局本大會では東鐵優勝す。

△全國鐵道 秋田工業 26(2013)6 函館商業 〇 神戶一中 〇(0100)0 秋田工業 〇

△東北帝大對東京帝大 第五回定期試合は十一月三日仙臺、八木山グラウンドにおいて舉行、後半の追撃により東北帝大快勝す。(主審大龍)

△東北帝大對北海道帝大 第六回定期試合は九月廿二日北大グラウンドにおいて舉行、北大の連勝成り結局試合成績は三勝三敗の同率となった。

△東北帝大對東京帝大 第五回定期試合は十一月三日仙臺、八木山グラウンドにおいて舉行、後半の追撃により東北帝大快勝す。(主審大龍)

△東北帝大對北海道帝大 第六回定期試合は九月廿二日北大グラウンドにおいて舉行、北大の連勝成り結局試合成績は三勝三敗の同率となった。

△東北帝大對東京帝大 第五回定期試合は十一月三日仙臺、八木山グラウンドにおいて舉行、後半の追撃により東北帝大快勝す。(主審大龍)

△全國高専 ラグビー 秋田鐵専 14(810)0 岩手鐵専

△東北第一次豫選(十月十三日於秋田、手形) 秋田鐵専 14(810)0 岩手鐵専

△東北豫選大會 十一月廿三日廿四日の兩日に亘り仙臺スポーツマニヤ球場で舉行、結局二高東北代表と決定し、本年度より北海道地区は獨立して代表を送ることとなる。

△東北帝大對東京帝大 第五回定期試合は十一月三日仙臺、八木山グラウンドにおいて舉行、後半の追撃により東北帝大快勝す。(主審大龍)

△東北帝大對北海道帝大 第六回定期試合は九月廿二日北大グラウンドにおいて舉行、北大の連勝成り結局試合成績は三勝三敗の同率となった。

行、接戦の末東北帝大惜敗す。(主審佐々竹)

審判 久藤下田谷西岡野田寺園川村茶...

諸試合成績

Table of sports results including basketball and volleyball scores for various schools and teams.

市内中等学校リーグ (長谷部孟等審)

Table of league sports results for middle schools in the city.

秋田地方諸試合成績 (十年度)
秋田工業 55-10 大曲農業 (遊園地)

Table of sports results for middle schools and other teams.

第六回全国中等学校氷上選手権大会は昭和十年十二月二十七日から三十日まで日光細尾リンク及び芝浦スケート場で舉行。

〔スピード競技〕
△五百米 1木谷清(新義州商)...

〔フイギユア〕
△個人 1前田利愛(学習院)...

Table of speed skating and figure skating results.

運動競技

Table of ice skating results for various categories like 800m and 1000m.

〔スピード競技〕
△五百米 1古澤(成城)...

Table of ice skating results for 1000m and 1500m.

七人制ラグビー
東北帝大主催、第七回全東北七人制ラグビー大会は昭和十一年五月十日仙臺市スポーツマン球場で開催。

各地氷上競技會
八戸對盛岡氷上對抗競技會...

岩手氷上競技大會
岩手縣スケート協會主催の縣氷上選手権大会は一月十一、二の兩日高松池で舉行。

アイヌ・ホツケ
全国學生氷上選手権ホツケ...

氷上競技
全国中等学校氷上大會

東北高専氷上ホツケ
東北帝大主催第五回東北高専氷上ホツケ大会は一月十九日仙臺市五色沼で舉行、二高優勝す。

北日本中等ホツケ
岩手縣専主主催北日本中等校ホツケ選手権大会は一月二十六、七の兩日盛岡市高松池で舉行、八戸中と盛岡中が決勝に残つたが猛吹雪の爲中止となる。

北日本氷上選手権
八戸スケート協會主催第七回北日本氷上選手権大会は二月二日八戸市郊外新組リンクで舉行。(スピードは中止)

岩手縣下少年選手権
岩手スケート協會主催...

ト協會主催本社後援縣下少年アイスホッケー選手権大會は二月一二の兩日盛岡市龜ヶ池リンクで舉行、決勝戦は左の如し。

Table with 2 columns: 高等科 (Senior High School) and 中等科 (Junior High School). Lists names and scores for various teams.

諸試合

盛岡市内中等リーグ戦

Table listing results for the盛岡市内中等リーグ戦, including team names and scores.

東北フイギユア選手権大會

仙台スケート協會主催第十二回東北フイギユア選手権大會は二月二日五色沼で舉行。

- List of participants and results for the東北フイギユア選手権大會, including names of athletes and their respective teams.

秋田地方 第十回縣下選手権大會

會を兼ねて一月二十四、五、六の三日間秋田市外手形山スキー場で舉行。

運動競技

スキー

全國學生 スキー大會

第九回全國學生スキー大會は一月十八、九兩日米澤スキー場で舉行、第二日には秩父宮殿下の台臨を仰ぎ、熱戦を展開したが、第一部は明大新人の活躍目覚しく宿望を遂げて優勝、第二部は米澤高工が優勝した。

第一部成績

- Results for the first part of the 第九回全國學生スキー大會, listing winners and their schools.

△耐久競走 1. 田村喜一郎(松尾鏡山) 二時間四分三秒 2. 高橋勲次郎(沼宮内高農) 三時間二分三秒...

山形地方 第九回山形縣下選手権大會

會を兼ねて一月二十五、六の兩日、米澤スキー場で舉行。

〔各校得勝〕 明大空點、北大空點、早大點、日大二點、法政三點、小樽高商二點、慶應東京農大、弘前高各零點

全日本スキー選手権地方豫選

明治神宮スキー地方豫選

沼尻地方 福島縣體協主催の下一月十一、二の兩日沼尻スキー場で縣下大會を兼ねて舉行。

- Results for the 沼尻地方 福島縣體協主催の選手権地方豫選, listing winners and their schools.

青森地方 第四回東北選手権大會を兼ねて一月二十五、六兩日に亘り大鰐スキー場で舉行。

盛岡高農主催第八回岩手縣下中等學校スキー大會は一月七、八兩日田山スキー場で舉行、盛岡商業

中等スキー

福島中等スキー 福島縣中等學校スキー大會は一月十九日猪苗代スキー場で舉行、會津中學七度優勝す。



滑降競技は一月十二日米澤市外化物澤スロープで舉行、明大前田優勝す。

青森縣中等スキー 青森縣下中等學校スキー大會は一月九日大鰐スキー場で舉行、男子一部、二部共に弘前中學、女子野邊地實科高女優勝す。

秩父宮同妃兩殿下 奉迎スキー 青森縣スキー聯盟主催の秩父宮同妃兩殿下奉迎スキー大會は二月十五、十六日大鰐スキー場で舉行、秩父宮同妃兩殿下には第二日

5着田山6着松尾山A 若手少年スキー 若手少年スキー聯盟主催、若手少年スキー大會は二月十二日花巻温泉スキー場で舉行、幼年組は前田校、少年組は田山校が優勝す。

福島縣下小學生スキー 第一回福島縣下小學生スキー大會は二月二日若松市外東山スキー場で舉行、男子沼尻校、女子長瀬校が優勝す。

東山スキー大會 山形縣最上郡學童並に教員スキー大會は二月九日東山スキー場で舉行、富澤校優勝す。

庄内スキー大會 第二回全庄内(山形)中等學校並に一般スキー選手權大會は二月九日松嶺スキー場

會場に台臨御熱心に台覽遊ばされた。

第一日 △十八斤(壯年) 1山田克巳(林友) 二時間二分二秒 2櫻庭(林友) 三坂本(五所河原廣島) 四石川(林友) 五山田至(林友) 六山田至(林友) 七山田至(林友) 八山田至(林友) 九山田至(林友) 十山田至(林友) 十一山田至(林友) 十二山田至(林友) 十三山田至(林友) 十四山田至(林友) 十五山田至(林友) 十六山田至(林友) 十七山田至(林友) 十八山田至(林友) 十九山田至(林友) 二十山田至(林友) 二十一山田至(林友) 二十二山田至(林友) 二十三山田至(林友) 二十四山田至(林友) 二十五山田至(林友) 二十六山田至(林友) 二十七山田至(林友) 二十八山田至(林友) 二十九山田至(林友) 三十山田至(林友) 三十一山田至(林友) 三十二山田至(林友) 三十三山田至(林友) 三十四山田至(林友) 三十五山田至(林友) 三十六山田至(林友) 三十七山田至(林友) 三十八山田至(林友) 三十九山田至(林友) 四十山田至(林友) 四十一山田至(林友) 四十二山田至(林友) 四十三山田至(林友) 四十四山田至(林友) 四十五山田至(林友) 四十六山田至(林友) 四十七山田至(林友) 四十八山田至(林友) 四十九山田至(林友) 五十山田至(林友) 五十一山田至(林友) 五十二山田至(林友) 五十三山田至(林友) 五十四山田至(林友) 五十五山田至(林友) 五十六山田至(林友) 五十七山田至(林友) 五十八山田至(林友) 五十九山田至(林友) 六十山田至(林友) 六十一山田至(林友) 六十二山田至(林友) 六十三山田至(林友) 六十四山田至(林友) 六十五山田至(林友) 六十六山田至(林友) 六十七山田至(林友) 六十八山田至(林友) 六十九山田至(林友) 七十山田至(林友) 七十一山田至(林友) 七十二山田至(林友) 七十三山田至(林友) 七十四山田至(林友) 七十五山田至(林友) 七十六山田至(林友) 七十七山田至(林友) 七十八山田至(林友) 七十九山田至(林友) 八十山田至(林友) 八十一山田至(林友) 八十二山田至(林友) 八十三山田至(林友) 八十四山田至(林友) 八十五山田至(林友) 八十六山田至(林友) 八十七山田至(林友) 八十八山田至(林友) 八十九山田至(林友) 九十山田至(林友) 九十一山田至(林友) 九十二山田至(林友) 九十三山田至(林友) 九十四山田至(林友) 九十五山田至(林友) 九十六山田至(林友) 九十七山田至(林友) 九十八山田至(林友) 九十九山田至(林友) 一百山田至(林友)

東北六縣中等弓道大會 山形高學校主催、九月十五日、其道場、出場九校、山形工業優勝。

第九回仙鐵管内弓道大會 仙鐵主催、九月二十四日、其道場、出場百餘名、仙臺運事優勝、個人は金成(仙鐵局)優勝。

宮城岩手兩縣弓道試合 十二月一日、盛岡弓友會道場、八九四五點對八六二二點で宮城勝、個人優勝は今野(岩手)。

北日本スキー大會 山形縣銀山スキー俱樂部主催、第五回北日本スキー大會は二月二十九日、三月一日の兩日銀山スキー場で舉行。

東北六縣中等弓道大會 山形高學校主催、九月十五日、其道場、出場九校、山形工業優勝。

第九回仙鐵管内弓道大會 仙鐵主催、九月二十四日、其道場、出場百餘名、仙臺運事優勝、個人は金成(仙鐵局)優勝。

宮城岩手兩縣弓道試合 十二月一日、盛岡弓友會道場、八九四五點對八六二二點で宮城勝、個人優勝は今野(岩手)。

北日本スキー大會 山形縣銀山スキー俱樂部主催、第五回北日本スキー大會は二月二十九日、三月一日の兩日銀山スキー場で舉行。

東北六縣中等弓道大會 山形高學校主催、九月十五日、其道場、出場九校、山形工業優勝。

第九回仙鐵管内弓道大會 仙鐵主催、九月二十四日、其道場、出場百餘名、仙臺運事優勝、個人は金成(仙鐵局)優勝。

宮城岩手兩縣弓道試合 十二月一日、盛岡弓友會道場、八九四五點對八六二二點で宮城勝、個人優勝は今野(岩手)。

豊分巻砂 △軍隊リレー 大鰐俱樂部(山崎山田陽、山田多、丹内)五分五分秒

福島縣團體スキー 福島縣團體協主催の第一回縣下團體スキー大會は二月二十六日岩代熱海スキー場で舉行、押立チーム優勝す。

東北嶺山スキー 東北嶺山協會仙臺地方常務委員會主催の第三回東北嶺山スキー大會は二月二十三日岩手縣鉛温泉高倉山スキー場で舉行、尾去澤優勝す。

青森縣林局管内スキー 青森縣林局管内營林署對抗スキー大會は二月二十三日宮城縣鳴子スキー場で舉行、參加十八チーム、黒石局優勝す。

第十五回全國高專校弓道大會 主催東北帝大、七月十九日、東北帝大道場、出場六校、桐生高校優勝、個人優勝小池(桐生高工)。

本莊中學、靜水會優勝 固定席艇全日本選手權競漕日本漕艇協會主催、本社後援第十二回固定席艇全日本選手權競漕大會は、昭和十一年八月十六日鹽釜釜港コース(千三百米)において舉行、中等學校は關東、關西、東海、東北、北海道六支部代表、一般實業團は關東、關西、東北の三支部代表出漕したが、結局中等學校は本莊中學(東北代表)、一般實業團は靜水會(關東代表)堂々優勝した。なほ全國大會に先ち、東北代表を決定する第六回東北選手

第十一回關東北中等弓道大會 福島高商主催、五月二十四日、其道場、出場九校、白河中學優勝、個人は山本(白河中)優勝。

第九回東北中等弓道大會 盛岡農主主催、六月二十二日、其道場、出場五校、岩手中學優勝、個人は澤口(岩手中)優勝。

權競漕は前日の十五日舉行され、中等學校は本莊中學、一般は仙鐵漕艇部が優勝した。

東北選手權大會 中等學校選抜 A組 1本莊中學 5分13秒 2秋田中學(差27秒) B組 1東北中學 5分4秒 2青森中學(差約一尺) 同決勝 1本莊中學 5分32秒 2東北中學(差約二分の一) 一般 1仙鐵(獨漕) 5分47秒 6

全國選手權大會 中等學校選抜 A組 1小樽中學(北海道代表) 5分36秒 2横濱商業(關東代表) 無差一艇身 3津中學(東海代表) 一着との差一尺九寸八 B組 1本莊中學(東北代表) 5分28秒 2滋賀師範(關西代表) 無差五分の四艇身 同決勝 1本莊中學 5分26秒 2小樽中學(無差一艇身) 一般選抜 A組 1仙鐵(東北代表) 5分47秒 2廣取鐵道工場(關西代表) 差一九秒八 B組 靜水會(關東代表) 獨漕 5分47秒 8 一般決勝 1靜水會 5分41秒 8 2仙鐵(無差分の四艇身)

二高宿望遂げて優勝 東大主催第五回全國高校クリンカーエイト競漕大會は、昭和十一年八月二日隅田川において舉行、二高クルー奮漕して準決勝に八高を破り、決勝において宿敵一高と對戦して堂々これを屠り、大會參加以來初めてインターハイの覇者となつた。

權競漕は前日の十五日舉行され、中等學校は本莊中學、一般は仙鐵漕艇部が優勝した。

東北選手權大會 中等學校選抜 A組 1本莊中學 5分13秒 2秋田中學(差27秒) B組 1東北中學 5分4秒 2青森中學(差約一尺) 同決勝 1本莊中學 5分32秒 2東北中學(差約二分の一) 一般 1仙鐵(獨漕) 5分47秒 6

權競漕は前日の十五日舉行され、中等學校は本莊中學、一般は仙鐵漕艇部が優勝した。



△二回戦 福島高商3-1 東北學院、二高4  
1-3 仙臺高工、弘前高3-1 高岡高商、  
桐生高工4-1 山形高  
△准決勝戦 二高7-1 福島高商、桐生高工  
2-1 弘前高  
△決勝戦 二高8(5-0) 2 桐生高工  
藤本林村島田傳水林本塚  
佐山小久見徳松栗山中  
F. H.B. 3 32  
H.B. F.B. 2 2  
F. G.K. 10 10  
G.K. CK 10 10  
F.K. 1 1

### 排球

神宮排球福島選 九月二十二日  
福島第二雨天體操場で舉行、男子一般相馬教員、女子相馬高女優勝す。  
(男子決勝戦)  
相馬高女 2121 1317 女子師範  
相馬教員 2121 2117 1111 1521  
須賀川教員 1811 11521  
(女子一回戦)  
喜多方高 2121 188 福島高女  
女子師範 2121 1716 喜多方高女  
相馬高女 2121 1019 磐城高女  
(同二回戦)  
(同決勝戦)

### 籠球

全日本総合選手権大会 大日本  
籠球協会主催の全日本総合選手権  
男子第十六回女子第六回大会は昭  
和十一年一月四日から五日間神宮  
外苑特設コートで舉行。男子東北  
代表東北帝大は第一次戦に敗れし  
女子出場チームも第二次戦迄に敗  
退した。  
女子選手権 優勝 新津俱樂部  
(一次戦)  
札幌高女 27 1314 1412 26 福島高女  
(二次戦)  
愛知淑徳 24 1013 112 21 花輪高女  
男子選手権 優勝 全延福  
(一次戦)  
茨城師 52 2824 1216 38 東北帝大

### 運動競技

神宮排球宮城選 九月二十八日  
第一高女校庭で女子排球選會  
を舉行。参加六校で石巻實科高女  
優勝す。  
石巻實女 2121 1013 宮城第一  
東北女子排球大会 東北女子  
籠球聯盟主催の第四回東北女子  
籠球大会は十月十七日山形女師コ  
ートで舉行、参加十一チームで相  
馬高女優勝す。  
(優勝年次) 第一回 相馬高女、第二回  
山形女師、第三回 相馬高女、第四回 同  
相馬高女 2-1 0 宮城第一  
相馬高女 2-1 0 福島女師  
相馬高女 2-1 0 山形女師

東北帝大排球大会 東北帝大新  
設コート開き排球大会は十一月九  
日舉行。  
東北帝大 2121 5 仙臺市工  
東北帝大 2121 113 東岡クラブ  
東岡ク 2122 1820 仙臺市工

北日本排球選手権大会 仙臺  
排球俱樂部主催の第二回北日本排  
球選手権大会は十一月十七日仙臺  
市工コートで舉行東北帝大優勝す  
(一回戦)  
仙臺市工 2-1 1 東岡クラブ  
東北帝大 2-1 1 S.H.K  
(決勝戦)

### 馬術

仙臺主催馬術大会 仙臺主催  
第三回馬術大会は十一月二十三日  
仙臺市追廻練兵場で舉行、参加二  
十團體、競技成績左の如し。  
△一般障礙飛越 辻本(東北大) △琴手競技  
松岡(東北大) △學生團體對抗綜合馬術 仙臺  
高工(高倉、若松) △提灯競技 荒井(郡山愛  
馬) △乘馬隊下士官障礙飛越 渡邊(軍曹) △騎  
△局内課所對抗障礙飛越 工務課(佐々木、菊  
地) △馬場馬術 藤原(柗中) △東北大仙臺對

全日本中等籠球選手権大会 大日  
本籠球協会主催の第十二回全日本  
中等學校籠球選手権大会は昭和十  
年九月二十二日から三日間明大と  
文理大兩コートで舉行、東北關係  
校の成績左の如し。  
△一部優勝 新潟中  
(一回戦) 酒田中 30-14 本郷中  
(二回戦) 酒田中 45-17 鳥取中  
秋田中 24-21 大城中  
山形中 55-10 秋田中  
札幌一中 53-41 山形中  
△二部優勝 新潟中  
(准々決勝) 崎玉師範 30-27 山形師範  
△三部優勝 千葉商業 31-25 宮城師範

全國高商籠球大会 東京大阪神  
戸三商大主催第一回全國高商大会  
は昭和十年七月十三日より三日間  
舉行、(優勝) 神戸高商(東部選選  
に福島高商出場、一次戦に敗退  
す。  
横濱高商 85-28 福島高商  
神宮籠球福島選 昭和十年九  
月二十二日福島女師校で舉行。  
△男子一般 會津供 44-43 福島O.B  
△女子一般 女 師 8-7 福島高女  
△男子中等 福島中 73-47 福島師範  
神宮籠球秋田選 昭和十年九  
月二十四日  
△男子一般 秋中O.B 53-20 秋師O.B  
△女子一般 大曲高女 29-19 花輪高女

東北帝大 2121 113 仙臺市工  
仙臺山形排球試合 仙臺排球俱  
樂部で山形チームを招聘、十一月  
二十四日東北帝大コートで左記試  
合を舉行。  
山形師範 2121 717 仙臺市工  
仙臺供 2121 1012 山形六稜  
山形中等體育排球 山形縣中等  
學校體育大會は九月二十一日舉行  
排球は鶴岡中學優勝す。  
1 鶴岡中(五戰五勝) 2 山形師(五戰四勝)  
3 鶴岡工(三勝) 4 酒田中(二勝) 5 山形中  
(二勝) 6 米澤中(全敗)  
秋田女子中等排球 秋田縣女子  
中等學校體育大會は九月二十二日舉  
行、排球は秋田高女優勝す。

抗馬術、仙臺優勝 △民間團體對抗綜合馬術  
盛岡高農(淺沼、木村)  
學生馬術東北選 第八回全日  
本學生馬術選手権東北選會は五  
月十七日仙臺市宮城野原で舉行、  
左記三名が東北代表に決定。  
1 大山謙介(東北大) 2 増田孝(同) 2 宮川榮  
(二回)

東北馬術大会 東北帝大乗馬  
部主催第十二回東北馬術選會は  
十一年六月十三、十四の兩日仙臺  
市八木山、宮城野原において開催、  
参加團體は大學十五、高専校廿七  
民間十に達する空前の盛況であつ  
たが、結局東京商大、立教豫科、  
法友乗馬の三團體がそれ、優勝  
した、各競技の成績左の如し。  
△大學對抗 1 東京商大(競馬) 2 法政(七  
勝) 3 中央大(二) 4 立教(六) 5 明大(三)  
6 早大(二) 7 拓大(一)  
△高専校對抗 1 立大豫科(三) 2 學習院(二  
七) 3 東京商大(五) 4 中大豫科(三) 5 第  
一早高(七) 6 北大豫科(三) 6 宮城農(二)  
△民間團體對抗 1 法友乗馬會(七) 2 仙臺  
馬術部(七) 3 東鐵同(三) 4 三田乘馬會  
5 仙臺青葉(三) 6 三越乘馬(二) 7 青  
葉乘馬(三)  
△紳士障礙飛越 1 菅谷成次(仙臺) 2 荒井  
(郡山) 3 小林(東鐵)  
△學生障礙飛越 1 和田巖夫(南大) 2 小久  
保(法政) 3 吉田(明大)  
△徒歩部隊將校障礙飛越 1 伊藤吳(見習尉  
官) 2 佐藤(同)  
△乘馬隊將校同 1 福村良平(騎少尉) 2 生

△男子中等 秋田師 100-22 秋田工業  
神宮籠球宮城選 昭和十年九  
月二十日東北帝大法文コートで舉  
行、東北帝大優勝。  
(一回戦) 二高供 22-19 飯野川俱  
東北帝大 59-31 宮城師範  
(決勝) 東北帝大 51-40 二高供

東北北海道中等籠球 山形高  
校主催で昭和十年十月十三日舉行  
山形師範 57(27-10) 19 山形工業  
山形縣下中等學校籠球 縣下中等  
學校體育大會籠球競技は昭和十年九  
月二十一日舉行。  
(准決勝) 寒河江中 32-10 長井中  
(決勝) 鶴岡工業 51-10 山形師  
青森縣下綜合籠球 第二回縣下  
綜合籠球大會は昭和十年十月十三  
日浪打校で舉行。  
青森師範 68-64 青森クラブ  
青森師範 31-23 青森龍友  
岩手縣籠球選手権 岩手縣體協  
主催で昭和十年十一月三日盛中コ  
ートで舉行。  
盛岡中學 28-11 岩手醫專  
盛岡高農 57-11 岩手師範B  
(優勝戦) 盛岡高農 37-21 盛岡中學  
宮城縣女子選手権 宮城縣籠球  
協會主催第三回縣下籠球協會主催  
第三回縣下籠球選手権大會は昭和  
十年十一月十日第一高女コートで

東北帝大 50(36-14) 19 北海道帝大  
法政大籠球軍來仙 法政大學籠  
球軍は昭和十年十月十七、十八の  
兩日東北帝大と三回戦を舉行。  
東北帝大 70(34-36) 39 法 政  
東北帝大 54(20-34) 22 法 政  
東北帝大 53(28-25) 30 法 政  
東京高師六年連覇 東北帝大

籠球部主催、本社後援第六回北日本高等校籠球大會は昭和十一年六月七日東北大法文コトで舉行、参加校、東京高師、二高、山形高、校福島高商の四チーム、高専校特有の意氣と熱の溢るゝ好試合を展開したが、東京高師は決勝戦で雪辱の意氣に燃える二高の猛襲を退けて堂々六ヶ年連続優勝す。

二高	40	(2011)27	山形高専	
東京高師	41	(1427)1915	34	福島高商

東京高師	31	(2011)125	17	二高
反則	50	11	41	1
得点	50	11	41	1
反則	50	11	41	1
得点	50	11	41	1

### 庭球

秋田中等籠球リーグ戦 昭和十一年六月二十一日能代工業コトで舉行、秋田中優勝。  
 △秋田中50-17大館中 △秋田中41-27能代工 △能代工61-18大館中

**軟式庭球諸大會**  
 全日本軟式庭球選手権大會  
 ◇日本軟球主催 昭和十一年十一月一日から四日間戸山學校コトで舉行。(關係分戦績)  
 准々決勝  
 熊野御堂(朝) 4-0 小島(宮)  
 樺谷(愛) 4-0 三田(宮城)  
 村瀬(愛) 4-0 三田(宮城)  
 ◇日本軟球協主催 昭和十一年十一月二十三日東京日比谷公園コトで舉行。(關係分戦績)  
 准々決勝  
 古(長) 3-2 大井(青)  
 水(長) 3-1 大井(青)  
 岩(山) 3-1 石川(宮)  
 准決勝  
 西村(山) 3-1 布(岩)  
 岡(山) 3-1 布(岩)  
 全日本軟式仙臺豫選 昭和十一年六月十三、四日の兩日舉行。

十一月十日仙鐵コトで舉行。  
 (決勝) 成田、小島4-1日下、菅野  
 全日本軟式弘前豫選 昭和十一年十月二十日弘前公園コトで舉行  
 (決勝) 田(戸) 4-0 秋田(弘)  
 神宮庭球秋田中等豫選 秋田縣男子中等庭球選手権大會を兼ねて昭和十一年九月十五日舉行。  
 (決勝) 中(秋) 4-2 高(中)  
 神宮庭球福島豫選 昭和十一年九月十五日福商、福女兩コトで舉行。  
 (男子) 中(古) 4-1 伊(岩)  
 (女子) 田(中) 4-1 伊(岩)

### 第四回北日本中等 弘前高校

主催、第四回北日本中等校庭球大會は昭和十一年九月二十四日同校コトで舉行。  
 (準決勝)  
 湯谷(酒) 4-1 河野(弘)  
 永田(商) 4-1 成田(工)  
 高木(酒) 4-1 小田(青)  
 鈴木(商) 4-1 小田(青)  
 (決勝) 湯谷、永田(美穂) 富野、鈴木

### 全東北中等校庭球

主催、第十一回全東北中等校庭球大會は昭和十一年九月二十九日同校コトで舉行、山形商業優勝す。  
**宮城女子中等庭球** 宮城女専立  
 東日主催、第十回縣下女子中等庭球リーグ戦大會は昭和十一年十月六日東北帝大コトで舉行、参加五校で角田高女五ヶ年連続優勝す。  
 角田高女(9) 第一高女(8) 白石高女(7) 第二高女(3) 第三高女(3)

### 東北六縣中等庭球

盛岡高農 主催、第十四回東北六縣中等校庭球大會は昭和十一年十月十三日同校コトで舉行、参加十三校で秋田中學連続優勝す。  
**秋田女子中等庭球** 秋田縣女子中等學校體育大會は昭和十一年九月二十二日舉行、庭球は秋田高女優勝す。

**青森籠球リーグ戦(秋季)**  
 (三六) 青森商業 33-32 青森中學  
 青森師範 63-30 龍友  
 イグル 43-42 青森中學  
 青森商業 43-24 龍友  
 (仙臺三校リーグ戦(春季))  
 宮城師範 46-31 東北帝大  
 宮城師範 33-18 二高  
 宮城師範 40-34 東北帝大  
 宮城師範 1-2 二高  
 宮城師範 36-19 東京簡保局  
 六七 東北帝大 36-19 東京簡保局  
**北日本中等籠球大會** 福島高商主催、第二回北日本中等籠球大會は昭和十一年五月二十四日福師コトで舉行、山形中學優勝す。  
 (準決勝) 山形中學 35-33 福島中學  
 福島師範 89-18 安積中學  
 (決勝) 山形中學 31-27 福島師範  
**東北中等校籠球大會** 山形高校主催、第八回東北中等校籠球大會は五月九、十兩日同校コトで開催、山形師範優勝す。  
 (準決勝) 山形師範 57-11 寒河江中  
 山形中學 46-26 山形工業  
 (決勝) 山形師範 61-18 山形中學  
**青森近隣男女中等籠球** 青森縣體協主催、昭和十一年六月廿一日浪打校コトで舉行、男女兩師範優勝す。  
 (準決勝) 青森中學 30-17 青森商業  
 青森師範 66-11 弘前中學  
 (決勝) 青森師範 20-17 青森中學  
 青森女師 17-21 青森女師  
**宮城女子中等庭球** 第九回宮城縣中等體育大會女子庭球大會は昭和十一年十月二十九日二高女で舉行一部角田高女優勝す。  
 (決勝) 佐藤(角) 4-0 日(黒)  
 板橋(田) 4-0 日(黒)

**東北中等庭球大會** 仙臺高工主催第十二回東北中等校庭球大會は昭和十一年十月二十日同校コトで舉行、山形商業組優勝す。  
 (決勝) 鈴木(山形) 4-2 林(宮城)  
 前川(山形) 4-2 高橋(師範)  
**石巻庭球大會** 石巻中學主催第二回石巻庭球大會は昭和十一年九月十五日同校コトで舉行。  
 (決勝) 佐藤(水) 4-0 堀口(學)

**福島、仙臺教員庭球** 福島、仙臺兩市中等學校教員對抗庭球試合は昭和十一年九月十五日福島で舉行 福島軍3-2で勝つ。  
**東北オーブン選手権** 宮城縣白石體協主催、第五回東北オーブンシングルズ軟式庭球選手権大會は昭和十一年九月二十一日協會コトで舉行。  
 (決勝) 島(仙臺) 3-0 永(仙臺)  
 仙臺通信局管内庭球 第二回大會は昭和十一年十月六日仙臺局コトで舉行。

**東北北海道選手権** 弘前文明堂主催、本社後援の第七回東北北海道實業並中等校庭球選手権大會は昭和十一年五月三日弘前公園コトで舉行、参加チームは實業二十三組中等三十四組。  
 實業組準決勝  
 笹森、大上(仙臺) 5-3 岸本、若木(花岡)  
 大澤、木田(仙臺) 4-1 山本、吉田(青森)  
 同 決勝  
 笹森、大上(仙臺) 4-0 大澤、木田(仙臺)  
 中等組準決勝  
 河野、成田(弘工) 4-2 三浦、東海(弘中)  
 伊藤、石谷(大中) 4-2 秋田、中田(弘工)  
 同 決勝  
 河野、成田(弘工) 4-1 伊藤、石谷(大館)  
**東北六縣中等庭球** 岩手警專主催、第十六回大會は昭和十一年六月七日盛商コトで舉行。  
 (決勝) 小澤(盛岡) 7-5 小野(仙臺)  
**岩手縣下實業庭球大會** 昭和十一年五月二十四日盛商コトで舉行 松島、田澤組優勝。  
**第十四回太田庭球大會** 太田ロソテニス俱樂部主催、昭和十一年六月十三、四日の兩日舉行。

年六月十三、四日の兩日舉行。  
 (實業) 松島、田澤(仙北) 3-2 大内(盛商)  
 (中學) 伊藤、小澤(盛岡) 4-3 千田、大内(盛商)  
**青森縣下庭球選手権大會** 青森市文明堂主催、昭和十一年六月廿一日青鐵コトで舉行、小池、野宮組優勝。  
 野宮(友) 4-3 成田(縣)  
**福島縣下庭球大會** 郡山庭協主催、六月廿一日安積中コトで舉行。  
 安(好) 4-2 太(室)

**硬球**  
**東北學生庭球選手権大會** 東北帝大庭球部主催第五回東北學生庭球選手権大會は昭和十一年六月六、七、八の三日間帝大コトで舉行、ダブルスは桐生高工藍原、塚越組 シングルズは東北帝大岡田優勝す  
 △シングルズ準決勝  
 岡(東北) (66)111 菅(二) (高)  
 岡(大) (66)118 菅(高)  
 藍原(高工) (66)112 柳(帝大)  
 △同 決勝  
 岡田 (67)115 藍原 (66)114

△ダブルス准決勝
△同決勝
△同決勝

△一回戦 二高3(複2110)2 山形高校
△二回戦 二高3(複2110)2 北大農科

△決勝戦 二高4(複2110)1 水戸高校
△決勝戦 二高4(複2110)1 水戸高校

△一回戦 盛岡高3(複2111)2 仙臺高工
△二回戦 盛岡高3(複2111)2 仙臺高工

△一回戦 高岡高3(複2111)2 盛岡高農
△二回戦 高岡高3(複2111)2 盛岡高農

卓球競技

△第二次試合(關係分)喜多方高女412東
△第三次試合(喜多方高女410青森高女)

△第二次試合(關係分)喜多方高女412東
△第三次試合(喜多方高女410青森高女)

△第二次試合(關係分)喜多方高女412東
△第三次試合(喜多方高女410青森高女)

(決勝戦)青森市 312 大阪市
今 113 森田 小仲312川上

男子一般決勝 金子 311 白幡
女子中等決勝 吉田 312 水戸部

北日本女子卓球 青森縣協主
第五回北日本女子中等校卓球

神宮卓球青森選 昭和十年九
月二十四日青森市新町小學校に於

神宮卓球青森選 昭和十年九
月二十九日福島女子附屬講堂に於

て舉行、菅野テル(女師)、岩田弘
(喜多方高女)兩名代表に決定。

福島女子中等卓球 福島縣協
並福島卓球協主催の第六回縣下

第十回青函卓球戦 昭和十年十
月十七日青森市新町校で舉行、一

福島縣下卓球大會 三春卓球協
主催の縣下卓球大會は昭和十年

宮城縣下學生卓球 昭和十年十
一月十七日東北帝大講堂に於て舉

横山 310 成田
(以下二名帯大棄権)

岩手縣下中等卓球 柏葉俱樂部
主催第三回縣下中等校對抗卓球大

岩手、宮城女子卓球 第二回岩
手宮城兩縣下女子中等學校卓球大

北日本卓球大會 花巻温泉主
催、第八回北日本卓球大會は昭和

岩手縣下中等卓球 岩手商業主
催、縣下中等校卓球大會は昭和十

澤田 不戦勝 駒形
木林 不戦勝 山口

宮城一般團體卓球 宮城卓球協
主催、縣下一般團體卓球選手権

都市對抗東北豫選 第五回全
國都市對抗卓球東北第二次豫選は

都市對抗東北豫選 第五回全
國都市對抗卓球東北第二次豫選は

仙臺實業學生對抗卓球 宮城卓
球協會主催、全實業軍對全學生軍

三校卓球リーグ二高全勝 弘前
高校、二高、岩手醫專三校卓球リ

二高對福島高商定期戦 第十一
回定期試合は六月七日二高講堂で

仙臺實業學生對抗卓球 宮城卓
球協會主催、全實業軍對全學生軍

大、今野(仙野)3-1阿部(市工)、佐藤(仙野)3-1西山(帝大)、立木(仙野)0-1成田(帝大)、高橋(帝大)0-1小宮(二高)...

拳闘、相撲

秋田、山形、酒田對抗拳闘 酒田拳闘俱樂部主催第二回秋田、山形、酒田三市對抗拳闘大會は昭和十年九月十四日酒田市公會堂で舉行、酒田軍優勝す。

秋田縣下拳闘大會 第一回秋田縣下拳闘選手權大會は昭和十年十二月十四日秋田對能代試合を兼ね記念館で舉行。

秋田 4-10 能代 1-10 岸部 1-10 荒谷 1-10 鹿野 1-10 關本 1-10 大沼 1-10 細川 1-10 尾形 1-10 反則 1-10 荒谷 1-10 鹿野 1-10 關本 1-10 大沼 1-10

戰績一覽

Table with columns for year (昭和, 大正), season (秋, 春), and score (勝, 敗, 分). Rows show results for various teams like 帝立, 法立, 明立, 早立.

六大學優勝史

Table showing the number of wins for six major universities (帝立, 法立, 明立, 早立, 立, 立) from 1914 to 1935.

註一昭和二年春早大渡米、同三年春慶應渡米同四年春明大渡米、六年春法政渡米及明大...

運動競技

判定 關本(能代) △ウエルト級 大山(能代) K.O. 納(秋田)

青森選抜相撲軍關東學聯擊破 青森相撲協會主催關東學生相撲聯盟對青森縣下選抜軍對抗相撲大會は昭和十一年六月二十八日青森市浦町成文製材所跡で舉行、青森軍27-18で優勝す。

射撃

官民合同金仙臺射擊大會 東北學生射擊聯盟主催本社後援の第四回大會は昭和十一年六月七日仙臺市追廻射擊場で舉行、参加者四百數十名に上り頗る盛會であつた。

工務指導所(二階)▽團體中の個人優秀者1菅原(片倉製絲) 〇個人競技1佐藤(二級) 〇山口(仙野) 〇三原(元) 〇第五班女子團體競技1(三原氏優勝) 〇第二高女B(元) 〇同A組(若) 〇同C組(若) 〇團體中の個人優秀者1尾代十久子(女專) 〇個人競技1齊藤(女專) 〇二級川(同) 〇三村(同) 〇第七回北日本高專校射擊大會 東北帝大射擊部主催、昭和十一年七月十二日仙臺市追廻射擊場で舉行、桐生高工優勝す。

野球

東京大學 野球リーグ戦

十年秋季リーグ戦は九月七日より十月二十九日まで明治神宮球場、早大優勝。 一回戦 二回戦 法政 3-10 帝大 法政 4-14 立教 6-10 帝大 明大 10-13 立教 4-14 法政 2-11 法政 9-13 帝大 早大 11-10 帝大 明大 2-10 帝大 立教 5-14 早大 11-18 立教 6-10 帝大 立教 9-10 帝大

六大學首位打者

Table listing top hitters for six universities with columns for name, team, and batting average.

野球大會

第廿回全國中等學校野球大會 東北各縣大會 宮城縣大會 七月二十四日-二十八日、仙臺市、澁橋球場、出場十三校、仙臺一中、仙臺商業代表となる。

早大 6-10 法政 早大 9-10 法政 明大 8-14 法政 明大 5-12 法政 立教 8-12 帝大 立教 5-13 帝大 立教 9-12 法政 立教 3-13 法政 明大 6-11 慶應 明大 7-12 慶應 慶應 5-11 立教 立教 2-11 慶應 早大 6-12 明大 早大 8-13 明大 早大 4-14 慶應 慶應 3-11 早大 十一年春季リーグ戦は四月十一日より五日十日まで明治神宮球場早大渡米のため参加せず、明大優勝、リーグ戦日程以外早大は各一回送別試合を舉行

早大 4-11 帝大 立教 6-13 早大 明大 1-10 早大 早大 8-14 慶應 法政 3-11 早大

業21-3古川中學、東北中學11-1育英中學、仙臺一中4-1宮城水産 准決勝、仙臺商業11-3東北中學、仙臺一中8-7仙臺二中 優勝戦、仙臺一中25-2仙臺商業 福島縣大會 七月二十三日-二十六日、福島師範及福島市營球場、出場十六校、磐城中學、保原中學代表となる。

業21-3古川中學、東北中學11-1育英中學、仙臺一中4-1宮城水産 准決勝、仙臺商業11-3東北中學、仙臺一中8-7仙臺二中 優勝戦、仙臺一中25-2仙臺商業 福島縣大會 七月二十三日-二十六日、福島師範及福島市營球場、出場十六校、磐城中學、保原中學代表となる。

東北地方大會

八月一日—四日、山形中學球場、出場八校、山形中學初めて東北代表となる。

- ▲一勝戦、米澤中學7-4仙臺一中、保原中學7-5米澤工業、仙臺商業10-1新庄中學、山形中學7-6磐城中學
▲准決勝、米澤中學10-6仙臺商業、山形中學12-1保原中學
▲優勝戦、山形中學7-4米澤中學

東北地方大會優勝史

大正四年 秋田中學 同十五年 盛岡中學
同五年 一關中學 同十二年 福岡中學
同六年 盛岡中學 同十三年 福岡中學
同七年 一關中學 同十四年 福岡中學
同八年 盛岡中學 同十五年 東北中學
同九年 盛岡中學 同十六年 福岡中學
同十年 盛岡中學 同十七年 福岡中學
同十一年 仙臺一中 同十八年 福岡中學
同十二年 仙臺一中 同十九年 福岡中學
同十三年 秋田中學 同二十年 福岡中學
同十四年 仙臺一中 同二十一年 山形中學

奥羽各縣大會

岩手縣大會 八月二十三日—二十五日、盛岡中學球場、出場九校、盛岡商業、盛岡中學、遠野中學、福岡中學代表となる。

- ▲一勝戦、盛岡中學15-5遠野中學
▲二勝戦、遠野中學18-0釜石商業、盛岡商業
25-1一關中學、福岡中學7-6花巻中學、盛岡中學9-2宮古水産
▲准決勝、盛岡商業5-4盛岡中學、遠野中學7-0福岡中學
▲優勝戦、遠野中學7-1盛岡商業

青森縣大會 七月廿五日—廿七日、青森市沖館球場、出場十校、八戶中學、青森師範代表となる。

- ▲一勝戦、青森商業28-4五所河原農校、弘前工業14-4東奥義塾
▲二勝戦、青森中學10-0弘前中學、青森商業15-0青森工業、青森師範9-0弘前工業
▲准決勝、八戶中學6-3青森中學、青森師範9-2青森商業
▲優勝戦、八戶中學3-0青森師範

秋田縣大會 七月二十二日—二十六日、秋田市茨島球場、出場十二校、秋田商業、秋田中學代表となる。

- ▲一勝戦、廣農農林3-2能代中學、秋田中學14-5大曲農業、本莊中學11-7金足農
▲二勝戦、大館中學26-4廣農農林、秋田中學14-13秋田師範、本莊中學17-0横手中學
▲准決勝、秋田商業11-0土崎商業
▲優勝戦、秋田中學3-2大館中學、秋田商業32-0本莊中學

奥羽地方大會

八月一日—三日、盛岡中學球場、出場八校。

- ▲一勝戦、遠野中學10-5青森師範、盛岡商業10-0秋田中學、盛岡中學12-7八戶中學、秋田商業14-12福岡中學
▲准決勝、秋田商業14-5盛岡中學、盛岡商業2-1遠野中學
▲優勝戦、盛岡商業3-1秋田商業

奥羽地方大會優勝史

大正十四年東北地方大會より分節
大正十四年 秋田商業 同 六年 秋田中學
同十五年 八戶中學 同 七年 秋田中學
同十六年 青森師範 同 八年 秋田中學
同十七年 八戶中學 同 九年 秋田中學
同十八年 秋田師範 同 十年 秋田商業
同十九年 八戶中學 同 十一年 盛岡商業

全國中等野球決勝大會

八月十三日—二十日、甲子園球場、出場地方代表二十二校、

- ▲一勝戦、岐阜商業18-0盛岡商業 青森商業2-1早實 静岡商業27-4長野商業 嘉義農4-3小倉工 鳥取一中3-2鹿兒島商業 京阪商5-4松山商業
▲二勝戦、桐生中4-0吳港中 北海中4-1青島中 千葉中8-1山形中 和歌山中10-0福井商 平安中17-0仁川商 青森商7-5嘉義農 岐阜商業4-1鳥取一中 京阪商業5-4静岡商業
▲準々決勝、青森商業3-1北濱中 平安中10-0千中 桐生中3-1京阪商 岐阜商業9-1和歌山中
▲準決勝、岐阜商業7-1青森商業 平安中6-5桐生中
▲優勝戦、岐阜商業9-1平安中

實業專門學校野球大會

七月十六日—十九日、福島市營球場、出場六校、桐生高校優勝し福島高商と共に代表

- ▲一勝戦、新調4-2七高、三高6-1水戸高知3-3東京、四高2-1山形、六高7-4甲南、二高6-0弘前、八高7-3松江、大阪2-1浦和、松山9-0福岡、學藝9-5五高、一高16-0富山、速達5-0松本、静岡9-3東京府、山口6-4成蹊、佐賀6-3姫路
▲二勝戦、高知4-2四高、三高11-5新潟佐賀11-1廣島、静岡13-0山口、八高5-3松山、學藝18-11大阪、一高12-2速達、二高3-0六高
▲準々決勝、三高3-0佐賀、一高2-0八高、静岡6-4學藝、高知1-0二高
▲準決勝、一高4-1三高 静岡7-1高知
▲優勝戦、一高9-3静岡

となる。

- ▲一勝戦、桐生高工19-5東北學院、福島高商16-1仙臺高工
▲準決勝、桐生高工14-7小樽高商、福島高商17-11高岡高商
▲優勝戦、桐生高工12-1福島高商
△各地代表、関東—横濱高工、横濱専門、關西—同志社高商、高松高商、九州—京城醫專、九州醫專

同代表大會 七月二十三日—二十六日、東京戸塚球場、同志者高商優勝。

- ▲一勝戦、同志社8-4横濱高工、京城醫專
▲二勝戦、同志社9-3高松高商、京城醫專
▲優勝戦、同志社高商6-5京城醫專

第六回仙臺中等野球リーグ戦

五月上旬より七月初旬まで出場八校を二班に分けリーグ戦を行ひ各校を選抜、一班は東北學院二勝無敗一分、東北中學二勝一敗、宮縣縣工一勝二敗、育英中學二敗一分二勝一敗、仙臺商業一勝二敗、一中三敗

- ▲準決勝 梅中8-2東中 學院6-3二中
▲優勝戦 梅中8-2學院
▲一勝戦 育英中學 昭和七年 仙臺一中
昭和八年 宮城工業 昭和九年 東北中學
昭和十年 東北中學 昭和十一年 梅中中學
年次首位打者

運動競技

都市對抗野球大會

第一回 千葉(仙臺一中) 五割
第二回 木田(東北學院) 五割四分五厘
第三回 畑(宮城縣工) 四割八分一厘
第四回 清野(梅中) 四割八分一厘
第五回 清水(仙臺一中) 五割
第六回 前田(仙臺一中) 五割
第十回 全國

東北地方各縣豫選

- ▽宮城縣豫選 十一月六日、八日、仙臺スポーツマン球場、出場チーム八
▲一回戦 石巻石陽11-9仙臺北陵、渡波タラ9-3仙臺巨人、仙臺南光14-1石巻日和、仙臺通友9-3氣仙沼協協
▲準決勝 石巻石陽23-6渡波供、仙臺南光21-10仙臺通友
▲優勝戦 石巻石陽6-4仙臺南光
▽福島縣豫選 六月六七日、福島市營球場、出場チーム六
▲一回戦 福島鐵道16-3人山炭礦、福島クラブ12-1郡山工場
▲準決勝 福島鐵道23-4福島巨人、福島クラブ(業橋)中村クラブ
▲優勝戦 福島鐵道9-0福島クラブ
▽岩手縣豫選 六月六七日、盛中球場、出場チーム六
▲一回戦 釜石製鐵13-4盛岡工場、盛岡實業7-4松尾山
▲準決勝 釜石製鐵11-1盛岡實業、盛岡鐵道12-2水澤駒形
▲優勝戦 釜石製鐵8-3盛岡鐵道
▽青森縣豫選 六月十三日、十五日、青森球場、出場チーム四
▲準決勝 青森林友10-1弘前協會、ユニオン4-1青森鐵道
▲優勝戦 青森林友6-1ユニオン
▽山形縣豫選 出場チーム二
▲優勝戦 米澤商業6-4山形クラブ

都市對抗野球優勝史

昭和二年大連 昭和三年大連 昭和四年大連
昭和五年東京 昭和六年東京 昭和七年神戸
昭和八年東京 昭和九年大阪 昭和十年東京

日本職業野球聯盟の結成

昭和九年十二月東京巨人軍が組織されて以來、昭和十年十二月大阪タイガース軍が成立、昭和十一年一月以降二月までに五俱樂部の創立を見るに至り、十一年二月五日東京において日本職業聯盟の結成となり、大隈信常侯爵を總裁に安藤信昭子爵を副總裁に推戴、四月二十九日より一週間甲子園球場において最初のリーグ戦、續いて大宮、名古屋等においてもリーグ

戦を舉行した、七俱樂部の名稱、監督左の如し

- 東京巨人軍 藤本 定義(舊早大)
大阪タイガース 森 茂雄(舊早大)
名古屋軍 池田 豊(舊早大)
東京セネタース 横澤 三郎(舊明大)
大東京軍 伊藤 勝三(舊慶應)
名古屋金鯱軍 岡田源三郎(舊明大)
三宅 大輔(舊慶應)
阪急軍

第一回全日本職業野球選手権大會

東京は七月一日より五日間、戸塚球場において舉行

- ▲優勝 名史屋9-18東京巨人軍、阪急5-10大東京、タイガース6-2金鯱、東京巨人10-11大東京、金鯱4-2東京巨人、セネタース8-3金鯱
▲準決勝 名古屋13-3阪急、セネタース9-18タイガース
▲優勝戦 名古屋1-0セネタース
同日大阪は七月十一日より五日間甲子園球場
▲優勝 セネタース8-11タイガース、阪急8-11巨人、金鯱2-0大東京
▲準決勝 セネタース9-1金鯱、阪急7-5名古屋
▲優勝戦 阪急2-1セネタース
同日名古屋は七月十五日-十九日、山本球場
▲優勝 セネタース6-5大東京、タイガース8-7巨人軍、金鯱8-5名古屋、巨人軍3-2大東京、名古屋6-2巨人軍、阪急12-5名古屋
▲準決勝 タイガース9-7セネタース、阪急13-8金鯱

柔道 十年度

第五回全日本柔道選手権大會

講道館主催、十月二十六、七兩日東京日比谷音楽堂において舉行、第一區代表選手(豫選地札帳)左の如し

- 一般成年前期 齋藤四段(秋田)
成年後期 宮尾四段(北海道)
壯年前期 菊池四段(宮城)
壯年前期 島本四段(北海道)
成年後期 工藤五段(青森)
壯年前期 細川六段(山形)
壯年前期 小田原五段(福島)
壯年後期 島谷五段(北海道)
一般選士試合に齋藤は準決勝に松前五段(熊本)に敗れ、宮尾は準決勝に山口四段(大阪)に敗れ菊池は第一次戦神原五段(大阪)に敗れ、島本は第一次戦に富永四段(福岡)に敗る、専門選士試合に工藤は準決勝に西六段(福岡)に敗れ、細川は第一次戦に宇土六段(熊本)に敗れ、小田原は第一次戦に飯山五段(東京)に敗れ、島谷は第一次戦に山本五段(兵庫)に敗れた。
選士権獲得者左の如し
一般成年前期 松前五段(熊本)

第七回全日本警察官武道大會

十月二十四日、五兩日陸軍戸山學校道場で舉行、柔道は宮城、福島、岩手の三縣第一回戦に敗退、第二回戦に山形は愛媛に敗れ青森は秋田に敗れ秋田は準々決勝に愛媛に敗る、結局警視廳六年連続優勝、個人は石川(宮城)佐藤(青森)共に第二回戦に敗れ結局神原(大阪)優勝。

柔道選士権大會

河北新報社後援、仙臺學生柔道會主催、九月二十二日仙臺市武徳殿で舉行、参加二七團體第一部は宮師を破つて田村中學優勝、第二部は仙臺市役所Bを破つて仙鐵優勝
第八回北日本中等柔道大會
河北新報社後援、東北學院高等學部主催、九月二十四日、其道場、出場二十三校、築館中學を破つて田村中學三年連続優勝、個人は眞尾(田村中)優勝

第三回東北六縣中等柔道大會

岩手警専主催、十月二十七日、盛岡武徳殿、出場九校、盛岡商業を破つて盛岡中學優勝、個人は若見(築館中)優勝

第六回全日本鐵道柔道大會

十月十一、二兩日、鐵道省道場、出場六鐵道局、優勝東鐵(七勝)仙鐵は三勝一引分にて第四位
第六回仙鐵管内柔道大會
十月二十六、七兩日、仙鐵教習所道場、青森運事を破つて秋田運事優勝、個人は高木(仙鐵)優勝

第三回三陸柔道大會

氣仙沼柔道會主催、十月二十日、氣仙沼カナヘ座、出場五團體、釜石を破つて氣仙沼A優勝、個人は新田(釜石)優勝

第四回宮城縣市部都對抗試合

河北新報社後援、宮城縣有段者會主催、十一月十八日、仙臺市荒町小學校々庭、兩軍初段二段三段以下九名を以て對戦、市部大將の戦績部二勝、市部一勝、引分一となる。二段選士権試合は高木(仙鐵)優勝
仙鐵對東鐵試合 河北新報社後

授、十二月二日、仙臺市公會堂、東鐵は五段五名、四段三名、三段六名、二段一名、仙鐵は五段三名

北日本柔道東西對抗大試合

講道館後援、河北新報社主催、創刊四十周年記念行事として六月二十日仙臺市蹴球場にて舉行

- ▲大會役員 名譽總裁伊達縣宗伯殿、總裁齋藤、名譽會長菊山宮城縣知事、會長一力本社長、顧問岡村第二師團長、下元第八師團長、伊藤福島縣知事、石黒岩手縣知事、小林青森縣知事、見玉秋田縣知事、金森山形縣知事、大島仙臺局長
▲大會幹事長 六段高橋喜三郎
▲審判長 九段範士水岡秀一、審判員 尾形七段伊達六段、高橋六段

Table with columns for East Army (Red) and West Army (White), listing names and ranks of participants in the Judo matches.

運動競技

永岡範士及尾形七段の古式の形あり午後二時三十分試合開始閉戦五時五十三分、兩軍一進一退充分技を出し合ひ、この種對抗戦として稀有の見事な大試合を演じ結局大將を以て東軍勝つ、當日の觀衆九千に達した。

高専校柔道大會

四帝大聯盟主催、東部豫選は七月十三日、十八日、仙臺市公會堂、出場十四校、木村五段を大將とする初出場の拓大豫科優勝
▲優勝戦 拓大豫科(不戦三名)二高、拓大豫科(不戦二名)弘前高校
▲優勝戦 拓大豫科(大將決戦) 北大豫科
△中部豫選優勝一名古屋高商
△西部豫選優勝一名東亞同文書院

中等柔道大會

五月十日、其講堂、出場十八校、優勝戦は仙臺一中對豊島師範、勝敗決せず兩校優勝とす
第二回新潟近縣中等柔道大會
新潟警大主催、五月二十四日、其道場、田村中學は準決勝に新潟中學に敗る、新潟中優勝
第八回關東北中等柔道大會
福島高商主催、五月二十四日、其道場、出場二十六校、秋田商業を破つて福島中學優勝





# 第十一回オリンピック水上競技成績

男子の部		女子の部	
種目	順位	種目	順位
百米自由形	1 田口 正治(日) 58秒1	1 マッギン(米) 1分8秒4	1 小島 一枝(日) 5分4.秒1
八百米自由形	1 藤原 恒雄(日) 4分53秒8	1 マッギン(米) 1分8秒4	1 小島 一枝(日) 5分4.秒1
四百米自由形	1 藤原 恒雄(日) 4分53秒8	1 マッギン(米) 1分8秒4	1 小島 一枝(日) 5分4.秒1
二百米平泳	1 藤原 恒雄(日) 4分53秒8	1 マッギン(米) 1分8秒4	1 小島 一枝(日) 5分4.秒1
千五百米自由形	1 藤原 恒雄(日) 4分53秒8	1 マッギン(米) 1分8秒4	1 小島 一枝(日) 5分4.秒1
飛板飛込	1 藤原 恒雄(日) 4分53秒8	1 マッギン(米) 1分8秒4	1 小島 一枝(日) 5分4.秒1
高飛込	1 藤原 恒雄(日) 4分53秒8	1 マッギン(米) 1分8秒4	1 小島 一枝(日) 5分4.秒1
四百米自由形	1 藤原 恒雄(日) 4分53秒8	1 マッギン(米) 1分8秒4	1 小島 一枝(日) 5分4.秒1
四百米自由形	1 藤原 恒雄(日) 4分53秒8	1 マッギン(米) 1分8秒4	1 小島 一枝(日) 5分4.秒1
飛板飛込	1 藤原 恒雄(日) 4分53秒8	1 マッギン(米) 1分8秒4	1 小島 一枝(日) 5分4.秒1
高飛込	1 藤原 恒雄(日) 4分53秒8	1 マッギン(米) 1分8秒4	1 小島 一枝(日) 5分4.秒1

【註】◎印世界新記録 ○印オリンピック新記録 ×印オリンピックタイ記録

## 學

### 文部省自然科學 研究獎勵金

十一年度は八月一日決定、内東北關係分

- ▲地電氣の研究(東北帝大中村左衛門太郎)
- ▲種子休眠の減少に發芽促進方の研究(東北帝大岡田要之助)
- ▲内燃機用高速摺擦性の研究(東北帝大前川道治郎)
- ▲溶解せる銻と錳の平衡關係について(東北帝大的場幸雄)
- ▲救荒食品の研究(盛岡高農岩田久義)
- ▲多原子分子の吸収スペクトル(仙臺高工福本喜繁)
- ▲低濃度合金の研究(山形高校協本泰治)

文部省精神科學 研究獎勵金

八月十日發表、東北關係分

- ▲民族上り親たる古代日鮮滿の關係(東北帝大喜田貞吉)
- ▲國學における國語研究と國家思想との關係の歴史的研究(宮城女專重松信弘)

日本學術振興會援助補助

三月三十一日十一年度前期の援助補助決定、内東北關係分

- ▲江戸時代の交通(東北帝大島延次郎)

## 藝

▲宋代兩浙地方の歴史地理的並に人文史的研究(東北帝大岡崎文夫)

▲週期軌道に関する研究(東北帝大松隈健彦)

▲電子米の物質性に依る散亂及電子米の極極(東北帝大三枝彦雄)

▲相對微分幾何學に関する研究(東北帝大平川信我)

▲風の緯度觀測に及ぼす影響(緯度觀測所川渡俊一)

▲地磁氣及地電氣による地震豫知法の研究(東北帝大中村左衛門太郎)

▲溶解せる液體アムモニア及其工業的應用(東北帝大八田四郎次)

▲液體によるガスの吸収速度に及ぼす影響の研究(東北帝大八田四郎次)

▲低濃度合金の物理化學(金研神田英藏)

▲現代及舊期珊瑚礁研究の報文印刷費(東北帝大青木康次郎、半澤正四郎、田山利三郎)

▲脊椎動物胚の行動及神經系統の實驗發生學的研究(東北帝大植秀臣)

▲固體粘性的精密測定及附帶問題の研究(東北帝大樋口盛一)

▲氣體流體流研究(東北帝大前川道治郎)

▲機械的整流機と水電整流器とを並用する變流方式に関する研究(東北帝大渡邊肇)

▲東北における冷害に関する調査研究(盛岡高農長谷川米藏外四名)

▲和算史の研究(東北帝大藤原松三郎)

▲南洋ウラカス火山の研究(東北帝大田中館秀三)

▲齋藤報恩會學術研究補助

十一年度補助は三月十九日決定

四十六件總額三萬六千三百八十圓

新規補助左の如し。

- ▲銅と水素生育との關係研究(東北帝大井上嘉都治外一名)
- ▲蚯蚓の神經系の發達に関する研究(東北帝大小川文代)
- ▲岩石礦物の微量分析法の研究(東北帝大瀬戸國勝)
- ▲海産物の基礎化學的研究(東北帝大富永齋藤新一郎)
- ▲東北醫學衛生史研究(東北帝大長谷部吉人外三名)
- ▲和算の研究(東北帝大藤原松三郎)
- ▲文線吸收限界の研究(東北帝大山田光雄、林威)
- ▲東北地方植物群集の研究(東北帝大吉井義次)
- ▲鳥頭屬植物含有のアルカロイド中特に無毒なる成分の研究(二高森尾森一)
- ▲多原子分子のスペクトルの研究(仙臺高工福本喜繁)
- ▲井水中における濁物の除去に関する研究(仙臺高工宮崎行藏)
- ▲福島縣における全農施設の調査研究(福島高南田中三郎)
- ▲北日本海主として新潟、山形、秋田各縣沿岸の藻類分布に就て(山形高校廣橋亮)
- ▲耐蝕性合金の研究(秋田鐵專佐藤廣太)

▲農作物生育に對する硫酸及加里の影響に関する研究(盛岡高農小野伊勢之助)

服部報公會學術研究補助

十一年前期、一月二十九日決定

内東北關係分

- ▲R系發彈スペクトルの微細構造(東北帝大枝本勇雄)
- ▲近畿東海地方における地磁氣變化の研究(東北帝大中村左衛門太郎)
- ▲三角錐の研究(東北帝大沼知福三郎)
- ▲圓筒型ビーターの研究(同上)
- ▲水中通信(東北帝大坂山平一)
- ▲接觸劑の本質に関する研究(東北帝大青山新一)
- ▲石炭乾留ガス液による羊毛の色染機構の考察(東北帝大古田良一)
- ▲東北地方における未刊の史料の蒐集及びその研究(東北帝大古田良一)
- ▲東北地方の經濟地理學的研究(東北帝大田中館秀三)
- ▲同(後期) 六月二十四日決定、内東北關係分
- ▲低濃度合金の物理化學的研究(東北帝大前川道治郎)
- ▲腦髓の比較解剖學的及實驗的研究(東北帝大小川三郎)
- ▲イグニトロンを試作研究(東北帝大渡邊肇)
- ▲白銅の金相學的及X線學的研究(金研田丸亮爾、大澤與美)
- ▲東洋古銅利器の化學的研究(秋田鐵專道野鶴松)
- ▲固體摩擦の研究(東北帝大樋口盛一)
- ▲高級鋼鐵製造に関する基礎的研究(東北帝大佐藤知雄)

新博士

東北帝大各學部教授會通過、昭和十年十月一日—同十一年七月末日現在

- 小野 知夫(福島) 小泉 辰雄(富山) 那須 信行(京都) 渡邊 勇(埼玉) 元村 勳(鹿兒島) 石井信太郎(東京) 高津 壽雄(愛媛) 森本 清吉(東京) 豊田 今吉(香川) 上田 太郎(奈良) 阿部 末吉(岩手) 前川道治郎(宮城) 菊地 紫朗(青森) 川野 秀夫(福岡) 熊谷 太市(岩手) 瀬戸 八郎(宮城) 中村 豊彌(青森) 若生 甚吉(宮城) 相澤 善治(宮城) 松岡 茂(山口) 櫻岡 純一(宮城) 杉山 一郎(秋田) 土屋 忠衛(山梨) 岸田 英一(東京) 山村新之助(福島) 稻葉三郎(栃木) 春日井英夫(青森) 渡部 均(秋田) 金田 文平(栃木) 松川 金七(宮城) 鈴木 四郎(埼玉) 内村 健兒(岩手) 本間 亮敬(新潟) 氏家 憲介(宮城) 小野 辰雄(富山) 渡邊 勇(埼玉) 元村 勳(鹿兒島) 石井信太郎(東京) 高津 壽雄(愛媛) 豊田 今吉(香川) 阿部 末吉(岩手) 菊地 紫朗(青森) 熊谷 太市(岩手) 木村 順(茨城) 武田健次郎(山形) 矢内 敏一(宮城) 佐藤 謙(宮城) 水戸 愛助(宮城) 市川 壽(栃木) 高野 廣(山形) 永井 泰(栃木) 田島 吉郎(群馬) 小川 辰次(山形) 高山 辰夫(宮城) 廣瀬 修二(秋田) 青木啓彦(神戶) 廣瀬 常雄(兵庫) 伊藤 四郎(宮城) 佐藤 巖(大分) 庄司猛之助(宮城) 丹野 英男(宮城)

文藝・美術

東北美術展覽會

河北新報社主催、開催期日毎年五月、会場宮城縣商工獎勵館、顧問—東北帝大教授太田正雄、同助教授兒島喜久雄、工藝指導所長國井喜太郎三氏、審査員—第一部(日本畫)前田青邨氏、第二部(洋畫)安井曾太郎、中野和高兩氏、第四回の第一部中村岳陵氏、年次受賞者左の如し。

- 第一回(昭和八年) 河北賞—黃昏の温泉道(鈴木一耕(仙臺)) 『小手術室』松田春雄(仙臺) 『婦人像』杉村博(仙臺) 『青根風景』桂重英(仙臺) 第二回(昭和九年) 河北賞—良寛さまと真心尼(太田禮甫(東京)) 『少女像』藤田良雄(宮城) 『氣仙沼港』千葉明(宮城) 『シン』杉村博(東京) 伊達伯實—高原岩城照天(仙臺) 『蛙』木村延(仙臺) 第三回(昭和十年) 河北賞—群鶴野山(仙臺) 『岩野野原』伊達伯實—『雪の港』山健治(仙臺) 『雪景』佐伊達伯實—『店』久世富美(京都) 『雪景』佐藤文五郎(仙臺)

河北文藝賞

選者—安成二郎(短歌)阿部みどり(俳句)濱夢助(川柳)十年十月—翌年七月における受賞者左の如し

- 第八回 短歌 俳句 川柳 星 仁明 黒澤まより 菅野 盛 鈴木 亮二 庄子 春吉 飯田 寅治 星 誠道 大西 槐太 早坂 勝雄 小野寺敬一 江戸 八郎 後藤 正二 星 武 佐々木茶遊 澁谷 至 第九回 星野美智子 大西 槐太 石川 龍左 栗 誠道 佐々木茶遊 助川赤ん坊 小野寺敬一 江戸 八郎 栗野やすじ 澁谷 良壽 黒澤まより 大友 柳歩 石川 忠 島田 紅帆 佐藤四三坊 小野寺敬一 江戸 八郎 會田 一幸 吉岡登美子 高橋 義島 鈴木 凡念 第十回 小畑せい子 島田 紅帆 大友 柳歩 奥 山人 佐藤 佛音 菊地 隆管 渡邊 智代 佐々木茶遊 安附 安砲

東北振興歌

河北新報創刊四十周年記念、本社選、五月二十五日紙上發表。

- 士、西川扇橋久、花柳小勝、花柳勝美(中村) 坂東三之男(盛岡)若柳吉鶴(青森)中村登茂三郎、西川喜美司(弘前)花柳壽々清(山形)藤藤竹枝(秋田)藤藤清枝

趣味・娛樂・ラヂオ

趣味・娛樂

- 〔長唄〕 梓屋登喜、梓屋登志、梓屋登茂、梓屋六彌重、梓屋六美、梓屋六延芳、梓屋六延、梓屋和登美、梓屋常春、稲吉家六武津、稲吉家和三鶴、吉住小奈保、吉住小綱(石巻)梓屋登助(白石)梓屋登美津(福島)梓屋彌壽彦、梓屋彌壽榮、梓屋六華(白河)梓屋彌壽子(須賀川)梓屋彌壽貞(郡山)梓屋彌壽園(中村)梓屋六志登(盛岡)喜音屋三代(釜石)梓屋勝毛壽(青森)梓屋勝利喜、梓屋六津奈、梓屋歌その(山形)梓屋勝勇、梓屋六茂美(秋田)梓屋佐雪、梓屋五清
- 〔清元〕 (仙臺)清元延玉葉、清元延葉彌、清元延春葉、清元延以津、清元延美佐葉、清元延伊勢、清元延竹葉、清元延小正(福島)清元延松香山形、清元延正
- 〔常盤津〕 (仙臺)常盤津勝榮、常盤津勝利、(若松)常盤津駒七(盛岡)常盤津文字久(青森)常盤津文字盛
- 〔琵琶〕 (鶴心流)仙臺 宇田錦崇、窪田錦亮、堀江錦蛙、跡部香雪、宮崎錦陽(石巻)石川錦福、日理水、齋藤干水(大河原)石藤錦輝(白石)阿子島其水(福島)伊藤清水(二本松)鈴木平水

趣味・娛樂・ラヂオ

四〇〇

▲一等當選 澁田進(東京) 次席 熊谷七郎(岩手) 堀龍公(宮城) 府金勇三(秋田) 當選歌詞 (澁田進作) 一、鎮守雲 なんぞ 燃えあがるもの 吾等 愛と光の 炬をふり翳し 力の限り 振ひ興せ 大東北の 花吹雪土を。 二、 衝き進むもの 吾等 熱き氣魄の 火花をあけて おお! 血潮の限り 振ひ興せ 大東北の 烈たる郷土を。 三、 狂ふ雲 なんぞ 陽に照ふもの 吾等 汗と涙の 矜持をかけて おお! 生命の限り 振ひ興せ 大東北の 輝く郷土を。

東北新誌

河北新報創刊四十周年記念、本社選、五月二十五日紙上發表。 ▲一等當選 隅田文雄(山形) ▲次席 中村綾雨(宮城) 龍崎寺保(兵庫) 眞岡勝思(熊本) 當選歌詞 仲ひろ東北は 觀光の東北(旅順案内)のくだりあり 河北新報社マーカー 募數一萬七十三通、五月二十四日紙上發表。 ▲一等當選 小林琴夜(東京) 稲垣紫虹(京都) 青山五郎(大阪) 二階堂哲輝(宮城)

〔仙臺〕 山田 菊地佐喜久、菊地喜喜恵、佐藤佐喜喜、佐々木佐喜喜、奥田佐登久、藤島佐喜文、三浦佐登枝、川島登勢、宮城佐智代、木村佐美代、伊藤光勢、上保登美勢、黒澤波世、太田登徳、佐々木松波、清水佐登喜(生田) 遠藤操、遠藤松香、遠藤操香、遠藤操好、鴨原松園、橋本良松、佐野美泉、日下部操、横田松園、林操吟、福澤操(盛岡) 山田 森田龍井(釜石) 山田 板澤演香(花巻) 山田 岩田直清(川村) 山田 小林美佐保(山田) 山田 藤田美佐子(中村) 山田 大沼多美井(白河) 山田 岡崎もも子(山田) 新妻佐喜喜(郡山) 石郷岡藤子(山田) 葛谷つづ子(山形) 生田 生田 水澤清見(弘前) 生田 飛鳥愛子(石郷岡藤子) 山田 室岡松孝(秋田) 生田 足達清賀、寺門輝國、大野俊山

四〇一



畫(赤湯第三常盤館、映畫(宮内)双松館、松風座、映畫(長井)松竹常盤館、菊水館、映畫(谷地町)松竹館、映畫(秋田市)秋田劇場、旭館、秋田演舞場、映畫(土崎港町)土崎劇場、松竹館、映畫(大館)大館劇場、常盤座、映畫(能代港町)大正館、能代劇場、映畫(増田町)増田座、映畫(花輪)花輪劇場、映畫(十文字)十文字座、映畫(角館)角館劇場、映畫(湯澤)湯澤劇場、映畫(大曲)中央館、映畫(横手)横手劇場、阿波館、映畫(小坂)唐館、映畫(扇田)扇田劇場、大衆館、映畫(廣島)大成館、映畫(毛馬内)昭和館、映畫(大久保)大久保座、映畫(象洞)象洞館、映畫(本庄)本庄座、映畫(角間川)川向座、映畫)

第五回東北圖書大會

時日：十一月二十四日、二十五日、二十六日、二十七日、二十八日、二十九日、三十日、三十一日、十二月一日、二日、三日、四日、五日、六日、七日、八日、九日、十日、十一日、十二日、十三日、十四日、十五日、十六日、十七日、十八日、十九日、二十日、二十一日、二十二日、二十三日、二十四日、二十五日、二十六日、二十七日、二十八日、二十九日、三十日、三十一日、一月一日、二月一日、三月一日、四月一日、五月一日、六月一日、七月一日、八月一日、九月一日、十月一日、十一月一日、十二月一日

第五回東北圖書大會(本社主催) 時日：十一月二十四日、二十五日、二十六日、二十七日、二十八日、二十九日、三十日、三十一日、十二月一日、二日、三日、四日、五日、六日、七日、八日、九日、十日、十一日、十二日、十三日、十四日、十五日、十六日、十七日、十八日、十九日、二十日、二十一日、二十二日、二十三日、二十四日、二十五日、二十六日、二十七日、二十八日、二十九日、三十日、三十一日、一月一日、二月一日、三月一日、四月一日、五月一日、六月一日、七月一日、八月一日、九月一日、十月一日、十一月一日、十二月一日

將棋

第四回東北將棋大會(本社主催) 時日：十一月十七日、十八日、十九日、二十日、二十一日、二十二日、二十三日、二十四日、二十五日、二十六日、二十七日、二十八日、二十九日、三十日、三十一日、一月一日、二月一日、三月一日、四月一日、五月一日、六月一日、七月一日、八月一日、九月一日、十月一日、十一月一日、十二月一日

第四回東北將棋大會(本社主催) 時日：十一月十七日、十八日、十九日、二十日、二十一日、二十二日、二十三日、二十四日、二十五日、二十六日、二十七日、二十八日、二十九日、三十日、三十一日、一月一日、二月一日、三月一日、四月一日、五月一日、六月一日、七月一日、八月一日、九月一日、十月一日、十一月一日、十二月一日

聯珠

六縣聯珠有段者 (宮城縣) 仙臺市 六段高橋幸、五段高橋可真、四段桑原柏方、三段中村隆、二段五堂雄山、小關幸三、元光五郎、中島青松、森山柏風、高橋柏水、木内柏秀、初段松本榮吉、明間龍、石柳澤泰樂、佐藤壯一郎、森野次郎、及川法、佐藤正壽、三原健助、小野島、鹽釜二段、梅津昭峰、川端昇龍、丹野松翠、初段三島隆、石阿部昭雄、那部、初段岡文輝、小山内隆生、大沼柏照、富岡吾風 (福島縣) 福島市 二段水越泰雲、木幡一

ラヂオ

東北地方のラヂオは、仙臺中央放送局を主體とし、その子放送局として秋田放送局があり、昭和十一年度中には山形放送局も出現する豫定である。東北地方は地理的條件の不利と、生活程度の低さのため、他地方に比してラヂオの普及情況も悪い。以下統計を以て東北のラヂオを説明しよう。

Table with columns: 所轄 (Jurisdiction), ラヂオ許可数 (Radio License Count), 廢止数 (Cancellation Count), 増加数 (Increase Count), 現在数 (Current Count), 世帯数 (Household Count), 百世帯當加入数 (Number of Licenses per 100 Households). Rows include 宮城縣 (Miyagi Prefecture), 仙臺市 (Sendai City), 青森縣 (Aomori Prefecture), etc.

Table with columns: 郡市部 (Municipalities/Departments), 合部計 (Total), 秋田縣 (Akita Prefecture), 山形縣 (Yamagata Prefecture), 福島縣 (Fukushima Prefecture), etc. This table provides a detailed breakdown of radio statistics by region.

河北年鑑

Table with columns for industry types (農業, 工業, 商業, etc.) and metrics like '許可數' (Number of permits) and '廢止數' (Number of cancellations).

Table showing '六縣年度別ラヂオ許可廢止增加數' (Radio permit and cancellation increase by county/year) with columns for year (年度別) and counts.

各中央放送局自局編成放送同數

Large table showing broadcast statistics for various stations (東京, 大阪, 名古屋, etc.) across different categories (報, 講, 學, etc.) and years.

括弧内は各中央放送局管内地方放送局數... (Numbers in parentheses indicate the number of local broadcast stations within each central broadcast station's jurisdiction.)

Table titled '放送日記' (Broadcast Diary) listing broadcast dates (放送月日) and content (項目別).

Table titled '放送日記' (Broadcast Diary) listing broadcast dates (放送月日) and content (項目別).

趣味・娯楽・ラヂオ

四〇六

Table showing broadcast statistics for various stations (東京, 大阪, 名古屋, etc.) across different categories (報, 講, 學, etc.) and years.

Table showing broadcast statistics for various stations (東京, 大阪, 名古屋, etc.) across different categories (報, 講, 學, etc.) and years.

ラヂオ共同聴取

聴取密度少く、比較的経済力の薄弱な地方にラヂオを一層普及せしむるため、比較的低廉な設備費及維持費をもつて聴取可能と認められる共同聴取(一個の親受信機に對し、平均約五十戸が共同聴取する)方法實施の方法を樹て差當り各中央放送局管内に二箇所宛、地方放送局管内に一箇所宛、全國合計三十箇所を選定、昭和十一年頭初から試験的に實施中であるが、この問題に關しては主として晝夜線の問題から、電氣料金の點

全國ラヂオ商工業者及商工組合數 (十年度末)

Table showing radio merchant and industrial organization counts by region (東北六縣, 東北ラヂオ商組合, etc.)

Table showing radio broadcast material provision locations (東北六縣放送資料提供先)

ローカル・ニュース 秋田新報社 仙臺市東三番丁 秋田魁新報社 秋田大町一丁目 官廳公示事項 仙臺鐵道局 仙臺市東二番丁 産業ニュース 仙臺鐵道局 仙臺市清水小路

ラヂオ體操會 (自八月二十日) 全國概況 (十年度)

Table of radio gymnastics events by region (東北地方, 東北六縣, etc.)

職業紹介事項 仙臺市職業紹介所 衛生メモ・家庭メモ 仙臺市各女學校 料理 仙臺市内一流料理店

Table of radio broadcast material provision locations (東北六縣放送資料提供先)

農村ラヂオ未加入者調査

昭和十年、東京逓信局は放送協會と協同して、關東一府八縣約八萬二千世帯に對し表題のやうな調査をした。東京地方はむろん事情を異にしてゐるが、參考迄にこゝに掲げよう。

趣味・娯樂・ラヂオ

# 河北新報

四一〇



仙臺市東三番丁

電話代表番號 四一〇〇

振替口座 仙臺 東京二七二九五

仙臺局私書函 第九號

# キリンビール

麥酒通の愛飲する

品質第一 キリンビール

論より證據

まづ一杯 又一杯

貴下は直ちにキリン黨たらん



麒麟麥酒株式會社

中付 一



# 藏王の溪谷

特効 胃腸病

交通

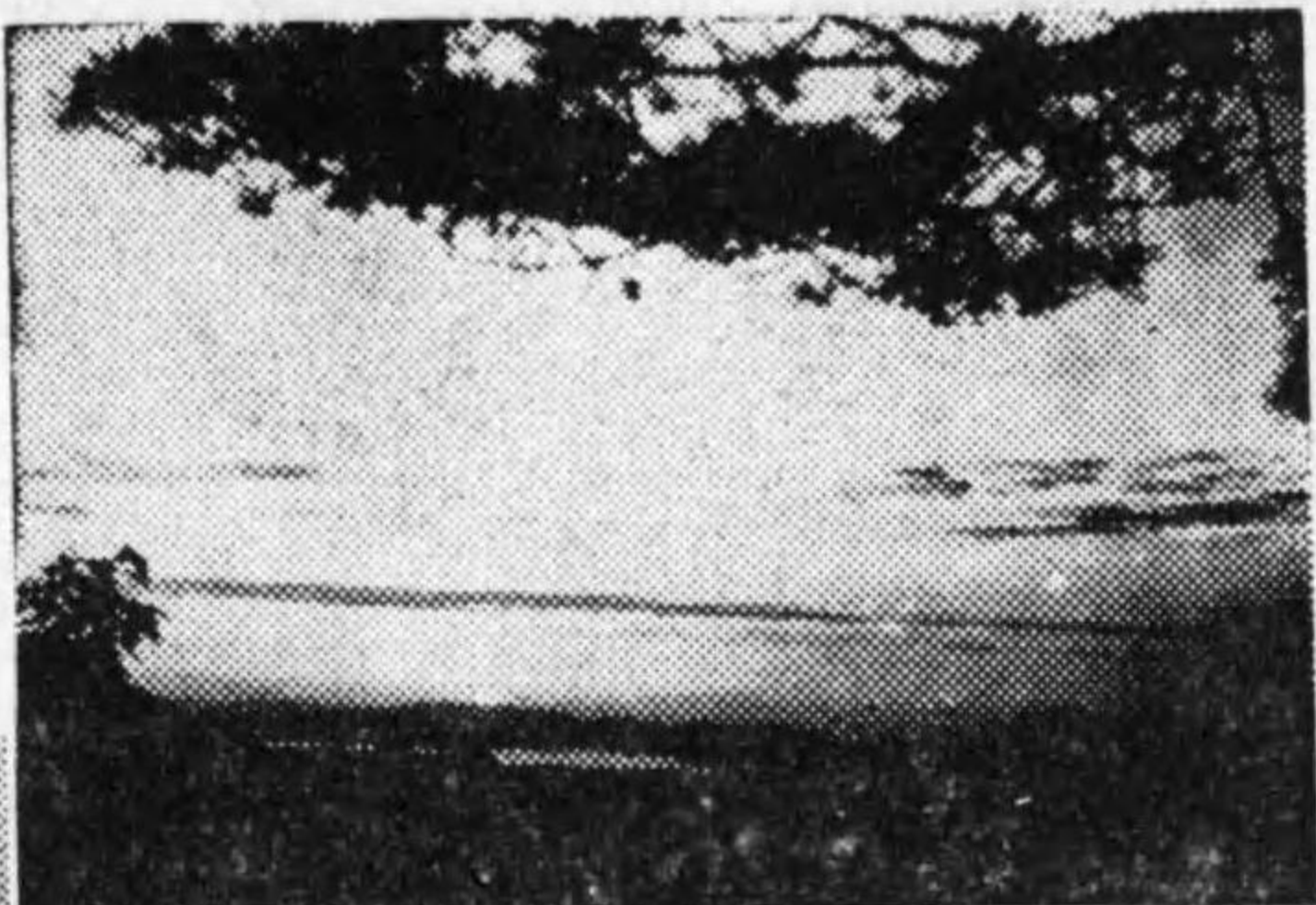
〔東北本線白石、大河原兩驛より自動車にて遠刈田又は青根まで、それより徒歩遠刈田より八籽、青根より六籽〕

スキーの名所藏王山へ八籽

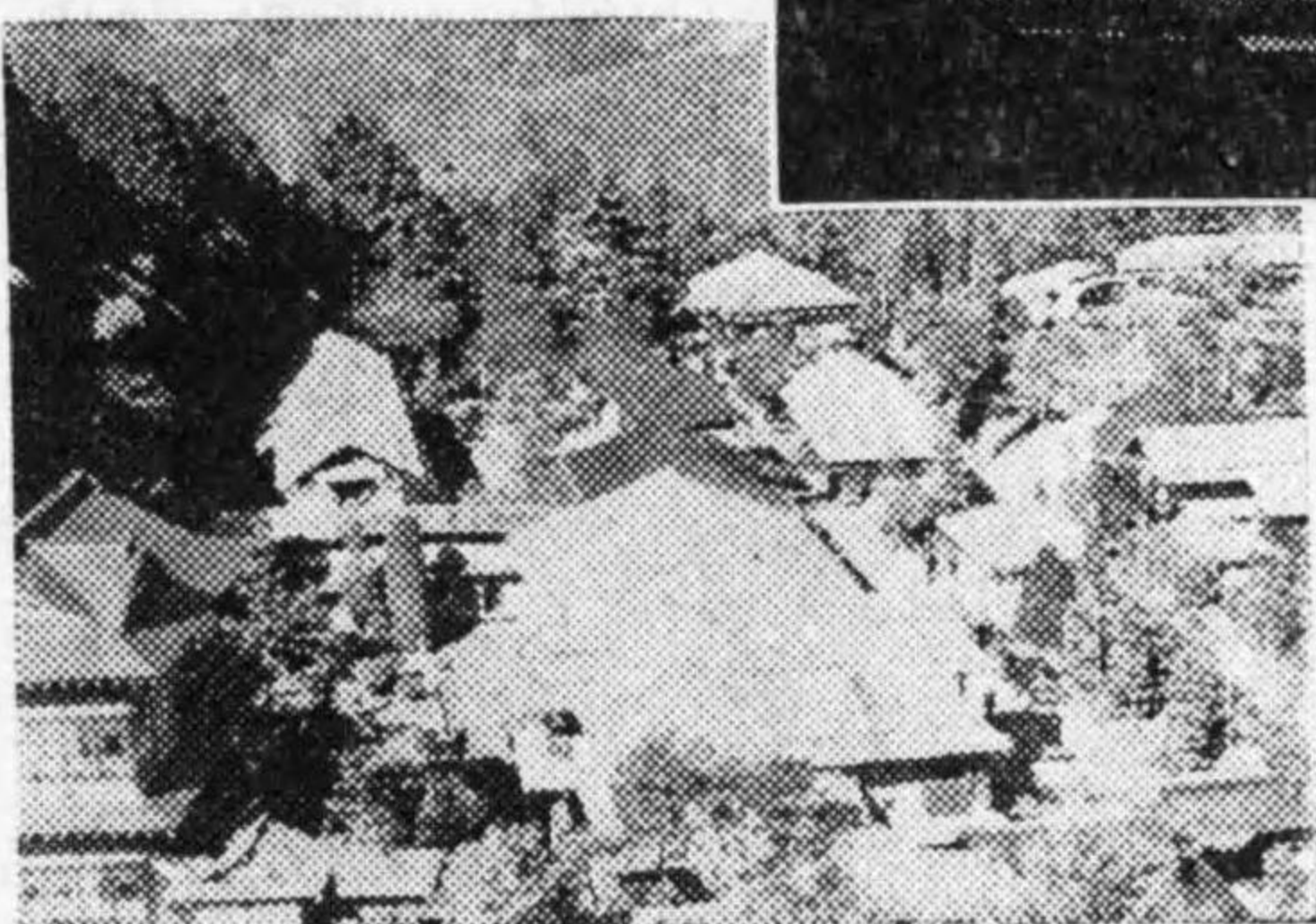
湯主 竹内直也

## 峨々温泉

宮城縣柴田郡



不忘閣全景



不忘閣より朝陽を望む

### 日本百景の一

交通 東北本線 大河原、白石兩驛より自動車五十分  
 ジャパンツーリスト 青根温泉湯守  
 鐵道省指定

不忘閣

### 佐藤仁右衛門旅館

(郵便局は不忘閣にあり電信電話の便あり)

泉質

大湯、名號湯、新湯共に鹽類泉なり、何れも無色透明無味無臭にしてアルカリ性反応を呈す。

効用

- 一、大湯―慢性腰痛、慢性關節強直慢性痛風諸症、諸欣衝、慢性助腺炎、神經痛諸病、腦脊髄、欣私的里、神經衰弱、婦人生殖器、貧血諸病、萎黃病、梅毒皮膚病等
- 二、新湯―金創、打撲、疝氣、挫症、湯火傷、虫類咬毒、腰痛諸病、痔瘻、胃腸諸病、赤白帶下、皮膚諸病、婦人生殖器、脚氣等
- 三、名號湯―婦人生殖器、皮膚慢性諸病、梅毒其他「眼病」一切、旅館四軒共すべて内湯一日間五六回の入浴は適當なり



新館別荘より蔵王山を望む

旅館の部

東北本線遠刈田温泉  
湯旅の會指定旅館

内湯旅館

大宮三治郎

電話二十七番

宮城縣遠刈田温泉  
内湯旅館主村上源之丞

電話五番電略(ムラ)

東北本線大河原兩驛自動車及軌道四十分

特効 リウマチス、胃痛

効 神経痛、婦人諸病

株式會社 仙南銀行

取締役 頭取 渡邊貞一

本場 仙臺平織元



仙臺平機業株式會社

仙臺市琵琶首丁三十二番地

電話八五五番

ラジウム含有量は東北第一位。

東北本線遠刈田温泉

内湯いろはや旅館

電話一番

効 胃 腸 病 神經痛

能 リウマチス、婦人病

通交 東北本線大河原兩驛より自動車四十分

(申込次第案内書進呈)

明治四十二年創立

仙臺市清水小路二十番地



仙臺瓦斯株式會社

電話 一六六番  
四一七八

取締役社長 佐藤十兵衛

同 支配人 淺井忠之助

同 技師 村上倉治

毎年七月一日より登山開始  
 登れ七千餘尺の高峰蔵王山へ  
 而して心身を清淨せられよ  
 宮城県刈田郡遠刈田

**郷社刈田嶺神社社務所**

社務所(御一覽下されば詳細御回答致します)  
 電話二〇〇番

眺望良き新館三層樓  
 爽快なる新靈泉内湯

**鎌先温泉**

木村屋旅館  
 白石驛前 木村屋支店  
 電話一〇七番

土木建築請負業

**石坂寅吉**

宮城県白石町  
 電話二二七番

弊館ノ内湯ハ食鹽泉ナルモ硼酸分多量含有  
 シ其ノ効著シク全國ニ其ノ比ヲ見ザルベ  
 シ、就中婦人諸病、神經痛、リウマチス、  
 神經衰弱、腦病、眼病、多毒症、筋節ニ關  
 スル諸病癌種等ニ特效アリ

**宮城県鎌先温泉**

内湯 最上屋旅館  
 白石驛前 最上屋支店  
 電話二〇八番

効(一)外傷、神經痛、打撲症、骨膜炎  
 能(一)關節痛、婦人病、脚氣、リウマチス  
 東北本線白石驛ヨリ自動車ニテ拾五分

**宮城県鎌先温泉**

湯主敬泉閣 一條旅館  
 旅館白石驛前 一條支店

宮城県黒川郡吉岡町館下

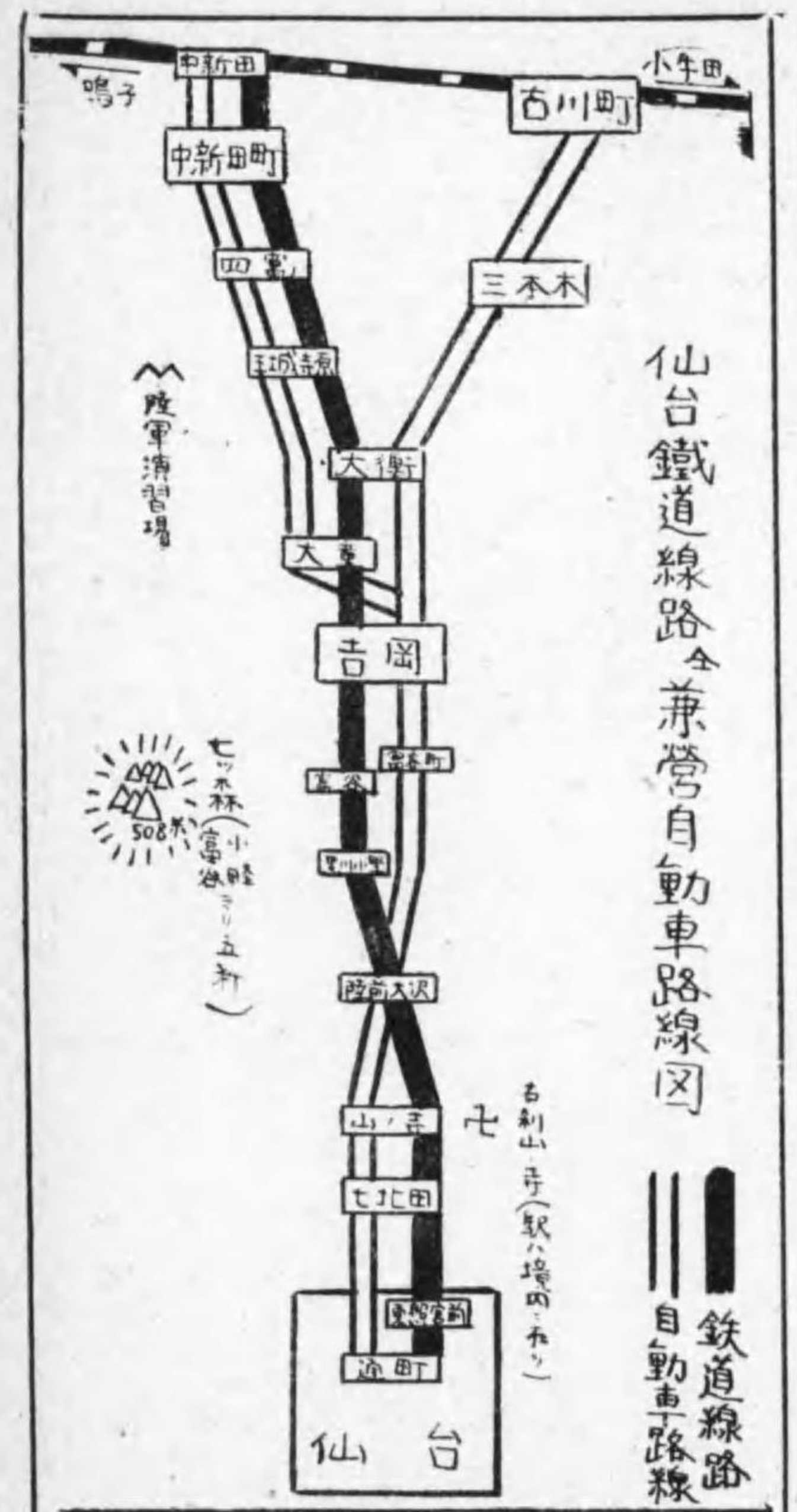
電話二二番

**吉岡酒造株式会社**

大日本酒 芳七峰  
 清酒 七峰 粕取焼酎 吟釀諸白粕

黒川郡大谷村字原町二〇  
 丸大商會  
 安部好

若人達の血躍る農村稀なる運動團  
**体櫻グラウンド**  
 宮城県黒川郡大谷村中村 櫻井美次



仙台鐵道線路兼營自動車路線圖

**仙臺鐵道株式會社**

仙臺市 從通  
 電話 本社一五五九  
 通町驛一六五九

觀月 松島 白鳥 省線 松島公園 松島支店

電話 一九九番  
電話 五九五番  
電話 二五九番  
電話 六五五番

第二師團指定旅館  
鐵道省御指定旅館  
ジャパンツーリストビロー締結

**東洋館**

松島海岸五大堂前  
電話 三番

宮城縣黒川郡吉岡町字館下三八

保証責任 **吉岡信用購買販賣利用組合**

組合長 理事 同 同 同 同 同 同 同 同  
木幡一郎 山田三郎 本田三郎 村田三郎 岩井三郎 芦澤三郎  
監事 志賀野當助 布川芳吉 長文屋 關澤長 淺野光雄  
同 同 同 同 同 同 同 同

中付 八

宮城縣黒川郡鶴巢村

保証責任 **鶴巢信用購買販賣利用組合**

組合長 理事 同 同 同 同 同 同 同 同  
高橋勝三 佐藤良七 佐藤治太郎 佐藤治太郎 佐藤治太郎  
監事 高橋勝三 高橋勝三 高橋勝三 高橋勝三 高橋勝三  
同 同 同 同 同 同 同 同

宮城縣多賀城村高崎字上野五四

保証責任 **多賀城信用購買販賣利用組合**

組合長 理事 同 同 同 同 同 同 同 同  
鈴木源一郎 鈴木廣壽郎 江口久太郎 渡邊藤右門 蜂谷與助  
監事 佐藤孫右門 阿部晋次郎 曾我新吉 三浦榮之進 板橋勘四郎  
同 同 同 同 同 同 同 同

宮城縣宮城郡高砂村田字町一五

保証責任 **高砂村信用購買販賣利用組合**

組合長 理事 同 同 同 同 同 同 同 同  
遠藤善右衛門 伊藤重善 淺色善衛 鈴木善衛 鈴木善衛 鈴木善衛 鈴木善衛 鈴木善衛  
監事 花淵喜三 小淵喜三 庄司一榮 加屋一榮 吉田一榮 佐吉一榮 藤田一榮 長源三郎 郎夫三郎  
同 同 同 同 同 同 同 同

宮城縣黒川郡大谷村川内字上原三九

保証責任 **大谷信用購買販賣利用組合**

組合長 理事 同 同 同 同 同 同 同 同  
赤松久藏 赤松久藏 赤松久藏 赤松久藏 赤松久藏 赤松久藏 赤松久藏 赤松久藏  
監事 赤松久藏 赤松久藏 赤松久藏 赤松久藏 赤松久藏 赤松久藏 赤松久藏 赤松久藏  
同 同 同 同 同 同 同 同

宮城縣黒川郡富谷村富谷字西澤一三

保証責任 **富谷村信用購買販賣利用組合**

組合長 理事 同 同 同 同 同 同 同 同  
大内幸昇 大内幸昇 大内幸昇 大内幸昇 大内幸昇 大内幸昇 大内幸昇 大内幸昇  
監事 大内幸昇 大内幸昇 大内幸昇 大内幸昇 大内幸昇 大内幸昇 大内幸昇 大内幸昇  
同 同 同 同 同 同 同 同

黒川郡大松澤村字堤下一六

保証責任 **大松澤村信用購買販賣利用組合**

組合長 理事 同 同 同 同 同 同 同 同  
高橋儀四郎 高橋儀四郎 高橋儀四郎 高橋儀四郎 高橋儀四郎 高橋儀四郎 高橋儀四郎 高橋儀四郎  
監事 高橋儀四郎 高橋儀四郎 高橋儀四郎 高橋儀四郎 高橋儀四郎 高橋儀四郎 高橋儀四郎 高橋儀四郎  
同 同 同 同 同 同 同 同

宮城縣黒川郡大衡村大衡字野田四六

保証責任 **大衡村信用購買販賣利用組合**

組合長 理事 同 同 同 同 同 同 同 同  
高橋儀四郎 高橋儀四郎 高橋儀四郎 高橋儀四郎 高橋儀四郎 高橋儀四郎 高橋儀四郎 高橋儀四郎  
監事 高橋儀四郎 高橋儀四郎 高橋儀四郎 高橋儀四郎 高橋儀四郎 高橋儀四郎 高橋儀四郎 高橋儀四郎  
同 同 同 同 同 同 同 同

宮城縣黒川郡落合村相川

保証責任 **落合村信用購買販賣利用組合**

組合長 理事 同 同 同 同 同 同 同 同  
相澤萬治 相澤萬治 相澤萬治 相澤萬治 相澤萬治 相澤萬治 相澤萬治 相澤萬治  
監事 相澤萬治 相澤萬治 相澤萬治 相澤萬治 相澤萬治 相澤萬治 相澤萬治 相澤萬治  
同 同 同 同 同 同 同 同

中付 九

仙臺名菓  
**白松が最中**  
 謹製本舗

仙臺本舗  
 電話三一九三番  
 振替一七六一番

紀念品・贈答品には……セヒ

仙臺青貝塗  
 堆朱漆器  
 名産根來塗

仙臺市名掛丁

**櫻井廣平漆器店**

電話三〇一五番  
 振替仙臺七五七二番

遞信省指定

**内海屋旅館**

仙臺市東二番丁

(市電圖書館前下車南半丁)  
 電話一、三〇二番

金瘡打身指腫の藥  
 小谷の

たきしる



中付一〇



いさ下て出お

御商用に  
 御静養に  
 御清遊に  
 觀光に

設備に  
 眺望に  
 サービスに  
 靈湯の偉効に

第一を誇る

鳴子温泉鐵道指定旅館俱樂部員

鐵鑛泉 鰻湯 龜の湯 湯坂の湯 賜の湯 松の湯 炭酸泉 千人風呂

保養園ホテル 電話四一番  
 横屋旅館 電話五五番  
 高繁旅館 電話二〇番  
 高友旅館 電話七〇番  
 鳴子ホテル 電話長三番  
 遊園地ホテル 電話十三番  
 遊泉閣 電話一三番  
 菅原旅館 電話長二番

中付一一

秋田市中谷地町五拾六番地

# 大日本電力株式會社

## 秋田事務所

電話 三五(代表) 四一四三  
六一四八

# 高玉溫泉

## 蓬萊館

福島縣安達郡高川村  
電話 熱海 二番

鐵道省、遞信省  
第二師團、軍馬補充部  
御指定

陸羽東線川渡溫泉

## 川渡ホテル

電話 三番

# 福島縣飯坂溫泉

茶代廢止  
宰料制度

## 花水館

カスイカン

電話飯坂 三番  
百十二番  
百十三番

## 東京支店

本郷區湯島天神下  
電話下谷 三五八  
〇五三  
三七五  
一五〇

客室増築落成  
舞臺附大宴會場  
近代式大浴場  
水洗式淨化裝置  
共電式卓上電話  
奧座敷新築落成  
眺望絶佳

# 名湯 松本旅館

陸羽東線中山平驛々八丁

中山平溫泉

祖元蛇の湯 松本旅館

新館及浴場落成 館主 松本たね

効能 火傷、蛇毒、胃腸、外傷性諸障害、痲瘋病、神經病(ヒステリー)及神經衰弱、半身不隨(小兒麻痺)、婦人生殖器の慢性諸病、諸病恢復期腺病泉



鳴子音頭の第一部

## 割内 湯音初

電話 十九番

# 營業科目

- 一、各種工業並ニ中小商工業金融
- (擔保附又ハ無擔保、低利長期貸付)
- 一、有價證券擔保附手形、商業手形、其他ノ手形ノ割引
- 一、定期預金、當座預金、特別當座預金
- 一、其他一般銀行業務



# 株式會社 日本興業銀行 東北支店

福島市大町 三二  
電話・福島 一八一  
一八一  
一八一  
一八三番

# 巡回相談

商工業者各位ノ御便宜ノ爲メ毎月左記へ出張致シマス  
若松市 仙臺市 山形市  
秋田市 盛岡市 青森市



観光東北の魅力



仙鐵局の  
ポスター  
より





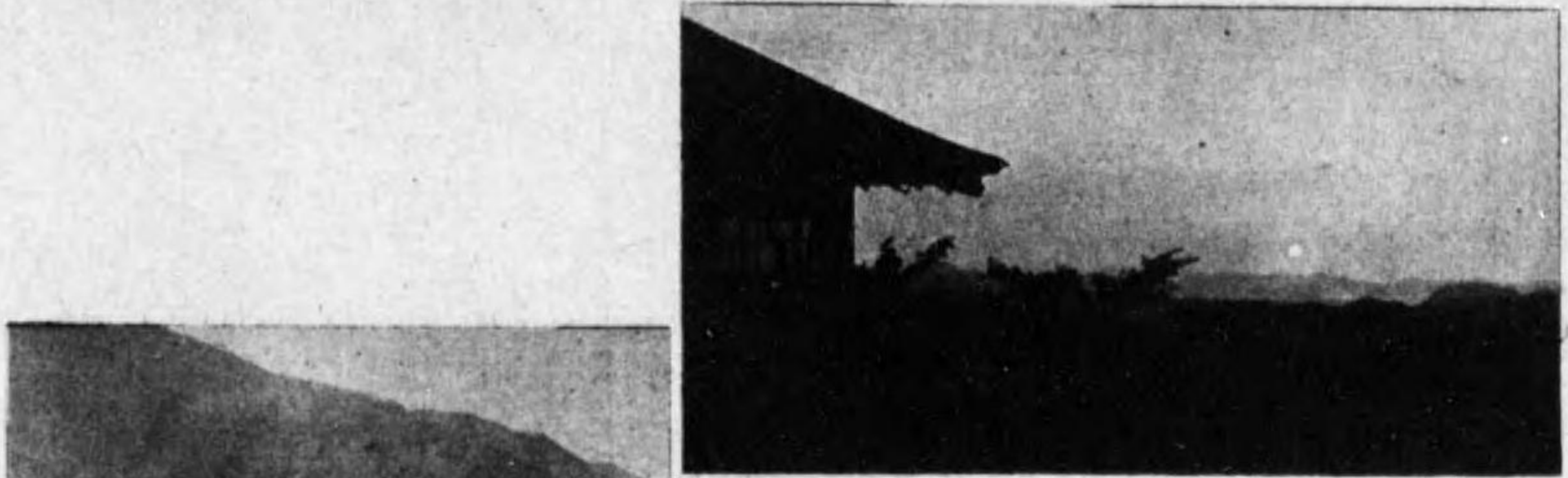
仙 藤  
臺 崎

電 自 四 三 〇〇  
話 季 四 三 七〇

お買物は  
品真廉價の  
皆様の藤崎へ



中付 一四



る見を出の日りと嶺青



景全店本衛兵七野丹嶺青

景 百 本 日  
境 樂 の 俗 超

東北本線(大河原 白石)兩驛ヨリ

自動車五十分

旅籠部、自炊部の二様  
團體は特に歓迎す

諸官衛並シヤパン・ツーリスト  
ビューロー指定

青嶺閣

内湯 丹野七兵衛本店

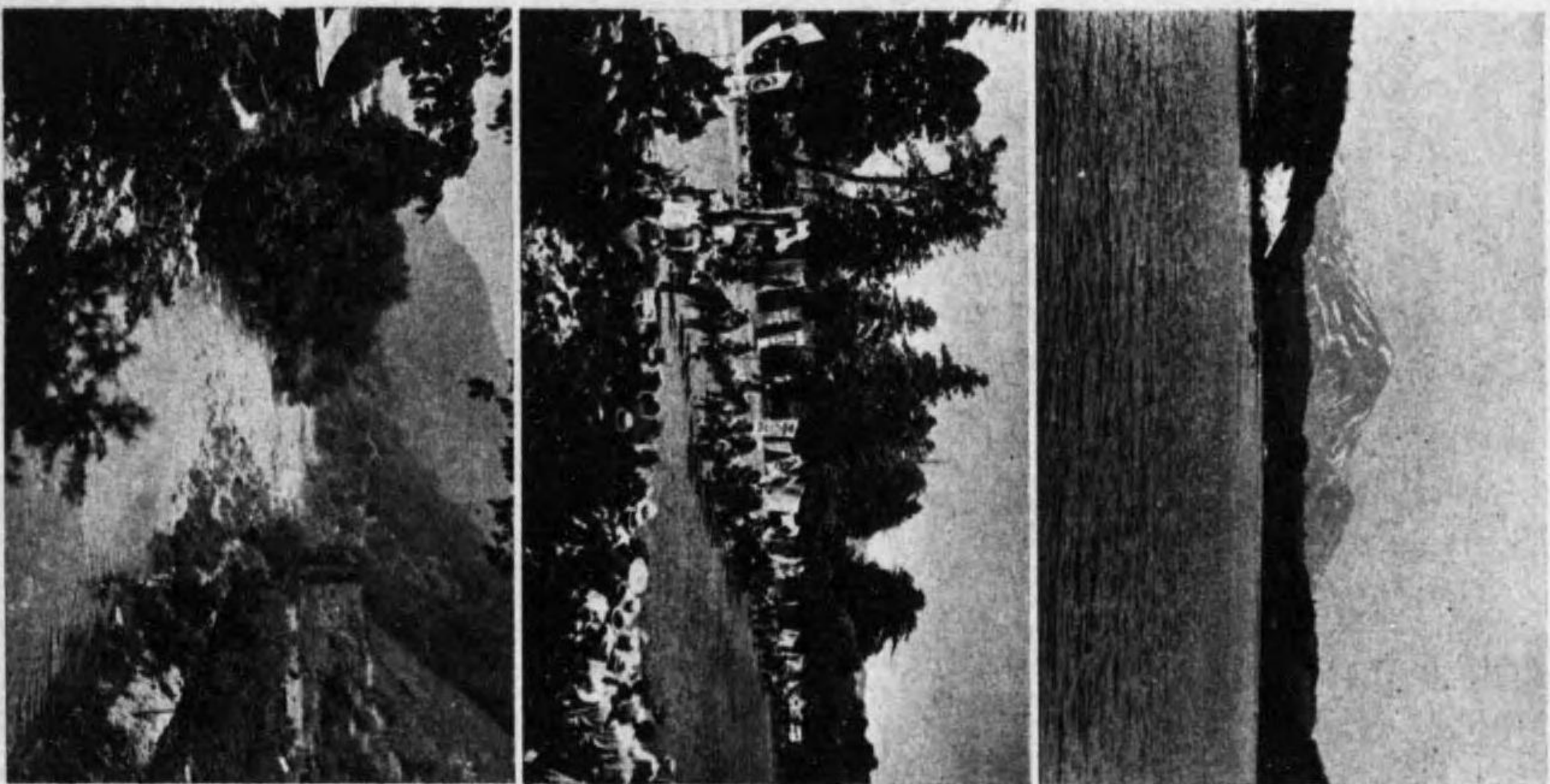
電話青根局呼出

春の新緑、夏には避暑  
秋に紅葉、冬にはスキー

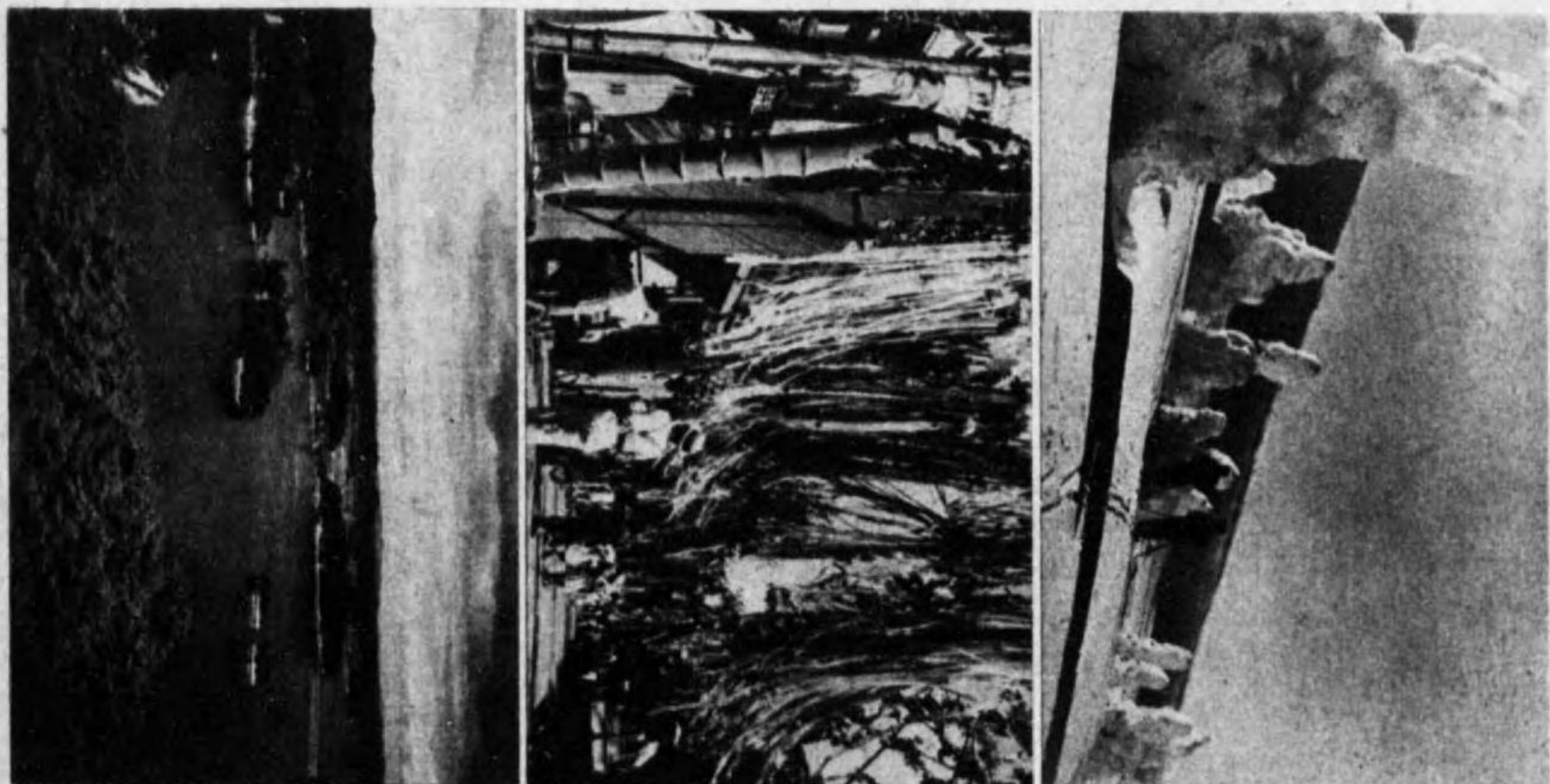
能効 脳、胃腸、神経衰弱、  
神経痛、婦人病

(呈御案内書)

名鏡、猪苗代湖上より琴梯  
山を望む (福島)  
夏草を蹴る相馬野馬追の家  
華陣 (福島)  
青洲摺上川上流の幽邃  
(福島)



冬咲く花、峻嶺玉山嶺の  
樹水 (宮城)  
全国的名物、仙臺七夕まつ  
りの壯麗 (宮城)  
依然たる扶桑第一、松島の  
大観 (宮城)



觀光東北の魅力

宮城縣  
福島縣

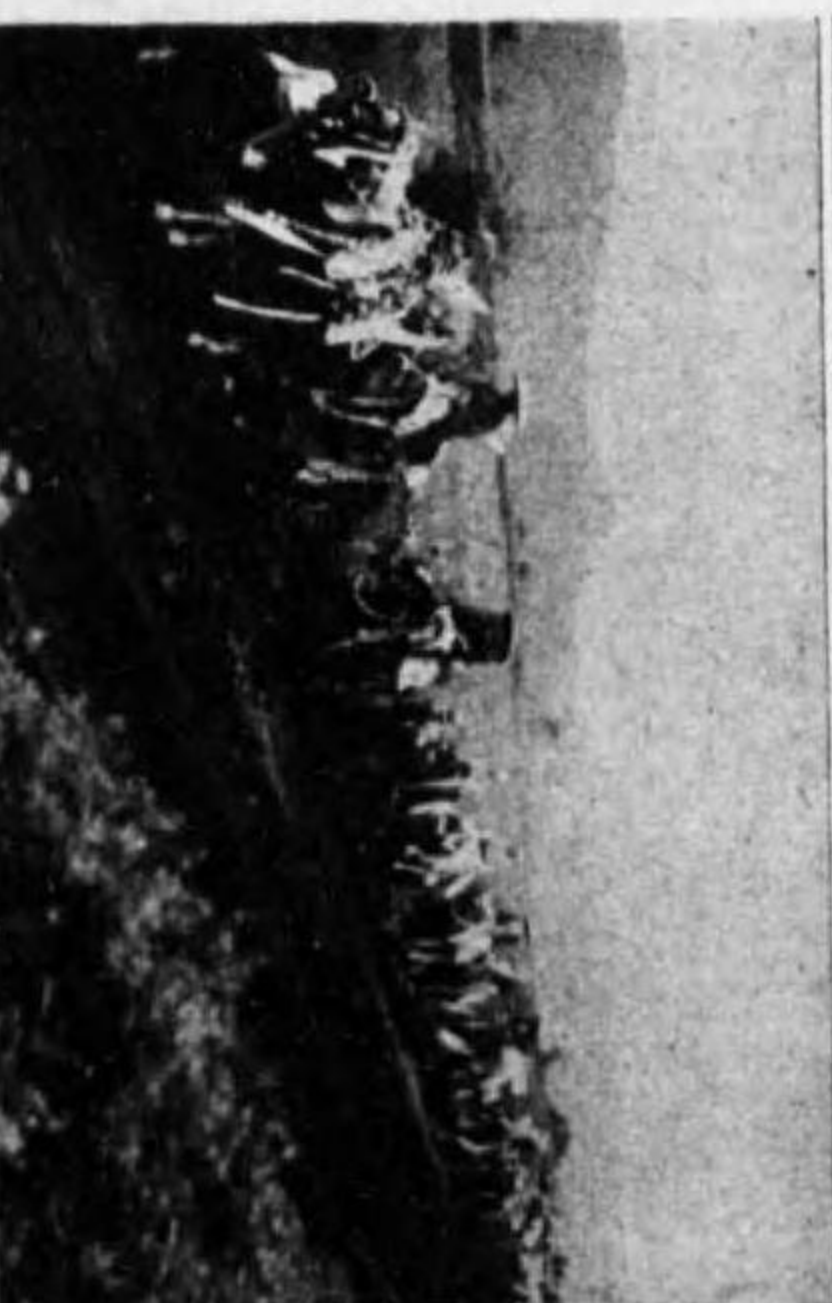


# 観光東北の魅力

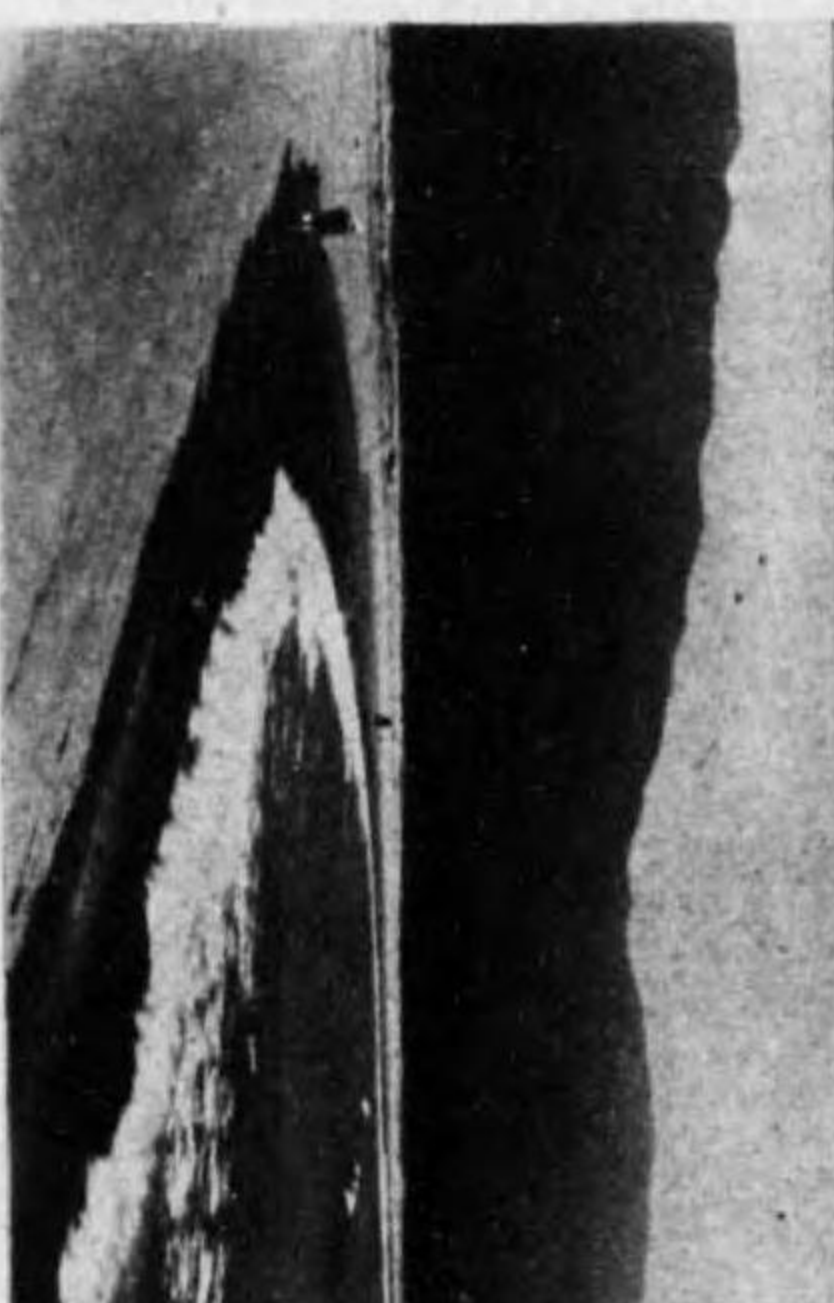
岩手県  
青森県



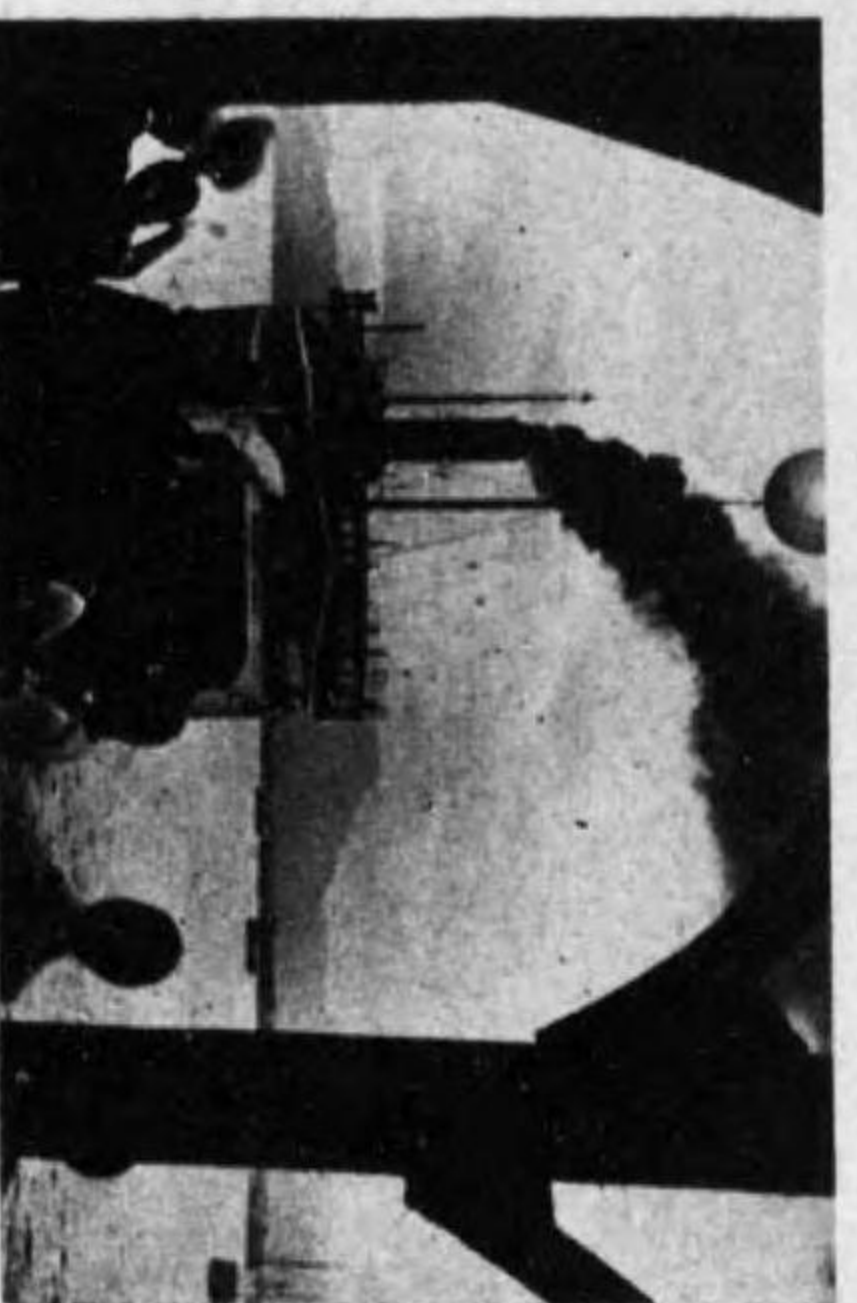
好摩ヶ原放牧地より仰ぐ雄  
峯岩手（岩手）



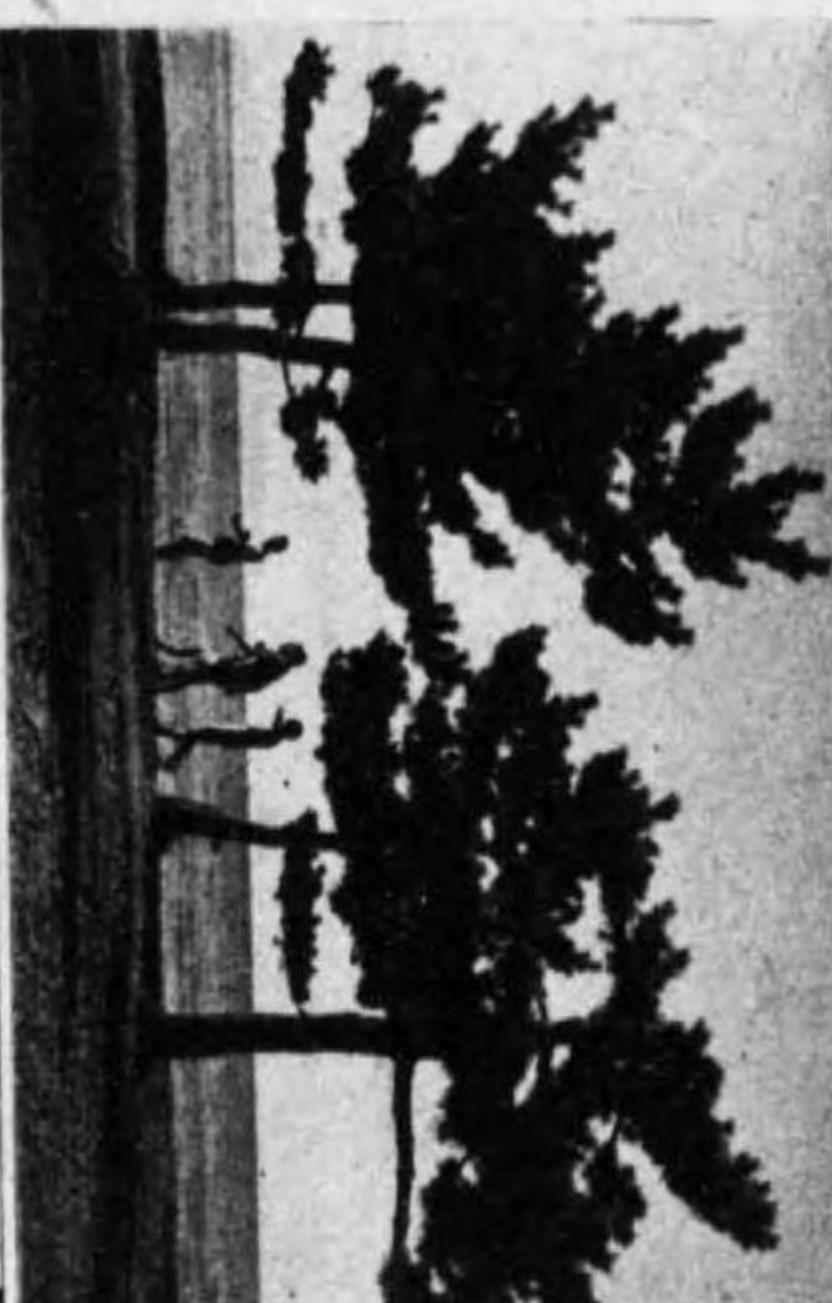
馬の南部を讃へる瀧澤の呼  
物チヤク（馬コ（岩手）



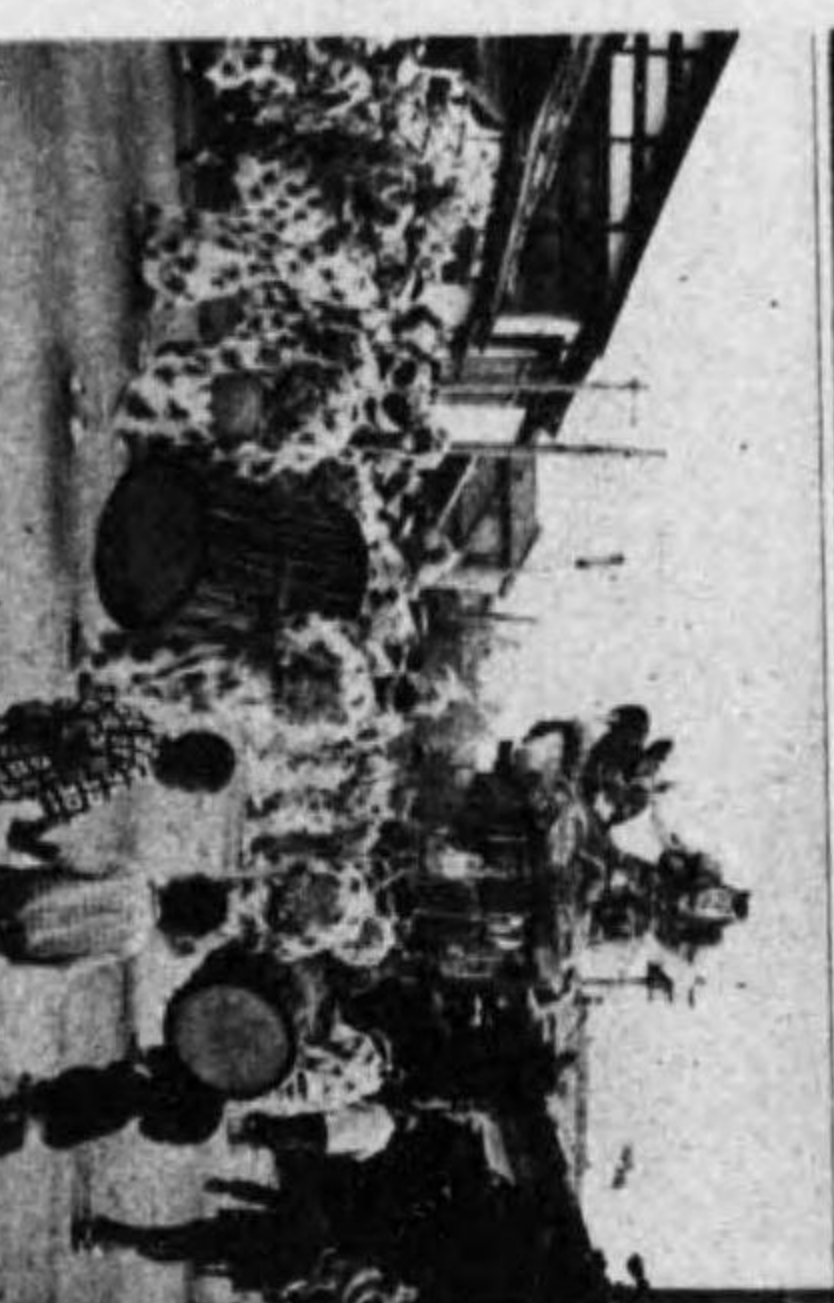
詩境三陸沿岸の粹、高田松  
原が汀にそがく汀線（岩手）



本土のはづれ青森埠頭（青  
函聯絡）に漂ふロマンテイ  
シズム（青森）



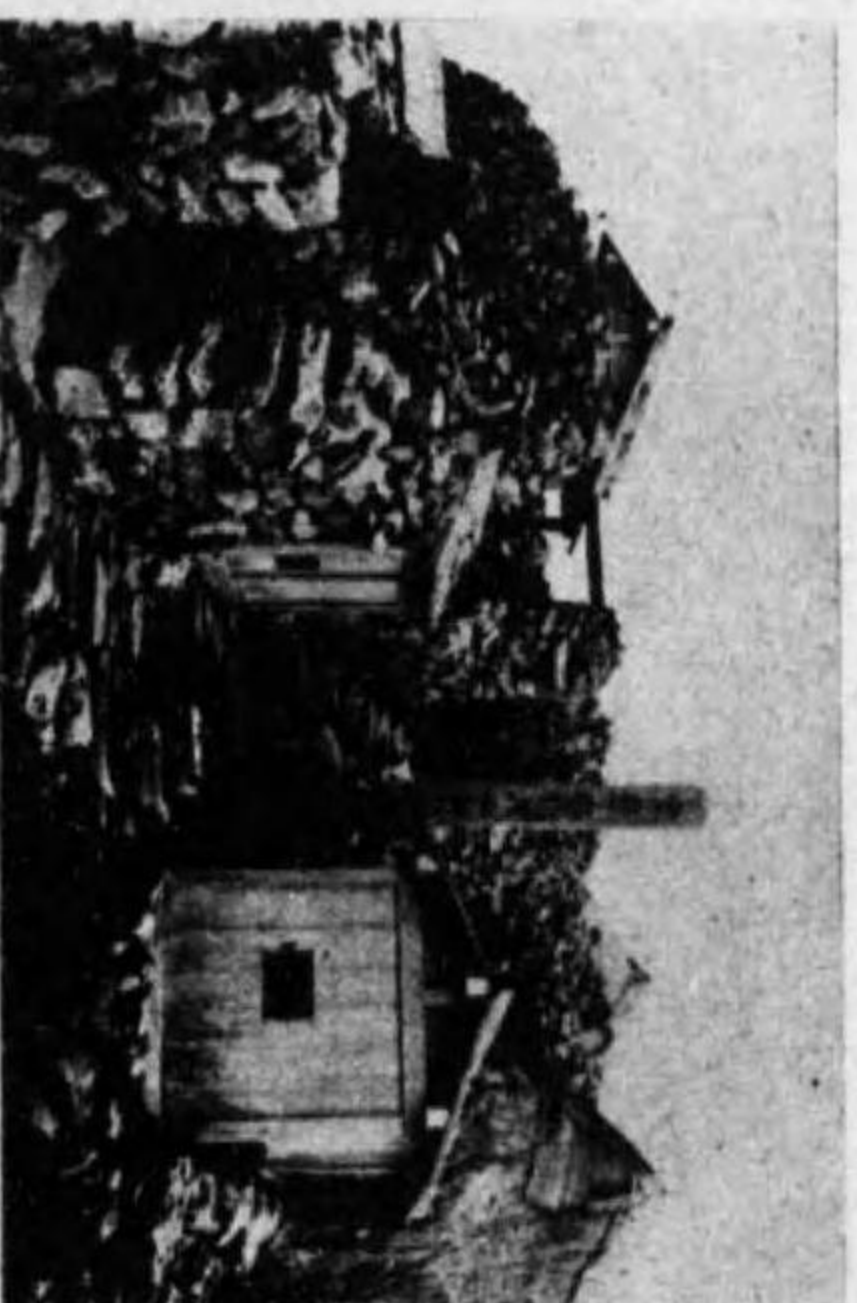
茜きす青森市合浦公園海水  
浴場より（本社観覧人選覧）



豪快壯絶「弘前ねぶた」ま  
つり序曲（青森）

# 観光東北の魅力

山形県  
秋田県



天下の靈峯、月山頂上官幣  
大社月山神社奥殿（山形）



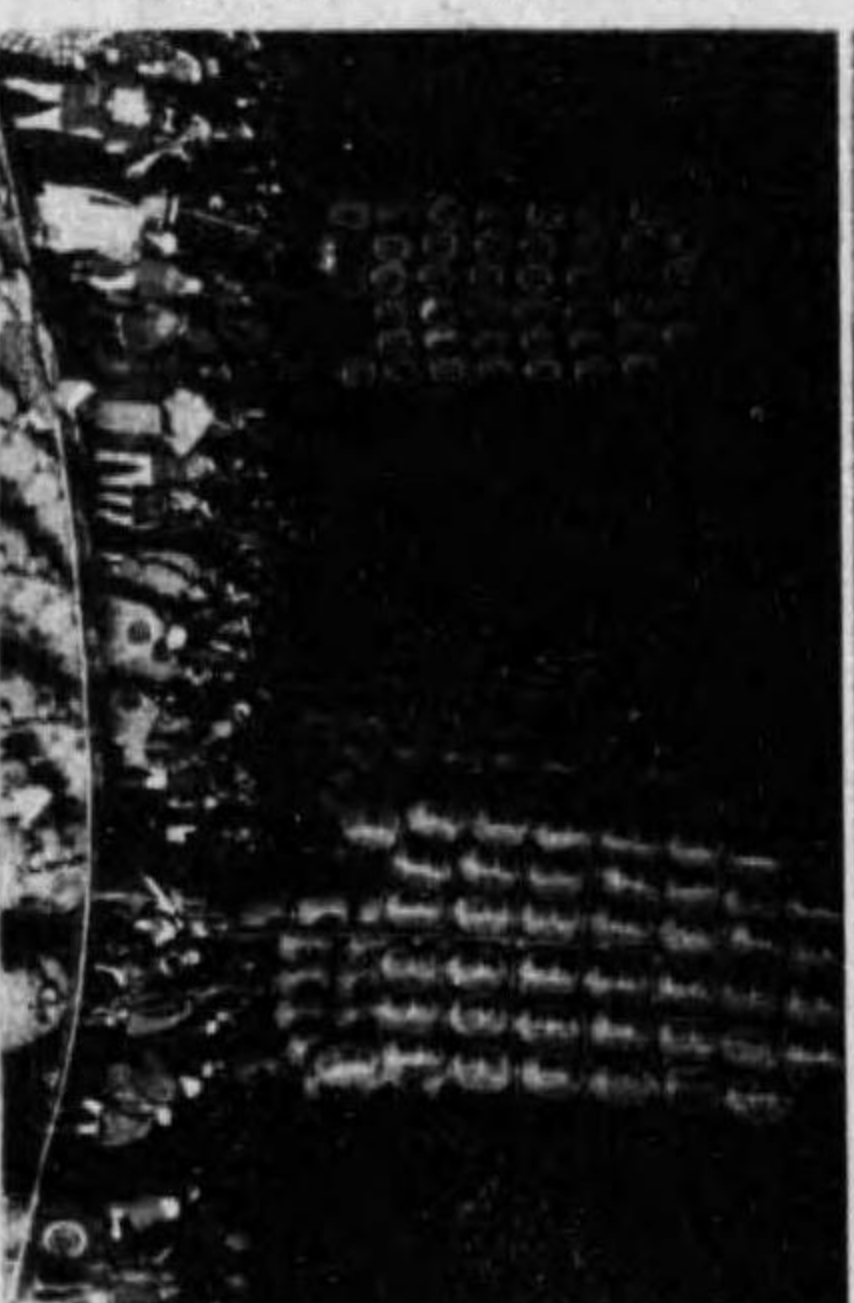
山寺立石寺の眺望  
（本社観覧選覧）



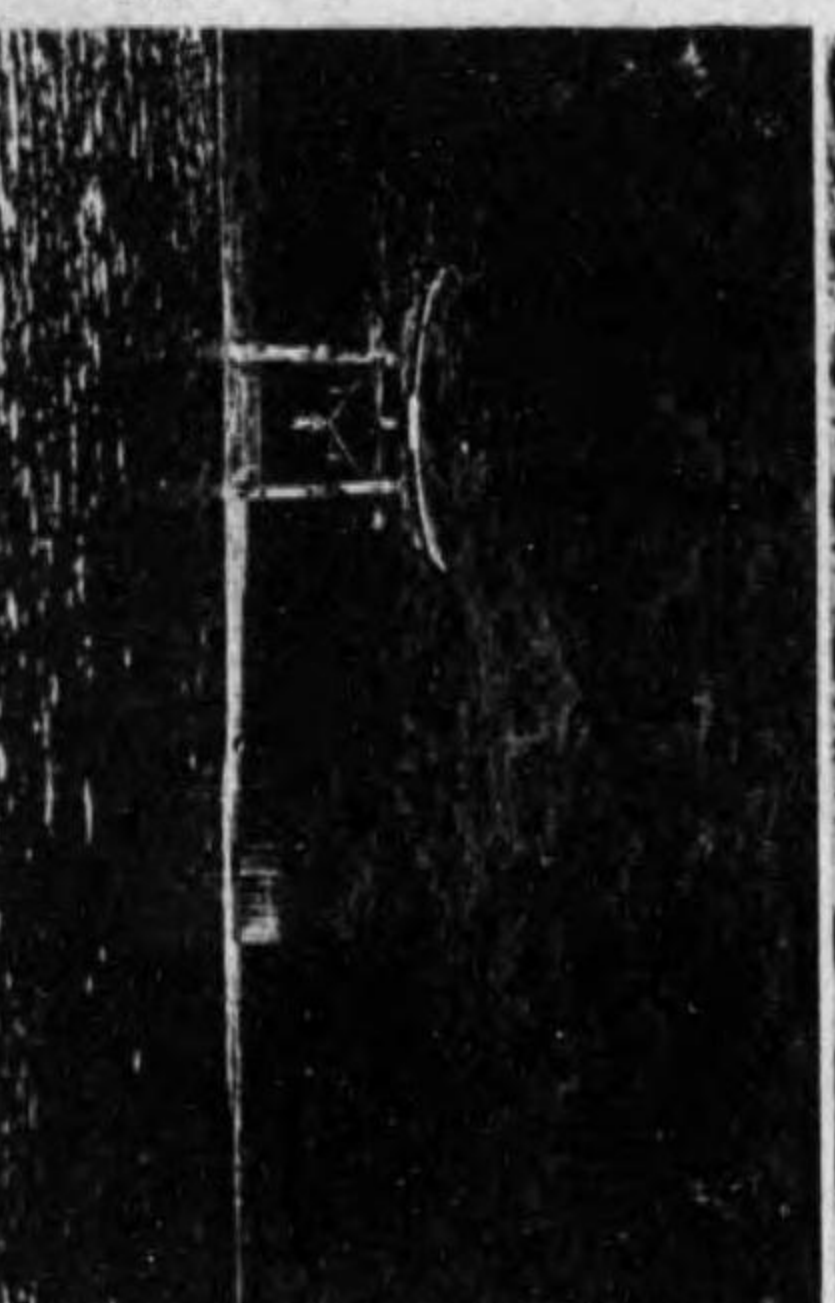
羽越線の新しい魅力、吹浦  
海岸（山形）



日本海岸の男性美男鹿半島  
（秋田）



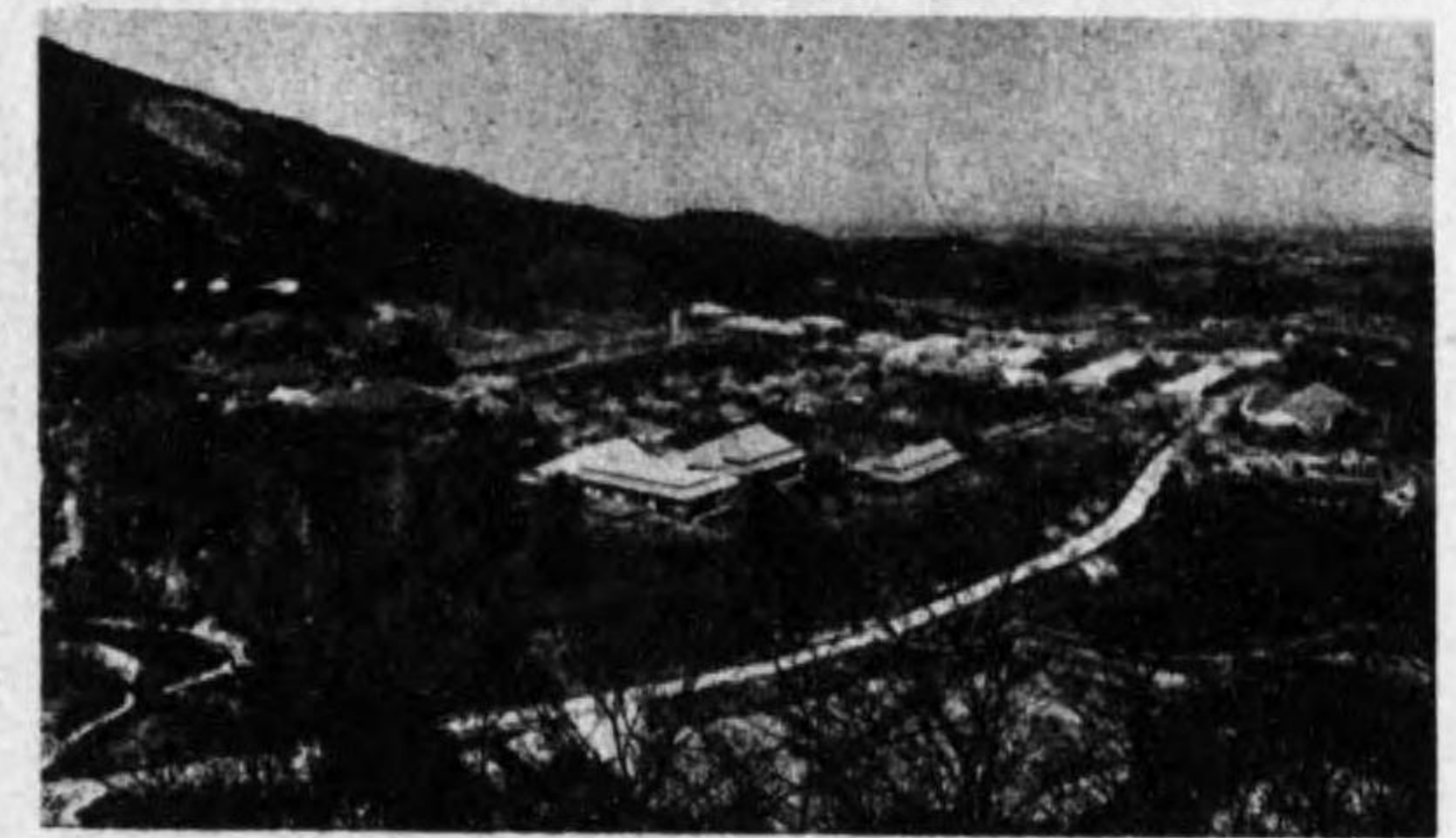
青森のねぶたと並び轟はれ  
る柵欄「眠り流し」の行列  
（秋田）



世界一の透明湖、田澤湖の  
幽寂（秋田）

# 花 卷 温 泉 御 案 内

東北本線  
花巻驛より電車廿分  
各旅館茶代廃止



宿料低廉同室二人  
以上割引

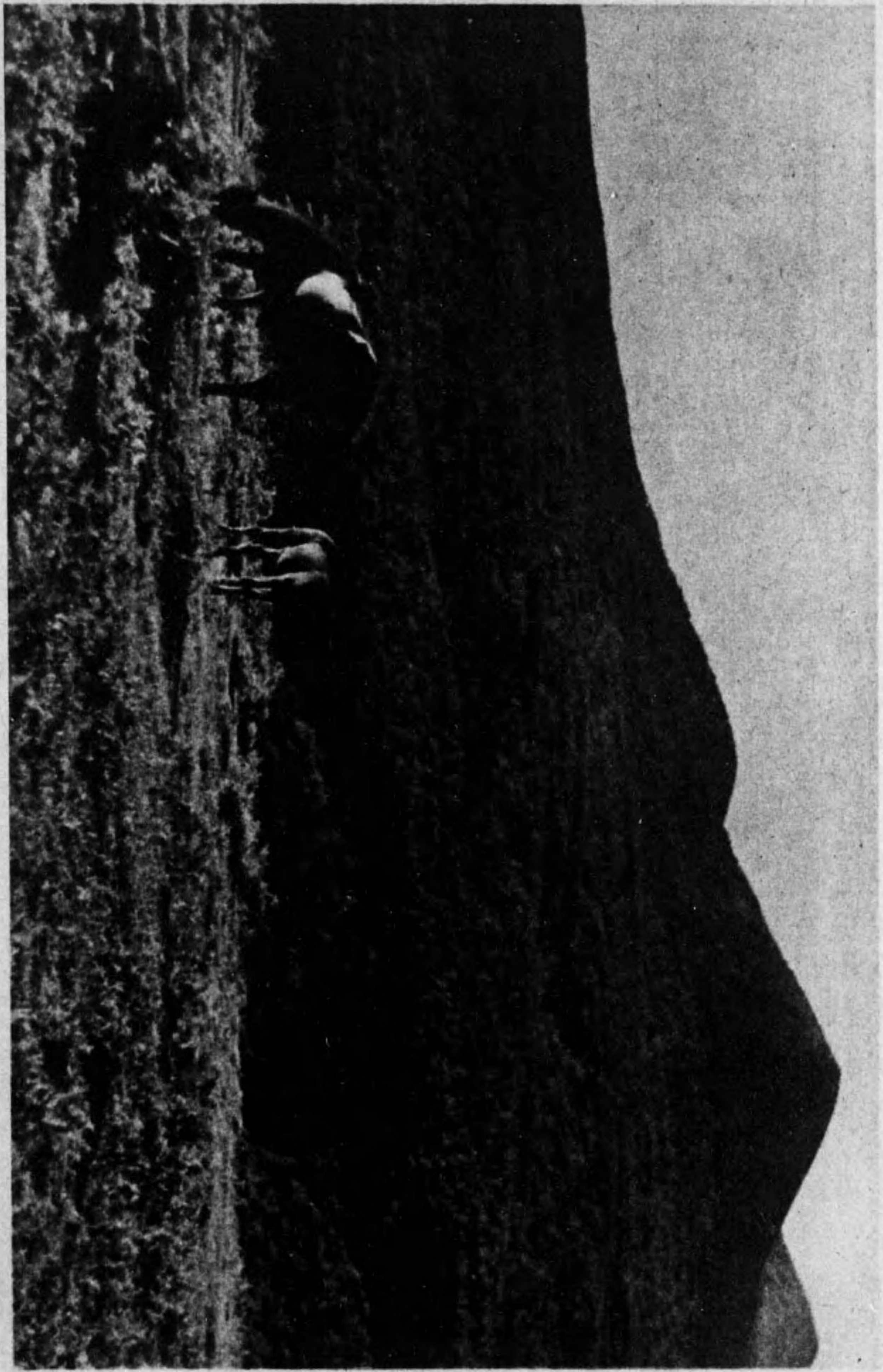
## ○温泉の四季

櫻	四月末五月	山百合。ダリヤ	七八月
チユリップ	五月	避暑	七八月
牡丹。芍薬	五六月	芙蓉。友禪	八九月
新緑。藤。躑躅	五六月	紅葉。菊	九十月
	ス	キ	十一月
			十二月

御手輕な御自炊と御膳御旅館は  
御膳も御自炊も御好の御旅館は  
大衆的な御旅館は  
静かな氣持よき御旅館は  
大小御宴會御泊も出來ます  
御家庭向の御休泊には  
二千餘坪十八コースよりなる  
温泉驛より約五丁  
夜間練習の照明設備あり  
野球場及公認陸上競技場

蓬菜館  
秋閣  
雲閣  
紅葉館  
紅松  
貸別荘  
ゴルフ場  
第一スキー場  
第二スキー場  
花巻グラウンド

野外飲泉所	植物園	睡蓮の池	テニスコート
屋内遊戯場	教材植物園	講演場	遊園地
撞球室	藥草園	釣堀	グラウンド
ピンポン室	高山植物園	大温室	プール
郷土參古室	天然生植園	大弓場	小兒水泳場
動物園	牡丹園	屋外運動場	



夏の田中八

牧放

實業社報新北河  
賞懸寫達人等一

北 東  
輯 一 ラ カ  
募 應 真 寫 賞 懸 報 新 北 河  
.....り 上 品 作



湯の香 (岩手縣須川温泉)  
仙臺 陀摩勇吉



獅子舞 (宮城縣古川町)  
宮城 岩淵友義



海濱風景 (青森市合浦公園)  
青森 山内勝榮



夏まつり (宮城縣築館)  
仙臺 高平久



朝の漁り (山形縣湯の瀧温泉)  
山形 赤木英子



漁村風景 (宮城縣荒瀬村)  
仙臺 齋藤貞夫

# 観光の東北

東北地方は、封建時代から特有の燦然たる文物を有し、愛すべき習俗を持つてゐる。しかも至るところ秀麗なる山水を擁して、温泉郷また乏しからず、豊かな観光資源に恵まれた土地である、にも拘はらず芭蕉の「奥の細道」などを通じてまだ邊鄙なところと誤解してゐる向も多い。

さて、新しい言葉で言へば、「産業は観光に従ふ」ものである。

人類文化史の頁を繰るまでもなく、人間本来の天性には放浪の気分を持つてゐる以上、人間あるところ移動あり、移動あるところ文化生じ、文化華やかなるところ産業興り、文物揚るところ、それに憧れてまた旅行者の蝶集を見る。

かくて旅行者が、その地特有の文化をたづねるにしても、また景觀をさぐるにしても、或は慰樂を求むるにしても、落つれば同じ谷川の水であつて、その地方の産業の開發に貢献するものである。

観光事業そのものが既に産業の一部門であると云ふ解釋は、歐洲の經濟學者のとなふるところであるが、一般産業と観光事業とを現實に結び付けたものは、昭和四年倫敦に創立された英愛観光産業宣傳協會である。この協會はもと英愛旅行協會と稱し、愛國的、道徳的の見地から旅行の誘致と獎勵を圖る團體であつたが、旅行のための宣傳と、産業のための宣傳とを全く別なものと考へてはならないと云ふ英國一流の見解に依つて、財界、政界の有力者ダービー卿を主宰としてその機能を強化すると共に、これを全國的な運動に擴大し、その名稱をも既述のやうな長いものに改めたのである。

この協會の活動に刺戟せられて、數年前スコットランドにも亦同様な運動が起つた。その當時國務長官コーリンは、英本國の奥地であるスコットランドが、恵まれたる自然の景觀や、古より傳はる特有の習俗を有しながら、観光事業に著しく立ち遅れ氣味であり、地方公共機關も助成に不熱心であることを指摘して、その理由の一は「國民に旅客移動の經濟的價値と、國家的意義を會得せしむることの懈怠」に因るものとした。

このスコットランドの例は、或は過去のわが東北地方にも當て嵌りはしないであらうか。東北はその地勢の上から云つても、人情の素朴な點から見ても、まさにわが國のスコットランドと謂へる。しかしその持てる観光資源はスコットランドと較べて遙かに夥しい。それにも拘はらず、そして地方官民の熱意の程は十分看取せられたに拘はらず、尠くとも表面に現はれたる観光事業としての活動振りは、西南地方に一籌を輸するものがあるやうに見受けられた。

だがこの事實は今や過去のものとして葬り去られつゝある。東北地方の施設から見れば、かねて待望の、栃木、群馬、福島、新潟の四縣にまたがる日光國立公園は既に昭和九年末指定せられたし、又青森、秋田の二縣にまたがる十和田國立公園も本年二月指定せられ、愈々國立公園として名實共に相應しい施設の整備に乘出すことゝなつた。それに観光道路も相次いで開鑿せられつゝあるし、省營バスの路線も増加しつゝある。一方地方の観光資源を開發顯揚すべき有力な観光機關は、最近に至り殆ど各縣下に成立し、就中宮城縣の如きは昨年全國觀光地聯合會を仙臺に主催して多大の成功を収めた。

國內觀光事業としての東北は、近年溫泉地、觀光地の發展素晴らしいものがある。國際觀光事業としては既述の通り立ち遅れの氣分があるが、昨夏は濠洲の女學生一團が大舉して松島方面の景勝を探つたし、今春はアーノルド・フランク博士一行の撮影隊に依り、藏王山一帯が世界的に進出した。交通方面として列車のスピード・アップは既に行はれてゐるが、「飛ぶスコットランド」のやうな超特急が出現し、航空便の設定せられることも遠い將來ではあるまい。

ローマは一日にして成らず、それはたゆまぬ熱と力の結晶に俟つものである。私は東北の官民諸賢一如、將來一層結束して、能く無盡藏の観光資源を白日の下に顯はし、經濟の興隆と文化作振の鍵たるべき観光事業の開發に拍車を加へられむことを冀ふ。

國際觀光局長

誠 回

### 觀光の東北

吾國の風光は、全世界に喧傳され逐年觀光客來訪の數を増加しつゝあること、一方また吾等が世界に誇る日本精神は、この天恵の美しき國土の自然によつて育まれて來たことの自覺から、初めて本邦各所の風景地中、眞にその精粹たるべきものを國立公園に定め、以てこれを永遠に保護して國民心身鍊磨の健全な道場たらしめると共に、觀光施設を充實してその惠澤を廣く内外人に均霑せしめんとする調査運動、いはゆる國立公園運動が起つたのは大正十年の昔だつた。國立公園協會は、この輿論發祥母胎として昭和二年に正式設立を見、國立公園の指定及びその使命達成のために献身的努力を續けて來たものだつたが、同六年國立公園法制定を契機として、急激に國立公園指定の機運進み、昭和九年より十一年までの三年間に、全國十二ヶ所の國立公園が正式に指定される運びとなつたのである。吾東北の勝地「十和田」は實にその選ばれたる一つとして昭和十一年二月一日、全世界に對つてその晴の名乗りをあげるに至つたもので、過去一ヶ年を通じて吾觀光東北のトップニウスたるのみならず、松島が日本三景の隨一たる折紙を附された以來の堂々たる記録でなければならぬ。以下景觀の東北を、いろ／＼な方面から見て行かう。

### 十和田、國立公園に指定

包含區域の決定その他で、採めに採めた十和田一帯の國立公園化は青森、秋田の關係二縣は勿論、全東北の待望だつたがいよ／＼昭和十一年二月一日を以て正式指定を得、こゝに東北唯一の國立公園の誕生を見るに至つた。明鏡十和田、清冽奥入瀬、悠久八甲田の三勝を含む廣漠二十餘平方里が、愈々國家の援助と指導を以て、世界の十和田となる歴史的な悦びに乾盃する記念祝賀會の催されたのが、同年七月十五日、青森、秋田兩縣觀光協會並に國立公園協會兩縣支部共同主催の下に、十和田湖畔休屋十和田神社前廣場を會場として同日午前十一時より開會、兩縣知事、兩縣營林局長、田村博士その他の地方名士功勞者合して出席六百名、地方稀なる盛會であつた。

### 準國立(府縣立)公園候補地

景勝日本を代表する吾國十二國立公園の誕生に次ぎ、内務省においては全國各府縣に散在する秀麗の地約百ヶ所を選んで府縣立公園とし國立公園法に準ずる府縣立公園法を制定、史蹟風景の維持、天然記念物の保護等諸般の施設をなし、廣く内外人大衆の觀光と保健衛生の向上に資することになつたが、同法制定に依り府縣知事の權限は中央の手に移り、土地收容その他の施設に簡便の途が開ける譯で、その基本計畫としては特別地區、保護地區、集團施設地區、制限緩和地區、獨立施設地區の設定その他、道路、航路、通信保護並に保存物等に關する萬般の施設を含むものである。同法の適用を受くべき各府縣候補地中東北關係の分は左の如くである。

- 1、宮城縣——松島、藏王山、金華山
- 2、福島縣——磐梯山、吾妻山

- 3、岩手縣—八幡平
- 4、青森縣—恐山
- 5、山形縣—藏王山
- 6、秋田縣—八幡平、男鹿半島、田澤湖

東北の観光協會出揃ふ

昨年言及したやうに、殆ど搖籃期を一步も出なかつた吾が東北の観光事業も、全国的な現下の風潮に乗り、本年に至つてやうやく黎明を迎へるに至つた。松島、十和田、平泉など極少數の例外を除いては、全く鐵道その他の交通業者任せ切つてゐた宣傳を心掛け、觀光即産業の建前に起ち、六縣下の大半が申合せたやうに昭和十一年に至つて全縣下に觀光協會網を張つたことがその何よりの證左である。然し黎明は飽まで黎明であつて眩いばかりの輝かしさではない。謂はゞ東北の觀光は整備時代であつて本當の躍進はこれからなのだ。張り設けられた觀光協會の中には、他縣でも皆こしらへるので、自分の縣にだけ無いのは變だから……といふ程度の抱負しか無いもの、またその支部の中には、天降り式に作れといふもんだから形だけ整へて見たがさして、どんな事業をやるアテもないといつた不見識な向が一部に見受けられ、如何にも過渡期らしい情勢を現下の東北の観光事業界が示してゐるのである。これ等何れも纏ては本來の使命を自覺し、熾烈なる活動時代躍進の秋を招來するであらうことを當然想像はされるが、他の政治問題や産業部門と異なり、觀光事業は

一、最も簡単な準備期間で事業開始が出来ること  
 二、團體相互の連絡、大同團結が絶対に必要であること

などの本質的な特徴を持つもの故、東北の貧困を打開する重大な血路を此處に求めて、觀光東北の名聲を一日も早く確保するやう本格的活動の即時開始を期待するものである。整備された各縣觀光協會の陣容左の通り。

同支部	盛岡	盛岡市役所内	市長	大矢馬太郎
地方觀光會	盛岡市役所内	市長	大矢馬太郎	
花巻觀光會	花巻市役所内	市長	大橋珍太郎	
磐井觀光會	磐井町役所内	町長	松川昌藏	
宮古觀光會	宮古町役所内	町長	松井一男	
釜石觀光會	釜石町役所内	町長	小野寺有一	
松尾觀光會	松尾町役所内	町長	菅野音松	
高田觀光會	高田町役所内	町長	澤藤幸治	
黒澤尻觀光會	黒澤尻町役所内	町長	菊地明八	
遠野觀光會	遠野町役所内	町長	高橋榮次郎	
西和賀觀光會	西和賀町役所内	町長	三船米藏	
九戸觀光會	九戸町役所内	町長	佐々木久四郎	
水澤觀光會	水澤町役所内	町長	石川敏藏	
山田觀光會	山田町役所内	町長	小林光政	
青森縣觀光協會	青森縣廳内	市長	神田重雄	
八戸觀光協會	八戸市役所内	市長	工藤捨三郎	
仕立觀光會	仕立町役所内	市長	京谷傳平	
深浦觀光會	深浦町役所内	市長	山下兼太郎	
大戸觀光會	大戸町役所内	市長	三浦道太郎	
保勝觀光會	保勝町役所内	市長	阿部留吉	
一野渡觀光會	一野渡町役所内	市長	阿部留吉	
愛宕觀光會	愛宕町役所内	市長	阿部留吉	
小河觀光會	小河町役所内	市長	阿部留吉	
保勝觀光會	保勝町役所内	市長	阿部留吉	
恐山觀光會	恐山町役所内	市長	阿部留吉	

觀光の東北

觀光團體名	事務所所在地	代表者名
宮城縣觀光協會	仙台市役所内	知事 菊山嘉男
仙臺觀光協會	仙臺市役所内	市長 益谷徳三郎
石巻支支部	石巻市役所内	市長 石母田正輔
鹽釜支支部	宮城郡鹽釜町役所内	町長 佐浦重次郎
松島支支部	宮城郡松島町役所内	町長 高橋美左夫
玉造支支部	玉造町役所内	町長 大槻鶴吉
大河原支支部	柴田郡大河原町役所内	町長 高橋原一
作並支支部	宮城郡作並町役所内	町長 渡邊貞一
秋保支支部	名取郡秋保村役所内	町長 松山平兵衛
白石支支部	刈田郡白石町	町長 伊藤武彦
氣仙沼支支部	本吉郡氣仙沼町役所内	町長 關根庫三
松島保勝會	福島縣廳内	市長 佐瀬 剛
福島縣觀光協會	福島縣廳内	市長 長谷川美村
白河縣觀光協會	西白河郡白河町役所内	町長 青木常吉
會津觀光協會	若松市役所内	町長 穴澤甚造
柳津保勝會	河沼郡柳津村	町長 阿部孔三
猪苗代保勝會	耶麻郡猪苗代町役所内	町長 山田宗三郎
翁島保勝會	耶麻郡翁島村役所内	町長 菅野善三郎
開成山保勝會	耶麻郡開成山開成社内	町長 佐藤 澤
二史蹟保存會	安達郡二本松町二ノ一	町長 矢部 金右衛門
靈山保勝會	伊達郡靈山村役所内	町長 農林技師 藤吉仁太郎
信夫文知摺	信夫郡岡山村洞院内	町長 石黒英彦
飯豊山保勝會	耶麻郡奥川村大字飯豊	
磐梯國立公園協會	縣廳 山林課内	
岩手縣觀光協會	岩手縣廳内	

戸來村史蹟調査會	三戸郡戸來村大字館神八一	村長 佐々木 傳次郎
山形縣觀光協會	山形縣廳内	知事 金 森 太郎
庄内觀光協會	鶴岡市商工會議所内	町長 中村 作右衛門
山寺保拓會	東村山郡山寺村立石寺内	市長 王 生 芳 田
米澤觀光協會	米澤市役所内	市長 登 坂 又 藏
三山敬愛會	東田川郡 手 向 村	市長 宮 田 春 金
善寶寺奉讚會	西田川郡湯澤善寶寺内	市長 高 梨 宿 相
山形縣溫泉組合聯合會	縣廳 衛生課内	警察部長 辻 山 治 平
秋田縣觀光協會	秋田縣廳内	知事 兒 玉 政 介
秋田市支支部	秋田市役所内	市長 鈴 木 安 孝
能代港支支部	山本郡能代港町役所内	町長 小 林 徳 太郎
岩館支支部	山本郡八森岩館村組合内	町長 丸 山 周 五 郎
溪後坂支支部	山本郡二ツ井町上湯村組合	町長 立 山 弟 四 郎
十和田支支部	山本郡十和田町役所内	町長 關 直 衛 門
八幡平支支部	鹿角郡宮川村役所内	町長 池 田 甚 三 郎
小砂川支支部	由利郡上瀧村役所内	町長 高 橋 一 郎
象潟支支部	由利郡象潟町役所内	町長 土 田 正 作
鳥海山支支部	由利郡天島町役所内	町長 高 垣 保 吉
大曲支支部	仙北郡大曲町役所内	町長 藤 田 秀 一
金澤支支部	仙北郡金澤町役所内	町長 藤 川 誠 一 郎
抱返り支支部	仙北郡抱返り村役所内	町長 丸 川 貫 一
田澤湖支支部	仙北郡田澤湖町役所内	町長 柏 崎 泰 吉
男鹿半島支支部	南秋田郡船川町役所内	

觀光祭の一齊蓋開け

恒例による觀光祭も昭和十一年の如く盛に、同年の如く華かなこと

は空前である。観光事業の重大さに一般の認識が漸く深められて来た。端的な現はれともいへる。櫻笑ふ陽春の候、自然も人間もおのづから朗かなとき、この天地の美を謳ひ、人々共に歡を分つ和かさは、地上を樂園と化した形で、それだけを以てもこの祭りの効果は絶對的なもの、茲に記念すべき劃期的な観光祭の六縣下の記録をとめて置いた。

観光祭概況

仙臺管内

仙臺運輸事務所管内

仙臺

- 一、期日 四月二十一日(同二十七日)
二、主催 仙臺鐵道局、國際觀光局、日本旅行協會、仙臺市、仙臺觀光協會
三、後援 仙臺中央放送局、宮城縣觀光協會、日本蓄音器商會、仙臺商工會、仙臺市街自動車會社、タタシ一組合
四、協賛者 市街自動車會社、蓄音機商組合、映畫館、寫真材料商組合、百貨店、實業組合聯合會
五、狀況 1、觀光事業關係者表彰式並觀光祭映畫並舞踏の夕
2、花見踊大會
3、郷土舞踊大會
其他種々なる名稱にて會期中連日種々開

松島

- 一、主催 宮城縣觀光協會松島支部
二、期日 四月二十四日
三、狀況 1、小學兒童に對し校長の觀光事業に關する講話
2、小學生の旅行列(於松島海岸)
3、小學兒童より觀光標語募集
4、各旅館店頭を紅白の幕にて飾り、國旗を掲揚
5、構内營業自動車及電車は前頭に小國旗を掲出且一般乗客に松島案内を配布
6、流燈の夕(當夜海岸一帯に於て)

鳴子

- 一、主催 鳴子町及鳴子温泉旅館組合
二、期日 四月二十一日(二十七日)
三、狀況 1、小學兒童に講話、温泉神社參拜後約八百名旅行列
2、觀光音頭踊大會
3、列車發着毎に煙火の打揚
4、町内要所各旅館内其他にポスター掲出
5、浴客一般に觀光祭の趣意書を配布
6、紅白の幕其他にて街頭を裝飾し夜間は紅提灯を吊下

白石

- 一、主催 宮城縣觀光協會白石支部
二、期日 四月二十二日(三十日)
三、狀況 1、小學兒童に講話
2、町内主要の個所に櫓を樹立(長さ五尺巾二尺、赤地に觀光祭と白く染抜いたもの、今後毎年十本宛造り數年後は町内全部に及ぼす計)
3、牛車にて風景屋敷二つを造り觀光音頭手踊と歌曲放送
4、期間中汽船會社、旅館、物産館、カフェ、料理店等接客交通業者全會員觀光マークを佩用

盛岡運輸事務所管内

- 一、主催 水澤町役場
二、後援 水澤町、水澤保健協會、水澤商工會、水澤青年同志會、水澤つるり會、水澤料藝組合、水澤蓄音器商組合、記者俱樂部
三、期日 四月二十七日(五月六日)
四、狀況 1、懸賞賞券發行
2、産業組合の光大會
3、招魂祭人會武術大會
4、懸賞付廣告祭

石巻

- 一、主催 石巻市及宮城縣觀光協會石巻支部
二、期日 四月二十一日(二十七日)
三、狀況 1、期前に「觀光祭」マークを建設
2、期日 四月二十一日(二十七日)
3、期日 四月二十一日(二十七日)

秋田

- 一、主催 秋田縣觀光協會、秋田運輸事務所
二、期日 四月二十四日(五月七日)
三、狀況 1、觀光祭式典並に觀光協會發會式
2、ポスター陳列展覽會
3、觀光紀念懸賞寫真展覽會(縣内名勝及び風俗寫真展覽會)
4、觀光土産品陳列會
5、觀光祭「チ」を市内四ヶ所に設置
6、ポスター掲示
7、關係者全員觀光祭マーク佩用
8、自動車マーク市内自動車全部掲出
9、民謡演奏會、藝妓手踊、觀光踊(連日於千秋公園)

弘前

- 一、主催 弘前商工會議所
二、期日 五月三十一(十二日)
三、狀況 1、市内要所にポスター掲出
2、接客業全員觀光祭マークを佩用
3、聯出店は櫻の造花に觀光祭と表示せる短冊を吊下賣品には觀光祭スタンプを押捺
4、期間中煙火、寺寶展覽會、舞臺劇、獅子舞を公開(於公園)
5、北日本陸上競技大會、乗馬大會、東北北海道陸球大會、縣下角力大會、聲長踏合會、全國自動車競爭大會、消防聯合演習、花祭

八戸

- 一、主催 八戸市
二、期日 六月四日(五日)
三、狀況 1、觀光祭マーク佩用
2、市中を燈籠萬國旗イルミネーション紅綠燈にて裝飾
3、入港船の滿船飾
4、大漁祈願祭、供養祭、運動會、演藝大會
5、藝妓手踊
6、寶探し、綱引、民謡大會、手踊大會

花巻

- 一、主催 株式會社花巻温泉、花巻温泉電氣
二、期日 四月二十九日(五月五日)
三、狀況 1、觀光祭祈願式、町民運動大會
2、古典舞踊大會
3、素人演藝大會
4、大觀禮會
5、大觀禮會
6、關係者全員觀光祭マークを佩用
7、ポスターを製作、各町及町内要所に掲示
8、パンフレット一萬枚を製作、關係者及觀光客に配布
9、参加自動車、自動車マーク掲出
10、觀光祭レコード演奏
11、町内各戸一國旗及提灯掲揚
商店一店頭裝飾
12、聯舍ホーム及景勝地一櫻花電燈を以て裝飾
13、構内立賣業者群富のレットルに觀光祭を表彰、其他サービスに留意

盛岡

- 一、主催 盛岡觀光會
二、期日 五月十一日(五月十日)
三、参加者 市内接客業者、自動車業者、料理店、喫茶店、其他
四、狀況 1、ポスターを停車場、各町村役場、各村、市内、公衆出入の要所に掲示
2、期間中關係者全員觀光祭マークを佩用
3、参加自動車、自動車マークを掲出
4、郷土舞踊
5、花見舞行列
6、花火大會

青森運輸事務所管内

- 一、主催 青森縣觀光協會、青森市役所、商工會議所、合浦公園保勝會
二、期日 五月九日(十五日)
三、狀況 1、ポスターを市内各所に、觀光祭と記せる額を出店、喫茶等に掲示
2、關係者全員期間中觀光祭マークを佩用

四二五

福島運輸事務所管内

- 一、主催 福島市商工會議所、飯坂町、湯野村、開山村
- 二、期日 四月十八日―二十六日
- 三、状況
  - 1、観光祭假裝大會
  - 2、廣告祭
  - 3、映畫と音楽の夕
  - 4、ポスター展覽會

郡山

- 一、主催 郡山市商工會議所、開成山保勝會
- 二、期日 四月二十日―三十日
- 三、状況
  - 1、觀光飾、さくら踊(期間中於開成山公園)
  - 2、觀光祭假裝大會
  - 3、カメラデー
  - 4、鐵道映畫大會

若松

- 一、主催 若松市、商工會議所、東山村
- 二、期日 四月廿四日―三十日
- 三、状況
  - 1、獅子踊、手踊、レヴュー大會、能樂會(期間中於鶴ヶ城公園)
  - 2、カメラデー
  - 3、店頭裝飾藝技會
  - 4、鐵道映畫大會

管内全體として施行せるもの

- 1、鐵道部内
- イ、各驛ポスター掲出
- ロ、關係職員徽章佩用
- ハ、施行地驛前に觀光祭と表示せる大旗

を國旗と交叉して掲揚

- 二、驛舎内外の清掃整頓を勵行し、旅客取扱に特に注意
- 三、構内營業
  - 1、店頭を觀光祭と表示の短冊を吊下せる櫻花を以て裝飾、觀光祭旗と國旗を交叉して掲出
  - 2、掛當、壽司類に觀光祭を表示せるレツテル貼付
  - 3、觀光サービスとして期間中顧客にマツチ、繪葉書等の景品を進呈
  - 4、其他接客方法に就て特に留意
- 四、辨當職立を觀光祭と表示して趣意を表示
- 五、自動車入力車に觀光祭マークを貼付
- 六、監視箱に觀光祭旗と國旗を交叉掲出
- 七、販賣手は赤地に觀光祭と白く抜いた釋を着用
- 八、鐵道の承認を得て、驛ホームを櫻花觀光祭表示のボンボリ帽等を以て裝飾
- 九、鐵道部外各參加地も同様
- 十、ポスターを店頭其他に掲出
- 十一、接客業者は徽章佩用
- 十二、街頭を櫻花其他を以て裝飾
- 十三、自動車電報に觀光祭マークを貼付
- 十四、觀光局推薦の裝飾音頭レコードを購入宣傳
- 十五、小學校童に對し觀光知識を普及(觀光祭配布等)

山形運輸事務所管内

- 一、主催 赤湯山形市役所、天童市、寒河江、鶴岡
- 二、期日 四月二十五日―五月三日
- 三、状況
  - 1、全町道路の兩側を紅白の幕及電氣にて裝飾
  - 2、驛構内はホーム待合室等を櫻花の造花豆ボンボリ、電燈短冊(何れも觀光祭を記入)等にて裝飾
  - 3、立賣入の容器は造花を以て飾り、周圍を紅白の布にて巻き、表面には觀光祭と浮彫せるマークを貼付
  - 4、觀光祭、温泉神社祭、藝妓手踊、煙火打掃
  - 5、鐵道職員、接客業者、其他關係者全員觀光祭マークを佩用
  - 6、接客業者座談會

山形

- 一、主催 山形市役所、山形驛
- 二、期日 四月二十四日―三十日
- 三、状況
  - 1、驛本屋車等に電燈を張り「觀光祭」と記入せる額を掲出
  - 2、待合室を萬國旗にて裝飾
  - 3、改、集札口に電燈を張り造花を配し、觀光祭の提燈を吊下
  - 4、出店に櫻の造花とモールにて裝飾
  - 5、出札口に觀光祭の提燈を吊下
  - 6、立賣入容器周囲を花模様にて飾り、正面に「觀光祭」と表示
  - 7、花自動車市内運轉、車上より觀光祭の趣旨を印刷せる電燈を市中に散布
  - 8、各指定旅館は店舖に電燈を張り提燈を吊下
  - 9、驛前に電燈機を備付け列車發着の際觀光音頭等のレコード放送
  - 10、ポスターを市中に掲示、マーク佩用

四二六

天童

- 一、主催 天童町役場、天童驛
- 二、期日 四月二十四日―二十五日
- 三、状況
  - 1、觀光祭及灌佛會大祭
  - 2、素人演藝大會、藝妓手踊(於公園假演舞場)公園に電燈機を備付け觀光祭レコード放送
  - 3、附近町村に觀光祭と櫻花の自動車宣傳
  - 4、驛本屋車等を造花にて裝飾、ホーム柱を紅白の布にて巻き造花にボンボリを配し、改札口附近は櫻花に造花を配し短冊を吊下
  - 5、出店は造花とモールにて裝飾

寒河江

- 一、主催 寒河江町役場、寒河江驛
- 二、期日 四月二十日―二十六日
- 三、状況
  - 1、縣下料理業者大會
  - 2、觀光祭記念日を水利組合起工式祝賀會と合同舉行
  - 3、公園内賣店關係者慰安會
  - 4、自動車後部に巻いた巾四尺長さ六尺の布に櫻花の浮彫様に觀光祭と表示掲出
  - 5、驛車等の柱に紅白の布を巻き之に造花を配飾、ホームに高さ六尺のボンボリ燈植其の間を紅白の幕にて裝飾
  - 6、驛前廣場に觀光祭假裝塔建設

鶴岡

- 一、主催 鶴岡市、鶴岡驛
- 二、期日 四月十八日―二十八日
- 三、状況
  - 1、商工祭と合同舉行

東鐵管内(東北關係)

- 一、主催 白河觀光協會
- 二、期日 四月二十八日―五月四日
- 三、状況
  - 1、驛假裝大會
  - 2、町民大運動會
  - 3、藝妓手踊
  - 4、素人演藝大會
  - 5、鐵道開通五十年祭
  - 6、驛社南湖神社大祭
  - 7、丹羽公三百年大祭

觀光團來往に就て

觀光收入を正確に調べて、東北から他地方へ出掛けて落して来た金と、他地方人が東北各地へ拂つて行つた費用の双方を比較検討が可能であれば、この種事業者は勿

觀光の東北

論一般に齎らす便益と興味少からぬこと思はれるが、これを正確に算定する調査機關とてなく、先づ現在の機構では絶対の不可能事と言つても差支ない。交通費、宿泊料、神社佛閣への賽銭、祈願料、土産物の買上げなどの名目の下に收支が集計されない限り、先づ各觀光團體の足どりを辿つて僅かに莫然たる推定を下すより他にないのである。此處にその漠然たる推定のうちでも最も妥當性を一般に認められる一つの調査を以て觀光東北が一ヶ年に吸収する人の數の大體を知る便法とした。

その一として東北を通じて最も有名であり少くも他地方からの觀光客の大部分が必ず立寄る代表地、仙臺(松島鹽釜などを含む)及び十和田國立公園の二ヶ所を訪れた團體觀光客數一ヶ年の總計を見るに次の如きものである。

○仙臺市最近一ヶ年の團體觀光客數(仙臺市觀光協會調査)

昭和十年七月より十一月まで	五三三件	二九、七〇九人
昭和九年七月より十一月まで	五三三件	二九、七〇九人

○十和田國立公園最近一ヶ年の團體觀光客數(十和田市觀光協會調査)

昭和十年七月より十一月まで	五三三件	二九、七〇九人
昭和九年七月より十一月まで	五三三件	二九、七〇九人

以上は純然たる觀光目的の團體として東北の代表的二觀光地を訪問せるものゝ計數で、これに個人的なもの、又は鐵道が團體の取扱ひをせざる小團體および他のスキーヤー、登山家、温泉浴客等を考慮に入れ、更にまた東北六縣以外の他地方からだけの來訪者をこれから抜き出すとすると残念乍ら皆目不明といふのほかないが、右の一斑から東北六縣下の觀光地が大

體において來訪客を年々累増せしめ繁榮の路を辿つてゐると推定しても決して大過はないだらう。例へば仙臺の如き、藩祖政宗公三百年祭を舉行して空前の人数を見たといつたのが昭和十年の五月であ

昭和十年末宮城縣本吉郡新井村の歌人故藤谷武雄氏により同村横澤部落小松きよえさん所有の田の中に鎮座する女の石神が發見されたが、女陰に彷彿たる自然石で周圍二十尺、割れ目は一尺幅で長さ六尺餘、高さ三尺五寸、苔むしたるもの同部落の男根石は著名なもので、幾千年後の今日夫婦の石神が地方民の意識にのみがへつたわけである。

昭和十年夏、盛岡市の西郊天昌寺内に歌聖西行自作の古雅な像の安置されてあることが判明した。彫刻の木に彫刻したもので墨染の衣の肩頭に小さな包みやくり、例へば路傍の草にでも腰を下し憂き世の雨をよけるすけ笠を持ち、空仰ぎ居る洒々落落たる人生のひそきを笑つてゐる珍しい性格面形象化の逸作である。

り、その時の盛況を含む一ヶ年よりも次の一年分において更に前記の如き増加を見てゐるのを以ても例外なき觀光地繁榮の叙上の諸數字は決して突發的な變異でないことと立證といふものだ。

四二七

西行法師自作の像

昭和十年末宮城縣本吉郡新井村の歌人故藤谷武雄氏により同村横澤部落小松きよえさん所有の田の中に鎮座する女の石神が發見されたが、女陰に彷彿たる自然石で周圍二十尺、割れ目は一尺幅で長さ六尺餘、高さ三尺五寸、苔むしたるもの同部落の男根石は著名なもので、幾千年後の今日夫婦の石神が地方民の意識にのみがへつたわけである。

宮城縣

Table for Miyagi Prefecture showing monthly passenger counts and revenue from 1929 to 1930. Includes columns for month, passenger count, and revenue.

岩手縣

Table for Iwate Prefecture showing monthly passenger counts and revenue from 1929 to 1930. Includes columns for month, passenger count, and revenue.

福島縣

Table for Fukushima Prefecture showing monthly passenger counts and revenue from 1929 to 1930. Includes columns for month, passenger count, and revenue.

青森縣

Table for Aomori Prefecture showing monthly passenger counts and revenue from 1929 to 1930. Includes columns for month, passenger count, and revenue.

山形縣

Table for Yamagata Prefecture showing monthly passenger counts and revenue from 1929 to 1930. Includes columns for month, passenger count, and revenue.

秋田縣

Table for Akita Prefecture showing monthly passenger counts and revenue from 1929 to 1930. Includes columns for month, passenger count, and revenue.

觀光關係團體

Text describing transportation services for tourists, mentioning Northeast Railway and other operators.

Table listing various transportation routes and services, including destinations like日光 and 湯野濱.

Table listing specific transportation services and routes, including destinations like 高田 and 岩沼.



Table of events for the first section, including dates (e.g., 廿五日, 廿六日), event names (e.g., 鏡餅遊シ, 大日堂祭), locations (e.g., 盛岡, 小豆澤), and other details.

Table of events for the second section, including dates (e.g., 廿一日, 廿二日), event names (e.g., 羽黒山鳴詣, 若松製世香), locations (e.g., 福島, 天童), and other details.

Table of events for the third section, including dates (e.g., 廿四日, 廿五日), event names (e.g., 沙干狩, 鏡餅遊シ), locations (e.g., 野邊地, 三戸), and other details.

Table of events for the first section, including dates (e.g., 同, 同), event names (e.g., 盛岡, 花巻), locations (e.g., 盛岡, 花巻), and other details.

Table of events for the second section, including dates (e.g., 同, 同), event names (e.g., 神明社祭, 須賀川), locations (e.g., 船川, 須賀川), and other details.

Table of events for the third section, including dates (e.g., 同, 同), event names (e.g., 柳宮引, 北高岩), locations (e.g., 柳宮, 北高岩), and other details.

Table of events and dates for Hebei, including festival names, locations, and dates. Columns include dates (e.g., 十八日, 十九日), event names (e.g., 氣比神社祭, 田島祇園祭), locations (e.g., 古間木, 田島), and other details like ticket prices or times.

Table of events and dates for Hebei, continuing from the previous page. It lists various festivals and their locations, such as 神明社祭, 北山藥師如, and 白虎祭, with associated dates and details.

Table of events and dates for Hebei, including festival names, locations, and dates. It covers events like 野蒜海水浴, 七夕祭, and 川開キ石, with details on dates and locations.

Table of events and dates for Hebei, including festival names, locations, and dates. It lists events like 三觀音講, 紅葉デー, and 釣魚會, with details on dates and locations.

河北年鑑

Table listing various events and dates for Hebei, including '秋保電氣軌道株式會社' and '花卷溫泉電氣鐵道株式會社'. Columns include dates, event names, locations, and transportation methods.

Table listing various events and dates for Hebei, including '花卷溫泉電氣鐵道株式會社' and '觀光の東北'. Columns include dates, event names, locations, and transportation methods.

四三五

Table listing various events and dates for Hebei, including '仙北鐵道株式會社' and '福島電氣鐵道株式會社'. Columns include dates, event names, locations, and transportation methods.

Table listing various events and dates for Hebei, including '岩手輕便鐵道株式會社' and '津輕鐵道株式會社'. Columns include dates, event names, locations, and transportation methods.

四三五

Table listing events and dates for the Heibei Yearbook, including dates like 九月十五日 and 十月二十七日, and names of organizations like 弘南鐵道株式會社.

弘南鐵道株式會社

Table listing dates and names for the Heibei Yearbook, including dates like 八月四日 and 八月十四日, and names like 高島鐵道株式會社.

高島鐵道株式會社

Table listing dates and names for the Heibei Yearbook, including dates like 七月二十七日 and 八月十四日, and names like 庄内電鐵株式會社.

庄内電鐵株式會社

Table listing dates and names for the Heibei Yearbook, including dates like 十月二十七日 and 十一月七日, and names like 毛馬内、和井内間省營バス開通.

その他の主なるニュース

毛馬内、和井内間省營バス開通

十和田觀光秋田口による花輪線毛内内から湖畔和井内までの三十軒路線が昭和十一年八月一日から開通した。これで東北本線青森と花輪線毛内が省營バスで完全に結ばれた。...

東北温泉協會結成

東北温泉協會設立は昭和十年三月廿六日午十時より仙臺市長町鐵道職員集會所において前開催、出席者は東山、飯坂、熱海、青根、鳴子花巻、湯瀨、浅虫、大鰐、大湯、酸ヶ湯、上ノ山、温海、湯野濱、赤湯の各温泉関係三十七名、日本旅行協會東北支部柴田副參事、仙鐵よりは藤原運輸課長、小倉旅客掛長、同掛員、仙臺、盛岡、青森、福島、山形、秋田、新潟各運輸事務所營業掛員、以上合計五十名で、...

横濱鐵道株式會社

Table listing dates and names for the Yokohama Railway Company, including dates like 昭和十年十月六日 and 昭和十一年五月十五日.

雄勝鐵道株式會社

Table listing dates and names for the Oshu Railway Company, including dates like 昭和十年七月六日 and 昭和十一年七月二十日.

小坂鐵道株式會社

Table listing dates and names for the Kosaka Railway Company, including dates like 昭和十年八月十三日 and 昭和十一年八月十五日.

打つて一丸とする東北温泉協會も目度く誕生し、四月一日から開業の運びとなつた。

觀光記念懸賞作文

國際觀光局では、觀光記念の一事業として仙鐵局と協力の上、觀光東北を紹介する作文を東北の小學生より懸賞募集し、多數應募作品中より一等一名、二等五名、三等十名を選んだ。一、二等入選児童氏名左の如し。

- (一等) スキートの東北 秋田市築山小学校 尋四山田芳郎
(二等) フランスの少女の背標へ 仙臺師範附屬校 尋五 廣瀬哲子
(三等) 帝都の友に東北の旅を奨める文 宮城縣鳴子校 尋五 高橋智子
(同) 旅行で受けた親切 盛岡城南校 尋六 瀬川 茂
(同) 盛岡盛岡仙北校 尋五 野中幸子

福島競馬の新記録

公認福島市の昭和十年秋競馬は九月廿四日より六日間、翌十一年春競馬は六月廿三日より六日間開催されたが、十年秋の馬券總賣上高は八十八萬一千三百四十圓で、前年同期に比し十四萬七千八百六十圓の減、この近來の不況は、續いた雨天と懸賞選舉による影響と見られた。なほ十一年の春は總賣上五百五十五萬六千六百六十圓で、前年同期に比し十一萬二千八百十四圓の増収であるのみならず百五十五萬圓はこの競馬場開設以來の好記録であつた。

本社主催の東北の夏懸賞寫眞募集

從來ともすれば陰鬱の同義語の如く思はれ勝ちだつた東北の明朗ぶりと健康性とを爽かな夏空の下に再検討し、これを廣く天下に紹

介するため、本社は昭和十一年八月末日締切を以て、東北の夏の寫眞懸賞募集を試みたところ、物凄いはたかりの反響を喚び六縣隅々から集まつた應募點數實に一千三百餘點、本社編輯局において審査の上左の如く入選者を決定した。なほその一部は本年鑑グラビア特輯中に収録してある。

- 一等放牧 (八甲田山麓) 仙臺市二町一二 佐藤常助
二等一席 湯の香 (岩手縣須川温泉) 仙臺通信局寫眞クラブ 託摩勇吉
二等二席 西さす頃 (青森合浦公園) 青森縣林局 島山作一
二等三席 波 瀧 (宮城縣野蒜海岸) 仙臺市裏五番丁丹六方 村田成一
二等四席 山は招く (香妻山) 仙臺市分町三六 阿部秀三郎
二等五席 眺 望 (香妻一切經山) 福島市萬世町三〇 伊藤昌水
三等一席 初夏の藏王 仙臺市東一番丁五五 小關四郎
三等二席 裏磐梯 仙臺市北五番丁二四 室井 彌
三等三席 佳作 (二十名) 杜風夫(仙臺) 横山春三(仙臺) 唐 武(盛岡) 藤川勝夫(仙臺) 丸谷晃二(仙臺) 高平久(仙臺) 岩淵友義(宮城) 結城(仙臺) 赤木英子(山形) 柴田篤(仙臺) 田口十三路(盛岡) 本田正雄(仙臺) 大沼嘉七(仙臺) 橋本修(仙臺) 鈴木亮一(東京) 小島初太郎(仙臺) 山内勝榮(青森) 松本敬助(仙臺) 末永真峰(宮城) 齋藤貞夫(仙臺)

二つの東北一周コース見本に就て

古くは併聖芭蕉の奥の細道以来近くは鐵道省の刊行物、或は各觀光地のパンフレットなどで既に細大漏らすことなく紹介...

は今や全東北民の熱烈な願望なのである。二つのコース見本とそれに関し各案内によつて六縣下の重要都市と代表的觀光地は一通り網羅したつもり、だから双方を綜合すれば、一應觀光東北讀本...

Table with columns for dates (e.g., 第一日, 第二日), locations (e.g., 上野, 松島), and costs (e.g., 三・四七, 〇・四四). Includes a '旅費概算' section at the bottom.

第一日 上野出發

仙臺驛前廣場に出ると、直ぐ傍の宮城電鐵地下驛へ降りられる。觀光電車の稱あるこの兩窓から、有名な烈女政岡の墓を振出しに、幾多の名勝史蹟をガイドガールが正確且つ詳細な説明を以てとり入れて呉れる。

すだいて居りました。宮千代はこの鈴蟲の音にツヒ誘はれて「月は露、露は尾花に宿りて...」とまで詠じたのですが何としても下の句が浮ばず、遂にその儘悶え死んで仕舞つたので御座います、里人は哀れに思ひ塚を建て、供養してやつたのですが、その塚の前を通ると必ず「月は露、露は尾花に宿りて...」と詠んでは嘆息するやうなことが聞かれた見佛上人が非常に氣の毒がりとふこそとふ宮城野の原」と下の句を續けて下つたところが、宮千代の靈魂は始めて冥福出來たので御座います、それからあのやうな瀾ない嘆息の聲は聞えなくなつたといふことで御座います。

宮城野原 窓の南に見える野原は宮城野原でございます、昔は國分原とも申し、有名な宮城野萩が一面に咲き亂れて居りましたが、今では萩は殆どなく練兵場、飛行場として使用されて居ります、なほこの原の東端には宮千代の墓がございます。

乳銀杏の樹 宮城野原驛より東三丁のところに御座います、高さ九丈、周り二丈餘りもあり、中程の枝から乳房のやうに垂下つた木の瘤があるところからこの名が附けられたさうで、今から千二百年前のもと言はれ東北に珍らしい大木の一で御座います、その傍に姥神社が御座います。

傳説とは？ 阿刀田會造 入口、私は口碑傳説をその儘採つてゐるが、これは第一だといふ心持が薄んでゐる。歴史は何か、それは明確なる材料によりて支持せられてゐる事實のことである。口碑傳説は「昔あつたこと...」と云ふ片づき、現實に脚を置き全地方を動かしつゝ、故に大袈裟にいふ、口碑傳説は地方信念の綜合體である。口碑傳説は斯した點において矢張り「把握し得られる事實」である、民間生活の如實を語る尊い事實である。

舘院、瑞鳳殿、師團司令官等）大廻り 六圓  
（右へ更に帝大醫學部、林子平之墓、支倉六右衛門之墓、青葉神社、大崎八幡宮、龍寶寺、東照宮）  
○人力車による廻遊  
一時間（八十錢）以上八時間（二圓五十錢）まで希望に應ずる。



むかし仙臺の城下には遊廊がなく、城下の人々はみな鹽釜の遊廊に通つたものだが、切通の碑から多賀城を経て奥の宮へ出る舊街道にアイミと呼ぶ氣のきいた年増の出で掛茶屋があつて往きかへりの客で相當賑つたものだった。其處で誰かふもなしに歌ひ始めたのがこのあいや節である。これが非常な勢で流行し仙臺から鹽釜までは勿論石巻地方まで擴まり舊幕の頃から明治廿年頃までは最も盛ん

あいや節

つた。これは潮來節を真似てあいや可愛いや川まん中にあやめ咲くとははらしやあやめ咲くたがその起源で、それを鹽釜街道の茶屋に引つけて歌つたのだといふ説もある。



あいや茶屋の雛マテ（丁製）なよで粗々た、今朝もかん鍋洗はねでかけた。  
あいや茶屋で飲む茶もうまい  
あいや水が心から  
あいや茶屋では今朝からお客、あいや人込む福の神。  
あいやヤットコサミ出るには出たが、それが西やら東やら、あいや茶屋の雛に引きこめられて、しやれ（それ）ちや放せちや帯切れる。  
あいや茶屋で肌の帯干した、上り下りの顔の種。

觀光の東北

紅尼の御二方がお住みになり、一心に天下泰平國家安全來世往生を祈願せられたが、ある時白紅尼が紅白尼に「われ齡既に八十に餘れば今日に往生せんこと計り難し。吾死せる後は塚を築き墓標には銀杏樹を植ゑ給るべし。來世に至り世上乳なき女に乳を授けん誓願を籠め置きたればこれを以て衆生濟度すべし」と仰せられたことから、往生の後御遺言によつてこの木が植ゑられたもので、御社は誰呼ぶとなく銀杏姥神と申すやうになり、今日では乳の少い方や乳を病む御婦人の姥神様として祀られ、大正十五年指定天然記念物となりました。  
**仙臺中央放送局** 北側の窓から見えるアンテナのあるところ（原町驛より北八丁）がJ・O・H・K 仙臺中央放送局放送所御座います。  
**藤古の碑** は新田驛から東北一〇丁宮城郡岩切村燕澤に御座います。いまより六百六十年の昔、弘安四年わが日本を侵さんとて筑紫に押寄せた十萬の蒙古兵が、伊勢の神風に遭つて全滅した際、蒙古に派遣された遷光國師といふ禪僧が都を憚つて弘安五年遠くこの地の僧清俊に託して建立せる戦死蒙古兵の供養塔と傳へられて居り、高さ六尺幅三尺の碑面には五十一文字が刻まれ

夕ざれば沙風こして陸奥の、野田の玉川こどり鳴くなり。の句碑が御座います。  
**鹽釜港** 間もなく鹽釜町に参ります。鹽釜神社の鎮座ましますミナト鹽釜は仙臺を去る五里の地點に當り神代の昔から千賀の浦と申し風光の美を以て松島と並び稱されて居るところで御座います。漁港として重きをなした鹽釜は去る昭和八年三、〇〇噸岸壁の完成を見、國際開港場となりましてからは東北の重要商港としても急速な發展を遂げて参りました。人口約三萬東京に對する横濱の關係のやうに、仙臺と密接不離の繫りを以て此後益々目醒しい躍進が約束されてゐるミナト鹽釜を、松島同様皆々御見物下さるやうお願ひ致します。いよゝ本鹽釜で御座います。町の真ん中に着きました皆様が参詣なさる鹽釜神社はこの驛から北約五丁、御釜神社は西北約二丁のところでお願ひ申します。ではお忘れものないやうお願ひ申します。  
**國幣中社鹽釜神社** 裏坂から上つて歸途表坂を下るのが良い。一宮鹽釜大明神の額を掲げた一の鳥居を過ぎてゆるやかな石段を登ると右手に展望ひらけた神苑がある。櫻の名所として既

牛石神社

御釜神社の東半丁のとこ

口碑傳説の發生成長は郷土味を物語る郷土味といふ點から口碑傳説を見直すがい。口碑傳説は血管が加はる、生氣が滲潤する。地方學つて學者の裝をしては調ひがなくならぬ。眞か偽か、それが人生の全體でない。昭和一〇、一一、二六河北新報（春秋欄より）

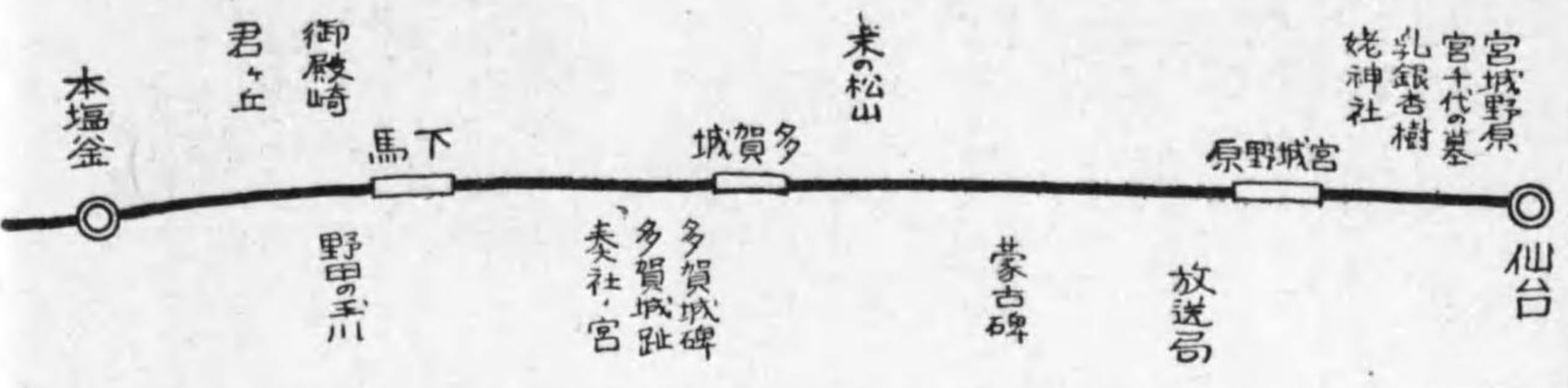
寺坂吉右衛門の碑

宮城郡七北田村實相寺の墓地に、理海慈賢主と法名が刻まれ、向つて右側に寛保二寅寅年、左側に正月二十三日と小さく刻まれている墓石がある。この墓石は無縁であるが、これぞ浪花節講談でお馴染の赤穂四十七士の一人寺坂吉右衛門の墓の墓石傳へられてある口碑の傳ふるところによれば、吉右衛門は奥州南部領の生れであつた。同盟の四十七士が首尾よく主君の仇を報じて、それ、切腹を仰せ付かつて果して、吉右衛門一人だけは八方に便ひの役目があつたため生き残つた。積る怨みは晴らした同志の士は悉く死んでしまつた後に、淋しく唯一人生残つた身を現世の罪障から脱して、同志の善徳を弔はうと割愛して雲水となり、六十餘年を巡遊した揚句、生國の南部領に歸らうと仙臺城下も過ぎ七北田村の市名坂に差置つた。同所は仙臺藩の刑場であつた。法身の吉右衛門は暫時此所に籠を停めて、刑に身を滅ぼした人々の後生を向つて、刑に身を滅ぼしたにさ、やかな庵を結んで朝夕経經に目を送つた。斯くてゐる間に無常の風は吉右衛門の身に吹き生じて遂にこの庵室に介抱する人もなく往生してしまつた。里人は旅僧の死を見ていろいろと後片づけに骨折つてくれるうちに旅僧の所持してゐる頭陀杖の中から一連の遺書と若干の

黄金と日誌を見つけた。それには「自分は南部領の者であるが、故あつて國を出で、諸國漫遊の折、遠州濱松の街道において、國らずも播州赤穂の城主淺野内匠守長矩公の江戸參勤交代の行列に出會つた。路傍に平伏してゐる一頭の奔馬を捉へて、避くによしな一筋道の老若男女の危地に陥つたのを、見るに見兼ねて件の奔馬を力に任せて打倒したのが赤穂侯の御眼にまじり家老大石内藏之助殿の強ての勧めに従つて淺野家に隨身した者である。俗名は南部藩寺坂の生れで寺坂吉右衛門と申し出家して理海坊と稱する者である。金子二百五十兩と白米二升を所持してゐるが、手にかけてゐる珠数は天竺阿迦多の佛果樹で作つたもので師法然上人のかたみの品である」と記されてあつた里人は始めてこの旅僧は赤穂義士の一人寺坂吉右衛門の成れの果と知り、懇ろに遺骸を同村實相寺に埋葬し、墓石を立てたものといふ。墓石に刻んである寛保二寅寅年、赤穂義士が吉良邸に亂入して首尾よく本懐を遂げた、元禄十四年から年を問うること四十二年以後に當るから、隨分長い年月を雲水に送つたことになる。

松島名物ころれん

天下の名勝松島の海岸、瑞巖寺の南に紅蓮尼の遺蹟がある。松島名物ころれん（煎餅の名）これに生れたものであるが、寺前にある軒端の梅も紅蓮尼物語りによつて世に名高いものである。昔瑞巖寺のはざりに掃部といふ人が住んでゐたなか、の物持ちで何となく暮らしてゐたが、一人息子の小太郎と云ふ少年は



る、鹽土老翁が鹽を煮る際海水を運ばせた牛が化石したものと云はれ、小池の中からその春の形だけが出てゐる。以上で信仰地鹽釜を一應見物した。國際港としての近代的な鹽釜は、松島からの船での歸路に明日金華山へ出るさき見られるから、この邊で松島ドライブウェイ突破の車を拾ふことにする。

松島ドライブ道路 鹽釜町から松島海岸まで長さ二キロ、幅五メートルの道路を宮城縣が二十二萬圓の工費と二ヶ年の日子を投じて完成したのが、昭和十年五月、爾來古き松島を新しき角度から見られる快適な新施設として近代人の素晴しき好評を得てゐるコースである。或は丘陵を攀ち、或は斷崖の突端を削り九十九折の清つたひは俗界の勞苦を解消せしめてなほ餘りあるところ。春から秋にかけては車を驅らずハイコースとしても屈強である。途中双觀山の展望臺がある。

双觀山 はこのドライブ道路脇に聳えるコース中の最高地點、松島灣内の大半を左手に、太平洋に逆巻く灣外の怒濤を右手に一望し得るところから双觀の名ありこの双觀は即ち壯觀にも通ずるといふ譯で、路傍の新しい標柱には「壯觀山」と認めてある。松島海岸 いはゆる長汀曲浦の美景を

ドライブウェイに満喫せると、この海岸に着いて見物の對象となるものは數々の豪華な史蹟と遊園地である。海岸一帯に瓦を連ねた旅館と土産物賣店の間と、この岸邊近き島々を辿つて一通り見盡すのに少くも二時間を必要とするが、主なるもの丈けをけふは巡覽しよう。

五大堂 海岸廣場の東端の島にあり、興深き二つの透し橋を渡つて陸地から自由に行ける。堂内には坂上田村麿の持佛毘沙門天を祀り、のちに五大明王を安置せらる。何れも慈覺大師の作である。方三間單層屋根寶形造本瓦葺、意匠精巧を極め周圍の風致との見事な調和は三敷に値する。明治三十四年國寶に指定。

瑞巖寺 臨濟宗妙心寺派、仁明天皇の御代慈覺大師の開山になり當初の松島寺で青龍山と稱した。更に北條時頼修營して圓福寺となつたが、のち荒廢甚しかつたものを慶長十年藩祖政宗公が再興に志し、天下の名工巨匠を集め、紀州より良材をとり寄せ、巨費を投じて豪華を蒐めて同十四年竣功、寺號もこ

山紫水明の氣を受けたものか天性の美男で氣質も優しく歸には稀な少年であつた兩親の寵愛は一方ならず、掌中の珠の如くつくしみ育てられた。小太郎は長ずるに従つて觀音様を非常に信仰した。そこで三聖堂下に一株の梅樹を植えて御佛にさ、けたのが軒端の梅として今日の名所の一つになつたものである。小太郎が十五歳になつた時、父親の掃部は西國の番場巡禮に出かけた。今日まで遺つて當時の旅は膝栗毛の一步一步を進め、旅費の數を重ねるのであるから、奥州路から西國巡禮をする段になるとその日數はかりも容易なものではなかつた。掃部は道中安穩に巡禮を終へ、數ヶ月振りで歸國の途に歸國の途に近づくと出羽國海老野の商人某と道連れになつた。旅は道連れれの雲、互ひに力しながら旅費を共にして白河の驛まで来た。その時には、兩人の間は百年の知己も及ばぬ程に親密な問答になつてゐたが、商人某は白河の驛から、出羽路に入らなければならぬので、此所で袂を分つたことになつた。兩人は互ひに別れを惜しんで、盃を酌みながら、いろ／＼な物語りを交し、故郷のこころをいかに語り出した。梅には一人の娘がある。親の口から自慢するの可らしいが、土地でも評判の經商良した。お前さんの息子さんとは丁度似合の夫婦だと思ふがどうだらう。此處で親同志縁談を取極めて置かうぢやないか。今日のやうに、如何に仲や娘の事でもこれはかり親の權利で壓迫的に……なごみ考へる必要のない時代だから掃部も即座に「結構々々、縁に買はう」



鹽釜 人口 二九、三七一入 戸數 五、二二六戸 (名産品) かき味噌、竹輪蒲鉾、梅干、貝細工、竹細工、菓子、鹽糖、不老團子 明けて二十四日は威勢のいい舊の元朝詣だ、例に依つて香線と電線とバスが三回に狂ふ参詣人陸送の渦、華やかに靈驗あらたかな國幣中社鹽釜志波彦の兩神社、冷たい石のきはしを一つ一つ上る。



の時に瑞巖寺と改め伊達家の菩提寺となつた。本堂は間口二一間四尺、奥行一四間一尺、側に僧寮齋厨を添へ、前を正門として長廊をめぐらし、鐘樓鼓閣を附してその規模宏闊、桃山式建築の粹と美が此處に盡されてゐる(明治三十四年國寶に指定)。表門を入ると昔客僧達が坐禪せる窟があり伊達騷動の立役者伊達安藝の銅像、慈覺大師が籠つたと傳へられる四間四方の法身窟(無量窟ともいふ)。政宗公が朝鮮から持歸つた八房の梅、南蠻鐵の燈籠などあり、また本堂各室は古典美術珍寶の集積であつて左甚五郎作の欄間の彫物、狩野永徳、長谷川等胤等の筆になる襖繪、伊達家代々の寶物、支倉六右衛門ローマより土産物などのほか、明治大帝御座所があり御成門と共に格別の保存を講じてゐる。(拜觀料一入十五錢)

雄島 遊園地水族館前より磯を傳ひ渡月橋を渡つて至る。その昔、小島、千松島とも呼び、佛上人がこの島に妙覺庵といふ庵を結んで精進修行十二年、その間法華經を讀誦すること六萬遍に及んだこと天聽に達し、佛像寶器等を下賜されたと傳へられる。島の岸壁に彫りつけた澤山の卒塔婆の跡は瑞巖寺の僧徒が坐禪を組み想を練つた場所、南端の頼賢碑は徳望高つた頼賢老師の子弟達が鎌倉時代に建立せるもので、碑文はいまは磨滅して判讀出来ない。また東南端に「朝よさを 誰まつしまそ片心」云々の俳聖芭蕉の句、碑がある、この島も眺望すべし、海岸一帯から五大堂、双子、福浦、引通などの島々が眼前に展開する。

島めぐり 松島の特徴は第一に島の數の多いこと、そしてその名の如くあらゆる島々が松(赤松)の翠を戴いてゐること。また島の生成は凝灰岩で質が脆く、海波の浸蝕を蒙り易いので永年の

清らぬやうに近年稀なる大雪をすつかり拂ひ除けて丁寧に中を徹した神社地元の民の床しの中を義勇消防団連年少年團、聲を囀らしての整理。やつこき押しつ押しつ、客呼ぶ道の土産賣り

〔遊園〕 貸座敷一軒、娼妓一人遊興費四圓(酒券附)〔行事〕 元朝詣(ハットセ)〔俳諧〕 鹽釜甚句(ハットセ)



風化作用によつて皆珍奇な姿を形作つてゐることである。これ等の特色が灣内約六方里の間に点在し、林春齋が「日本事跡考」にいはゆる日本三景の一として人口に膾炙したもので、この松島の成因に就ては太古地盤の陥没せるところに火山灰が堆積し同時に縦横に細かく引裂かれた跡だらうといふ推定が行はれてゐる。第一コースといふのは松島海岸と鹽釜港を結ぶ直通航路で、島めぐりとは言へないが、それでも双子、布袋、小松、在城、都、裸、籬などの重なる島々を縫ひ、村木島を経て外洋を遠く望み乍ら鏡の如き水面を滑る良さは、矢張り遊子をしばし超仙境へ誘ふに充分で、更に時間に餘裕を得て出直し、完全な島めぐりと松島四大觀の展望と、更に日の出、日の入りの神秘、雪の松島などを再検討したい意慾に驅立てられるであらう。左手に鹽釜築港の全貌と魚市場の活況を見近代の機械噪音と鳴のコーラスを開乍ら鹽釜海岸着、直ちに仙臺に歸ると廣場には市内一周の遊覽バスが待つてゐる。

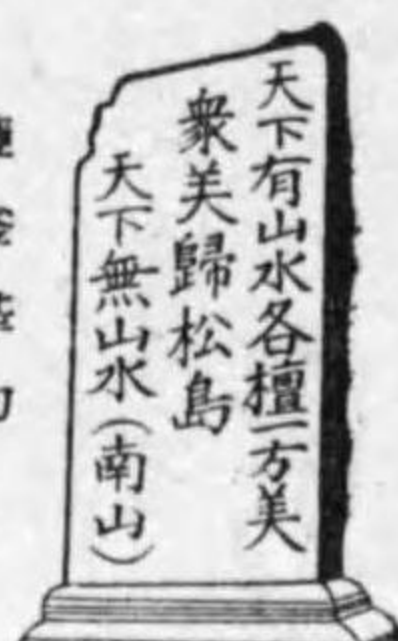
仙臺市に就てあらましを申上ります。市の廣さはおよそ二里半四方ありまして人口約二十二萬、いまから三百年前六十二萬石の御城下として藩祖伊達政宗公がお開きになつたのでありました。維新後は政府の東北經略の中心地として第二師團を始め鐵道局、逓信局、簡易保險局、貯金局、稅務監督局、内務省土木出張所、國立倉庫、國立工藝指導所などの役所を澤山設け、それに帝國大學を筆頭に高等專門學校が六つ、中等學校女學校を併せて四十四、學生の數にしますと大學より小學校までこめて凡そ四萬五千名に達し、役所の町として東北行政の中心をなし、又教育都市として澤山の學校を備へ、今日の發達を見るに至つたもので御座います。ですから略々文化機關の大部分が完全して居り、なほ且つ氣候の點にありまして夏は緑いろ濃く、左程暑からず、冬の寒さは東京と大した變りなく雪も左程苦になりません。春の櫻の花盛りは仙臺の名物であり、秋の錦は東北の野の寂しさを加へ、山あり川あり野あり丘あり、いたつて住み心地よい詩のやうな町で御座います。生産物に就きましては種々のものが御座います。が、御案内の道すがらお話申上ります。二十八町 この町はむかし二十人の御

仙臺の七夕

一方次郎

むかし、ある所に仲睦しい若い夫婦があつた。ある時夫は旅に出たが美しい妻は河のはり家の機を織つて夫の留守を守つてゐた。村の若者たちがそれを垣間見に来ては、「お前さんの夫は旅先で美しい女を持つたから、家は若者たちをよこさうてからか、家は若者たちを恨んで河へ身を投げて死んだ。夫が道を急いで我家へ歸つて見れば、夫の爲めに織つた布を織り、妻は變り果てた姿になつて河に浮かんでゐた。夫は妻の體を抱いて泣きたが、妻は變り果てた姿を切りこま裂いて、肉は團子に、筋はそうめんにして残らず喰べて了つた。いよいよ妻を獨り葬るに忍びなかつたから。その日が七月七日の事、七夕はそれから始まつた。今も團子とそうめんを供へて喰べるのもその爲めである。陸中の遠野では昔から民間で、かう云つて七夕を説明してゐる。

東北の農民の天候に対する歡きは今に



鹽釜甚句

ハットセといふ掛聲は節りの間拍子から生れたもので、相當賑やかなところからハットセ節でも通るのだ。由来鹽釜は仙臺領内唯一の保護港として漁船材木船等の出入多く、また此處石巻のみ許された數艘も、その昔數十軒を數へ繁榮を誇つた時代もあつたが、維新前後全く衰微し、この歌も共に忘れられたのを、五十餘年前第一次築港の機運に乗じて再び今日の盛況をとり戻した歌で、鹽釜の盛衰運命を共にする因縁つきのもの。三代綱村公時代の粹人の作と推定されてゐる。

觀光の東北

足輕組が住んで居つたところで、それで二十人町と呼んで居ります。この北側には鐵砲組の住んだ鐵砲町が御座います。仙臺には二十人町の他に五十人町六十人町、三百人町といふやうに御足輕の住んで居つた人數をその儘町の名としたものが多くあります。櫛ヶ岡公園 此處が櫛ヶ岡公園で御座います。左手のお堂は釋迦堂と申しまして元祿八年に伊達綱村公が當時の金で二萬五千兩を投じて造つた立派な御堂でありました。御本尊はその名の通り御釋迦様で御座います。昔はこの邊一帶に櫛や楓が澤山植ゑられてありましたが、今日ではみな枯れてしまつて櫻だけが残りました。この見事な櫻の木は樹齡數百年以上を經たもので御座いまして、一度野火のために焼けて二度目に植ゑられたものなさうで御座います。これは京都加茂川附近にある櫻と同一系統のものでありまして、枝垂になつて居る點特に御注意を願ひます。春萬葉の花のトンネルと化したときの素晴しさを御想像下さいませ。歩兵第四聯隊 あれは歩兵第四聯隊の兵舎で御座います。歩兵第四聯隊は日清日露の戦において大勳功を樹てたは餘りにも有名なことで御座います。満洲事變の始め、當時多門師團長の下

に守備隊として駐屯いたして居りました。大活躍をなし、今日の滿洲國の基礎を作つて凱旋したので御座います。この兵舎の東には萩で有名な宮城野原が御座います。この萩は京都の御所にも移し植ゑられたことがあり俊成卿の歌にも

露しけき宮城野原の萩さかり 船の上に玉ぞ散りけり

始まつた事ではなかつた。科學の無かつた上代には農作物を神に頼る外はなかつたであらう。タナバタは農作物を守る神を迎へるための新しい衣を掛ける機織であつた。これが乞巧奠の習俗が渡來する以前の古い七夕の姿であらうと思ふ。七月七日頃是一年の作物が成功するか否かの岐路に當つてゐる、東北の東海岸の村々では七夕の日に眞鍮や産で作つた馬を家々で棟の上に乗せ、神はしが今も行はれてゐる。神様は深夜のこの馬に跨つて田や畑を見廻つて下さるのである。萬一その姿を見れば死すといふので、この夜は家々相戒めて決して他を出さない。又七夕に雨が降ればその年は不作といふ、七夕の果てた後、笹を畑に立てれば作物に蟲を生じないといふ信ぜられてゐる。今の仙臺の七夕は祭りの社會的發展云へるが、昔は笹へ付ける紙細工を六日の未明、室内の燈を消して作るのが習はしであつた。たゞ、神を迎へる爲めの習俗の断片であつた。紙を染めるには必ず茄子の汁を用ひ、墨汁は朝早く芋の葉の露を碗に移して用ひるなど故實が多かつた。又幼き子の衣裳を笹に吊して後着せれば健康やかに育つといひ、笹を七日の朝河に運んで流すのも祓ひの遺存であらうと思ふ。華やかな仙臺の七夕の裏には、さうした東北前代の歡が秘んでゐるのである。河北新報社が仙臺商工會議所と共に毎年仙臺全市の七夕飾付コンクールを主催してゐるのは舊藩以來の美しい行事を保護して觀光日本の一異色とするに止まらず實は東北前代の姿を永久に記念するに在る。(文藝春秋八月號所載)



松島

〔名産品〕松島やき、竹工、目細工、牡丹、菓子(紅蓮せんべい)...

〔行事〕燈籠流しと花火の會、毎年七月十六日(菫祭)...



〔傳説〕松島御船歌、慶長の頃船口説をこり入れて遊宴の歌謡とした船歌を伊達守和島...



觀光の東北

右衛門を伴ひ松島遊覧の際海上で歌はせられたのが御船歌の初めである...

産物木細工の工場があります。只今通つて居りますのが片平丁と申して...

仙臺市動物園、この廣瀬川淵の廣瀬は評定河原、むかしは伊達家評定所がこの近く...

しました。この橋の上下に大小さまざまの深い淵がありまして、廣瀬川の景色を一層奥深いものにして居ります...

お假宮いろは狐

承應三年三月青葉城主伊達第二代從四位下右近衛權少將陸奥守忠宗卿が下野の國久能山日光の東照宮に撰して巨財を投じ、仙臺城下の東北、玉田横野に連なる...

源兵衛淵の鰻

廣瀬川米ヶ袋近く源兵衛淵にはもの凄いい物語りが傳へられてゐる。五月雨続きに水増した廣瀬川の畔、米ヶ袋に住んでゐた源兵衛の夜の戸をノック...





この夜だけは厚着で寒行な... 葦かぶりをして抜いて冷たい...



響はかくて濡りなく夜明けまで續いた。昭和一一・一五河北紙所載

さんさしぐれ(二上り) 天正十七年六月藩祖政宗が會津...

す。あの停車場は北仙臺驛でございま... 仙臺と山形市を結ぶ仙山線が通つ...

のものとございす。此處は札場のほ... か昔から奥州街道の里程元標となつて...

市役所 あれが仙臺市役所でございま... 市工獎勵館 こちらは宮城縣商工獎勵...

右の遊覽パスのコース外に置かれてゐる仙臺... の名所を二三補足する必要がある。

枝を力にヒラリとばかり邸内に忍び入り... 周防の癡所を襲ふてこの首泥棒...

痛に病んだ。斯くも聞いた庄八の竹馬の... 友、齋藤外記は東役に向つて...



ついで、菅野の時雨ぬれかゝるら... 初めは扇で拍子をついたり、一節...

大町五丁目より驛前へ 皆様只今迄い... る。仙臺の状況に就いて御案内申上...

大崎八幡神社 驛の西方八幡町の奥に... ある。慶長七年仙臺開府と共に米澤...

金華山 北上山脈が太平洋へすべり込... んで牡鹿半島となり、その東端海上に...

おいとこ

現千葉縣山武郡千代田村白樹衛木保家の娘を歌つたものといはれ九十九里沿岸に流行、天保弘化の頃には江戸から東北に流れ込み現在は殆ど仙臺地方特有の形となつたもの、細の腰襷がか伊勢屋まかお梅女郎衆とか歌はれるやうになつたのは明治以後で、下總邊に遺る古い歌詞には白樹屋の娘お小夜としてある。

わしが國さ(小唄)

わしが國さで見たいものはむかし谷風いま伊達様様ゆかしなつかし宮城野信天うかれまいぞ松島はまじり

仙臺驛 前六四八(省線がソリノカー) 七二二 鹽釜着 前八〇〇 (石巻合同着船) 同港發 正午(見物) 後三〇〇(渡船) 山島渡着 同三二〇



遠島甚句

松島甚句、島甚句、濱甚句、石巻甚句等々も言はれるが、これ等の名は後世のもので、もとこの頃は遠島甚句であり、牡鹿半島金山山附近の部落が發祥地である。繪巻の響きと掛聲がこれを作上げたもので、所謂甚句の影響はななく宮城縣一帶獨特の姿歌になつてゐる。

石巻市

人口 三三、五二八人 戸數 五、七二六名 [名産品] かき鮎、もなか [行事] 川開き(毎年八月) [藝妓] 七二人、玉代(三〇分)

觀光の東北

黄金をこの山から採つて獻じたことから黄金山、或は金山と呼ばれるやうになつたのである。この島に鎮座する黄金山神社はすでに千二百年に及ぶ歴史を有し金銀財寶の守護神、漁業を豊かならしめる施福の神と崇められ、昔は白衣に手甲脚絆の金山詣が厚き信仰の一念から名にし負ふ荒浪を厭はず引切りなしに渡つたものである。

更にまたこの島の景観は飽まで豪壯雄大で、或は全島を覆ふ鬱蒼たる林相や、親潮黒潮の交流に影響された動植物界の現象異變を檢討するもよし、十九峰、八十八溪の峰谷を駆ける鹿の群子を抱く野猿が路傍に木の實を拾ふ姿などの原始さながらの風景は、松島の女性美と絶好の對照をなすもの。またこの島は由來近海漁船、日米航路の標識的存在で世界的漁場、金山山沖の名と、此處は日本最東端であつて、所謂太平洋問題に登場させられる關係など旅行者の興味と注意を喚ぶ種々のものを持つてゐるのである。

縣社金山山神社 船着場の龜割棧橋から岩を割つた新しい參道を登ること一軒、山の中腹に位してゐる。延喜式神名町記載の金山山神社であるといふ。金山山古命と金山山買命を祀り今より約千二百年前の創建である。永萬の頃

殿下御命名の無双峰を下つて再び社務所に着くのだが、例の野猿や鹿の戯れる姿はこの途中に見受けられる。石巻市 往時仙臺藩における唯一の貿易港として千石船の出入頻繁に行はれ大江戸の市場を賑はした仙臺米を始め當地土産の物資がこの港から積出されたものである。

の古い船唄にも知られるその昔の水郷石巻の繁榮の素晴しさを、現在近代的交通機關整備の下に更に擴充し、四萬に近い人口を擁して宮城縣第二の都市として充分の實績を備へるに至つた。日和山公園 北上河口に臨む海拔一二〇米の高地、山、海、川、田園、市街を一望に併せ眺め得る、白砂青松続く汀の彼方遠く宮戸、不老山の勝景を前面太平洋上に望み白帆漁船寄する北上河口の賑ひが脚下にある。この地はもと南朝の忠臣葛西氏の城址であつた。園内に縣社鹿島御兒神社が鎮座し、社務所内の迎陽閣は現在休憩所として公開されてゐる。なほこの公園は春から夏にかけて櫻、躑躅、さつき、牡丹などの百花に燦爛の美を展開し行樂の人足絶えることがない。

金山山大金寺と改めて眞言宗のお寺に變つたが、明治二年神佛混淆を禁ぜられてより神社に復古した。由緒あるこの建造物は屢々火災に罹り現在の社殿は明治三十年着工大正十五年落成のもので、神殿、中門、拜殿、寶物殿、社務所、廻廊、洗水舎、繪馬殿が斧鉞を知らぬ原始林を背景として境内に並び壯嚴の神氣を漂はせてゐる。

お山めぐり 探勝するには神符授與所で十錢の觀覽券を買へば案内人が先導して呉れる。日歸りは表廻りとして稱する頂上までの往復だ。頂上まで二軒往復約一時間、先づ社務所から滑石神社、清水石、水神社、飛石、大海祇神社のある頂上に達する。海拔四四五米廣闊たる視野の中には絶海に孤立するこの靈島のみが持つ神秘の壯觀が此處に展げられるだらう。太平洋涯しなき彼方の水平線は雲の間に消え、牡鹿半島の山並みから奥羽の連山の模糊たる姿そして近く點在する島、船などが箱庭のやうに見られるのである。山階宮

金華山大金寺と改めて眞言宗のお寺に變つたが、明治二年神佛混淆を禁ぜられてより神社に復古した。由緒あるこの建造物は屢々火災に罹り現在の社殿は明治三十年着工大正十五年落成のもので、神殿、中門、拜殿、寶物殿、社務所、廻廊、洗水舎、繪馬殿が斧鉞を知らぬ原始林を背景として境内に並び壯嚴の神氣を漂はせてゐる。

田代島流人 流刑の罪名は大寶律令に始まり明治六年に終るやうに見える。その間一千七十年の久しきに渉り律令の改正屢々屢はあつたことではあるが、流刑の罪名は依然として繼承されたやうである。伊達氏對土を鎮するに至り江の島を重罪の流刑地と定め、田代、細地、長渡を重罪の流刑地と定められたのは律令の近流、中流、遠流の法條に則つたものであらう。同じく流人といつても配流者中には一門一家の門閥もあつたらうし高徳碩學のもの、善智識の傑僧、無類の覺漢、破倫の不貞女もあつたらう。これは同一罪名でも、身によつて所刑中の待遇を異にし、藩籍にある士族と其他の平民とによつて同一ではなかつたらうか。これ等流人は如何に取扱はれたらうか武士に就ては護送の際田代までは武士の資格にて足輕二入附添の上(帶刀を禁ず)狐崎組大肝人より船夫にて當肝人に引渡される。その後伊達しがあり罪人に引渡さるゝ二人扶持外に木代として一日六文を給せ當日には道具代として手形二枚半を給せらるゝのであつた。現在の仁斗田阿部久作氏の宅地には上長屋四間に二間のものを二分二室として待長屋とし、これに續いて六間に二間のものを三分三室として町人百姓の因習所とし、その長屋の一室に二三人宛居住すべき制のやうである。長屋の兩方二間の所に三寸角にて造れる圍牢があり、二間に一間を四分四室として矢張り武士町人を區別し、仲間同志の喧嘩、在家に對し悪事を働きたるものはこれに入れ前罪を悔いたものは之を許し到底改心の見込なきものは遂に送還したることだ。

住吉神社 石巻驛より東六丁のところ昔語りにはゆるり袖の渡の場所ので住吉町の南北上川に沿うた丘陵にあり八雲神社を合祀され、その頂上には愛宕神社が祀られてゐる。境内に老松白梅の木立多く、梅薫る月の夕や翠松に涼む夏の宵の賑ひは格別、朱塗の橋を渡ると御島で突端に巻石の奇勝がある。鳥帽子岩とも呼ばれ、この石の附近は古の眞野川、追川の水が逆流し海水が激しい渦紋を作るところから巻石の名があり、更にこれが石巻の町名の因をなしたと傳へられる。

皇子社 皇子社 驛から東十八丁の湊町、大門崎の北麓に在り、後醍醐天皇の皇子護良親王の御陵を祀る、史實傳ふるところでは、建武二年淵邊義博は親王を奉じて秘かに鎌倉を逃がれこの地に前後五年間御避難の蟄居あらせられた上、正平元年親王病を以て薨じ給

四五五

方に着く荒蕪に塵せしめ目安狀即ち今の判決文を讀取らせ當島の取役をその繩を解いて一時組頭に引渡す。これを大宿と稱へた。組頭は組合中のものに選出され小宿と稱へた。これよりその構造前に記した町人百姓因習の凡下屋に引渡し室長が扱ふこととなる。これは一人扶持、木代、道具代等の給與その他給與と同様であるが身寄なきものは仕着せし稱して年末には湯より着物を給せられてゐる。當島の長屋の屋根は葦葺で室内は板敷の制であるが餘財あるものは眞野を購ふて敷いてあつたことである。罪人が死亡するその筋の検視を受けねば埋葬することが出来なかつたので、検視人の來島を待たねばならず従つて幾日も埋葬せずにおくことがあつたやうに流人には「島の格式」といふものが定められてゐる。

- 一、船に乗換義者勿論海邊へ備出釣魚等之懸一圓仕問敷事
- 一、用事無之候而酒々之者共方へ出入仕問敷候用事有之者流人落付之宿を以組頭方へ申出肝人方之可申候事
- 一、用事在之落付之宿方へ用之品申出候共夜中は相控申候急に不申出叶事候候は、其控申問流人之爲中間燈灯にて可申出事
- 一、流人仲間にて用事在之者共相交出仕問敷事
- 一、酒々の者共用事無之御小屋へ罷越候は、片時も指置申問敷事
- 一、少分之物成共流入人家へ商賣一圓仕問敷候手作之草履、わらじ等賣申問敷候落付之宿願相控申候御小屋より直に賣仕問敷事
- 一、御小屋隣之流入申入島の格式に背不行跡之懸在之は中間より謔言可仕

水) 大六五艘、小五〇艘、初塵敷三本  
〔遊覧〕 一軒、娼妓二人



石巻船唄

大門崎からアリア沖見れば何處の船やら艦艇んでヤサホ〜と巻いて来る早くコラシヨ寄せたいコノタイスコトロボ石の巻アラナン ドン〜 オウライジヤチン〜  
お牧山から渡波見れば十六七のあねさんが赤い襦をあやにかけ万石浦であさりかき

北上流し網唄

石巻附近漁又船田邊の人々が北上川に小舟をあやつり乍ら鮭漁の漁し舟に唄ふ。  
よしよしよしこの中のがららに(行々子)華を別れて何處に菓をかけるヤ  
石の巻 高さも高い日和山見

うたといふ。  
世界一の巽大佛 この工事が當石巻雲雀野に工事進行中である。奈良の大佛より高きこと七丈四尺五寸、實にその二倍半といふもので、國家鎮護海難供養萬靈追善の目的で完成が鶴首されてゐる。

第四日

一ノ關町 仙臺と盛岡の中間に位し、街路整然、各種官公衙、學校、銀行會社を網羅し、あらゆる點から盛岡に次ぐ岩手縣下の重要都市である。天明二年坂上田村磨の末裔田村右京太夫建顯公(三萬石)此處に移封せられてより二百三十年、連綿として維新に及んだ。高崎城 町の西方にあり、安倍貞任の弟磐井五郎宗任の居城であつたが、城址今は釣山公園(又は一ノ關公園)となつた。頂上千疊敷と稱する平坦な所にある。尚壘壘を有してゐるが、大正十二年田村宮を遷した。田村磨を祀つたもので延暦年間東夷京師を犯さんとした際田村磨これを討伐し東夷の地も王化に潤ふに至つたところから居館高崎城址に祠宇を建て田村神社と稱したのである。眼下には清冽磐井川の流れを見、西は蘭梅山や、須川岳を眺め、更に遠く岩手室根の靈山を望むことが出来る

展望公園として東北有數である。六角堂(經堂) 驛より西南十二丁祥雲寺境内にあり、文政十一年龜山和尚の建立にかゝり、盛岡齋藤安五郎の作るところ八角輪轉の堂宇である。一切經五千四十八卷を蔵し精堂は五間四面、漆喰花壁で入口には左に普童子、右に普照童子の像を安置する。題額は下野温泉寺唐人願王の書、地方比類なき堂宇である。

願成寺 臺町裏にあり、開山は梅榮元香禪師、開基は竹内興田盛輔卿である。本堂に安置される藥師琉璃光如來は大同年の勸請にて慈覺大師作の秘佛と傳へられ、古來地方人の信仰篤く、參拜者の絶える時がない。なほ宏壯を極めるこの堂塔伽藍は五百餘年前の建築である。

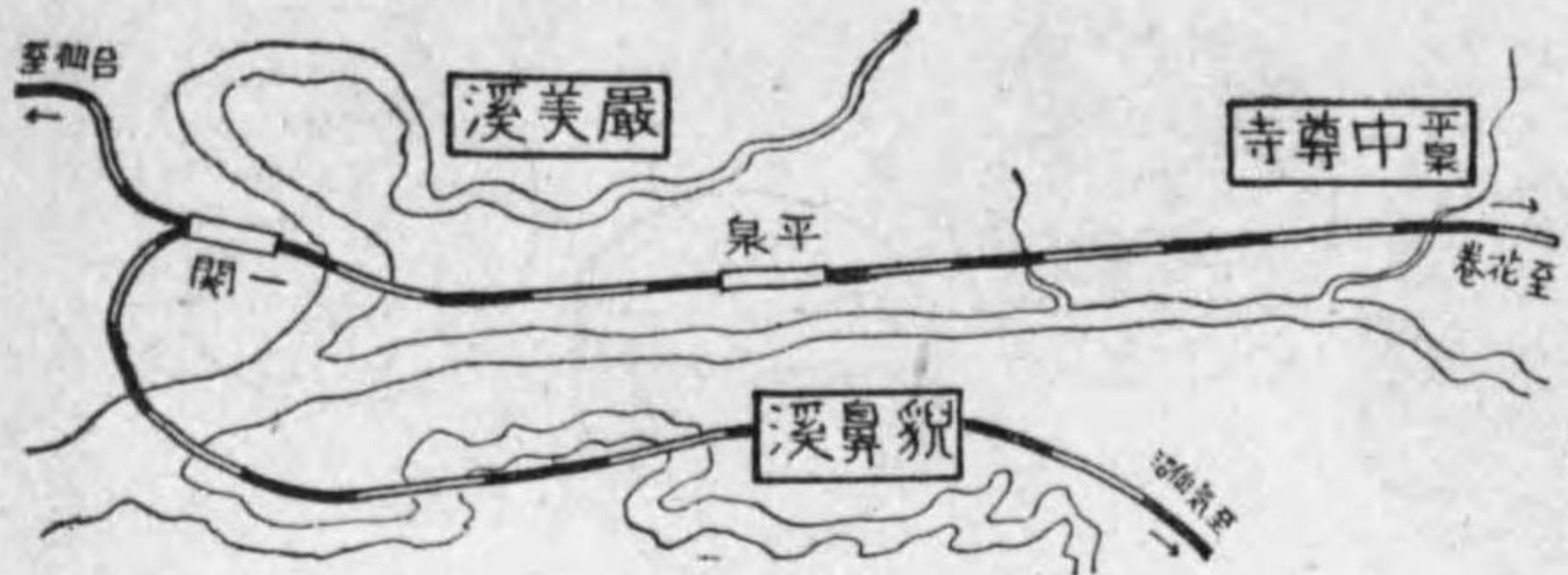
嚴美溪 須川岳から落ちる磐井川が幾多の小川をあつめて東へ走り、嚴美五串に來て溪流と變り、木曾のり寢覺の床と並び稱する天下の奇勝を展示する。即ち嚴美溪(又は五串の瀧)である。勝城は天工橋の上下數丁に亘り河心に蟠居するさま、累岩清流を扼して十の飛泉と四の深潭を作る、花に、青葉に、紅葉に蓋し造化の神技の極致を見るべきところ。明治十四年北白川宮殿下台覽遊ばされてより御覽場

候者承引不仕候は、其品可申出候事  
一、流入之内領死仕候者不及申急病相煩申候は、速に流入中間より組頭肝人方へ可申出候事  
一、流入中間にて萬一喧嘩口論等仕候者、在之者合小屋流入取おさへ可申候共堪忍不仕候は、早速流入中より直々肝人方へ可申候事  
一、流入親類音承に島へ不罷感管に候得共其罪不及罷者在之候は、審付之者より組頭を以て早速肝人方申聞宿等之義共肝人指圖次第可仕事  
一、流入身持格式等之義肝人組頭方より申渡候を相申聞候諸事支配頭同然に指引可相請事  
右之通島々控にて流入に被相下度毎肝人手前にて爲讀聞候事  
天明五年閏五月

「鳥の格式」以上の如きものではあつたが離島への手薄し肝人組頭島民の憐愍の情流入の長屋生活の苦惱は遂に嚴格に「流入鳥之格式」に違ひ終せべくもなかつたらうか、或は情に泥み或は故意に違走せしめたる例もあつた位だから海邊へ出たり、釣魚をしたり、自由用事を許したり、物の買賣をしたり、果は農耕米場に手傳つたり賃金をしたり、果は島民の造作などに手傳つたり等して宿の者共へ自由出入りして月日を過すといふ有様たつた。わけて教育ある武士の如きは後の子供を集めて武藝學術を傳へ清水平太夫の如きは諸種の威化を與へ全島の文物を助長したといはれる。

源頼朝の平泉征伐

文治五年七月十七日源頼朝總軍二十八萬四千騎を率て鎌倉を出發す。軍を三手に分ち東海道の大将は千葉常胤、八田右衛門尉知家の兩人、各一族別に常胤下總の勇士を以て宇太行方より岩城岩崎を経て阿武隈川を渡り宮城國分の地に赴かしめ、北陸道の大将は比企能員、宇佐美實政、上野國高山小村大胡左衛門入衆を催し越後より出羽の金珠ヶ關(鼠關)に出でしめ、中軍は頼朝自身大將となり、畠山重忠を先陣として進發したり。奉衛これが防禦として出羽に若干の兵を出し専ら伊達の木戸即ち厚樫山(又國見澤ともいふ)竝に山内三十里に渉る間に兵を配り、阿武隈川の流を引きて五丈の壘を構へ西木戸太郎國衛大將たり。金剛別當秀朝其子下須房太郎秀方以下二萬騎之に當る。刈田郡に城を構へ、又名取、廣瀬河に大繩の柵を引き奉衛自身は國分原權橋に陣し亦栗原三迫、黒岩口、市野邊の地には若九郎太夫餘平六を大將軍さなし已下の郎從數千の勇士を配す。田河太郎行文、秋田三郎政文を遣はして出羽國の警固たらしむ。八月七日甲午頼朝阿津賀志山の邊國見澤に着す。此日雷鳴甚しく放雷轟轟し。上下恐怖の思ひをせりといふ。八月乙未卯刻畠山重忠、小山朝光が加藤景廉、工藤行光周同祐光等始め諸會せず、秀朝等これを防ぎ、大軍襲撃甚しく日刻に及びて遂に敗退し、大木戸に到る。大將國衛代りて衝に當る。奉衛の從士信天の佐藤庄司元治、叔父河邊太郎高綱、伊加良日七郎高重等石郡坂の上



渡せば 向ひは港お船入り 雨が降る 船場に笠を忘れて来た笠も笠 お江戸ではやる笠の笠石巻駅前 八・五二(第三三列車) 小牛田着 同九・三二(乗換) 一關着 同二(天(嚴美溪後、達谷窟毛越寺、平泉、祝鼻溪見物) 平泉着 後三・五五(第三三列車) 花巻着 同五・二二(温泉電軌) 花巻着 同五・二二(温泉電軌)

花巻温泉着 同五・四四(見物宿泊)



遊覧 紀念

毛越寺 達谷窟から約四軒で毛越寺に着く... 蓋し前の窟に次に来る平泉と共にこの地方を...

毛越寺の御説明致します、御開山は嘉祥三年慈覺大師今から千八百六十六年前...

これが有名な芭蕉の碑であり元禄二年五月今より二百四十七年前芭蕉が荒廢せる史蹟を...

隆寺といふ救額を掛け、傍に文治五年七百四十七年前頼朝卿より賜はりし寺領安堵の壁書を掲げてありましたが、...

に陣し、阿武隈川の水を引き入れて備を引き石弓を張りて相待つ。常陸人遠道西其子常陸冠者宗次郎、爲重三郎資綱、...

平達高の泉

一ノ關町 [名産品] 桐下駄、茄子甘露漬、田村の梅、辨慶の力餅...

千福山 日本最古の産金地として知らる、岩手縣に欠くことの出来ぬ民謡...

ひと傳へて居ります。本尊は丈六の藥師如來日光月光十二神將運慶が三年を費したる力作にして精巧を極め端嚴にして他に比類なく又内陣外陣には廿八本の莊嚴の七寶卷柱梁には數百の天女舞樂の體を彫り四壁には華麗なる佛畫を描き天井には閻浮金を以て五部の大乘經を蒔繪にする等、全く目を眩ますが如くなりしと吾妻鏡に記されてあります。文治五年九月頼朝卿當寺に參詣せられその莊嚴富麗にして實に吾朝無双の精舎なりと嘆稱せられた上深く歸依し寺領を保護されたのみならず後屢々國費を以て堂塔を修理されましたが、惜い哉嘉祿二年十一月今より七十年前野火に罹り巨大の伽藍も烏有に歸し、今は僅に五尺餘の礎石五十餘を存し當時の雄渾を物語つて居るのみとなりました。本堂の左右から廻廊があり右の端池の汀に鐘樓、左の松の木處に鼓樓が建つて居りました。本堂の周りに廻廊の兩側に雨打石が敷いてあるのを昭和七年發見し、櫺の見える所は参考に寫した部分です。

今に傳はり毎年正月例祭の時勤修して居ります。その直ぐ右に天正年間焼失せる法華堂跡があります。それから圓隆寺の左後に講堂跡がありこれは奥羽兩國の僧侶灌頂修行の道場でありました。その左の杉の立並んでる處が嘉祥寺跡であり嘉祥三年慈覺大師の創立自ら藥師如來を刻んで安置され遙かに帝都の鬼門に當るので鎮護國家の道場としのち仁明天皇が嘉祥寺と云ふ寺號を賜つたもの基礎再建しその構造偉麗なること圓隆寺を凌ぎ四壁及び三面の扉には法華經二十八品の大意を描いたと申します。その前に壹本松のある處が經藏跡で三代將軍の奉納された三種の一切經を藏して居りました。さきの講堂、嘉祥寺、經藏は共に嘉祿二年の焼失であります。一番左端の瓦葺の建物に靈寶館で大正十一年校倉式に建ててあります。明治天皇天覽されしことがあり當時の遺寶中特に優秀なる佛像が古文書寫經等總て全盛時の偲はるゝ寶物百餘點陳列してあります。それから五重の塔は大泉池の右端の森の中にあり、今聖山塔跡となつて居ります。後の小高い山は塔山といふ法華經一字一石塔が立つて居た山です。この境内は

七ヶ度に及ぶ。然るに金十郎戦死するや皆敗績し、勾當八、赤田次郎已下生虜三十一なり。十一月戊戌頼朝船泊追返り還留す。重忠國衡の首を獻じ黃た御威を蒙る。和国盛、重忠の功にあらずる旨を述べて相争ふ。十二月己亥河村千鶴丸の戦功を褒して首級を加へ河村四郎秀清に賜せしむ。山城権守秀高の四男なり。この日夕刻多賀國府に着す。海道の大將軍千葉常胤、八田知重參會す。千葉太郎成胤、次郎師常、三郎胤盛、四郎胤信、五郎胤通、六郎太夫胤重、同小太郎成胤、同平次常秀、八郎相共して達磨渡を渡す。十三日頼朝多賀國府に休息す。この日比企隆四郎、宇佐美平次等出羽國に討入り奉衛する。十四日奉衛玉造郡にあり風説あり又國府中山の上物見岡に陣を取りたりとの報告あり。多賀國府より黒河を経て玉造郡に赴かしめ、物見岡を尋ねしむ。小山兵衛朝政、同五郎宗政、同七郎朝光下河邊庄司行平等各馳せて物見岡を圍む。大将既に通じて尋を殺し郎從四五十人を留む。防戦せりも難く敵すべくもあらず悉く斬獲せらる。二十日卯刻頼朝玉造郡に赴き、奉衛を多加波々城に圍む。奉衛已に去りて即從等を殘留すのみ。皆降人なる。葛岡郡より平泉に到る書を先陣の軍士に贈る。小山、重直三浦十郎、和田三郎等を見る。四郎、重直三浦十郎、和田三郎等を見る。各敵を退けて津久毛橋の邊に到れる時、敵は其所を避けて平泉に入らば二萬の兵を調ふる必要あるべしと申したるもこの事なくして止む。廿一日黃雨暴風奉衛を退けて岩井郡平



平泉

後に山を控へ中に泉を湛え前には森があり、林泉の雅致に富み何時も閑静森嚴なる靈感に打たる、誠に天然の靈域であります。中尊寺の方は藤原家の菩提所、こちらの毛越寺は祈願所になつて居り、東鑑に據りますと全盛時代毛越寺の方が伽藍の規模構造共に雄大壯麗だつたと傳へて居りますが、今は礎石を現存するだけで、平安朝末期における寢殿造りを調和せる純日本式七堂伽藍の遺蹟であり、全國唯一の重要な史蹟地として文部省においても管理保存に萬全を期して居る所でございます。それから三代將軍の居られた平泉館はこれから五丁停車場の北の方に續いて伽藍御所、猪間が淵を隔て、柳の御所と高館とを總稱したのであります。俗に奥の御館といひ、結構は御所を模して莊大なる居館を構へて居りました。が、文治五年八月七百四十七年前泰衡は鎌倉勢に攻められ形勢不利となるやあわて、逃げ、僅に郎従をして火を放たしめ、初代清衡公此處に居を構へてより九十六年、泰衡亡びると共に平泉館も廢墟となつたものであります。それから高館は平泉館中の高い處で、秀衡が義經公の爲に高館城を築いてこゝに居らしめ、遂に義經公最後の地となつたところ、當時は廣大なる地域であ

りました。今は北上川麓を洗ひ北方數百間崩壊し斷崖絶壁となり、高さ三十丈前に東稻山を擁し高層絶壁眺望甚だ佳く今館の上に現在義經公の墓が在ります。天和三年二百五十三年前伊達綱村公その上に御堂を建て義經公の木像を安置されました。明治九年七月畏くも明治天皇此高館に臨幸あらせられ毛越寺傳來の寶物古實音楽を天覽に供し奉り無上の光榮に浴せし聖蹟であり毛越寺の管理になつて居ります。

平泉

約八百年の昔、藤原清衡の治府だつた奥州平泉、王室を凌ぐ宮、白河以北縱横一里の所領を以て盡した三代に亘る豪華の香りが、いまは一本一草の葉末にまで滲み渡つてゐるやうな氣がする。華やかなる者著れる者の末路はゴロマンティックな文學的ものはない。響へていふならば藤原三代の榮への夢は、ひゞ頭沈む夕陽をさへ招き返した平家一門のそれであり、そして今に残る虫語の數々は、以て哀、奈京良の古雅その儘さも言へる。例によつて案内に説明を頼むしよう。

此處は中尊寺表參道入口であります、これから御案内致しますが、この坂道は二丁程続きます。この邊一帶は昔から月の名所として知られたところであり、高館に居られました義經公などは月の夜一管の笛を携へて逍遙せられたといふ傳説も残つて居るところで、そ



れが爲か、月見坂といふ名を残して今日に至つて居ります。これで坂を登り終りました。

この右手にあるアツマ屋は當山第一の展望臺でありますから一寸御立寄り願ひます。前方河をへだて、そえびて居ります山は昔ながらの東稻山一名東山でありまして、こちらに布を引いたやうに南流してゐる川は北上川であります。この川は昔は東稻山の麓に於いて流れ而も河の岸や山の麓には數萬本の櫻が植ゑられて花時はその花散つて流るゝ有様、川にうつる状態が大變美しかつたので、特にこの邊に限つて櫻川と申したのであります。西行法師が、「聞きもせず東稻山の櫻花吉野の外にかゝるべし」とうにうたはれたのもこの地でありまして、そゝ御歩きを願ひます。この左にあります御堂は辨慶堂で本名は地藏堂即ち將軍地藏尊を御本尊にいたしてゐる御堂であります。武藏坊辨慶等身の木像を安置して居ります。右に地藏堂左に樂師堂が見えて居りますが、又前方右手土堀に圍まれてゐる境内が所謂中尊寺、本坊で御座います。とにかく本坊に御立寄りを願ひます。正面の建物が本坊であ

りますが御本尊は國寶丈六の阿彌陀如来さんで御座います、この庭の右左に立並んでゐる松の木は御手植でございます。即ち大正天皇様今上天皇陛下そのほかかくの如く多數の宮様方の御手づから御植ゑ下さいました御記念の松の木でございます。さあ本堂に御入りください。御茶を召上りながら御聞き願ふことに致します。中尊寺は今から約千八十年前仁明天皇の嘉祥三年慈覺大師の御開きになつた山であります。今日に至つて居ります。長い年月の間には種々なるうつり變りがありまして最も榮えましたのは今から八百四十餘年前藤原清衡公がこの平泉に居を定められました。南は福島縣の白河の關から、北は青森縣の外ヶ濱に至る所謂今日の東北地方を御治め下さつた時から三代約百年間將軍家の菩提所として經營された時でありまして、この山内に三百の僧坊と四十餘宇の堂塔が建て並べられたのであります。うつりにうつり、變りに變つて今日ではこの寺が總本坊で、このほかに山内に十七の御寺と二十三程の御堂があり、それに國寶建造物三棟、その他の國寶二十五種三千數百點を蔵して所謂中尊寺一山が形作られて居るのであります。これから

泉に向ふ。泰衡の郎従原部三迫においで防戦し、若次郎は三浦介に誅せられ、九郎大夫は六郎朝光に討たれ。此外郎従悉く誅せらる。殘る三十餘人を捕虜とす。頼朝松山道を経て津久毛橋に至る。廿二日、其雨申刻泰衡が平泉館に着す。廿五日、泰衡を所々に搜尋す。この日千葉六郎大夫胤頼を衣河館に遣はして前民部少輔基成父子を召す。基成降る。子三入これに従ふ。廿六日、早晩一封の書狀を投じて行けるものあり。泰衡の書狀なり。比内部にあるを知る。九月二日、頼朝平泉を出で、岩井郡河の邊に赴く。泰衡の潛伏せる所を尋ねるなり。三日、泰衡郎部に赴き郎部河田次郎を呼び肥内郡費備に至る。河田次郎其臣と共に泰衡を圍みて其首を斬り之を頼朝に献ず。泰衡時年二十五。四日、志波郡に着す。俊衡比爪館を燒きて奥方に走る。三浦義澄、佐原十郎、三浦義連、藤原村等をして之を追撃せしむ。頼朝陣岡縣社に陣す。六日、河田次郎主人泰衡の首を持ちて參陣す。梶原景時これを奉じ義盛、重忠をして寶藏を加へしむ。因入赤田次郎を召してこれを見せたるにその相違なき旨を答ふ首を義盛に預け景時をして河田次郎に仰せしめ、朝光をしてこれを誅せしむ。横山野太夫經兼の曾孫小權守時廣に仰せあり、時廣の子時兼景時より泰衡の首を請取り郎従仲俊、七太廣朝をして長八寸の鐵釘にこれを懸けしむ。七日、宇佐美平次實政、由利八郎を捕虜にして陣岡に參す。天野右馬允則景時其功を爭ふ。頼朝行政をしてその實否を正ししむ。梶原景時、由利八郎を訊問せしむ。禮なし、怒りて答へず。更に畠山

重忠をしに調べしむ。重忠懇切を盡す。黒絲威甲、鹿毛馬に騎す。廿八日、これ實政なり。九日、頼朝降社に詣陣す。近傍に高水寺あり。十日、中尊寺經藏別當大律師心連、頼朝の館に參じて懇訴す。安堵を與へる。十一日、厨河關より廿五里行程黃檗なるに平泉に着す。十四日、奥羽二州の省張田文已下の文書を求む。奥州の入禮前介實俊、弟藤原五實昌を召して仔細を問ふ。兄弟兩國の繪圖、諸郡分契を贈じ郷里田山野河海悉く明證を得、殊に御成ありて召仕はる。十五日、種爪太郎俊衡入道、第五郎秀衡降入る。俊衡の子三入太田冠者師衛、次郎兼衡、河北冠者忠衡、季衡の子新田冠者經衡等これに従ふ。俊衡師衛已に六十餘、一語も發せず八田知家供へて休所に歸る。俊衡法華經を誦するのみ。十九日、厨河を立ちて平泉に向ひ、逗留七日。二十日、諸將の勳功を記して恩賞を行ふ。畠山重忠に葛岡郡を賜ひ廿一日伊澤郡領守府八幡宮に幣を奉ず。廿二日、葛西三郎清重して奉行せしめ廿四日、平泉郡内檢非違使の事を司らしむ。十月一日、多賀國府に着。多賀國府において郡庄園所務の事務を地頭に仰含められ、中にも國郡士民を煩はす勿れと國費を費すべからずと一紙を府廳に張りて安堵せしむ。二日、因入佐藤庄司、名取郡司、鹿野別當等恩免を蒙り、各本所に歸る。廿四日、鎌倉に歸省す。「宮城縣通史」より





なまやま  
さるう休

多数の經卷を有してあります。そのはじめは一切經が三通り約二萬卷を蔵してあつたのでありますが、火災にあつたり或は種々なる事情のもとに散逸いたしまして現在は約二千八百卷を蔵するに過ぎません。この二千八百卷はこゝに現はしてありますやうに、三種に區別して見ることが出来ます、一つはこの紺紙金銀泥、つまり金銀書き分けの經文で第一代將軍御奉納にかゝるものであります。次は紺紙金泥で第二代將軍御奉納であります。これ等のお經は皆筆の先で書いたものであります。こゝに又斯様な版本のものがありません。これは三代將軍秀衡公が支那から御取寄せになつたものであります。當時支那は宋の時代でありましたので宋版の一切經と申して居ります。この三種合して千八百卷全部が國寶であります。なほこの御堂には國寶が多く、こゝに在ります八角の須彌檀經草髹架燈臺臺みな螺鈿の裝飾が施されてあります。それからこれは鎮守大將軍北畠顯家卿の御書きになりました中尊寺建立供養の願文であります。同じく國寶であります。この書は將軍二十歳前後の筆と思はれますが、將軍の誠忠がこの御筆跡にうかがはれます。いひしれぬ欽

慕の感にうたれるのであります。これから次の方を御案内いたします。この建物はその間に書いてあるやうに平泉全盛繪畫館と申しまして八百年前平泉の全盛状態を繪に現はしたものであります。左手に見えるのが白山神社で毎年四月二十五、六兩日能樂が催されます。この池の中の御堂は辨財天堂、こゝには有名な最勝王經十界寶塔の繪曼荼羅十卷が陳列されて實に精巧無比驚くべき作であります。こちらは寶庫であります。一寸御入り下さい、こゝは一山の寶物つまり國寶或は準國寶の一部を陳列してあります。皆札がついて居るので別に説明申上げません。たゞ此處に當山の秘佛一字金輪佛が安置されて居ります。只今御開扉いたします。この御尊像は當山の秘佛一字金輪佛一名人肌の大日如來と申上りまして、第一代將軍清衡公の守本尊でございます。當山には幾百となく佛像が安置せられて居りますが、私共の信仰の對象といたしまして又作といふ方面から見ましても當山隨一であるばかりでなく、實に全國でも有名な難い御佛像相格具足の御尊像として多數の信者を集めて居るものであります。



數人を容れ得る鐘乳洞窟を始め小橋溪、觀音瀧、馬車岩、錦標岩、毘沙門洞窟、櫻勝丘、壯夫岩なども相續く奇勝の繪巻物を繰り展ぶることが出来るのみならず、兩岸の斷崖から夏は無量の緑衣を纏ひ、秋は錦繡の絳色を倒影せしめて添ふる風趣は、以てこの地を超越境たりしめるに充分である。南岸壁の中腹が獅子の鼻に髣髴たるところからこの名が起つた。つはくらめひるがへりさび深あひの山さくらの花あせにけるかも  
若山 牧水  
この世のものと思へどはるかに  
相よむむ暫に來にけり  
齋藤 茂吉  
〔寫眞觀鼻溪〕

八之太郎の傳説

昔むかし陸奥國角部の柴内(一説に草木村)に翁さんといふのが住み、その中の一人娘お花といふのが郎には稀な美人なので村の若者達は折さへあれば立寄つたが、お花はテンドテ相手にならず、終にはその地方で鳴り響いた長者の家からは非息子の嫁に言つて來たさへも斷つてしまふ始末。  
村の若者達は不審に思つて、これには何か仔細あるに違ひない。嫉妬半分、ある夜のことお花の家のまはりを覗きこ

花巻町

〔名産品〕 花巻人形、田植師人形、鹿踊入形、森焼、花巻おこし、せんべい、鮎船漬、豆腐  
〔藝妓〕 四〇人、初座敷一時間、玉代一圓五〇銭、以上一時間毎に一圓増  
〔遊藝〕 貸座敷六軒、娼妓敷二四八、遊興費一時間一圓五〇銭、半夜(酒二本、肴四品附)二圓三〇銭、終夜(同右)三圓三〇銭



花巻温泉發前六、〇四(温泉軌道) 花巻着 同六、二四(乗換) 同發 同六、三二(第二列車) 青森着 後〇、三七(乗換) 青森發 同一、〇〇(省費バス) 葛温泉着 同三、三五(宿泊)

まだ、御目にかけていた箇所もありませんが、お急ぎのやうです。左様なら。

花巻 岩手縣神貫郡湯本村に在り、陸羽山脈の支脚、海拔四〇〇米の地で、西北は萬壽山、羽山堂ヶ澤山、小櫻山などの翠巒に抱かれ、涼々臺川の清流に臨み、葎蕪ヶ瀧、釜淵等の溪澗の景、幽邃の勝を擁する一方東南に開けた北上の沃野、田圃の彼方北上山系の連峯を一望に收め得る雄大さに至つては氣宇自ら潤達となり、其處に整備された近代的温泉花巻こそは東北が誇る歡喜の勝地だ。

温泉場 四圍の景勝に抱かれた約二萬坪の高原内に自然と人工の調和を盡し街路整然たる中に旅館、貸別荘、商店遊藝場、動物園、運動場、講演場等を巧に配置し東北唯一の本格的遊園地を形成してゐるのである。  
旅館 松雲閣、千秋閣、花盛館、蓬萊館など詳細何れも旅館案内の項にある  
その他の設備 公衆浴場、遊藝場(屋内遊藝場、屋外遊藝場、撞球室、ピンポン室) 郷土考古室、動物園、スキー場、ゴルフ場、講演場、大弓場、テニスコート、屋外運動場、グラウンド、プール、遊園地、釣堀、登山遊歩道、

花壇など。

附近名勝地 堂ヶ澤山、小櫻山、羽山萬壽山、石割松、釜淵瀧、緒ヶ瀨(葎蕪)瀧、紅葉橋、瀧見橋、月見橋、蓬萊岩、羽山神社、稻荷神社、瀧不動尊大日堂、八將神碑、追分碑。  
四季案内 櫻(四月初一五月初) 新緑(六、七月) 山百合(七、八月) 萩、友禪菊(九、十月) 紅葉(十月中旬一十一月中旬) なほ温泉效能スキーは別項参照

第五日

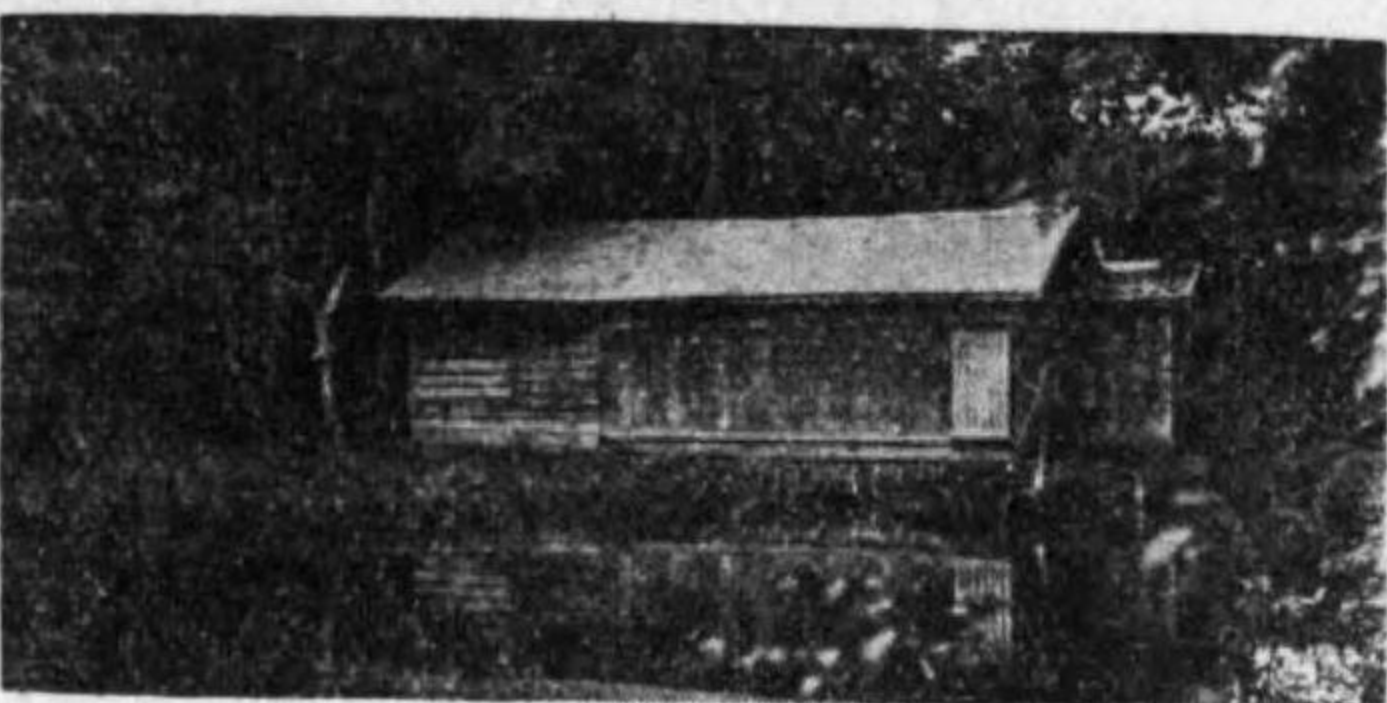
盛岡、青森などを見物する暇がない。これは別項の案内によつて他日に譲ることとし、特望の國立公園十和田の勝地へ急ぐ。  
十和田の美は、湖水のみならず、足るが、添ふるに幾多の山岳に亘る奥人の溪流がある。而も、行路を山岳地帯に求めんか更に添ふるに、八甲田連峯と、その環境の豊富なる高山植物群落と温泉と原生林とのあることを記憶せられ度い。一日の旅程としては目を見張らす風物にあまりに多く、経験せしむる情調のあまりに豊かなるに感嘆措く能はぬものがあるであらう。青森縣を發し八甲田山脈を経て十和田湖に出で更に毛馬内驛に達する路線、これを選んだのが省營自動車十和田線である。みなさまのスマイルなバスは颯爽と風を切つてこの路線を走つて行く。  
(仙臺省營バス案内書より) よつて再びこのバス線の説明を聞き乍ら今宵の宿葛温泉までを辿る。

に似た。やがて其瀧頭、西の方から一陣の強い風が吹いて來るよと思ふも、身なり腫したかぬ若い男が現はれてお花の家にスツツ入つて行つた。謎は解けた。お花には男があつた。若者達は誰れか男を知らなかつた。この得體の知れぬ男は一體何處の何者だ、一つ住家をつきまめやうといふことになつた。體て夜明けに問もない頃、男はお花の家を出てまゝ道を通へ去つて行く。若者達はすゞに追つた。男は風のやうに野を越え山を越えて遂に日本海岸に立つ。雲を呼ぶかと思はれ、共に手を舉げて雲を呼ぶかと思はれ、遂に雲が十尋の大蛇になつて雲に乗り海原指して消え失せてしまつた。  
男はそれ以來お花を訪れて來なかつたが村では大評判、お花の親達も驚いたがそれよりも一層驚いたのはお花自身であつた。大蛇の化身などとは露知らず由ある家の若者信じ切つてゐた彼女の腹には既に大蛇の胤が宿つてゐた。そしてやがて月滿ちて生れたのがこの物語の主人公八之太郎である。お花は八之太郎を生みおとすと同時に死んで仕舞つた。因果の子八之太郎は、でも祖父の愛を一身にあつた大蛇の子ではあるが自分の娘の遺見、それに生れた時から並はずれて丸々肥つてゐたのが、長ずるに従つて體格は益々衆に勝れ勢力あまくまで強かつた。  
八之太郎は今も立派な若者になつた。力は二十人分、仕事上手で、さし老いた祖父もこの分では安心して眼を瞑るこゝろが出来るといふものゝつた。こゝろがある日、八之太郎は友達二人と數日分の食糧を携へて鹿角の北にある言分山にマダの木々の皮を剥ぎに出て行つた。二日は何事もなく終り、三日目は八之太



大町桂月の餘村庵

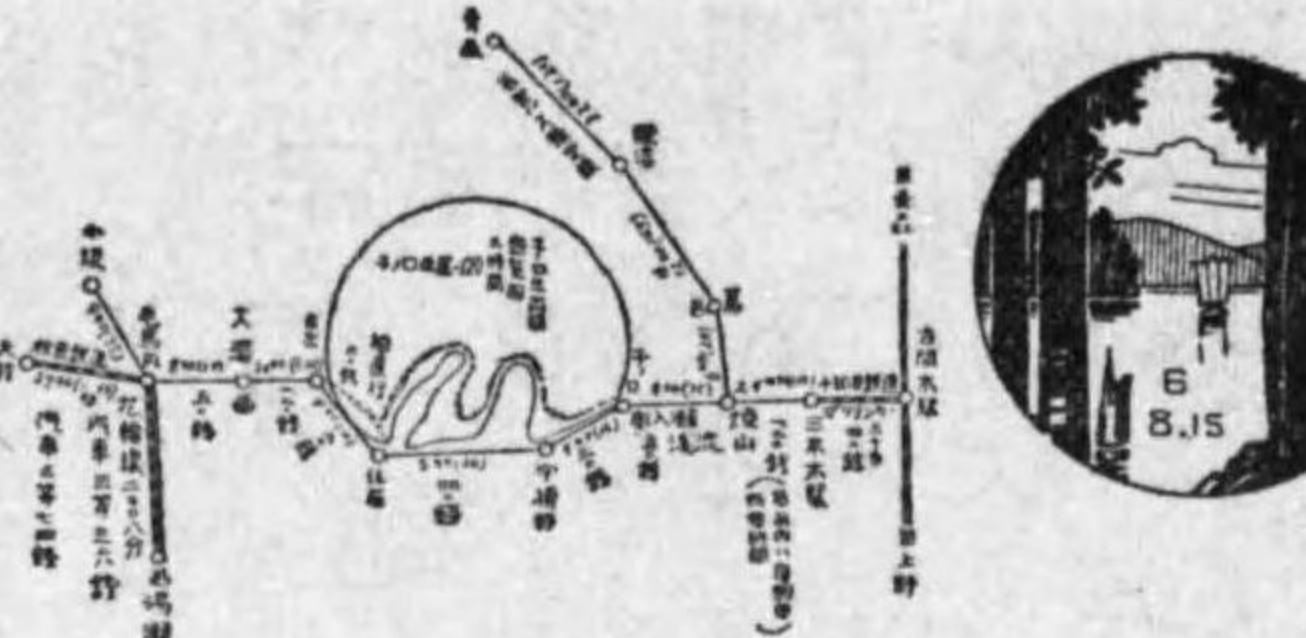
文豪桂月がこの地を愛する餘り晩年本籍をこの地に移したとき、地方の人から建築用材木の残りを貰つてこの書室を作つて終生の吾家としたところから氏自ら「餘村庵」と命名せるもの。寫眞、その餘村庵。



皆様お待遠様でございます。これから十和田湖畔まで御退屈に沿線の御案内をさせていただきます。正面の山は八甲田連峯で御座います。前方近く見える三角の山は雪谷峠と申しまして自動車は峠の右手の方を登つて参ります。十和田湖はあの八甲田の陰に當つて居ります。八甲田連峯は一千メートルの高地に八つの甲のやうな峯が立ち並んで處々に田のやうな沼があると、ろからこの名が出たさうでございます。此處は青森灣展望臺でございます。皆様眞下に見える海が青森灣でございます。右は下北半島、左が津輕半島、近く路駝の脊のやうに見えるのが夏泊半島でございます。津輕半島には日本三大美森の一に數へられるひばの林があり下北半島には慈覺大師の開かれた恐山と吾が帝國の空と海との護り大湊要港部がありなほ夏泊半島には椿で名高い椿山がございます。晴渡つた日には北海道の山々が津輕、下北兩半島の彼方の水平線に見られます。皆様右の方を御覽下さいませ。遙か雲上に聳えてゐるのは津輕富士岩木山でございます。弘前驛から麓まで約十二軒(登山の項参照)あり奥の日光と呼ばれる岩木山神社がその麓にございます。此處は見晴臺でございます。八甲田

連峯も目の前に迫つて参ります。一番右のなだらかな山は田茂藩岳、その左の路駝の脊のやうな山が井戸岳、その左は赤倉岳、前方の三角形の山は前岳でございます。アトの四つは大岳、小岳、高田大岳、石倉岳と申しますが、この陰になつて居るので此處からは見られません。のち程御案内申上げます。前岳の左の裾を下つた一寸小高い丘の眞中程に黒い柱に見えるのは軍歌でも思出される悲壯な雪中行軍の犠牲者後藤伍長の銅像でございます。銅像から三十丁ばかり東に田代といふ温泉がございます。この附近は萱野高原と申しまして海拔六百メートル、放牧地になつて居りましてあちこちに馬の群が見え高原の氣が満ちて居ります。では皆様、御承知でもございませうが雪中行軍の概要を一寸申上ませう。時は明治廿五年一月廿三日でございます。青森歩兵第五聯隊山口少佐以下二百十名が田代温泉に一泊、八甲田を越えて三本木平野に至る雪中行軍を決行致しましたが途中猛烈な吹雪に襲はれ田代温泉に達することが出来ず、途中に露骨致しましたが、翌日も吹雪は益々猛威を振りますのでその儘行軍を中止、原隊に引返すこととなつたのでしたが積雪既に胸を没し今日のやうに

郎が炊事の當番であつた。友達二人を仕事に送り出す八之太郎は炊事の支度にあつた。谷を下りて行き手桶に水を汲まうとした。こゝろに餘る大きな岩魚が三尾手桶に飛び込んだ。八之太郎は驚愕して小屋に持ち歸り、鹽焼にして一同の饗宴のおかづにしやうとした。がジン／＼焼ける鮮魚の匂ひを嗅ぐと堪えなかつた。彼は自分の分を喰べてしまつたに當りて、分を決めた分まで喰ふやうに喰つてしまつた。と同時に急激な満腹感を覺えて来た。早速彼は谷の流に飛んで行つて夢中で水を飲んだ。然し飲んでも飲んでも渴きは止まらなかつた。あたりの澤山いふ澤山を歩きあつて飲んだがそれでも灼つてやうな渴の苦しみが癒えなかつた。//さうしたたらう、鹽は出し鯛かつたがタカが岩魚三匹やないか。それとも友達に分まで喰べた罰たらうか。//彼、彼の胸にそんな疑念も浮かんだが、何よりも先づ渴を癒すことが先決問題であつた。水を飲めば飲めば渴は止まる。//彼は殆ど半狂亂になり四ん這ひのまゝで七日七夜水を飲み續けた。//漸く渴きが収まつた。//ヤレ助つた。//漸く入心地に歸つてアトあたりを見廻すと、何時の間にか彼の前には満々たる湖水が横はつてゐる。環珩を浴したやうな碧い水だ。七日七夜、澤山いふ澤山を堰みたる所産つた。そしてこれが即ち十和田湖の出現であつた。//八之太郎は茫然湖水を眺めてゐた。が次の瞬間彼は愕然として脚の裏面を凝視した。日焼けした健康さうな顔自身の秀麗な眉目は其處になく、碧水に映するわが影は驚くべし光る鱗、輝く眼、そして口は耳元まで裂けて仰天し大蛇の相鏡ではないか!そして仰天し大蛇の相鏡うちに吾身をふり返ればなんぞ吾身は矢張り幾十尋の蛇身となつて蹲つてゐるではないか。//蛇形の彼は身をもがいて泣いた。家にある年老いた祖母の姿、そして何時しか割ない仲よなつてゐた田澤湖畔の田舎子といふ戀人の姿を想ふて正體もなく泣崩れてた彼は此處に觀念した。何時ぞや祖母から//お前は祖神の子だ//と語り聞かされたことを想出したからである。彼は一切を諦めた。總ては前世からの約束ごとだつた。この呪はれた//約束ごと//故に再び家へ歸る由もなき彼は約束ごと//約束ごと//を呪つて湖水に身を躍らせたのはそれから間もない次の瞬間であつた。



高湯泉發 前八〇五(省營バス)子ノ口着 同九二〇(乗換)同發 同九三〇(遊覽船)休屋着 同一〇〇〇(見物)同發 後一五〇(省營バス)毛馬内着 後三一九(乗換)同發 後三四六(第九四二がソリン)湯瀬着 後四三二(宿泊)

十和田の姫鮎料理  
鮎鮎は地方料理も非常に多く、燒物、揚物、蒸物などにして甚だ美味、この地方では更に土産物向

スキーもなし咫尺を辨せず進退谷まつたま、再び露營のやむなきに至つたため、襲ひ来る疲勞と凍傷と飢餓に勝ち得ず山口少佐以下十一名を残したのみで他は全部この八甲田山上の吹雪に散つたのでございます。廿七日に至り始めてあの銅像となつてゐる後藤伍長が假死のまま雪の中に立つてゐるのを見られ其處で當時の狀況を知ることが出来たさうでございます。間もなく酸ヶ湯温泉でございます。前方に見えるのは連峯中一番高い八甲田大岳でございます。酸ヶ湯温泉は九百二十五米の高原にある温泉で附近には東北帝大の高山植物研究所、新湯温泉地獄沼、ふかし湯、三十三觀音西院の河原などの名所がございます。この附近は樺太の氣候と似て居りまして避暑にキャンプに恰好なところでございます。この温泉は今から約三百年前、横内村の左衛門四郎といふ狩人が雪の上で射損じた鹿の血痕を辿り三日目に當地で再びそれを發見致しましたがその時鹿は既に傷が治り飛ぶやうに逃げ去つたのを見て靈泉のあることを知り此處に湯小屋を建て、名も鹿湯温泉と呼び、それが今の酸ヶ湯といふ名に變化したといふのが三日一廻りの靈泉々と言はれるこの温泉にまつける

傳説でございます。八甲田の紅葉は十月初旬頃が見頃で殊にも毛無岳、睡蓮沼、高田大岳附近は日本一と申して憚らない雄大な景色でございます。皆様、この邊から林相が變りまして青森トマ松地帯に入ります。斑らなトマ松を前景とした連峯の眺めは素の高原の美觀ではございませんか、又睡蓮沼に逆様に映つた高田大岳の景色は誠に美しいではございませんか、秋の紅葉の良きはトモモ妾の口では言ひ表すことは出来ません。青森トマ松は北海道や樺太にあるのと違ひまして松と言ひましても杉に似て直立して居ります。樹齡二百五十年位経つてゐるものもあるさうでございます。此處は睡蓮沼でございます。昔はこの邊一帯が沼だらつたさうでございます。水芭蕉やその他種々な水草に押寄せられて年々小さくなつて参ります。沼には八月頃可憐な睡蓮が咲き誇つて山中の旅情を慰めて呉れます。愈々高湯温泉に参りました。萬は海拔四百八十米、ブナの原生林で圍まれたもの静かな温泉でございます。温泉は單純泉で、すき透る程キレイでございます。文豪大町桂月先生がこの地を愛し晩年此處に住まはれ、此處で亡くなられました。右の建物が温泉旅館でございます。では

南祖坊の傳説  
八之太郎が十和田湖の主となつて幾百年か経つた後である。清和天皇の貞觀年中、都に藤原是實卿といふ公卿があつて智謀豊かに學識博なり、帝の御覽も頗る目出度かつたが、それが身に纏つて奸臣共の讒に遭ひ、遂に罪なくして配所の月を見る身となつた。配所は奥州の果の藤原郡斗賀の里、貞觀十四年五月は眞卿とその子は行脚夫妻を伴れて都を落ちたのであつた。草深い奥の國で一家は明け暮れ都の空を見て暮してゐたが幾年妻は問々たる中に相次いで病死してしまつた。是行脚は都へ還る望をアツツリ断つた。自分は里の子供等に讀み書きを教へ東方には義經を教へさせて里人の生活へ善処に行つた。//權勢富貴何からう//是行夫妻は斯く都の生活を棄ち、清らかな平和をこり戻しては行つたが、唯一つ子のないことが依然たる惱の種だつた。然しそれも恵まれる時が来た。氏神懸野權現に永年祈り續けた甲斐あつて授



飛目風雅に山櫻  
ハア櫻は十和田ヨ  
十和田へお出ヨ

霞を子ノ口離解いて  
船に見上る千丈霧は  
鹿子紋りに映くつゝハ  
ハアつゝは十和田ヨ  
十和田へお出ヨ

逆も涼しい魂までも  
涼しい管たよ靈氣のこもる  
水に濡れ来る風がやもの  
ハア避暑には十和田ヨ  
十和田へお出ヨ

金線銀線を夕陽が投げて  
見事織出す紅葉の錦  
雲の往来は霞かいナ  
ハア紅葉は十和田ヨ  
十和田へお出ヨ

十和田小唄

(盛田達三作)

碧い溪流紅葉を流し  
雲井はるかに想はるゝ  
鬼神のお松の石谷戸あたり  
河鹿奏でる戀の曲

那羅千丈霧湖心に映る  
入江雲霧比翼で遊ぶ  
戀の釣舟御主のそばに  
銀波躍るよ姫子の胸が

鐘の草鞋に想をのせて  
夏なほ寒き南風の杜に  
鐘の梯子に命をかけて  
鐘の御占揚御みくじ引いた

和井内孵化場

十和田湖は水草が繁茂し魚族の飼料が豊富なのであるが、古来一尾の魚族を見なかつたのである。これは大澤布の爲めに魚が登湖し得なかつたためである。茲において鹿角郡毛馬内町和井内貞行氏は、明治十四年以來小坂鐵山へ勤務して十和田鐵山支所詰まなつて船山に在つたとき、十和田の利用に心を砕き養魚事業に着目して、明治十七年に始めて養魚事業に着手し、鯉、鱒、嘉魚等を放流したのである。その生計は良好であつたが漁獲が意の如くならず更に水産家の意見を徴して養魚事業を企て、明治卅年職を辭して各地の養魚事業を視察する等、専心事業に苦慮したのであるが漁獲これに伴はずして常に失敗に歸し、父祖傳來の田畑をも賣棄する苦境に陥つたにも屈せず、東奔西走善後策を講じ、北海道支庁を求めて人工孵化を行ひ、明治卅六年に之を放流した。越えて卅八年には鱒魚群をなして放流の個所に回歸したので、失敗二十年間の苦心も遂に酬いられて成功を見たのである。

和井内氏が養魚事業に成功の曙光を認めてから二十年、十和田湖の環境は遠く北米の墨城に迄宣傳せられ、今は宏壯の設備を完了して、人工孵化法によつて年に數百萬の鱒魚を放流し、一日平均五十萬以上を捕獲販売しつゝ、その盛況を來したのである。十和田湖を煮煉して美味を稱され、又は燻製にしてビール用の香に供せられ、罐詰等となつて遠く米國まで輸出されつゝあるのである。明治四十年和井内氏はその功績を認められ、勲章を賜り、大正十一年五月賞金の額

き天體に達し正七位に叙せらるゝ光榮を擔つたのである。

ダンブリ長者(湯瀬)

出羽國結村の婦人、夢の告げにより小豆澤村に至り、一男子と結婚して米代川の源の平岡田に生活した。夫婦は野に共稼ぎをして居る日、二人の晝寝の場所へ一尾の鱒が飛んで来て、その尾を以て男の唇に二度觸れるのを女の方が見詰めて不思議に思つた。亭主が眼を醒してから尋ねたところ、彼は「嘗て口にしたことのない旨い酒を飲んだ夢を見た」といふのである。其處で二人はその鱒の來た方を探し求めて行つたところ、果して岩の間から芳醇な泉が湧いて無數の鱒がその附近を飛び交うてゐるのを發見した。遠近の人々がこれを開き傳へ治らぬものなく、朝夕押し寄せて來る人が多く、ためにこの川で米をまぐさごも餘りに煩繁なので、川の水は米の汁で眞白に變る程たつたといひ、これが米白川(後に米代川)の名の出る由來となつた。されば發見者の夫婦はこれによつて巨富を積み、一人娘の秀子を繼體天皇女に獻じたところ、夫婦には長者の名を賜り、ダンブリ(鱒の方言)のお蔭で金持ちになつたところから、ダンブリ長者と號し、秀子は吉祥姫となつて死皇子を産み、死去の後は大日堂の傍に葬られ、四人の臣安保、秋本、奈良、成田も當地に來つて五宮様に死皇子を祀り、そしてこの四性は鹿角開闢の祖先となつた。中世鹿角四十二館を居城せる四十二武家は何れもその末裔と傳へられる。

半島は女性的な優美な庭園のやうで面白い對照を示して居ります。十和田湖の特色、この湖の特色を申上ますなら、第一に景色が單調でなく極めて變化に富んで居りましてそれからそれと映畫のやうに變つて行くこととあります。第二には十和田湖の半島や周囲は全部岩から出來て居るのに拘らず、その岩は巖蒼たる原始林によつて包まれてゐることとございます。この密林が四季折々に色を變へて湖面の藍色と相對し言葉に盡されぬ絶景をくり展げるのであります。第三には湖水の水量は四季を通じて殆ど増減ないこととあります。これは水の九分九厘まで湧水であるからでありまして、増減がないから湖岸の水平まで千古の苔がむし美しい草花が繁ることになるのであります。又湧水であるために冬も凍ることがありません。第四の特色として何となく凄味を持つて居ります。これは底が深いから丈けではなく、一種の色素を持つてゐるためでございます。而も常に清く澄み渡り二十メートル底までも見透すことが出来るのでございます。

いよ、御倉半島へさしかゝりましたからこれから名所の御案内を申上します。最も多く松の生えて居る處であります。これに御倉半島の名所御案内を終り、中山半島の方へ参ります。只今通つて居ります湖面が中の湖でありまして、先刻申上した千二百尺の深さを持つところとございます。この中の湖は學説によりますと約二千餘年前の噴火口の跡で、東の湖と西の湖とはその以後に陥没したものでございまして、こちらは中山半島の根本に當り湖水の靈場とせられてゐる占場でございます。南祖の坊が大望を果して入水せられたところと傳へられて居ります。樹の間から見えますあの八十五段の鐵梯子を傳つて此處へ降りて参りまして善男善女達が祈願をこめる靈場とされて居るのでございます。十數年前に清水夫を入れて御賽錢を擲上げましたら昔からの御錢で三千兩も揚つたこととでございます。こちらは君が代の岩と申します、我が國歌の歌詞がそのまゝ現はれてゐる感じでございます。次は業平岩、相對して向ふにありまして小町岩でございます。この邊の景色は本當に支那の南畫その儘を見る心地が致します。こちらは中山半島の先端で中山崎と申します、その上の松は見返りの松と申します、こちらが見越

す、こちらの小さい岬を八雲崎と申します。岩の隙間から時々雲や霧を噴出すやうでございます。こちらの松は夕さい、天高く聳えてゐる斷崖絶壁一帯を千丈嶽と申します。こちらは日暮しの岩でございます。明治の文豪であり十和田の恩人大町桂月先生がお暮しになつたやうでございます。只今までは松の樹は多くありませんでしたが、これから先岩上に繁つてゐる木は御覽の通り殆ど松で、而もその大部分が五葉の松であります。こちらは神代が浦と申します。この邊の景色は湖中最も雄大でございます。こちらの赤い岩の帯を五色の岩と申します。こちらの湖面に突出て高く立つて居ります岩は鳥帽子岩と申します。頂上の岩が鳥帽子の形になつて居ります。こちらは劍の崎と申します。ズツと上の方に黄色に見える絶壁は金屏風と申します。子ノ口から休屋へ参ります自動車道はあの脇を通つて居り其處にまた歐湖臺即ち湖水を見降す場所がありまして、中湖と西湖の風光を一目に見ることが出來、その眺めこそ、天然美の極致と申されて居ります。次ぎは千本松でございます。湖水中で岩の上



秋田市

人口 六〇、六四六八  
戸數 一〇、九六一戸  
〔官衙、學校〕 縣廳、市役所、十六歩兵旅團司令部、歩第十七聯隊鐵山專門學校  
〔名産品〕 絹織物、金銀細工、銅器、青銅器、鑄物鐵器、挽材、指物、清酒、秋田蕎麥(蕎麥テツキ、蕎麥の砂糖漬、蕎麥子)  
〔郷土料理〕 きたんぼ、東北を代表するもので全国的に賞讃を博してゐる。新米を炊いて棒で突き、太い串にさし、一センチ八寸位のローストク

やうに固めた上何回も擦つて艶を出した上煙で焦ゆる程度に焼くそれからこれを四つか五つに應じし鳥籠に入れて葱、絲、こん、芥など一籠に煮て食ふのである。

秋田音頭

この歌の起源は判然しないが、佐竹義宣公入道後天徳院公時代に盛んになつたものといはれてゐる五六人を組ませ揃ひの装束で踊るのが本流、東北に珍らしい賑やかな歌である。

湯野温泉

〔藝妓〕一七人、玉代一座敷(祝儀を含む)大二圓五〇銭、小二圓二〇銭、舞子一圓



湯海温泉

〔藝妓〕一五人、玉代一座敷(祝儀を含む)大二圓五〇銭、小二圓二〇銭、舞子一圓



むかし坂上田村麿將軍が夷征伐の際、日本武尊を祀つたもので古來近郷崇敬の的となつてゐる。この神社を上ると一町餘にして中湖に面する絶壁に達し、此處には傳説の主人公南祖坊と大蛇八之太郎の小祠がある。なほ先刻船中から見た占場、即ち七十八段の石梯子によつて下りる湖岸の霊場は由来小鏡を紙片にひねつて投じその沈み具合によつて吉凶を卜するところ、なほこの附近には天の岩戸、金の神、風の神、山の神などの洞穴ありまた南祖坊修業の場所自籠の岩も親しく見ることが出来るのである。これ等をそゞろ歩きの中に検分し湖畔の旅館の晝食にはこの地ならではの料理を賞味した上、再びバスによつて先を急がう。バスの車窓から西湖の全貌を眺めつゝ發荷を過ぎ生田あたりから和井内養魚場、鉛山展望臺などを右手に、發荷峠、錦瀧、銚子瀧、中瀧、大湯温泉等を左右に見大湯川に沿つて毛馬内に辿り着く。それから湯瀨(一)

仙境である。滾々盡きせぬ靈泉に浸りつゝ一夜を傳説の物語りに溶け込むのも一興であらう。米代川に沿うて一里の溪谷は斷崖絶壁の對立で、巨岩聳え水聲怒號し白雪を吐き、白沫を散じ、淀んでは深碧の幽潭ともなつて、大瀧七かまど、姫子松、傘松、細瀧、劍ヶ峯、天狗橋、獅子瀧、吊懸、地藏岩などの奇勝が点在してゐる。秋の紅葉の良さはまた格別、なほ見るべき勝地として左の二つがある。

第七日

秋田市

今より約千三百年前の天平五年秋田城下設置に始まり、慶長七年佐竹義宣公常陸より遷封された際この地を愛して城閣を築き市區を經營したもの。當初藩名を久保田と稱したのを後に

秋田と改稱、昌平の頃より城下として急激な繁榮を見せた、雄物川下流秋田平野にあつて旭川(雄物川の支流)が市内を貫流し、西北近く土崎港の殷盛を控へてゐる。旭川に二分される市街は東側を外町、西側を内町と呼び、外町が商工業の中心地通町、大町、茶町、馬喰町、横町などを含む賑やかな部分であり、内町は官廳、學校が多く舊藩時代も武家町だつた關係から、いはゆる山の手の色彩を持つ廣小路、長町通根、小屋町、牛馬橋通町などその代表的なものだらう。

西側にある。天保十四年の建立だが、その傍には大正元年に建てた平田大人の略傳の碑もある。篤胤は人も知る徳川時代の國學者、安永五年秋田に生れた天保十三年歿、著書百を超えて居り明治十六年正四位を贈られた。縣社日吉八幡神社、驛から西方三軒、市の西郊羽街道筋、寺内村八橋にある。日吉、八幡兩社を合祀し、本殿の左座が日吉、右座が八幡で、廣い境内は八橋公園を形成し、拜殿前には三重塔がある。

姫が庫

現在の秋田病院前はその昔藩の米庫であつたところだ。佐竹義隆公が添川で一日放鷹に興じたある日、藩主も知らず公の傍へ来て一人の老農夫が煙草の火を貸して下さいと乞ふた。義隆公は氣易く火を貸しやら儀米を背負つてゐるこの百姓夫婦連れの様子を見て何處へ行くのたゞとたづねたところこの老農夫は御前米でござえますが、私共精進吟味の甲斐なく、有司の方が不良と仰言つて受附けて呉れませんか持つて歸るごころでござりますと交々力なく答へるのたゞつた。義隆公は感ずるごころあつたらしく背を少しその米を分けて呉れまいかといふと義隆公自らその米の精粗を問ふて見た。有司は良米にて御座りますと答へて平伏した。義隆公はこれを聞いて大いに怒り予が持ちかへつた良米が何故百姓自ら持ち來つたごころに不良なるぞとそれを見詰めて、爾後は腹中に清淨な座席を設けて公自ら米の鑑定に立會ひ、件の老農夫の實米を標準として對等の公正を期したものであつた。後世これを姫が庫と稱し公の識見を永く讃へたのである。

秋田犬に就て

秋田犬は主として秋田縣下に飼はれてゐるので、大館犬や鹿角犬とも呼ばれてゐるもので、大館犬は肩高が二尺以上を達する。被毛は厚くて白、赤、黒、胡麻等の色を呈する。耳は尖端圓味を帯び、稍左右に開いて立ち、四肢は遠く尾は太くて短く多くは右に左にきりつき巻いてゐる。



秋田犬は明治時代には旺んに闘犬として使役されたもので争闘性に富むが根氣に乏しいといはれる。今はその數も少く愛玩或は番犬として飼養されてゐるに過ぎないが、昔は旺んに闘犬に使役されたごころである。大館町近くの十二所町字葛原といふ處に老犬神社の小祠があるが、それは天下御免の狩獵證文を有つ獵師の左太六がある日それを忘れたために、つきね恨みを懐きながら他領の利場の露を消えたとき、主人を救はんがため命の綱を細く免狀を持ち來らんとする狂はしに再三牢屋と吾家の間を往復したといふ忠犬を祀つたものごころである。

温海の朝市

山にびたりと添つて弓張のやうに曲つて入つて行つてゐる路は、ボブアで圍まれた廣い運動場を持つた村の小學校を通つて、參差して連つてゐる温泉場らしい人家を見せるやうになつた。三十分後には、私達はその山の中の温

〔郷土料理〕湯野漬、温海兩地方何れも小鯛の鹽漬有名なもので、一年を通じて、洗滌された料理法による小鯛料理は旅客の味覺をたのしめるもの一つである。

湯野漬 前七、一〇(庄内電鐵) 鶴岡着 同七、三四(乗換) 同八、〇二(第二列車) 同八、二二(乗換) 同八、五〇(第三列車) 新庄着 同八、一八(乗換) 同八、三二(第三列車) 羽前千歳着 同八、二二(乗換) 同八、五七(第三列車) 山形着 同八、二二(見物) 同八、四二(第三列車) 山形着 同八、五二(乗換) 同八、五二(第四列車) 福島着 同八、一四(乗換) 同八、二〇(バス) 飯坂温泉着 同八、四五(宿泊)



飯坂温泉 (藝妓) 六四入、玉代(三〇分) 水) 大四〇錢、小二〇錢、初座敷 四本二圓八〇錢、貸座敷四軒、娼妓一四人 遊興費一圓五〇錢

飯坂 前七、〇〇(電車) 掛田着 同八、〇〇(乗換) 同八、〇〇(バス) 行合道着 同八、三〇(徒歩にて 雲山探勝) 雲山開道 同八、三〇(バス) 掛田着 正午(乗換)

觀光の東北

行はれたもの。長い竹竿の上部に横に青竹数本又は十数本結びつけて、それに一杯に燈籠をつるしたものや、それひこらした若者達が、オエタツサオエタツサとつこいシヨ、の掛聲と共に、掌中、額上、肩先、又は腰などに据ゑ書から夜にかけて太鼓、笛などの賑やかな囃子につれて技を競ひつゝ街をねる壯觀はすさまじいばかり。夜に入つて燈籠に火を點じてからの美麗は觀る者を啞然たらしめるに充分である。

湯野漬温泉 温泉と海水浴場を併せ持つ湯野漬、出羽三大歓樂郷の一として古來有名な湯野漬は、田山花袋氏の著「温泉めぐり」の中にも「海の温泉場として十指の一を屈すべきところ」云々とする。海邊に臨んだ温泉場は他に幾つもあるが、此處ほど豪壯な海の感じは恐らく他に求められまい。旅館は何れも海に面し坐ながらし涯知れぬ日本の波濤を展望する氣持は實に男性的であり雄大な感に打たれる。殊に水天一碧の彼方に落日の沈みゆく壯嚴さはこれ丈でも湯野漬の誇りと云へよう。

善寶寺 湯野漬驛から電車で五分。故有栖川宮殿下の御祈願所で堂塔合せて廿一字、豪華華麗東北屈指のもので年々参詣人二十萬に達する。毎日四回定例祈禱式が行はれ、その顯著なる靈驗が全国的に信者を持つてゐる。

持國岩 善寶寺の祈禱岩で朝香宮殿下御嘆賞の地であり、傳説にはそのむかし惠比須様が釣糸を垂れたところと傳へてゐる。

七窪ヶ原 白砂青松相連つて遠く出羽富士の秀麗を仰ぎ、その幽雅はそゞろ三保の松原を偲ばれ、現在飛行場、競馬場の豫定地にされてゐる。

温海温泉 出羽三樂郷の一であると共に古來「温海湯七色」の名があつて天候により薄緑に、或は薄藍に或はまた薄黄など多種多様の色の變化を見せる

山寺 山形市外を貫流する立谷川の上流山寺部落、寶珠山腹にある山寺立石寺(天台宗)は貞觀二年慈覺大師の開基と傳へられ同六年大師世壽七十二歳を以て入定せるところ。古來比叡山延曆寺の別院として東北における天台宗の大寺院たるのみならず、關北第一の靈場として餘りにも有名である。高橋を渡つて川向から仰ぎ見る寶珠山は、岩上に樹間に大小種々の由緒深い建築物を隠しせしめ秋の紅葉の頃の景觀は如何なる畫筆も遠く及ばない、極めて廣大な境内の第三紀凝灰岩が自然界の浸蝕作用によつて奇様な勝景を作つて、奥羽の耶馬溪を諷はれるところ。

河川に沿ふ對面石は慈覺大師が狩人磐司と會見した場所だと傳へてゐる。

根本中堂(國寶) 天正年間、斯波兼續の再建にかゝるもの、桁行五間、梁間五間、高さ六丈、前面に一間の向拜があり、これにかゝつてゐる鯛口は慶長十三年に源光直が最上義光のために寄進したものといふ。

日枝神社 もと天王權現と稱し一山の守護神として鎮座する。前庭には巨大な公孫樹がある。

蟬塚 俳人壺中が芭蕉の「しづかさや岩にしみ入る蟬の聲」の一句を石に刻したのがある。

第八日

夏、蚊帳いらずで朝夕の冷氣は炎暑を避けるに絶好、なほ魚釣に、登山に、また附近半島海水浴場の遊泳など、この季において浴客が最も集まる所以であらう。

秋、満山の紅葉美、あつみ川の清流、栗拾ひ、茸狩りのピクニック気分また快適。

冬、程よき積雪量を利用して、近年雜木林を拓いたスキーの設備成り居強のスキー地たる面目をなへ、また昔年の此國名物「炬燵氣分」も捨てる譯には行かまい。

泉場の氣分に十分浸ることが出来た。それは見かけに寄らないはずな旅舎に富んでゐるやうなところであつた。軒を設けた旅舎は大抵三四層の高樓で、設備も決して馬鹿にならない。私達はある旅舎に草鞋をぬいたが浴槽も湯河原あたりにはひげをさらない綺麗な湯を持つてゐた。

浴後、私はあちらこちらを歩いて見た。私は温海川に架つた橋のほとりまで行って見た。深きには決してすくれないものではなかつた。あの溪に添つて小國の方まで入つて行つて見たいやうな氣もした。

「何ですかねは。」

朝早く俄かに起つた騒がしい人聲を聞きつけた私は、かういつて丁度室に入つて来た女中に訊いた。

「あれですか朝市です。」

「え、朝市？市がたつんですかあ、やつて毎朝……。」

湯から上つて来て、私は外へ出て行つて見た。私は不思議な氣がした。そこにはあらゆるものが散らばつた。野菜もあれは魚類もある。こんなにやうなもので一方ではふかしたての暖かい饅頭も賣つてゐる。かれ等は皆海岸の方から籠のふかしたのに、さうしたものを人に入れて来て来た、または荷車に一荷載せて来て、それをそのまま店にして並べて賣つてゐたのである。そのついで、さういつてふ人達は、皆自欲の湯浴客を當ててかくして商賣をしてゐるのであつた。朝市がすんで賣れ残つた野菜や魚類は、再び籠に入れて賣られて賣られた。

私はこの朝市の喧しく混雑したシーンを面白く思つた。浴客達は皆宿屋から小さな籠を抱へて出て来て、てんでこそ

の歌するものを買ひさせて買つてゐる。まは、東京では見られぬラステツクなものだと思つた。

——田山花袋「温海の印象」より——

二本松より右にきれて黒塚の岩屋一見し福島に宿る。あくはしのぶも竹の石を尋で、忍ぶのさきに行、通山院の山麓の小里に、石半土に埋れてあり、靈部の來りて教ける、昔は此山の、上り待しを往來の人の妻草をあらして、この石を試待をにくみて此谷につき落せば石の面下さまにふたりと云、さもあるべき事には。

早苗さる手も昔しのお福

その夜飯塚(飯塚)にさる。温泉あれは湯に入て宿をかり、土坐に鐘を敷てあやしき貧家也、灯もなげはるりの火かきに寝所をまうけて風す、夜に入て雷鳴雨しきりに降て風の上よりも雷敷にせ、られて眠らず持病さへおこりて滑人計になん、短夜の空もやう、明けは又旅立ぬ。——奥の細道より——

靈山 陸奥守鎮守府將軍家御この觀を聞きて親王を先にたて奉り、陸奥出羽の軍兵を率して攻め上る。同十三日近江國につきてこの由を奏聞す。十四日に江を渡りて坂本に参りしかば、官軍大に力を得て山門の衆徒までも萬歳をよほひき。同十六日より合戦始まつて、三十日終に朝敵を追落す……高氏軍は攝津津國にありさきこえしかば、重ねて諸將を遣はす……朝敵は舟に乗りて落ちける……願家卿も住所にかへるべき由を仰せらる。又の年戊寅の春二月、鎮守の大將軍顯



同發 後一〇〇(電車)  
同發 後一三〇(乗換)  
同發 後二一三(第二回列車)  
同發 後七〇五  
上野着



飯坂小唄

西條八十作詞  
中山晋平作曲  
一、戀の陸奥ナリ サテサテサテ  
戀の陸奥 人目を信夫  
アリアヤットサノサ  
首尾も飯坂湯のけむり  
ハ寄らんしよ来らんしよ  
廻らんしよ  
二、泣くは河鹿かあのかの鼓の聲か  
今宵別れの十綱橋  
三、泣いて泣いては河原の釜  
可愛いお方の逢照らす  
四、お前何處へ行くぢやんこぢや  
んこ下りて  
私しや河原へ鮎釣りに  
五、行こか松島歸へるか東京

釋迦堂 東南に向つて斷崖をなす絶端  
遠山近水を一望に容れ得る展望臺にな  
つてゐる。  
奥院 山麓から一軒の地點、傳教大師  
が支那天台山から傳へて比叡山の根本  
中堂に點じた燈火を移して常燈として  
ゐる。  
如法經所碑 (國寶) 開山堂前の小堂に  
納められてゐる。前は開山堂右手の岩  
上にあつた。平安時代の末、天養元年  
僧大阿大徳が同法の五人と志を一にし  
て法華經一部八卷を寫書し岩頭の靈窟  
に埋納して自分の幸福と極樂往生と佛  
教の弘通を祈つた由來を記せるもの。  
入定岩 納經堂真下の岩窟、慈覺大師  
入定の場と傳へられ、その入口は幾重  
にも塞がれてゐる。  
〔その他見るべきもの〕念佛堂、鐘樓  
奪衣婆の木像、笠投石、東瀧、彌陀洞  
琵琶石、仁王門、觀明院、性相院、金  
乘院、胎内くゞり、行者戻りなど。

上野出發以來八日、一周旅行ラストコース  
に入り東北における最終の一役である。吾々は  
今宵の宿を飯坂に撰んで寛がう。歡樂を求め歌  
樂木位の旅の場合、宮城の鳴子、青森の淺里  
兩温泉及び盛岡情緒を逸したことは如何にも遺  
憾ではあるが、花巻を味ひ湯野を樂しんでい  
ま更に飯坂の歡を盡すなら以て是れりと思ふべき  
である。

飯坂温泉 此處は海拔百二十米の地、  
東方摺上川を隔て、湯野温泉に對し北  
には突兀大作山を仰ぐ。東南は開けて  
沃野の彼方に霞む信夫、伊達の山河を  
展望し得るのである。軒を連ね川に臨  
んだ旅館の高樓は清流に影を浮べ更に  
十綱橋に佇めば紅燈輝き絃歌のさんざ  
めきが脂粉の香を交へて來り、京の四  
條河原のそれにも似たわびしくも華や  
かな情緒なつかしく胸を衝いて、おの  
づからなる遊意を拒み得ないだらう。  
なほこの地の特徴の一は、摺上川邊に  
連つた四層五層の浴樓も前面から見れ  
ば總て平屋又は二階建てにしか見えな  
いことだ。道路が遙かに高く事實上の  
三階邊りに支關が設けられてゐる故で  
ある。  
天王寺供養碑 十綱橋の北方一軒餘、  
天王寺温泉附近にある。寺の境内藥師  
堂裏にある三基の供養碑だが何れも鎌  
倉時代のもの。  
大鳥城址 十綱橋の西方一軒半、むか  
し藤原秀衡に従ひこの地を領せる信夫  
莊司佐藤基治が築いたといふ城の址で  
古瓦の破片がいまでも發見される。丸  
山々上の平地にあり現在は鶴公園にな  
つてゐる。  
醫王寺 福島電車醫王寺前驛西方半軒  
平野村跡野にある、佐藤氏の菩提寺で  
境内藥師堂裏手に佐藤基治夫妻、同繼  
信、忠信等の墓がある。繼信、忠信は



道街村中

- 六、此處は飯坂 お湯の中  
山にやま月さん流れにや河鹿  
可愛いお方はお湯のなか  
七、堅い石でも文字磨石は  
戀の情けのわから石  
八、紅葉や散つてもまた來ておく  
れ  
九、冬の雪見の炬燵酒  
雪の下にもお湯が湧く  
十、おらが奥州で見たものは  
お湯の飯坂 光堂  
飯坂湯野小唄  
磯の家光波作 詞  
若柳吉十郎 作曲振付  
一、わたしや奥州飯坂そち  
温泉のおかひで玉の肌  
サアサこらんしよ待つて  
るぞへ  
二、伊達な御主に戀摺上の  
私しや信夫で居るわいな  
三、御前いやでも私しや飯坂よ  
湯野もよけれご約もよ  
四、春の花岡赤川かじか  
五、雪見炬燵もついはたされた  
主につまびき聞かすため  
六、清れてしつぽり湯の湯かへり  
七、透達ばかりか覺悟はしたが  
これでお湯じやうらめしい  
八、ものを巖の場所じや松湯  
からだ波來場であらねない  
九、調子揃ふた立町そらた  
十綱引け、若葉連  
十、温泉ブールは千人風呂よ  
小龍大風呂泳がらんしよ

觀光の東北

何れも基治の子で共に源義經に仕へた  
勇士である。(新編源義經)  
西根神社 十綱橋の東半軒、湯野村に  
ある。明治十八年の創建、元和、寛永  
の頃信夫、伊達二郡の代官古河重吉が  
當時桑折、瀬ノ上一帯の耕地に灌漑の  
治を興へ、治水問題を解決せる功蹟を  
頌して祭つたもの。正徳時代に建てた  
額徳碑もある。  
その他 金秀寺笠塔婆、梁川城址、別  
格官幣社靈山神社など。(靈山神社は靈山  
の項参照)  
第九日

信その子守親相次いで陸奥介鎮守大將  
軍を拜し、東睡鎮定に忠勤をぬきんで  
たが、南風遂に競はず靈山その他の諸  
城悉く陥るに及び顯信父子は出羽に走  
つたのである。此處でさしも宏靈な寺  
院總て兵火に罹り、いま僅かに榛莽の  
間に礎石を散見するのみである。秋の  
紅葉は天下の名物。  
別格官幣社靈山神社 福島縣伊達郡靈  
山村大石にある途中島居に二個の礎石  
があるのは靈山の山上にあつた日枝神  
社の二の鳥居址と傳へられてゐる。更  
に倉波の靈山寺門前に元徳三年の銘を  
刻んだ供養碑、寺の東南一軒の日枝神  
社には廣瀨典撰文の靈山碑がある。そ  
れよりなほ東南一軒靈山城の支城と傳  
へらるゝ古屋館山上に靈山神社がある  
明治十四年の創建で北畠親房、顯家、  
顯信及び守親を祀る。社頭にたつと巍  
峨たる靈山の姿を仰いでそゝる建武延  
元の歴史が偲ばれる。階上の白木鳥居  
は昭和三年御大禮用の下附せられたも  
の。境内地は二千三百五十八坪、附屬  
山林二萬五千餘坪が自然の風致區を作  
つてゐる。  
○寶物その他 神皇正統記、關原抄、古文書、錦  
旗、鎧旗、同御沙汰、昭憲皇太后御歌短歌、親房公  
法附位記、同御沙汰、書同策命文、神ながらの  
道、青磁、岩倉供祝公管記、理趣神詩ノ三幅對、  
御大禮用御鳥居御下附書、その他。



失はれ行く駕籠の姿



一周コース その二

前項同様超スピード東北一周の見本である。前項で廻れなかつたり、立寄れなかつた六縣重要都市(殊に裏日本方面)や名勝地

Table with 2 columns: Day/Route and Cost. Includes routes like 上野-郡山, 郡山-米澤, etc., and costs for various modes of transport.

を一通り網羅したから、この二つの見本を適宜綜合することによつて稍々理想的な一周観光が可能となるかも知れない。この第二コースにも出て来る名勝地に就ては一切説明を省略して前コースを参照して貰ふことにした。

宿泊及び食事 第一日(東京) 〇・五〇 第二日(福島) 〇・五〇 第三日(郡山) 〇・五〇 第四日(松本) 〇・五〇 第五日(青森) 〇・五〇 第六日(仙台) 〇・五〇 第七日(東京) 〇・五〇 合計 七十四圓三十四錢

上野發前一〇・〇〇(第一〇三急行、食費附)

郡山着後二〇(下車見物) 同發 四・一五(第九二二列車) 會津若松着後六・一四 同發六・二〇(八八)



郡山市

官衙の主なるものとして地方學賣局がある。 (名産品) 桐下駄、安福豆、具齊豆、甘納豆、赤腹(ハヤ)サマツ(しめじ)等

朝日のほれはナ サツサ 字都峰ひかる 西は開成山花ざかりヨ 安積よいこ郡山つきぬ話は たんごある、せなさまごさん じよの夜に、ホイヤ 話花咲きやナ サツサ 貯水池まはる 五十餘廻れば小半道ヨ

觀光の東北

第一日

郡山市 福島縣の中央部で安積平野の東部、阿武隈川を近く控へた陸奥街道の要點を占め、街道町として、典型的な發達を遂げつゝ今日に及んだ、明治初年安積平野の開墾成つてからは、農産物の集散地となり、東北線と磐越東西線との分岐點となつて商品需給の市場大いに擴大されたのみならず、近くに發電所設置を見たことが工業地としても洋々たる前途を約束するもので、明治廿六年には戸數千戸足らず、人口五千未滿のホンの宿場的存在だつた郡山、昭和十年國勢調査では戸數一萬六十一戸、人口六萬八千人を算し押しも押されぬ縣下一の大都市である。

麓山公園 一名共樂園ともいふ。市公會堂と接続し地域一萬餘坪、もと二本松侯の遊覽地で辨天とも呼んだ。心字形の池の中島に辨財天が祀つてある。丘上には麓山神社を奉祀し老松鬱蒼、池あり瀑あり、幽趣なかにゆたかである。

縣社安積國造神社

稻荷町(驛の西方半軒)にあり、初代阿尺國造、比止彌命を祀る。比止彌彦の末裔は代々神職を繼承し安藤姓を名乗つて居り碩儒安積良齊もその安藤氏の流れである。境内には明治大帝の行在所たりし建物もある。

如寶寺

眞言宗新義派大和國長谷寺の支流である。高嶽山無量院如寶寺と呼び當地方屈指の巨刹だが、開基年代は不明で大同年間の草創でないかと取沙汰されてゐる。本尊は大日如來の座像一再ならず回祿の厄に遭つてゐるが現在なほ大夏高棟を丘上に聳えしめてゐる。明治初年寢食を忘れて二百餘の貧困兒の世話をやいて生佛と崇められた先住僧正の碑が境内にある。なほ數ある境内の古碑のうち石造笠塔婆、板石塔婆の二基は昭和十一年國寶に指定された。

開成山公園

桑野町(驛より西三軒)櫻花と競馬と以て有名、東北のお伊勢と稱せらるゝ開成山大神宮境内外一

開成山の櫻 (天然記念物)

これは明治十一年三月廿七日以後開成社同人により 其情熱まぎれは其民遂に敢て古今開拓普通思ひ、故に今開成山には長堤上は言を俟たず水に沿ひ路を挟み一般に花木幾萬を植ゆべし

如寶寺の國寶供養塔

承元二年笠石承塔婆 塔身の長さ二尺二寸五分、巾一尺九寸五分、厚さ一尺、蓮臺に跏趺し定印を結ぶ阿彌陀如來が半肉彫にされ、背面に胎藏界中樂八葉の種子曼荼羅の陰刻、右側には一種子三行二十字の銘文がある。その構造國史草紙に見ゆる笠塔婆の系統に屬し、この形式における遺跡供養塔としては吾國最初のものである。

建治二年板石承塔婆

總高五尺二寸五分、巾二尺二寸五分、上部は高さ七寸不整四注屋狀をなし、二條の切込の下高さ六寸の額を現はし下部には遺出しの基盤がある。塔身上方に方圓三重の輪廓を彫り、中に十七の種子が配置されてゐる。これは阿彌陀曼荼羅茶あつて、その表現方法は本邦佛敎關係の遺物中特殊の位置を占むるものである。

安積よいこ部山つきぬ話  
たんごある、せなまごん  
しよ月の夜に、ホイサ



若松市

人口 四六、二〇〇人  
戸数 八、五七戸

〔官衙〕 歩第二十九聯隊  
〔名産品〕 漆器、會津藩繪巻、  
會津桐、會津身不知柿、人参、その他  
白虎隊に因る菓子、人形類等  
〔行事〕 大名行列、毎秋季、彼岸獅子  
踊り(春秋二回)  
〔藝妓〕 若松一七五人、玉代(三  
〇分一本)大七〇錢、小五〇錢、  
初座敷二本、東山温泉六〇人、玉  
代(三〇分一本)大六五錢、小五  
〇錢、初座敷三本

會津藩領  
福島縣下、一帯に盆踊りの盛んな地  
方、各地方毎に歌も踊りも幾分づ  
ゝ違ふ。就中會津地方は有名なも  
のである。  
盆太鼓の聲さへ聞けば  
賑い目も聞く氣も明む  
主が歌へは踊がしまる  
盆太鼓の音もはびむ  
主は太鼓うつ姿は唄ふ

圓の地を總稱せるものである。開墾當  
初の貯水池だった周圍十二丁の大池い  
まは五十鈴湖と稱し、無数の櫻をその  
堤に並べて大神宮の前面を華やかに彩  
つてゐる。なほこの池邊を一周する鏡  
馬場では春秋二回數萬の人を集めて鏡  
馬會が開かれる。なほ大神宮は明治九  
年安積郡大槻原野開拓事業完成の機に  
奉祀されたものである。伊勢皇太神宮  
の御分靈と宮崎神宮養蠶國大神とを勸  
請奉祀せるもの、神前の扁額は有栖川  
二品親王の御筆である。

磐越西線關都、川桁あたりの車窓右  
手に名鏡猪苗代湖、會津の名山磐梯  
などの準國立公園地帯を望み乍ら東  
山へ向ふ。

會津若松市 福島縣の西南隅、會津平  
野の中央部に位し、城下町として發達  
せるところ、戊辰役の史實白虎隊の物  
語りを以て彩られる地だけに史蹟頗る  
多い。もと黒川と稱して蘆名氏の據つ  
たところだが、蒲生氏郷が新に居城を  
構へてから若松と改稱、明治維新松平  
容保賊軍の汚名を受けて官軍の討伐に  
遭ひ、市街悉く灰燼に歸せるのち復興  
今日に及んだのである。  
鶴ヶ城址 後小松帝の至徳元年、蘆名  
直盛の創業で周圍約二十丁、文祿元年

白虎隊の組織

白虎隊はいかにして組織されたか……  
單り會津藩のみではない、幕末の各藩は  
大體軍制を改革した。戸主、長子の世襲  
であつた武家の制度を改めて、武家に生  
れた男子は、次男末子を問はず一律に主  
家に對して平等に奉仕することになつた  
現在の徴兵制度の前身である。會津藩で  
は家臣の男子の全部を、軍神の名に因り  
白虎、朱雀、青龍、玄武の四隊に分ち、少  
年も有事の時は、君公の馬前に生命  
を献げなければならないといふので、十六  
歳三十七歳の少年を白虎隊に編せしめ、  
個々の任に當らしめた。會津には水戸  
烈公の命名に成る日新館といふ武家の子  
弟養成機關があつた。主としてその學生  
を白虎隊員に選抜したものである。訓練  
は全くフランス式の軍事教練に據つたも  
ので、軍事顧問として佛人シヤノン  
を招聘した程である。徳川幕府において  
風にフランス式軍事教練を實施してゐた  
會津藩では、山川清、元東軍大總長山川  
健次郎氏(令兄)横山主税、海老名軍治の  
三名を軍事顧問として英佛兩國に派遣し  
た。三人は何れも家老の息子で當時二十  
二歳の青年であつた。これ等三名が歸朝  
して軍制改革を行ひ、フランス式訓練を  
始めたのである。江戸詰になつた會  
津藩主も、徳川幕府の採用實施してゐる  
フランス式軍事教練を習得して歸藩し、  
藩内へこれを講授した。慶應四年春には  
伏見の戦が始まる。白虎隊は、大島圭介  
を首魁として數多の人物が徳川方を脱走  
して會津に入込んで来たので、それ等の  
人々の中から選抜して軍事教練の任に  
當らしめた。白虎、朱雀、青龍、玄武の  
四隊の編成が終り、島山五郎七郎を教官

福島の盆踊り

會津若松前九二五第九一六列  
郡山着 一一・二(乗換)  
同發 一一・三一(第一二五列  
車)  
福島着 後(四二下車見物)  
同發 一・三〇(第四三三列車)  
米澤着 三・三八(下車見物)  
同發 五・三〇(第九〇一列車)  
赤湯着 五・五八(乗換)  
同發 六・〇〇(バス)  
赤湯湯泉着 六・一〇(宿泊)



福島の盆踊り  
人口 四八、四八三人  
戸数 八、八四二戸  
〔學校〕 高等商業學校  
〔名産品〕 果物、櫻桃、梨、信天文  
字摺(絹ハケンチ)  
〔藝妓〕 九四人、玉代(二〇分一  
本)大五五錢、小四〇錢、初座敷  
四本  
〔遊藝〕 貸座敷七軒、娼妓二一人  
遊藝會一團五〇錢  
福島甚句  
福島街道にそは植えて、そは通  
つて逢はずは氣が清まぬ  
長い長閑橋上へこえて、逢ひに来

觀光の東北

死者の靈牌殿、菅野長脩碑、西南役戦  
死者碑等がある。  
小山田 鶴ヶ城の東南一軒餘、山上に  
會津藩家老田中玄宰翁その他舊藩士の  
墓石多く現在公園地である。  
蒲生氏郷墓 榮町與徳寺境内にある。  
飯盛山と白虎隊墓 驛の東三軒、市外  
一箕村にあり、山上は會津平野を一望  
に容れて眺望開闊、全山松、櫻、楓な  
どに覆はれるその中腹に白虎隊の墓が  
ある。蓄のまゝに散り逝きし大和櫻、  
永遠に吾が日本少年の血を湧かし、涙  
を啜るであらう白虎隊殉難十九士と  
各方面にて戦死せる同隊士の靈を祀る  
墓碑が建てられてあるほか、戊辰戦願  
末を刻んだ巨碑、昭和三年白虎隊の行  
爲を日本武士道の精華を欣賞して伊國  
ムツリニ首相が贈つた記念碑、同  
様趣旨にて一獨乙武官より贈られた記  
念碑が並び建ち、異彩を放つてゐる。  
なほ中腹の螺蝶堂は寛政八年、市内實  
相寺の僧郁堂師の建設にも似た昇降  
堂の奇からこの名が出た。  
東山温泉 湯川の溪流飛瀑を散らし、  
いはゆる奇岩怪石連なるところ、樹木  
鬱蒼たる山ふところに抱かれて、幽境  
東山温泉は高樓を並べ、なつかしの湯  
煙をたてゝゐるのだ。春は野の花、夏  
は川邊の河鹿、秋は滿山の紅葉、冬は

第二日

福島の縣北に位し西南方田園連亘す  
るその彼方遠く吾妻小富士の層巒を雲  
煙の間に望み、北は信夫山を隔てて信  
達平野に連る。福島はもと移目(又は  
杉妻とも書く)莊に屬し治承、養和の  
頃杉目太郎行信の采地だつた。天文年  
中伊達晴宗この地を領し、天正十八年  
八月蒲生氏郷會津に來るに及んでその  
所領となり木村重次に管理させ、當初  
福島と改稱、元祿十五年板倉重寛信州  
坂本より移封せられてからは百六十六  
年間累代の居城地であつた。  
信夫山 市の北方田地の間に突兀たる  
一孤山、周圍約二里、國道筋から眺め  
ると大鷲が翼を伸して西北方に向つて  
るやうに見える。古刹藥王寺、縣社黒  
沼神社、招魂社、信夫山公園などその  
山腹山麓にある。  
鳥ヶ崎の眺望 羽山の絶頂松林中二つ  
の古塚あつて古來これを淳中大尊姫皇

長として會津三の丸の廣場において訓練  
を行つたものである。  
白虎隊以下同隊の服装は羅紗の筒袖服を  
纏ひ、洋袴を穿いたものもあるが、多く  
は義経袴に草鞋はきであつた。當時、羅  
紗服を用いた理由の一つが面白。羅紗  
服を着てゐる姿、鐵砲玉に當つて  
も、毒が身體に透らない……といひ傳へられ、またそれを信じたもの  
である。莊山笠を冠つた者もあるが、邪  
魔になるといふので多くは無帽であつた  
白虎隊は、大だぶさに結び上げ、中には  
白元結を用いた者もあるが、多くは紫の  
元結で巻いたものである。羅紗の筒袖服  
の左肩に長さ二寸五分、巾一寸五分位の  
肩章を縫ひつけ、肩章には赤の星形の下  
に墨で會の字を記した。日本刀を肩か  
ら細で垂れ、脇差をたはきみ佛國製のヤ  
ーゲル銃を携へ、薬盒を附けた革帯を纏  
めたものである。火繩銃などは一挺も交  
つてなかつた程に兵器は整備してゐた。  
特に騎兵は陸軍服装改正以前の服装の  
やうに、赤羅紗の洋袴を穿き、實に美々  
しい姿であつた。これ等の兵器をどこか  
ら求めたかといふに、會津藩では横濱の  
外國商人の手を経てフランスから購入し  
たので、大砲小銃彈藥類を新潟に陸揚し  
し、駄馬によつて會津に運んだものではな  
かつた。製材機械などを輸入して盛んに  
使用したものである。製材所の汽笛を聴  
いた人々はこんなこゝを眞潮で語り合つ  
た。  
「遠い、フランスから海山萬里を越え  
て、遙々日本に賣られて来たので、生國  
戀しさに泣くのぢやう。生れ故郷に歸り  
たいと、朝夕悲しい聲を立てゝゐるのだ

たの何故違はぬ  
瀬の上名物自慢ぢやないが  
い櫻桃に青林檎  
障子明ければなお山が見える  
女松男松青々々



米澤市

人口 五〇、四四七人  
戸数 八、八七八戸  
〔名産品〕 笹野彫(玩具)菓子(甘  
露梅、のし梅、その他)  
〔藝妓〕 五人、玉代(三〇分一  
本)五〇銭、初座敷四人  
〔遊脚〕 貸座敷六軒、娼妓一六人  
遊藝費二圓五〇銭、一圓五〇銭

米澤餅搗場

農村の若者等が社交クラブにも  
いふべきくわら講//製約  
講//或は婚禮の贈などの餅つき  
の講も  
米澤名物その中で 絹織松茸餅  
料理、  
酒屋の後で犬が鳴く 孟小さい  
きて挽きなく  
築屋の後で風なく 浅黄がうす  
いとて甜まなく  
黄金の白に銀の杵 つきますお  
餅は金もちだ  
隣で餅つくおれ呼ばぬ 呼んで  
も来ないのは誰構ふ

後の陵と傳つてゐる。その西方に突出  
せる断崖が鳥ヶ崎で四面開闊、近傍第  
一の勝地である。  
文知摺石、文知摺石 市の東方一里  
餘、岡山村山口にあり、創建の年月は  
不明だが傍に文知摺石があるので文知  
摺石といふのである。観音堂前の文  
知摺石の由緒に就ては古來種々の傳説  
があるが、例の

みちのく、いぶち、誰故に  
みたれそめにしわれならなくに  
の河原左大臣の一首から急激に有名に  
なつたものである。  
黒岩虚空藏 市の南方一里、杉妻村黒  
岩の所在弘仁二年の創建と傳へられる  
もの。

米澤市

米澤盆地の南部に位し、最上川の支  
流松川に跨つてゐる。東北の雄藩上杉  
十五萬石の城下町として明治維新まで  
三百三十四年の繁栄を續けて來、現在  
なほ織物工業地として東北に覇を唱へ  
てゐる。四條天皇の曆仁元年大江時廣  
先づ米澤城を築いて以來伊達、蒲生兩  
氏二百餘年の治世(蒲生氏は七年だけ)の後  
に來たのが上杉時代であるが、上杉の  
藩主直江兼續の殖産興業熱、更に有名  
な鷹山公の養蠶機業獎勵會などの影響  
が米澤今日の大をなせる決定的源動力  
であるといへよう。

機械の作用に驚き、不思議に考へた當  
時の人々の耳には、非情の汽笛の音も、  
有情の響きを傳へたものであらう。會津  
城下を通行するフランス人の姿を眺めて  
「異人の足には踵がないさうだ、それで、  
履物に踵をつけて歩くのだ」  
珍らしさうに靴を注視した。牛馬を屠  
つて食用に供するさいつては眼を丸くし  
たなごは不思議はない。然し文化の光は、  
東北のどの地方よりも早く會津に輝き初  
めたことは事實である。  
元白虎隊員唯一人の生存者(大正  
十四年)として仙臺市長刀丁に餘生を  
送つてゐた飯沼貞雄翁に聞いた白虎隊  
想出話より  
上杉神社禮殿の主人の陳列品  
一、繪巻神宮式并序(國寶)一卷、傳弘  
法大師筆  
一、大刀(國寶)一口、銘助宗、推草柄草  
包(上杉勝勝用)  
一、大刀(國寶)一口、傳倫光、表に備前  
國、裏に興國二年云々の銘文あり。  
一、劍(國寶)無銘(傳上杉謙信所持)梵字  
及七星金象眼、鞘十二支、傳謙  
一、太刀(國寶)一口無銘、傳元堂  
一、長卷(國寶)一口無銘、傳則包、拵付  
一、長卷(國寶)二口、傳片山一文字、拵  
付  
一、鏡(國寶)十本、銘城州理忠作、文祿  
二年二月四日  
一、絹本着色金剛薩埵像、一幅、平安時  
代  
一、絹本墨沙門天像(國寶)一幅、鎌倉時  
代  
一、紺色金泥兩家墨墨羅國寶(二幅、  
鎌倉時代)  
一、絹本着色富藏墨墨羅  
一、絹本 涅槃像

米澤城址(松ヶ神公園) 舞鶴城又は松ヶ  
岬城などの別名あつた米澤城の址は市  
の中央にある。前記の如く鎌倉時代長  
井庄地頭職大江時廣の創築で、上杉景  
勝公が名將直江兼續の計畫に従つて全  
領土の工夫を役して本丸、二の丸、  
三の丸の修築を始め堂々たる都市計畫  
によつて面目一新せるもの、明治維新  
陸軍省の所管となり、置賜縣廳に復屬  
後更に明治七年以來松ヶ岬公園として  
一般に開放された。舊本丸址に上杉神  
社がある。なほ樓閣を拂ひ壇壘を毀つ  
て開放された松ヶ岬公園は、上杉神社  
境内に檜、松、楡、樅などの老樹聳え  
堤上には祀堂祀碑、招魂碑、上杉曠山  
公碑などがあるほか、その間に植込ま  
れた櫻で地方隨一の名所となつてゐる  
別格官幣社上杉神社 明治四年の創建  
で藩祖上杉謙信を祀り、同三十五年別  
格官幣社に昇格せられたものである。  
社殿右側の禮殿は寶物館で、國寶十  
數點のほか、古文書、佛畫、經卷など  
の歴史的逸品が並べられてゐる。祭禮  
は毎年四月廿九日。  
縣社松ヶ神神社 上杉神社の入口にある  
景勝、治憲兩公を祀りも上杉神社に  
合祀されてゐたのを大正元年遷したも  
の。  
直江兼續の墓 林泉寺町林泉寺にあ  
る。右に兼續、左に同夫人の墓と並ん



赤湯温泉

〔名産品〕 ぶどう、石焼、唐辛、  
ころれん(煎餅、薄餅など)  
〔藝妓〕 四六名、玉代(三〇分一  
本)大五七銭、小三八銭、初座敷  
二人  
〔遊脚〕 貸座敷一軒、娼妓五人、  
遊藝費一圓五〇銭  
赤湯發 前七五八(第四二七列  
車)  
山形着 八、四四(下車見物)  
同發 一〇〇六(第四〇三列  
車)  
新庄着 一一三七(乗換)  
同發 一一四四(第九〇七列  
車)  
酒田着 後一〇八(下車見物)  
同發 四三二(第五〇三列  
車)  
秋田着 六五五(宿泊)

山形市

人口 六九、九三四人  
戸数 二二、六三五戸  
〔軍隊〕 歩第三十二聯隊

第三日

山形盆地の東南部、馬見ヶ崎川の西  
南部に沿ふ町で、山形縣治の心臓であ  
る。四面何れも緩く山岳を繞らし、東  
南部は千歳山、龍山を経て宮城との縣  
境に峻嶺蔵王を連ね、西南は白鷹山脈  
の彼方に模糊たる朝日岳、北はまた遼

かに月山、葉山の諸峯を仰ぐ。その中  
が即ち村山平野であり、山形盆地であ  
つて、東北の都市中氣候の條件最もよ  
きもの、一つである。その昔「最上」  
と呼んだ頃から驛家が置かれた出羽の  
要地で、吉野時代より最上氏の領だつ  
たが、江戸時代に入つて保科、松平奥  
平、堀田、秋元、水野等の諸大名相次  
いで入都、城下町として築いたのであ  
る。

山形城址(霞城址)の北方一軒以内にと  
ころ、奈良朝時代大野東人の創築せる  
もので、戦國時代最上義光がこの城に  
よつて當時權勢を誇つたところ、のち  
には保科正之の居城でもあつた周圍約  
一里(五萬餘坪)いまは歩第三十二聯隊  
の兵營がある。老杉亭々たる中に齡を  
同じくする櫻の名木がある。血染の  
櫻と呼ばれるところのものでいまな  
ほ霞城の歴史を端的に物語つてゐる。

最上義光墓 驛の東南一軒半、市内三  
日町光禪寺境内にある。義光は人も知  
る最上氏中興の祖で、その墓は五輪塔  
なほこの光禪寺(曹洞宗)は慶長年間義  
光の創築に於て二代家親が元和年間、  
義光の法號を光禪寺殿前少將羽州大守  
玉山道白大居士と諡し寺號も光禪寺と  
改めたのである。義光家親、義俊三代  
の菩提寺で毎年十月十七日には盛大な

八幡社縁起

康平年間、安倍頼時、貞任の親子等陸  
奥の六郡に據つて勢を極めた。その  
時陸奥鎮守府將軍源賴朝が征討すべ  
く各地に戦中、隅々金井莊に駐した際、  
六幡は陸奥苦故に通ずる。喜び、祠前  
に戦捷を祈り遂に強敵を平けることが出  
來た。此處において賴朝は此の神明  
の加護によるものと感激の餘り早速社殿  
を改築し、記念に軍旗を武裝を獻じたのが  
後寛永七年島居忠政が更に改築したのが  
現在の社殿である。寶物の主なるものは  
一、絹着地金泥日章旗 一流  
一、絹着地金泥日章旗 一流  
一、絹着地金泥日章旗(同右源賴朝  
納)  
一、袖赤地白五圓之旗 四流(出羽守  
源義光獻納)

雲井の雲井龍雄

雲井の雲井(龍雄)とまで人口に膾炙され  
た「雲井行」の作者、奇傑を以て一世に  
謳はれた。二十七歳を以て小塚原に滑  
えた彼の實名は小島龍三郎といつた。弘  
化元年米澤發町の生れである。  
斯身飢寒見不肖 斯兒不棄斯身飢  
捨是邪不捨非邪 人間恩愛斯心迷  
哀愛不棄無情淚 復弄兒頭多苦思  
兒今無命伴黃泉 兒今有命斯心知  
焦心願願良家教 歎吉不忍別離悲  
橋畔驚行人話 殘月一聲杜鵑啼



山形縣の代表民謡として天下に有名なもの、起源は天正年間にも慶長の頃ともいはれてゐるが、當時俗謡を禁じられてゐた藩邸内でさへこのおほこはだけは許されたといふ附である。

おほこ節

おほこ節は、田圃のほんづれまで出て見れば、おほこもせて、用のない煙草賣りなどおほこ心持、池の端の蓮の上のたまり水、少しはさるて、コロコロと落ちて、おほこ何處へ行、田圃のさん中に重箱さけて、村の庄屋殿から、殿様上んがらしやるとして小遣飯。おほこ色白で、草田に下りて来るおほこやうや、何處へ行、酒田山王山で、おほこかんじか

成し、東北方に鳥海の秀麗を望み得るところ、水陸交通の要地としてこの酒田は繁榮した。坂田又は砂湯とも稱した。むかしは最上川、赤川を積み下して来た米がこの酒田港の倉庫に入り、海路江戸、大阪まで廻送されたもので日本海の商權を一手に握つた華かきを持つた時代もある日本の酒田市なのである。

専稱寺と開祖願正

専稱寺の開祖願正は稀に見る善智識として地方萬人の尊崇を一身に蒐めた名和尙だつた。文明十五年この地に來つて村山郡高根村に留錫、一字を建立の上一向専念の宗義を弘宣したのであるが、この徳化に浴せんとして、この高根村の専稱寺に足を運ぶ善男善女は實に夥しいものだつたが、春もなつて山頂の雲霧けが馬見ヶ崎川の水を激増せしめる頃は、老幼婦女この橋を渡る危険を怖れ、その橋の袂まで來てはその附近の砂上に香花を供へ、其處から遙かに高根村を拜して香花の救ひを乞ふ者多く、ために河原に香花のなまへ生れた程だつた。最上義光の愛女駒姫が親臣秀次の侍女となつて殺されたのを悲しむ餘り、その追善供養のため山形二五堂小路に寺額を賜ひ、道場を建立し最上山専稱寺と號し、それから高根の堂宇は龍池山願行寺と改稱したのである。現在の専稱寺本堂は九代目住職晴瑞が元禄十三年の再建にかゝるもの、寶物として見真大師筆六字名號、義光筆三個條控書、同書狀、駒姫の肖像等が所藏されてゐる。

千歳公園 市の東北端馬見ヶ崎川に沿ふて松樹鬱蒼たる代表的觀光地區で墨繪の良さを湛へる龜松閣一帯、招魂社忠魂神、競馬場などあり中央部には國分寺、藥師堂宇があり、五月八日の縁日は素晴らしい賑ひだ。縣社八幡神社 驛の東南二軒、市の南端鐵砲町にある。應神天皇、神功皇后と玉依姫を祀る。老樹巨木枝を交へる様は正に驚異でこの世のものとも思はれない。中にも楸の木に至つては根廻り十四米、十五米の高さまで枝を分たす直立するものもあるところから六八八幡の別名を持つてゐる。專稱寺 眞宗大谷派の末寺で、十八間四面の大伽藍を東北に誇るもの、明治維新前は村山九十ヶ寺の中本寺だつたが、現在では現在では從前の末寺は本山直末寺になつて仕舞つた。當時の開山は本願寺の中興蓮如の弟子願正、なほ本堂四隅寺にある梁を昇ぎあげれば、彫の力士は左甚五郎の作と傳へられ、その活けるが如き神品は曾て里人を驚かし、鐵砲の襲撃を受けたことさへある日附のもの、門内に樹齡數百年の銀杏の大樹がある。酒田市 山形縣の西北部、日本海に臨み、南方は最上川の江口に沿うて酒田港を形

第四日

となつたもので、附近の農耕作はために全きを得てゐるのみならず、今や千歳の翠を籠むる風光は運動施設と相俟つて絶好の遊樂地であり、日本海沿岸の一名勝である。河村瑞軒倉庫址 日和山から續いて最上川河畔に臨んだ陣屋と呼ばれた約一五〇米四方の空地で現在標本が建てられてゐる。山居倉庫 驛の西南一軒半、山居にある酒田米穀取引所屬倉庫、米券倉庫ともいはれるもの、元和八年以來の由緒を持つもので、その米券法は全國の模範とされてゐる。飛鳥 日本海の一孤島、酒田より三十五軒、周囲七軒、約二千の人口を持つ島で、てん草の名産地、またその西方一軒餘にある奇靈窟とうみねを以て有名な御積島と相俟つて昨今觀光團體の往來頻りである。吹浦 海岸に沿うて山形縣最北端、米澤より約十九軒の地で、秋田縣に通ずる要路に當つてゐる。飛鳥をよく眺められるところで、羅漢像を刻んだ奇岩リ羅漢岩が点在してゐるので有名。海上航行の安全を祈つたものといはれてゐるが、近年更に海禪寺境内に三十三觀世音の石像が安置された。

船川港町 明治初年頃は戸數二百に足らぬ寒漁村だつたのが、良港たるべき地形の利と、勝地男鹿半島の背景とで急激な躍進を遂げ、明治二十七年町制實施、大正五年船川線全通は堂々北日本に雄飛すべき將來性を約束されるに至つた。此處から男鹿半島一巡に出掛るのであるが、先づ附近に恵まれた陸の名勝地を拾つて見る。八郎湖 一名琴湖ともいふ。周囲約二十里、その生成には陷没説と河流變遷説の二つが行はれ、何れとも判然しない。前の一周コース、十和田湖の次に紹介せる傳説のヒーロー八之太郎が、南祖坊の法力に敗れて移り住んだといふ八郎湖で、湖畔にはその龍神を祈つた八郎神社がある。東湖八坂神社 驛の南一、三軒、副湯に鎮座する縣社、田村將軍夷蝦平定(延暦十八年)を遂げた記念に北野原東湖宮に社殿を造營、素盞雄尊を勧請したのであるが、洪水、風害の難に遭つたので、一向鼻等へ遷し更に康平三年現在の場所に變つたもの。例祭は七年七月六、七兩日。

江山水陸の風光數を盡して今、集瀨に方寸を賣、酒田の姿より、東北の方、山を越し、磯を傳ひ、いさゝかふみて、其際十里、日影や、かたふく比、潮風眞砂を吹上り懸懸として鳥海山かくる。關中に夏作して、雨も又奇也とせは雨後の晴色類々、蛋の古屋に膝をいれ、雨の晴を待。其洞天能興て朝日花やかにさし出る程に、象瀨に舟をうかぶ。先能因島に舟をよせて三年幽居の路をさぶらひ、むかふの岸に舟をあかれは、花の上ごまよまれし櫻の老木、西行法師の記念をこの江上に御凌あり。神功皇后の御駕云。寺を千滿珠寺と云。此處に行幸ありし事いまだ聞かず。いかなる事によ、この寺の方式に處して簾を捲は、風景一眼の中に盡て、南に鳥海天をさへ、其餘うつりて江にあり。西はむやの關、路をかぎり、東に堤を築て、秋田にかよふ道達に、海北にかまえて浪打人の所を瀧とせしむ。江の縱横一里ばかり、佛松島にかよひて又異なり。松島は笑ふが如し象瀨はうらむがさし。寂しさに悲しみをくはえて、地面現をなやますに似たり。潮越や鶴はぎぬれて海涼し。酒田の餘波、日を暈て北陸道の雲に望遠々のおもひ詞をいたしまして、加賀の府まで一日舟里を問、鼠の關(念津ヶ岡)をこゆれば、越後の地に歩行を改て越中の國一ぶりの關に到る。——この項奥の細道より——眞山・本山の傳説 眞山と小尾介、何年の頃か男鹿島の金野小尾介と云ふ者或日湧出山、眞山に登つたところ山の神顯れ、「今吾を此山の巖に齊らは海の子の榮を八百八代も守つて





花巻着 四・五六(同温泉宿)



盛岡市 人口 六九、二七二人 戸数 一、八四七戸

野川に架設せるものを慶長年間盛岡城と共に移したるもの。上之橋には...

各自馬の息災を祈るのである。馬の嘶き鈴の音の實感からこれをチャグ...

Table with 2 columns: 第七日, 第八日

何れも前項参照。

片葉の蘆 北山龍谷寺の境内の一隅に誕生する蘆がそれであるが、何れも葉が互生せず...

銭掛の松

北山龍谷寺に在る松そのもの、存在はさも角、面白い郷土の傳説の一として...

東北一、二泊のたび

東北六縣以外の地方の方々への東北一周案内を一通り完成したから、こんどは東北人のための東北案内を纏めて見る。

仙臺を中心に

靈山・飯坂方面

Table with 2 columns: 第一日, 仙臺發, 福島着, 同發, 掛田着, 同發, 靈山神社着

觀光の東北

に到着

Table with 2 columns: 同發, 掛田着, 同發, 飯坂着

第二日

Table with 2 columns: 飯坂温泉發, 福島發, 仙臺着, 旅費概算

小原・青根方面

第一日

Table with 2 columns: 仙臺發, 白石着, 同發, 小原温泉着, 同發, 白石着

Table with 2 columns: 同發, 青根温泉着

第二日

Table with 2 columns: 青根發, 大河原着, 同發, 仙臺着, 旅費概算

小原温泉



桂澤山麓と白石川との峡中に位し、深溪谷いよ狭められて山の峰々相迫るところ、

青根温泉

不忘山の分嶺花房山の中腹で湧口は大湯、新湯、名號湯の三ヶ所、西に不忘山、西北に川音岳、花房山、六方山、西南に物見岩、倉



石山の諸峰を控へ、東南の二方遠く開けて晴天下には金華山、松島の諸勝を展望出来る。海拔二千四百尺、雄大と壯美を誇り夏の日の避暑に屈強である。

松島・鹽釜・金華山方面

第一日

仙臺發 前 八・〇〇(宮城電鐵) 本鹽釜着 八・三八(鹽釜神社參拜) 鹽釜發 一・〇〇(松島灣汽船) 松島海岸着 一・〇〇(頃) 海岸名勝史蹟見物 畫食

第二日

石卷發 前 八・三〇(石卷合同汽船) 金華山着 一・〇〇(黄金山神社參拜、見物) 同發 後 三・〇〇(石卷合同汽船) 石卷着 五・二〇(乗換) 同發 六・一五(第六三四列車) 小牛田着 六・五七(乗換)

第一日

仙臺發 前 八・〇五(第九ガソリンカー) 鹽釜着 八・三四(鹽釜神社參拜) 同發 一・〇〇(松島灣汽船、又はタクシにてドライブウエイも好し) 松島海岸着 一・〇〇(瑞巖寺、遊園地その地見物)

第二日

松島海岸發 三・三〇(バス) 松島驛着 三・四三(乗換) 同發 三・五〇(第一二五列車) 小牛田着 四・一九(乗換) 同發 四・三〇(第七二一列車) 鳴子着 六・一五(宿泊) 鳴子發 後 二・〇七(第九〇八列車) 仙臺着 四・二四 旅費概算 汽車(仙臺→鳴子)二・七二(バス(松島海岸→松島驛)〇・二〇 汽船(鹽釜→松島海岸)〇・二五 畫食(松島)一・〇〇 宿泊(鳴子)二・五〇 畫食(鳴子)一・〇〇 女中心附約一・〇〇 瑞巖寺拜觀、遊園地入場料〇・三〇 合計八圓九十七錢

鳴子温泉

いはゆる玉造八湯の中心地帯である。江合川の上流、山紫水明の地に種々の勝景と、多種かつ豊富なる温泉の湧出を以て古來有名である。鳴子谿谷の紅葉、冬のスキーなど最近



新たに全国に紹介されたもので、四季を分たぬ繁榮は驚異に値する。仙臺—松島とコリスをとつた旅行家の次に行くべきところは金華山、石巻方面か、然らざればこの鳴子より他にない。

中山平・鳴子方面

第一日

仙臺發 後 一・〇〇(第一二三列車) 小牛田着 二・〇九(乗換) 同發 二・四〇(第七一九列車) 鳴子着 四・〇六(宿泊)

第二日

鳴子發 前(徒歩にて鳴子峽を探勝しつゝ中山平に至る) 中山平發 後 一・五八(第九〇八列車) 仙臺着 後 四・二四 旅費概算 汽車(仙臺→鳴子)一・三六(中山平→仙臺)一・四二 畫食(車中)〇・三五 宿泊(鳴子)二・五〇 畫食(車中)〇・三五 女中心附約一・〇〇 合計六圓九十八錢

關山峠・山寺・上ノ山方面

第一日

仙臺發 前 八・四〇(第三〇五ガソリン) 作並着 九・四四 同發 九・五〇 バスにて關山峠越え 天童着 同發 同發 山寺着 同發 後 四・二〇(第三一〇列車) 山形着 四・五二(乗換) 同發 五・一〇(第四二四列車) 上ノ山着 五・二九(宿泊)

第二日

上ノ山發 前 九・一八(第九〇二列車) 福島着 後 〇・一七(乗換) 同發 〇・五〇(第一二五列車) 仙臺着 三・〇五 旅費概算 汽車(仙臺→作並)〇・四六(山形→仙臺)二・四一(バス(作並→天童)一・三〇(天童→山形)〇・五五 畫食(山寺)一・〇〇 宿泊(上ノ山)二・〇〇 畫食(車中)〇・三五 女中心附約一・五〇 山寺拜觀料その他〇・三〇 合計十圓八十錢 上ノ山温泉 古來出羽で庄内、最上で上の山、此處は會津の東山云々の俗語に、奥羽三樂郷の一に數へられるところ、藏王、龍山の雄峯や太



平、京塚のゆたかなる翠巒を負ひ、前には三吉、葉山の諸峯を望み帯の如き眉川、宮川の清冽が町の東端で相合してゐる。山川の自然美おのづから備はるところに人為的設備また整つて保養、歡樂その何れを盡すにも充分である。月岡公園を中心、北に舊湯、西南に新湯と二温泉に分れてゐるが、脂粉の香漂ふのはその新湯の方である。

猪苗代湖・東山方面

第一日

仙臺發 後 〇・二〇(第一三〇列車) 郡山着 四・〇九(乗換) 同發 四・二五(第九二一列車) 會津若松着 六・一四 同發 六・一五(バス) 東山温泉着 六・四〇(宿泊)

第二日

東山發 前 八・四〇(バス)



會津若松着前九・〇五(乗換)  
 同發 九・一五(第九一六列車)  
 翁島着 一〇・〇七(下車)  
 同發 一〇・一〇(バス)  
 長濱着 一〇・二〇  
 同發 一〇・四〇(遊覧船、時間は豫め調査のこと)  
 上戸着 後一二・五〇  
 同發 三・〇三(第九二〇列車)  
 郡山着 三・四二  
 同發 三・五二(第一三五列車)  
 仙臺着 七・一九  
 旅費概算 汽車(仙臺→會津若松)五・二六、バス(若松→下東山)〇・四〇、(翁島→長濱)〇・三〇、汽船(長濱→上戸)〇・五〇、宿泊(東山)四・〇〇、晝食(車中)〇・三五、女中心附約一・〇〇、合計約十二圓八十一錢

猪苗代湖

東西三里、南北二里、周圍實に十七里に及ぶ琵琶湖、霞ヶ浦に次ぐ本邦第三の大湖である。大同元年二月十五日夜の磐梯山爆發によつて生じたものと傳へられる。水の清澄は名鏡にも似て、その湖心に磐梯の秀麗を映す美景は、蓋し天下の逸品。福島縣立公園候補地として登錄充分である。至るところ勝景の連鎖ではあるが、中にも翁島、長濱、小平湯、山湯、舟津、福良、青松



濱、村木岩などその代表的風致區である。湖面の高さは海拔百十米餘、眞夏といへども凌ぎ難き暑さを知ることがない。

十和田國立公園方面

仙臺發 後九・三五(第一〇一列車)  
 第二日  
 青森着 前七・一二(乗換)  
 同發 八・〇〇(省營バス)  
 高湯泉着 一〇・五〇頃(入浴、晝食)  
 同發 後一・〇〇頃(省營バス)  
 子ノ口着 二・二〇頃(乗換)  
 同發 二・三〇(遊覧船)  
 休屋着 四・〇〇(宿泊)  
 第三日  
 休屋發 前  
 毛馬内着 〇・一一(第三一〇列車)  
 同發 後三・一五(乗換)  
 好摩着 三・三三(第二〇四列車)  
 同發 八・四二  
 旅費概算 汽車(仙臺→好摩)八・五七(好摩→仙臺)二・七八、汽船(子ノ口→休屋)一・二〇、(青森)〇・五〇、晝食(高湯)一・〇〇、(休屋)三・〇〇、晝食(車中)〇・三五、女中心附約一・五〇、合計十八圓九十錢

同發 三・三五(第九列車)  
 生保内着 四・五八(バスにて田澤湖畔まで三〇分、宿泊)

第二日

田澤湖畔發前一一・〇〇頃(バス)  
 生保内着 一・三〇頃  
 同發 一・四〇頃(徒歩約七軒)  
 八木澤着 後一・一〇頃  
 同發 二・〇〇頃  
 夏瀬温泉着 三・〇〇頃(宿泊)

第三日

夏瀬温泉發 前九・〇〇頃(徒歩にて途中抱返り見物)  
 神代發 前一・四二(第六列車)  
 大曲着 後〇・二五(乗換)  
 仙臺着 七・一六  
 旅費概算 汽車(仙臺→生保内)三・二五、(神代→仙臺)三・一三、バス(生保内→田澤湖畔)〇・八〇、晝食(車中)〇・三五、宿泊(湖畔)二・五〇、晝食(八木澤)〇・五〇、宿泊(夏瀬)二・〇〇、晝食(車中)〇・三五、女中心附約二・〇〇、合計十四圓八十八錢

田澤湖

秋田縣仙北郡の北部、田澤、生保内、楡木内西明寺の四ヶ村に跨る淡水湖である。明麗世界一の水色と底知れぬ深さは、この湖の景趣を神秘的なものにしてゐるのみならず、學

觀光の東北



術的價値の絶對性を與へて彌が上にも興味を唆るのである。四圍に秀麗な山々を擁し、風光翠色を浸す湖面は、如何にも女性的な神話を生むに相應しく、その優婉、その静寂から、唯々夢のやうに美しい湖水といふの他にないのである。

田澤湖の透明度

湖水の水の清濁を知るには、大體水の透明度、水色、水質及び水温などをみればよいのである。湖沼學で水の透明度を測る最も普通の方法は、直徑一尺の白い圓盤に線を付けてこれを水平に保たしめて水中に沈め、その圓盤の面が見えなくなる試験をするのである。この圓盤の見えなくなる界を學術上では可視限界といふのであるが、この可視限界の世界最大のものが、實に我が秋田縣の田澤湖なのである。この湖では秋の良き天氣にはこれが三十九米に達してゐる驚くべき透明度である。米國加州のタホ湖は水の綺麗なもので有名なもの、一つであるが、透明度は僅かに三十三米であるし、山岳湖水を以て知られた瑞士第一のプリー湖でも三十米に過ぎないのである。しかも水の透明度は水色と直接的な關係を持つものであるが、わが田澤湖の水色は非常に美しい瑠璃色である。湖沼學では湖の水の色を普通十一に分けてゐるが、田澤湖はその標準色の第一號である。

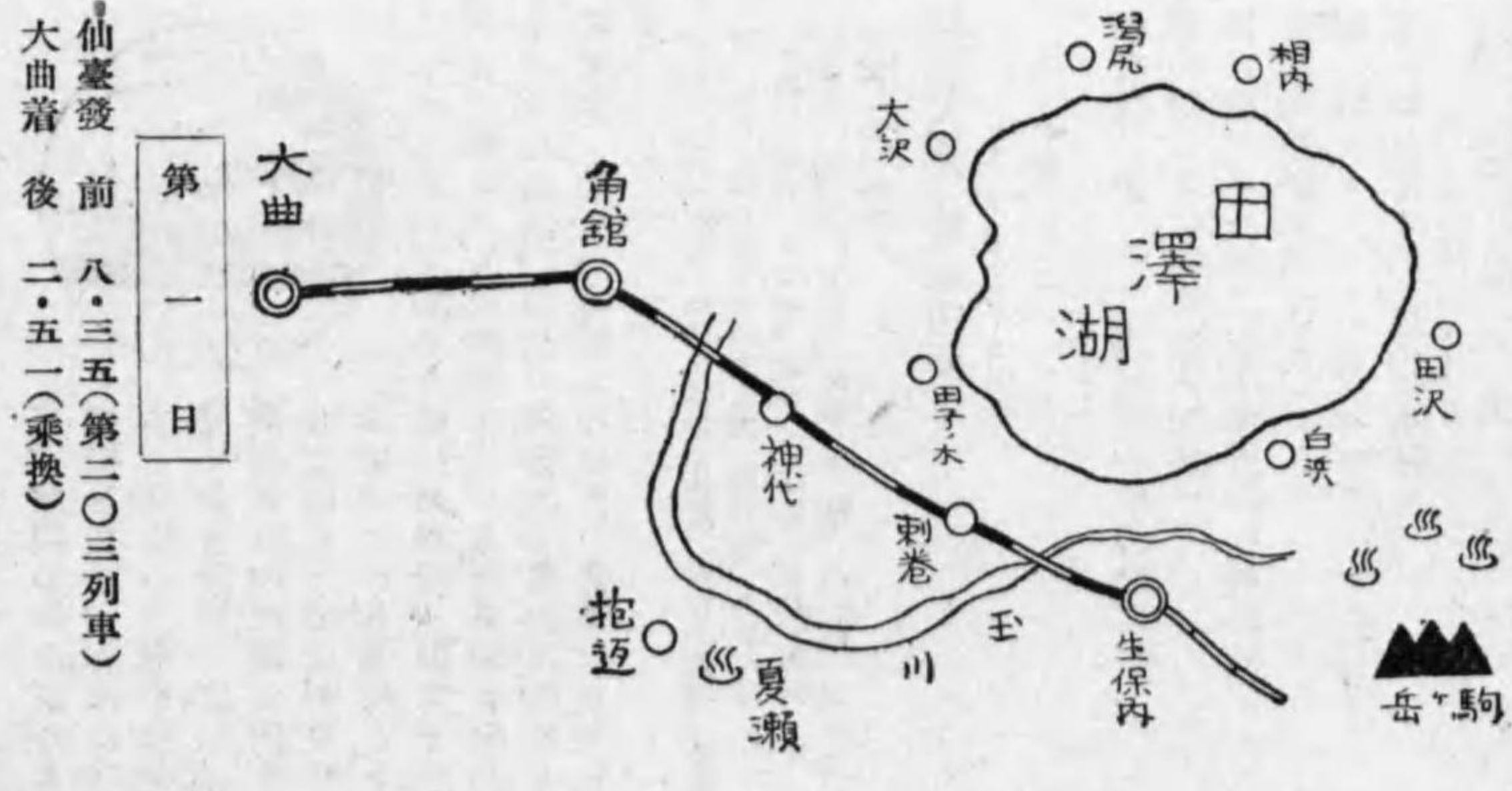
三島海雲氏著「日本の水」より

〔湖畔の名所〕 蓬萊の松、春山、石神社、田子の木、七色の子、千歳の杉

夏瀬温泉

秋田縣仙北郡白岩岳の麓、玉川に沿ふ閑寂

田澤湖方面



仙臺發 前八・三五(第二〇三列車)  
 大曲着 後二・五一(乗換)

の別天地である。湧出個所は自然石をそのまま穿つた浴槽で無色透明の鹽類泉、泉温三八度、婦人病、神經痛に特效あり。

抱返り

玉川の清流を挾んで西は神代村字小影山、大影山の一部を包み、南は白岩村廣久内から東は夏瀬温泉附近まで三里に亘る溪谷地帯である。奇景、絶勝の連続で、水と岩と樹木の配合の妙はこの一帯で満喫出来、特に新緑紅葉の美に至つては何としても見ぬことには……である。



湯野濱・温海・東山方面

第一日  
 仙臺發 前七・三三(第九〇七列車)  
 余目着 後〇・四六(乗換)  
 同發 〇・五一(第五〇四列車)  
 鶴岡着 一・一三(乗換)  
 同發 一・二〇(庄内電鐵)  
 善寶寺着 一・三八(下車參拜)  
 同發 三・二一(電車)

四九五

湯野濱温泉着 三・二九(宿泊)

第二日

湯野濱發 前 九・三五(電車)  
 鶴岡着 九・四九(乗換)  
 同發 一〇・〇三(第八二〇列車)  
 湯海着 一〇・五六(乗換、バスで温泉入浴、晝食)  
 湯海發 後 一・五八(第五〇四列車)  
 新津着 四・三五(乗換)  
 同發 六・四〇(第九二三列車)  
 會津若松着 八・三四(バスにて東山温泉―宿泊)

第三日

東山温泉發 前(バスで適宜若松附近見物)  
 會津若松發 後 一・五〇(第九二〇、仙臺行列車)  
 仙臺着 七・一九  
 旅費概算 汽車(仙臺―仙臺遊覽六・五七 電車(鶴岡―湯野濱)〇・七〇 湯野濱―湯海着 湯海着―湯野濱 湯野濱―湯野濱)〇・三〇  
 (會津若松―東山温泉)〇・四〇 晝食(車中)〇・三五 宿泊(湯野濱)〇・三〇 晝食(湯海)〇・〇〇 宿泊(東山)〇・四〇 晝食(車中)〇・三五 女中心附約一・五〇 合計十九圓四十七錢

福島を中へ

小原・青根方面

第一日

福島發 前 八・五〇(第一二一列車)  
 白石着 一〇・〇四(乗換)  
 同發 一〇・一〇(バス)  
 小原温泉着 一〇・四〇(入浴、晝食)  
 同發 後 一〇・〇〇(バス)  
 白石着 一・三〇(乗換)  
 同發 二・〇〇(バス)  
 青根着 三・二〇(宿泊)

第二日

青根發 前(遠刈田温泉行きバスを拾ふ)  
 遠刈田温泉着 〃(入浴、晝食)  
 同發 後(大河原行きバスを適宜選ぶ、大河原―遠刈田間所要約四十五分)  
 大河原發 後 五・一八(第一三八列車)  
 福島着 六・三七  
 旅費概算 汽車(福島―白石)〇・五五 (大河原―福島)〇・七五 バス(白石―小原)〇・八〇 (白石―青根)〇・〇〇 (青根―大河原)〇・〇〇 晝食(小原)〇・〇〇 宿泊(青根)二・五〇 晝食(遠刈田)一・〇〇 チップその他約二・〇〇 合計十圓六〇錢

遠刈田温泉

仙臺、福島兩市中間に位する蔵王山麓の高燥な地を占め、その連峯の雄大と松川の清冽を併せ持つ山紫水明の境海拔千二百尺の地で先年の全焼後の復興によつて諸般の設備面目



一新し、ラヂウム含有量東北一の泉質と相俟つて天下に誇る温泉郷となつた。  
 (附近名所) 薬師山公園 龍山、松川河畔、不動滝  
 (名産) わらび、茸、栗、岩魚、山目、木地細工等

仙臺・金華山・中尊寺方面

第一日

福島發 前 八・五〇(第一二一列車)  
 仙臺着 一〇・一〇(晝食)  
 仙臺驛前發 後 一・〇〇(市内遊覽バス―約三時間で遊覽、宿泊)

第二日

仙臺發 前 六・四八(第七ガソリンカー)  
 鹽釜着 七・一二(乗換)  
 鹽釜發 八・〇〇(石巻合同汽船)  
 金華山着 正午(参拜、見物)  
 同發 後 三・〇〇(石巻合同汽船)  
 石巻着 後 五・二〇(宿泊)

第三日

石巻發 前 八・五二(第六一六ガソリン)  
 小牛田着 九・三七(乗換)

盤梯山・東山温泉方面

第一日

福島發 前 七・五三(第一二二列車)  
 郡山着 九・一五(乗換)  
 同發 一〇・〇〇(第九一五列車)  
 猪苗代着 一・一六(磐梯山登り)  
 猪苗代發 後 五・三九(第九二一列車)  
 會津若松着 六・一四  
 同發 六・二〇(バス)  
 東山温泉着 六・四五(宿泊)

第二日

會津若松發 前 九・二五(第九一六列車)  
 上戸着 一〇・二九(猪苗湖見物)  
 同發 後 三・〇三(第九二〇列車)  
 郡山着 三・四二(乗換)  
 同發 三・五二(第一三五列車)  
 福島着 三・五二(第一三五列車)  
 旅費概算 汽車(福島―會津若松)三・三二 バス(若松―上戸)〇・四〇 晝食(車中)〇・三五 宿泊(東山)三・〇〇 食事(猪苗代湖畔)一・〇〇 女中心附約一・〇〇 合計九圓〇七錢

山寺・山形・上ノ山方面

第一日

福島發 前 九・〇五(第四二九列車)

松島・作並方面

第一日

福島發 前 八・五〇(第一二一列車)  
 仙臺着 一〇・一〇(晝食)  
 同發 後 一〇・二五(第一九ガソリン)  
 鹽釜着 〇・四九(鹽釜神社参拜)  
 同發 二・〇〇(松島汽船)  
 松島着 三・〇〇(海岸名所見物)  
 同發 後(松島驛行バス約十五分)  
 松島驛發 五・〇九(第一四〇列車)  
 仙臺着 五・五五(乗換)  
 同發 六・〇五(第三一七ガソリン)  
 作並着 七・二七(バスに温泉まで約二〇分)

第二日

作並温泉發 後(作並驛までバス)  
 作並發 後 一・一二(第三二二ガソリン)  
 仙臺着 二・〇六(乗換)  
 同發 二・二五(第一三六列車)  
 福島着 四・三四  
 旅費概算 汽車(福島―鹽釜)一・四五 (松島―作並)〇・八三 (作並―福島)一・六一 バス(松島海岸―松島)〇・二〇 (作並驛―作並温泉)〇・三〇 晝食(仙臺)一・〇〇 宿泊(作並)二・五〇 晝食(車中)〇・五〇 女中心附約一・五〇 拜觀料その他約〇・七〇 合計十圓六十錢

作並温泉

仙臺と山形を結ぶ關山街道に沿ふ鄙びた温泉に過なかつたが、仙臺鐵道の工事進捗と共に仙臺近郊が持つ最も優れた超俗境として俄然活況を呈して來た。更にその全通を遠からぬ將來に控へて此處は數段の繁榮と賑ひが約束されてゐる。都會人が一日の塵を洗うに最も相應しき設備と條件を持ち、冬はスキーの練習場もある。既に仙臺を檢分濟みの人々はこの地を撰んで一泊するのが賢明である。



(附近名所) 鎌倉山ミチ目録、穴薬師、鳳明四十八窟  
 定義如來、白澤溪流の河鹿  
 (名産) こけし人形、こけし郵便

山形着後 〇・二二(乗換)
同 發 〇・四五(第三〇七列車)
山寺着 〇・二二(山寺參拜)
同 發 四・二〇(第三一〇列車)
山形着 〇・二二(乗換)
同 發 五・一〇(第四二四列車)
上ノ山着 〇・二二(宿泊)

第二日

上ノ山發 後 〇・五五(第四二〇列車)
福島着 〇・五九
旅費概算 汽車(福島上ノ山)三・一六 食車(車中)〇・三五 宿泊(上ノ山)三・〇〇 女中心附約一・〇〇 山寺拜 觀料その他〇・三〇 合計七圓八十一錢

盛岡を中心

金華山・松島・仙臺方面

第一日

盛岡發 前 七・三二(第一三〇列車)
小牛田着 〇・一〇(乗換)
同 發 〇・二二(第六二一ガソリン)
石巻着 〇・二二(乗換)
同 發 〇・一〇(合同汽船)
金華山着 〇・三〇(參拜、宿泊)

第二日

金華山發 後 三・三〇(汽船又は山鳥渡から)

石巻着 〇・五二〇
宮鐵石巻發 〇・一〇〇
松島公園着 〇・七〇〇(宿泊)

第三日

松島公園發前 一〇・〇〇(遊覽船、又はタクシ)
鹽釜着 〇・一〇〇(神社參拜)
同 發 〇・〇五(第一八ガソリン又は宮電)
仙臺着 後 〇・三〇(一時發遊覽バスにて市内遊覽)
同 發 〇・四〇(第一〇三急行)
盛岡着 〇・七・五〇
旅費概算 汽車(盛岡-石巻)二・四〇 (鹽釜-仙臺)〇・二五 (仙臺-盛岡)二・五六 急行券〇・六五 電車(石巻-松島公園)〇・八八 汽船(石巻上ノ山)二・〇〇 (松島-鹽釜)〇・二五 宿泊(松島)四・〇〇 食費(松島)一・〇〇 女中心附約一・〇〇 合計二十圓四十九錢

一船の場合の金華山巡り

初日は東南端に建つ有名な燈臺見學(七軒、往復徒歩約四時間)二日は一周コース(所蔵の表廻りを廻り無双峰-朝日石-黄金石-天柱石-胎内藩-芍薬園-千疊敷-千人澤-銀傳越-會津越-太平-大崎島-小崎島-寶の河原-愛宕神社-社務所)

十和田・湯瀬方面

第一日
盛岡發 前 七・三二(第一一五列車)
青森着 後 〇・三七(乗換)
同 發 〇・一七(市内見物)
葛温泉着 〇・一七(宿泊)

第二日

葛發-子ノ口着、同發-休屋着、同發-毛馬内着(一周コースに揚出通り)
同 發 〇・五・二八(第三一六列車)
湯瀬着 〇・六・一三(宿泊)

第三日

湯瀬發 後 一・〇一(第三一〇列車)
好摩着 〇・三・一五(乗換)
同 發 〇・三・三五(第二〇四列車)
盛岡着 〇・三・五九
旅費概算 汽車(盛岡-青森)二・七八 (毛馬内-盛岡)一・五〇 汽船(子ノ口-和井内)一・二〇 食費(青森)一・〇〇 宿泊(葛)三・〇〇 (湯瀬)三・五〇 女中心附約一・五〇 合計十七圓三十錢(毎年五月中旬より十月末日まで割引乗車券發賣同コース六圓四十八錢)

鳴子・中山平方面

第一日

盛岡發 前 九・四七(第一三六列車)

小牛田着 後 一・〇八(乗換)
同 發 一・二〇(第七五五列車)
鳴子着 〇・三一〇(宿泊)

第二日

鳴子發 前(早朝出發徒歩にて鳴子峽探勝)
中山平發 〇・一・五三(第七七八列車)
小牛田着 後 一・〇二(乗換)
同 發 〇・二・一五(第一二三列車)
盛岡着 〇・六・〇三
旅費概算 汽車(盛岡-鳴子)二・五八 (中山平-盛岡)二・六五 宿泊(鳴子)一・五〇 食費(車中)〇・三五 女中心附約〇・五〇 合計八圓五六錢

男鹿半島めぐり

第一日

盛岡發 前 七・三二(第一三〇列車)
黒澤尻着 〇・八・三八(乗換)
同 發 〇・八・四五(第五列車)
横手着 〇・一・〇〇(乗換)
同 發 〇・一・〇〇(第四二五列車)
秋田着 〇・一・五七(見物、宿泊)

第二日

秋田發 前 九・〇五(第四一九列車)
船川着 〇・一・三七(船で男鹿半島巡り約四時間)

船川發 後 三・〇四(第八列車)
追分着 〇・四・〇二(乗換)
同 發 〇・四・二五(第四〇三列車)
大鰐着 〇・七・四三(宿泊)

第三日

大鰐發 後 〇・二一(第四二八列車)
大館着 〇・一・一五(乗換)
同 發 〇・一・一八(第三一四列車)
好摩着 〇・五・三一(乗換)
同 發 〇・五・三八(第一〇六列車)
盛岡着 〇・六・〇四
旅費概算 汽車(盛岡-盛岡廻遊)四・七九 (追分上ノ船川)〇・八六 汽船(半島遊覽)四・〇〇 食費(車中)〇・三五 宿泊(秋田)三・六〇 食費(船中)〇・五〇 宿泊(大鰐)三・〇〇 食費(同旅館)一・五〇 女中心附約一・五〇 合計二十圓十錢

大鰐温泉

古来奥羽地方の歡樂境として有名青森縣が淺虫と共に誇る温泉街である。西に茶臼山、南に阿闍羅山を負ひ、北は平賀川のせらぎを経て藏館温泉と相對してあるが、その兩街を總稱して普通大鰐温泉で通ずる。附近は有名な津輕林檎の產地であり、阿闍羅山にはまた本邦有数のスキ場がある。



第一日
山形發 前 九・〇〇(第九〇二列車)
福島着 後 〇・一七(市内見物)
同 發 〇・一七(宿泊)

第二日

飯坂温泉發 前(適當なバス又は電車)
伊達發 〇・一・五八(第一二三列車)

第三日

〔附近名所〕 茶臼山公園、専務院、阿闍羅山、大日堂、名木蔭桂
〔名産〕 林檎、豆もち、萩餅、阿闍羅餅、スキ、餅、木地、竹細工等
〔藝妓〕 一人、玉代(三分一本)大四〇錢、小三〇錢、初座敷三本

山寺・山形・福島・飯坂方面

第一日

盛岡發 前 九・四七(第一三六列車)

盛岡發 前 七・三二(第一三〇列車)
黒澤尻着 〇・八・三八(乗換)
同 發 〇・八・四五(第五列車)
横手着 〇・一・〇〇(乗換)
同 發 〇・一・〇〇(第四二四列車)
天童着 〇・四・四〇(バスにて山寺參拜)
山寺發 〇・六・四五(第三一二列車)
山形着 〇・七・二〇(宿泊)

第二日

山形發 前 九・〇〇(第九〇二列車)
福島着 後 〇・一七(市内見物)
同 發 〇・一七(宿泊)

第三日

飯坂温泉發 前(適當なバス又は電車)
伊達發 〇・一・五八(第一二三列車)

盛岡着後 六・〇三  
 旅費概算 汽車(盛岡―黒澤尻廻遊)五九四 (黒澤尻―盛岡)〇七五 (山寺―羽前千歳)〇一六 (天童―山寺)〇三〇 (電車(福島―飯坂)〇一八 (飯坂―伊達)〇一四 (養食(車中)〇三五 (宿泊(山形)二五〇 (養食(車中)〇三五 (宿泊(飯坂)三・五〇 (養食(車中)〇三五 (女中心附約)一五〇 合計十六圓〇二錢

第一日

盛岡發前 九・四七(第一三六列車)  
 小牛田着後 一・〇八(乗換)  
 同發 一・二〇(第七五五列車)  
 鳴子着 三・一〇(見物、宿泊)

第二日

鳴子發前 一・〇〇(第九〇七列車)  
 余目着後 〇・四六(乗換)  
 同發 一・一三(電車乗換)  
 善寶寺着 一・三八(参拜)  
 湯野濱着 三・二一(宿泊)

第三日

湯野濱温泉發前 七・一〇(電車)  
 鶴岡發 八・〇二(第八一九列車)  
 秋田着 一・一八(市内見物)  
 同發後 二・〇〇(第四〇四列車)  
 横手着 三・三七(乗換)

同發 四・三二(第一〇列車)  
 黒澤尻着 六・五八(乗換)  
 同發 七・二〇(第一二五列車)  
 盛岡着 八・二七  
 旅費概算 汽車(盛岡―黒澤尻廻遊)五七三 (黒澤尻―盛岡)〇七五 (余目―下鶴岡)〇五〇 (電車(鶴岡―下湯野濱)〇七〇 (養食(車中)〇三五 (宿泊(鳴子)二五〇 (養食(車中)〇三五 (宿泊(湯野濱)三・五〇 (養食(秋田)一・〇〇 (女中心附約)二〇〇 合計十七圓三十八錢

青森を中へ

十和田・花巻方面

第一日

青森發前 八・〇〇(省營バス)  
 子ノ口着 〇・〇〇(乗換)  
 同發 〇・〇〇(遊覽船)  
 休屋着 〇・〇〇(附近見物)  
 同發 〇・〇〇(省營バス)  
 毛馬内着 〇・〇〇  
 同發後 五・二八(第三一六列車)  
 湯瀨温泉着 六・一三(宿泊)

第二日

湯瀨發前 七・二八(第三〇四列車)  
 盛岡着 一・〇一(市内見物)  
 同發後 二・〇八(第一一〇列車)  
 花巻着 三・〇五(乗換)

同發 三・一四(電車)  
 花巻温泉着 三・三六(宿泊)

第三日

花巻温泉發前 一・五八(電車)  
 花巻着後 〇・一八(乗換)  
 同發 〇・二六(第二〇三列車)  
 青森着 六・四八

第一日

旅費概算 汽車(青森―青森廻遊(省營バスを含む)六・五八(新庄―下花巻)一・七八 (電車(花巻―下花巻温泉)〇・六六(汽船(子ノ口―休屋)一・二〇 (養食(休屋)一・〇〇(宿泊(湯瀨)三・五〇 (養食(盛岡)一・〇〇 (宿泊(花巻)三・三五 (女中心附約)一五〇 合計二十圓八十二錢

弘前・十和田方面

第一日

青森發前 八・五五(第四〇四列車)  
 弘前着前 九・五六(市内見物)  
 同發後 一・五〇(第四〇六列車)  
 大館着 三・〇〇(乗換)  
 同發 三・四五(第三一六列車)  
 毛馬内着 五・二八(乗換)  
 同發 五・三〇(省營バス)  
 大湯温泉着 五・五〇(宿泊)

第二日

大湯温泉發前 (省營バス)  
 休屋着 (養食、附近見物)

同發後 (遊覽船)  
 子ノ口着 (乗換)  
 同發 (省營バス)  
 青森着 〇・〇〇  
 旅費概算 汽車(青森―青森廻遊)四九六 (汽船(休屋―子ノ口)一・二〇 (養食(車中)〇三五 (宿泊(大湯)三・〇〇 (養食(休屋)一・〇〇 (女中心附約)一五〇 合計十二圓〇一錢

秋田・田澤湖方面

第一日

青森發 秋田着後 (宿泊)

第二日

秋田發前 六・〇〇(第四二〇列車)  
 大曲着 七・一一(乗換)  
 同發 八・三〇(第三列車)  
 神代着 九・二一(徒歩にて抱返神社まで三軒、夏瀬温泉まで一〇軒、八木澤口まで一四軒)  
 生保内着後 二・〇〇頃  
 同發 二・四〇(バス)  
 田澤湖畔着 三・一〇(宿泊)

第三日

生保内發前 八・二五(第四列車)  
 大曲着 九・三七(乗換)

觀光の東北

同發 九・四九(第四二二列車)  
 横手着 一・〇一(乗換)  
 同發 一・〇三(第六列車)  
 黒澤尻着後 〇・五〇(乗換)  
 同發 二・四九(第一二一列車)  
 青森着 九・一〇  
 旅費概算 汽車(青森―青森廻遊)六〇六 (大曲―神代)〇三六 (生保内―大曲)〇五七 (バス(生保内―田澤湖畔)〇四〇 (養食(秋田)一・〇〇 (宿泊(秋田)三・〇〇 (養食(夏瀬温泉)一・〇〇 (宿泊(田澤湖畔)二・五〇 (養食(車中)〇三五 (女中心附約)二〇〇 合計十七圓二十三錢

男鹿半島・花巻方面

第一日

青森發前 六・三五(第四二四列車)  
 秋田着 一・一八(乗換)  
 同發 〇・一〇(第五列車)  
 船川着 一・三五(船で男鹿半島探勝約四時間)  
 同發 五・三〇(第一〇列車)  
 秋田着 六・五四(宿泊)

第二日

秋田發前 一・二五(第四二四列車)  
 黒澤尻着後 三・一一(乗換)  
 同發 四・五五(第一二三列車)  
 花巻着 五・一五(乗換)  
 同發 五・二二(電車)

花巻温泉着 五・四四(宿泊)

第三日

花巻發前 一・〇三五(第一〇五列車)  
 青森着後 四・四八  
 旅費概算 汽車(青森―青森廻遊)六〇六 (秋田―下船)一・二六 (電車(花巻―下湯瀨)〇・六六 (汽船(男鹿半島)四・〇〇 (養食(車中)〇三五 (宿泊(秋田)三・〇〇 (養食(車中)〇三五 (宿泊(花巻)三・五〇 (養食(車中)〇三三 (女中心附約)二〇〇 合計二十一圓五十三錢

鳴子・金華山方面

第一日

青森發前 六・二五(第四二四列車)  
 新庄着後 三・二一(乗換)  
 同發 三・二七(第七二〇列車)  
 鳴子着 四・一七(宿泊)

第二日

鳴子發前 六・〇九(第七一〇列車)  
 小牛田着 七・一五(乗換)  
 同發 七・二四(第六一三ガソリン)  
 石巻着 八・〇七(乗換)  
 同發 八・三〇(合同汽船又はバス)  
 金華山着 一・〇〇(参拜、見物)  
 同發 三・〇〇(汽船又はバス)  
 石巻着 五・二〇(宿泊)

第三日

石巻發前 八・五二(第六六一六列車)
小牛田着 九・三七(乗換)
同發 九・四六(第二〇三列車)
青森着後 六・四八
旅費概算 汽車(青森→青森遊)七・五三 (小牛田↓下
石巻)〇・八八 汽船(石巻↓下金華山)二・〇〇 晝食(車
中)〇・三五 宿泊(鳴子)二・五〇 同(石巻)二・五〇 晝食
(車中)〇・三五 女中心附約二・〇〇 拜觀料加贈(晝食を
含)一・〇〇 合計十九圓十一錢

山形を中心に

飯坂・青根方面

第一日

山形發前 九・〇〇(第九〇二列車)
福島着後 〇・一七(市内見物、後(電車
又ハ乗合で)飯坂温泉(約三〇分、晝食入浴
飯坂發) (適宜)飯坂-伊達間(電車又
ハ乗合で約二〇分)
伊達發後 三・五四(第一三三列車)
大河原着 五・〇二(乗換)
同發後(適宜)(大河原-青根間乗合で
約一時間五分)
青根着後(宿泊)

第二日

青根發前 一〇・〇〇(乗合自動車)
大河原發 一・二〇(第一二八列車)
福島着後 〇・三七(乗換)
同發 一・三〇(第四三三列車)
山形着 五・〇八
旅費概算 汽車(山形↓下大河原)四・〇二(バス(福島-
飯坂)〇・三〇(飯坂-伊達)〇・二〇(大河原-青根)二・〇〇
晝食(飯坂)一・五〇 宿泊(青根)二・五〇 晝食(車中)
〇・三五 女中心附一・五〇 合計十二圓五十錢
仙臺・松島・鳴子方面
第一日
山形發前 九・〇〇(第九〇二列車)
福島着後 〇・一七(乗換)
同發 〇・五〇(第一二五列車)
仙臺着 三・〇五(市内見物、宿泊)
第二日
仙臺發前 八・〇五(第九氣動車)(電車ア
リ)
鹽釜着 八・三四(鹽釜神社參拜)
同發 一〇・〇〇(遊覽船又ハ貸切自動
車)
松島海岸着 一・〇〇(附近見物)
同發後 三・三〇(バス又ハ電車)
松島着後 三・四五(乗換)
同發 三・五〇(第一二五列車)
小牛田着 四・一九(乗換)

第三日

同發後 四・三〇(第七二一列車)
鳴子着 六・一五(宿泊)
鳴子發後 一・四〇(第七一七列車)
新庄着 三・一〇(乗換)
同發 三・二六(第四二四列車)
山形着 五・〇三
旅費概算 汽車(山形↓下山形)四・四一 汽船(鹽釜-松
島海岸)〇・二五 バス(松島海岸-松島驛)〇・二〇 晝食
(車中)〇・三五 宿泊(仙臺)三・〇〇 晝食(松島)一・〇〇
宿泊(鳴子)二・五〇 晝食(車中)〇・三五 女中心附二・五
〇 拜觀料(瑞巖寺)〇・二五 其他(瑞巖殿、瑞巖寺等)〇・
二〇 合計十四圓九十一錢
仙臺・金華山・鳴子方面
第一日
山形發前 九・〇〇(第九〇二列車)
福島着後 〇・一七(乗換)
同發 〇・五〇(第一二五列車)
仙臺着 三・〇五(市内見物、宿泊)
第二日
仙臺發前 六・四八(第七氣動車又ハ電車)
鹽釜着 七・一二(乗換)
同發 八・〇〇(石巻合同汽船)
金華山着 正午(參拜)
同發後 三・〇〇(石巻合同汽船又乗合

石巻着後 五・二〇(宿泊)

第三日

石巻發前 七・四五(第六〇二列車)
小牛田着 八・四五(乗換)
同發 八・五〇(第九〇七列車)
鳴子着 一〇・〇〇(入浴、晝食)
同發後 一・四〇(第七一七列車)
新庄着 三・一〇(乗換)
同發 三・二六(第四二四列車)
山形着 五・〇三
旅費概算 汽車(山形↓下山形)四・四一 (石巻-小牛田)
〇・四四 汽船(鹽釜-金華山-石巻)二・三〇 晝食(車中)
〇・三五 宿泊(仙臺)三・〇〇 (石巻)二・五〇 晝食(鳴子)
一・〇〇 女中心附二・五〇 拜觀料(瑞巖殿等)〇・二〇 獻
酬(金華山)但し食事ヲ含ム一・〇〇 合計十七圓七〇錢

中尊寺・花巻方面

第一日

山形發前 七・三五(第四二五列車)
新庄着 九・三一(乗換)
同發 一〇・三〇(第七一八列車)
小牛田着後 一〇・二二(乗換)
同發 二・一五(第一二三列車)
一關着 三・二九(嚴美溪、中尊寺見物)
貨切バス約五圓待貨共
平泉發 六・〇二(第一二五列車)
花巻着 七・三〇(電車にて温泉(約三

十五分、宿泊)

第二日

花巻發後 三・〇五(第一一〇列車)
黒澤尻着 三・二〇(乗換)
同發 三・三五(第九列車)
横手着 五・四四(乗換)
同發 五・五三(第四二八列車)
山形着 一〇・〇四
旅費概算 汽車(山形↓下山形)五・五七 電車(花巻-花
巻温泉)〇・六六(一關-嚴美溪-中尊寺-平泉)五・
〇〇 晝食(車中)〇・三五 宿泊(花巻)三・三五 晝食(花
巻)一・〇〇 女中心附一・〇〇 合計十七圓〇八錢

十和田・浅虫方面

第一日

山形發前 六・五二(第四〇五列車) 秋田
迄急行
青森着後 四・五四(乗換)
同發 五・一五(第一四四列車)
浅虫着 五・四〇(宿泊)
第二日
浅虫發前 六・四三(第一〇一列車)
青森着前 七・一二(乗換)
同發 八・〇〇(省營バスにて八甲田
山越)
萬温泉着 (晝食入浴)

猪苗代湖・東山温泉方面

第一日

山形發前 九・〇〇(第九〇二列車)
福島着後 〇・一七(乗換)
同發 〇・四八(第一二八列車)
郡山着後 二・〇〇(乗換)
同發 二・一〇(第九一九列車)
會津若松着 三・五五(乗合にて東山温泉迄
二五分、宿泊)

第二日

會津若松發前 九・一五(第九一六列車)
翁島着 前 一〇・〇七(乗合にて長濱迄約一〇分)
長濱發 〃 一〇・三〇(遊覽船にて猪苗代湖横斷)
上戸着 後 一二・三〇
同 發 〃 三・〇三(第九二〇列車仙臺行連絡)
福島着 〃 五・〇九(乗換)
同 發 〃 五・一六(第四三五列車)
山形着 〃 八・三四
旅費概算 汽車(山形) 〃 會津若松 五・五〇 パス(會津若松) 〃 上山 〃 四・〇〇 (翁島) 〃 三・〇〇 汽船(長濱) 〃 上戸 〃 五・〇〇 晝食(車中) 〃 三・五〇 宿泊(東山温泉) 〃 四・〇〇 晝食(上戸附近) 〃 一・〇〇 女中心附 〃 一・五〇 合計十三圓五十五錢

男鹿半島・湯野濱温泉方面

第一日
山形發 前 六・五二(第四〇五列車)
秋田發 〃 一・四五(乗換)
同 發 後 〇・一〇(第五列車)
船川着 〃 一・三五(船で男鹿半島巡り船賃一人約四圓)
船川發 〃 五・三〇(第一〇列車)
秋田着 〃 六・五四(宿泊)

第二日

秋田發 後 〇・二〇(第八二四列車)
鶴岡着 〃 三・四八(乗換)
同 發 〃 三・五五(電車)
湯野濱着 〃 四・一九(宿泊)

第三日

湯野濱發 後 (電車)
鶴岡發 〃 三・四七(第五〇三列車)
余目着 〃 四・〇六(乗換)
同 發 〃 四・一三(第九三六列車)
新庄着 〃 五・四一(乗換)
同 發 〃 五・五八(第四〇四列車)
山形着 〃 七・四八
旅費概算 汽車(山形) 〃 秋田 五・四二 (秋田) 〃 船川 一・二六 (余目) 〃 鶴岡 〇・五〇 電車(鶴岡) 〃 湯野濱 〇・七〇 汽船(男鹿半島巡り) 〃 四・〇〇 晝食(車中) 〃 三・五〇 宿泊(秋田) 〃 三・〇〇 晝食(車中) 〃 三・五〇 宿泊(湯野濱) 〃 三・〇〇 晝食(湯野濱) 〃 一・〇〇 女中心附 〃 一・五〇 合計二十三圓八錢

秋田を中心として

飯坂・仙臺・松島方面

第一日
秋田發 前 八・三五(第四二二列車)
福島着 後 六・三四(乗合又は電車にて飯坂に至る約四〇分、宿泊)

坂に至る約四〇分、宿泊

第二日

飯坂温泉發 前 (飯坂、伊達間十五分)
伊達發 前 七・五八(第一〇九列車)
仙臺着 前 九・五三(市内見物)
同 發 後 一・〇八(第二一氣動車又電車)
鹽釜着 〃 一・三二(鹽釜神社参拜)
同 發 〃 二・〇〇(汽船又は貸切自動車)
松島海岸着 〃 三・〇〇(宿泊)

第三日

松島海岸發前 九・〇〇(乗合自動車、電車アリ)
松島驛發 前 九・一二(第二〇三列車)
秋田着 後 四・〇一
旅費概算 汽車(秋田) 〃 横手 六・二二 (横手) 〃 秋田 一・一〇 (松島) 〃 飯坂温泉 〇・三〇 (飯坂温泉) 〃 伊達 〇・二〇 (松島海岸) 〃 松島驛 〇・二〇 汽船(鹽釜) 〃 松島海岸 〇・三五 晝食(車中) 〃 三・五〇 宿泊(飯坂) 〃 三・五〇 晝食(仙臺) 〃 五・〇〇 宿泊(松島) 〃 四・〇〇 晝食(車中) 〃 三・五〇 女中心附 〃 一・五〇 拜觀料(瑞鳳殿・瑞鳳寺等) 〃 〇・二〇 其他(瑞鳳寺) 〃 〇・三〇 合計十九圓三十八錢

金華山・鳴子方面

第一日
秋田發 前 一・二五(第四二四列車)
小牛田着 後 六・〇一(乗換)

同 發 後 六・一〇(第六〇七氣動車)
石巻着 〃 七・一〇(宿泊)

第二日

石巻發 前 八・三〇(汽船又ハ乗合)
金華山着 〃 一・〇〇(参拜)
同 發 後 三・〇〇(汽船又ハ乗合)
石巻着 〃 五・二〇
同 發 〃 六・一五(第六三四列車)
小牛田着 〃 六・五七(乗換)
同 發 〃 七・四〇(第七二三列車)
鳴子着 後 九・二六(宿泊)

第三日

鳴子發 前 一・三五(第七一五列車)
新庄着 後 一・〇七(乗換)
同 發 後 二・〇五(第四二九列車)
秋田着 〃 六・三四
旅費概算 汽車(秋田) 〃 横手 四・六七 (横手) 〃 秋田 一・一〇 (小牛田) 〃 石巻 〇・八八 汽船(石巻) 〃 金華山 二・二五 晝食(車中) 〃 三・五〇 宿泊(石巻) 〃 一・五〇 同(鳴子) 〃 二・五〇 晝食(車中) 〃 三・五〇 女中心附 〃 一・〇〇 拜觀料(加藤) 〃 金華山 〇・〇〇 合計十七圓三十六錢

第一日

秋田發 前 一・二五(第四二四列車)

黒澤尻着 後 三・一一(乗換)
同 發 〃 四・五三(第一二三列車)
花巻着 〃 五・一五(電車にて温泉へ廿五分、宿泊)

第二日

花巻發 前 八・二〇(第一三〇列車)
平泉着 〃 九・三三(中尊寺、嚴美溪貸切自動車にて見物)
一ノ關發 後 二・〇五(第一三八列車)
小牛田着 〃 三・一四(乗換)
同 發 〃 四・三〇(第七二二列車)
鳴子着 〃 六・一五(宿泊)

第三日

鳴子發 前 一・三五(第七一五列車)
新庄着 後 一・〇七(乗換)
同 發 〃 二・〇五(第四二九列車)
秋田着 〃 六・三四
旅費概算 汽車(秋田) 〃 横手 四・六七 (横手) 〃 秋田 一・一〇 (黒澤尻) 〃 花巻 〇・四二 電車(花巻) 〃 花巻温泉 〇・六六 パス(平泉) 〃 中尊寺、嚴美溪一關貸切遊五、〇〇 晝食(車中) 〃 三・五〇 宿泊(花巻) 〃 三・五〇 晝食(車中) 〃 三・五〇 宿泊(鳴子) 〃 一・五〇 晝食(車中) 〃 三・五〇 女中心附 〃 一・〇〇 拜觀料(中尊寺、毛越寺) 〃 〇・八〇 合計二十一圓七十一錢

弘前・青森・十和田方面

第一日

秋田發 前 九・五五(第四一九列車)
弘前着 後 一・四〇(市内見物)
同 發 〃 三・五六(第四〇五列車)
青森着 〃 四・五四(宿泊)

第二日

青森發 前 (省營バス)
蕨温泉着 〃 (晝食、入浴)
同 發 後 (省營バス)
子ノ口着 〃 (乗換)
同 發 〃 (遊覽船)
休屋着 〃 (附近見物、宿泊)

第三日

休屋發 前 (省營バス)
大湯着 〃 (晝食)
同 發 後 (省營バス)
毛馬内着 〃 (乗換)
同 發 〃 〇・四九(第九三七氣動車)
大館着 〃 一・五八(乗換)
同 發 〃 三・〇〇(第四〇六列車)
秋田着 〃 五・一一
旅費概算 汽車(秋田) 〃 大館バスを含む 六・一八 (大館) 〃 秋田 一・五八 汽船(子ノ口) 〃 休屋 一・二〇 晝食(車中) 〃 三・五〇 宿泊(青森) 〃 二・五〇 晝食(蕨温泉) 〃 一・〇〇 宿泊(休屋) 〃 三・〇〇 晝食(本湯) 〃 一・〇〇 女中心附 〃 三・〇〇

田澤湖方面

合計十九回八十一日
第一日
秋田發前 八・三五(第四二二列車)
大曲着 九・四八(乗換)
同發 一〇・五〇(第五列車)
神代着前一・四三(抱返り、夏瀬温泉を
經て生保内迄約廿一軒徒歩五時間半)
生保内發後 五・四〇(バス)
田澤湖畔着 六・一〇(宿泊)

第二日

同發後(バス)
生保内發 〃 (第八列車)
大曲着 〃 二・三八(乗換)
同發 〃 二・五二(第四〇三列車)
秋田着 〃 四・〇一
旅費概算 汽車(秋田―神代)一・二七(生保内―秋田)
一・三六 自動車(生保内―田澤湖畔)〇・八〇 晝食(車
中)〇・三五 宿泊(田澤湖畔)二・五〇 晝食(車中)〇・三五
女中心附一・〇〇 合計七圓五拾三錢

羽越温泉方面

第一日

秋田發前 八・二〇(第七一二列車)
村上着後 〇・三三(バスにて瀬波温泉)

七分、入浴、晝食

同發後 三・一〇(第五〇四列車)
新津着 〃 四・三五(乗換)
同發 〃 四・四二(第三一五列車)
新湯着 〃 五・一三(宿泊)

第二日

新湯發前 八・一七(第八二三列車)
入浴、晝食
同發後 三・〇三(第五〇三列車)
鶴岡着 〃 三・四七(乗換)
鶴岡發 〃 三・五五(電車)
湯野濱温泉着 〃 四・一九(宿泊)

第三日

同發後 三・一〇(電車)
鶴岡着 〃 三・三四(乗換)
同發 〃 三・四七(第五〇三列車)
秋田着 〃 六・五五
旅費概算 汽車(秋田―新湯)七・三四 電車(鶴岡―湯
野濱)〇・七〇 自動車(湯野濱―瀬波温泉)〇・三〇 湯
野濱―瀬波温泉)〇・三〇 晝食(瀬波温泉)一・〇〇 宿泊(新
湯)四・〇〇 晝食(湯野濱温泉)一・〇〇 宿泊(湯野濱温泉)
三・〇〇 晝食(湯野濱温泉)一・五〇 女中心附三・五〇 合計廿二
圓六十四錢

花巻・盛岡・湯瀬方面

第一日

秋田發前 一・二五(第四二四列車)
黒澤尻着後 三・一(乗換)
同發 〃 四・五三(第一二三列車)
花巻着 〃 五・一五(電車で温泉宿泊)

第二日

花巻發前 八・三九(第一〇七列車)
盛岡着 〃 九・二八(市内見物)
同發後 一・二三(第二〇三列車)
好摩着 〃 一・五七(乗換)
同發 〃 二・〇一(第三一一列車)
湯瀬着 〃 四・一〇(宿泊)

第三日

湯瀬發前 九・二四(第九三五ガソリン)
大瀧温泉着 〃 一〇・三二(入浴、晝食)
同發後 一・二一(第九三七ガソリン)
大館着 〃 一・五八(乗換)
同發 〃 三・〇〇(第四〇六列車)
秋田着 〃 五・一二
旅費概算 汽車(秋田―秋田遊四・七九 電車(花巻―
↑花巻温泉)〇・六六 晝食(車中)〇・三五 宿泊(花巻)三・
五〇 晝食(車中)〇・三五 宿泊(湯瀬)三・五〇 晝食(大
瀧)一・〇〇 女中心附 約二・五〇 合計十六圓六十五錢

文部省指定史蹟 名勝天然記念物

- (1) 史蹟
宮城縣 舊齋賢堂―仙臺市勾當臺通
陸奥國分寺址―仙臺市木ノ下町
多賀城址、附寺址―宮城郡多賀城村
舊有備館及庭園―玉造郡岩出山町
福島縣 甲塚古墳―石城郡夏井村
南湖公園―西白河郡白河町
新地貝塚、附手長明神社址―相馬郡新地村
藥師堂石佛、附阿彌陀堂石佛―相馬郡福浦
村
觀音堂石佛―相馬郡福浦村
宇津峯―石川郡小瀧江村、田村郡谷田川村
同二瀧村
泉崎橋穴―西白河郡川崎村
靈山―伊達郡石戸村、同靈山村、相馬郡玉
野村
若松城址―若松市宇鶴ヶ城
下馬渡供養石塔―信天郡島川村
石母田供養石塔―伊達郡藤田町
須釜東福寺舍利石塔―石川郡須釜村
舊二本松藩戒石銘碑―安達郡二本松町
須賀川一里塚―岩瀬郡須賀川町
岩手縣 毛越寺址、附鎮守社址―西磐井郡
平泉村
無量光院址―西磐井郡平泉村
鹽澤城址―鹽澤郡佐倉河村
高野長英宅―鹽澤郡水澤町
下船渡貝塚―氣仙郡大船渡町
錦ノ浦貝塚―氣仙郡赤崎村
中澤洞貝塚―氣仙郡廣田村
九戸城址―二戸郡福岡町
山形縣 山寺―東村山郡山寺村

(2) 名勝

- 城輪棚址―飽海郡本棚村上田村
上杉治憲敬節邸遺址―南置賜郡山上村
秋田縣 搦田棚址―仙北郡高梨村、同千屋
村
平田舊風葉―秋田市手形
宮城縣 松島―宮城郡、桃生郡
楯ヶ岡(櫻)―仙臺市
鳴子峽―玉造郡鳴子町
舊有備館及庭園―玉造郡岩出山町
福島縣 南湖公園―西白河郡白河町
會津松平氏庭園―若松市
須賀川の牡丹園―岩瀬郡須賀川町
靈山―伊達郡石戸村、同靈山村、相馬郡玉
野村
開成山(櫻)―郡山市字開成山
岩手縣 祝鼻溪―東磐井郡長坂村、同松川
村
嚴美溪―西磐井郡嚴美村
山形縣 大沼の浮島―西村山郡大谷村
山寺―東村山郡山寺村
秋田縣 奈良の白燐谷―由利郡上郷村

(3) 天然記念物

- 宮城縣 球狀閃綠岩―刈田郡白川村、同大
鷹澤村
岩手縣 魚取沼鱈魚棲息地―加美郡宮崎村、同小野
田村
岩手縣 鬼首村雄釜及雄釜間温泉―玉造郡鬼首村
陸前江の島うみねこ蕃殖地―牡鹿郡女川町
小原村の材木岩―刈田郡小原村
姉浦―名取郡秋保村
横山村うみねこ蕃殖地―本吉郡横山村
福島縣 三春櫻地―田村郡中郷村

(4) 明治天皇聖蹟

- 鹿野神社の大杉―西田川郡上郷村
秋田縣 つばき自生北限地帯―南秋田郡南
磯村
北投石―仙北郡田澤村
噴泉塔―鹿角郡小坂町
鐘狀柱石噴泉塔―雄勝郡秋ノ宮村
秋田駒ヶ岳高山植物群―仙北郡生保内村
長走風穴高山植物群―仙北郡矢立村
神代藤―山本郡能代港町
ざりがに棲息地―北秋田郡大館町
象潟―由利郡象潟町
芝谷地濕原植物群―北秋田郡釋迦内村
秋田犬―秋田縣
△所屬府縣を定めず指定せられたるもの
かもしか―福島縣その他



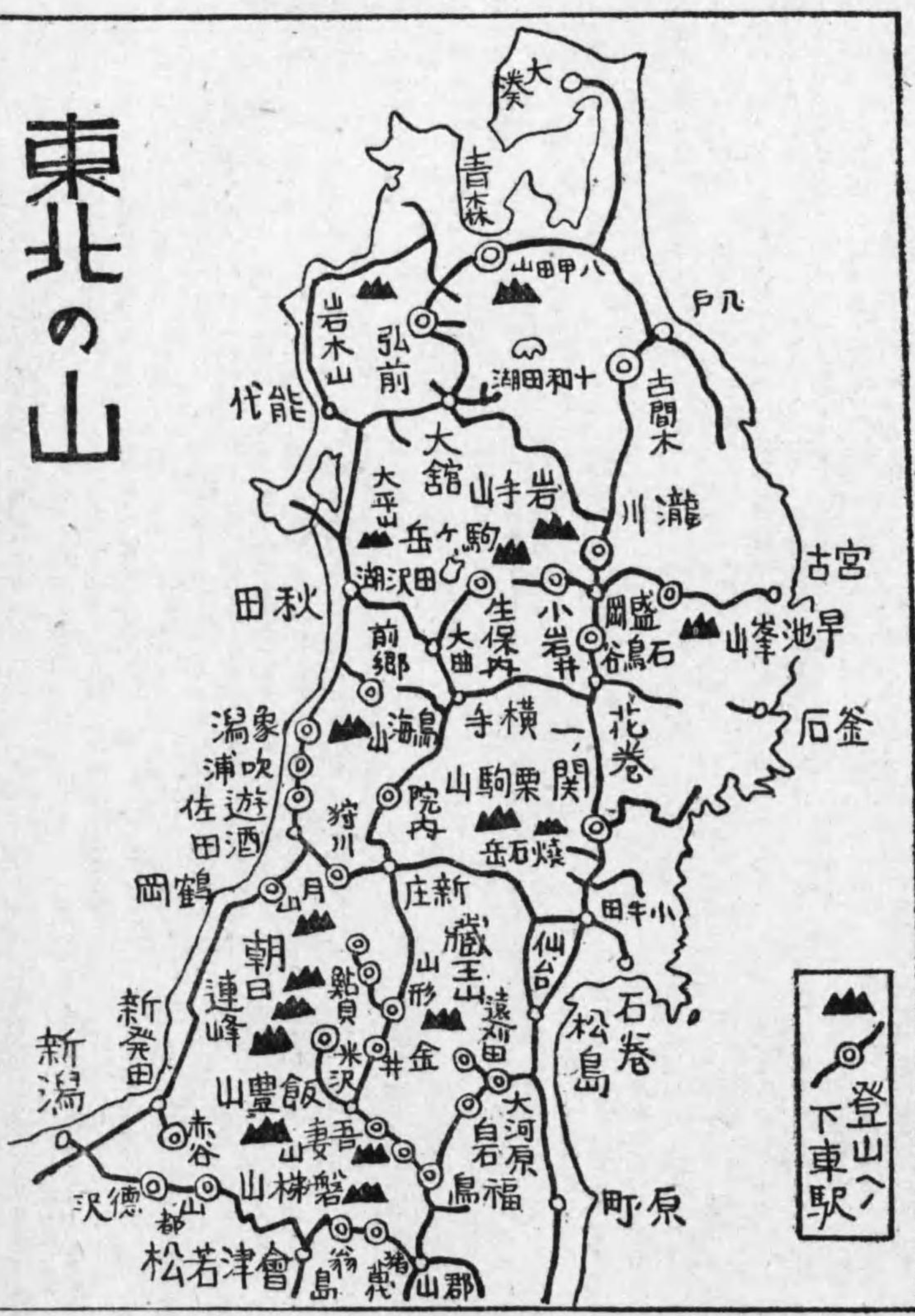


利波寄進狀一通。盛岡市内丸町櫻山神社  
 本造毘沙門天立像、附木造一鬼坐像、和寶  
 那十二箇町毘沙門堂  
 本造傳吉祥天立像一通  
 本造天蓋二面、銅造轡頭三枚、西磐井郡平  
 泉村中尊寺金色堂  
 銅造華蓋六枚一通  
 木造經案二、磐架一、同  
 一切經及箱(傳藤原清衡等所納)二百六十  
 六合一通  
 銅鑄八角須彌壇一通  
 紙本墨書中尊寺建立供養願文(北畠顯家筆)  
 附同願文(嘉曆四年八月二十五日藤原輔  
 方奥書アリ)一通  
 一字金輪木造坐像、西磐井郡平泉村中尊寺  
 木造阿彌陀如來坐像一通  
 木造藥師如來坐像、西磐井郡平泉村中尊寺  
 藥師堂  
 木造藥師如來坐像、西磐井郡平泉村中尊寺  
 關通堂  
 景勝王經十界寶塔受蓋羅紺紙金泥裝板十幀  
 一、西磐井郡平泉村大長壽院  
 螺鈿卓、螺鈿燈臺、木造禮盤一通  
 木造磐架、附銅鑄孔雀文様一通  
 木造大日如來坐像、西磐井郡平泉村瑞光  
 院  
 銅鑄孔雀文様一面(建長二年正月日蓮人ノ  
 銘アリ)一、西磐井郡平泉村地藏院  
 本造千手觀音立像、西磐井郡平泉村觀音院  
 千手堂

本造大日如來坐像、西磐井郡平泉村金剛院  
 本造聖觀音立像、二戸郡淨法寺村天壽寺  
 本造十一面觀音立像一通  
 本造阿彌陀如來坐像、稗貫郡花卷川口町勝  
 行院  
 本造毘沙門天立像、和賀郡立花村大字立花  
 毘沙門堂  
 木造二天王立像一通  
 青森縣 太刀(銘友成作、津輕爲信所用、  
 拵絲卷太刀、附太刀目録一通及津輕承昭  
 寄進狀一通)一、中津輕郡岩木村高照神社  
 太刀(銘眞守、津輕信壽寄進、拵絲卷太刀)  
 一通  
 本造阿彌陀如來坐像(寺傳大日如來像)一、  
 南津輕郡藏前村大圓寺  
 本造阿彌陀如來坐像、下北郡田名部町常念  
 寺  
 唐櫃入赤絲威鏡、兜大袖付、三戸郡館村八  
 幡宮  
 唐櫃入白絲威鏡(兜大袖付)一通  
 紫綵威肩白淺黃鏡(兜大袖付)一通  
 唐櫃入白絲威肩赤銅丸(兜大袖付)一通  
 兜淺黃威肩赤大袖二枚付一通  
 山形縣 絹本着色毘沙門天像、米澤市上杉  
 神社  
 太刀(傳倫光作、表三備前國以下不明、裏  
 二興國二年云々ノ銘アリ)一通  
 紫綵金泥兩界受蓋羅圖一通  
 紙本墨書經緯神智院式、附繪掛屏神智宮一  
 同  
 刀劍(無銘梵字及七星ノ金像眼アリ、鞘十

(2) 建築物  
 宮城縣 瑞巖寺、本堂、御成門、中門、庫  
 裡及廻廊、宮城郡松島町  
 五大堂、宮城郡松島町  
 二支壽續、傳上杉謙信護持)一通  
 太刀(無銘、傳元重)一通  
 長卷(無銘、傳則包、拵付)一通  
 長卷(無銘、傳片山、文字、拵付)二口一通  
 纏(銘城州埋忠作文藏、二年十二月日)十本  
 同  
 太刀(銘助宗、上杉景勝所用、拵革柄、革  
 包太刀)一、米澤市屋代町松神神社  
 天養元年如法斷碑、東村山郡山寺村立石寺  
 本造觀世音菩薩立像、東村山郡出羽村吉祥  
 院  
 本造阿彌陀如來坐像、西村山郡鹽田村慈恩  
 寺阿彌陀堂  
 銅燈籠(文和元年七月二十五日ノ銘アリ)  
 一、東田川郡手向村出羽神社  
 太刀(無銘、附切羽革鍔及革包拵)一、飽海郡  
 本楯村大物忌神社  
 太刀(銘信房作)一、鶴岡市家中新町伯耆酒井  
 忠良  
 太刀(銘眞光、附絲卷太刀拵)一通  
 短刀(銘吉光、名物信濃謙四郎)一通  
 紙本墨書市河文書(自永祿二年二月七日、百  
 四十七通)酒田市本町本間光正  
 秋田縣 絹本着色富盛受蓋羅圖、平鹿郡角  
 間川町淨蓮寺

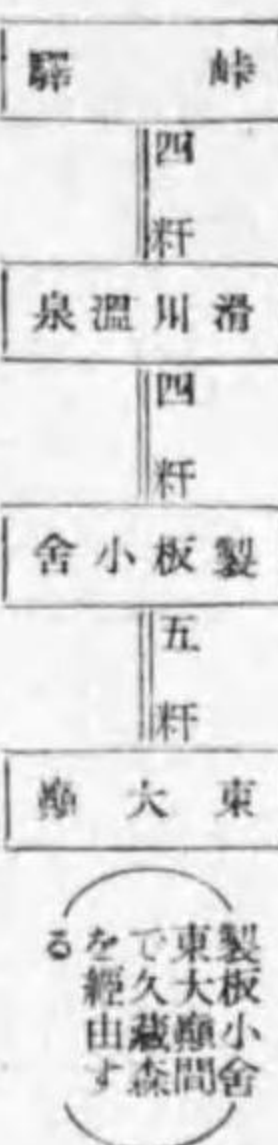
大崎八幡神社、仙臺市八幡町  
 藥師堂、分寺藥師堂、仙臺市木ノ下  
 阿彌陀堂、伊具郡西根村  
 伊達政宗奉願顯鳳殿、仙臺市越路瑞鳳寺前  
 丁  
 伊達忠宗奉願成仙殿、仙臺市越路瑞鳳寺前  
 丁  
 仙臺城大手門、仙臺市川内  
 仙臺城隅櫓、仙臺市川内  
 福島縣 阿彌陀堂、石城郡内郷村  
 地藏堂(藤倉二階堂)、河沼郡日橋村  
 藥師堂(會津中央藥師堂)、河沼郡藤常村  
 觀音堂(立木觀音)、河沼郡塔地村  
 阿彌陀堂、河沼郡島村  
 藥師堂、大沼郡新鶴村  
 辨天堂及奥之院、河沼郡柳津村  
 王子神社本殿、田村郡七郷村  
 岩手縣 金色堂、本堂、覆堂、西磐井郡平  
 泉村  
 經藏(中尊寺經藏)一、西磐井郡平泉村  
 青森縣 岩木山神社、拜殿、櫓門、中津輕  
 郡岩木村  
 最勝院塔婆五重塔、弘前市銅屋町  
 山形縣 立石寺中堂、根本中堂、東村山郡  
 山寺村  
 慈恩寺(本堂)一、西村山郡鹽田村  
 出羽神社塔婆(五重塔)一、東田川郡手向村  
 黃金堂一、東田川郡手向村  
 八幡神社一、東田川郡上郷村  
 秋田縣 古四王神社、仙北郡大曲町



觀光の東北



から大根森を踏破、信夫高湯道に合して五色沼へ一軒、五色沼より一切經へ一軒、更に二軒で吾妻小舎に達する。



【土湯口】

松川、金谷川、福島等から土湯に至り土湯より暮の湯へ一〇軒、更に鳥ノ子平まで八軒を経て吾妻小舎に至る。福島、土湯間一六軒はバスの便がある、別に急坂ではあるが男沼、女沼を経て吾妻小富士の南側に出て吾妻小舎に通ずる別道もある、なほ又土湯から八軒耶麻軌道沼尻驛から九軒鶯倉温泉に至り暮の湯へ三軒の路もあり、鶯倉から一軒で野地温泉へも出られる。

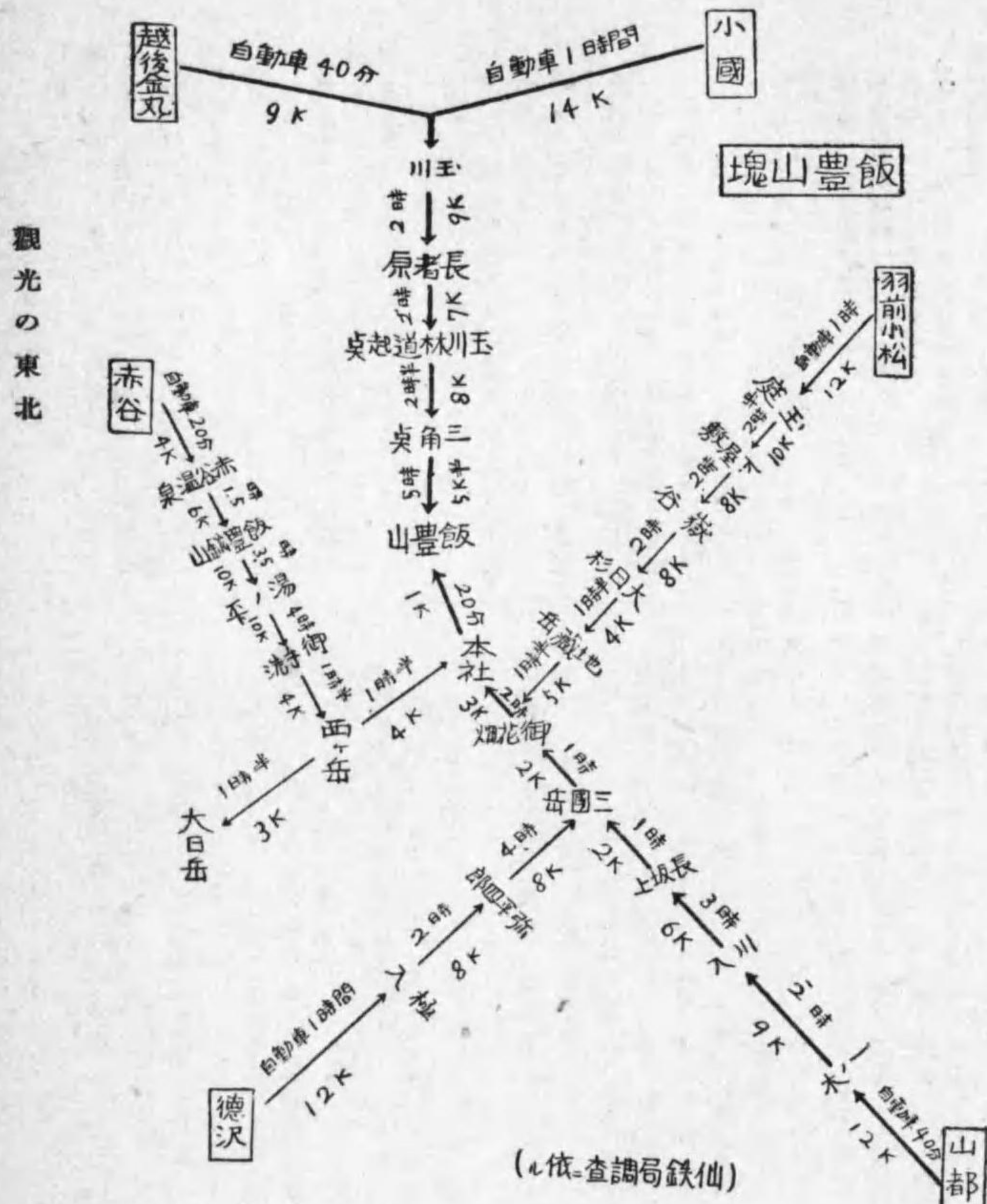
【木地小屋口】

川桁驛より耶麻軌道、木地小屋口から五軒にして秋元湖畔金堀に至り、此處から議場平まで更に五軒、中吾妻西麓を通り吾妻権現神社で中吾妻への登山路に合し其處から二軒で中津川口、ヤケノマ、に合する。

【中津川口】

耶麻軌道樋口驛より五軒川上温泉に至り、此處から秋元湖畔千貫まで一軒、湖上舟行の上中津川口から湖行九軒でヤケノマ、着

磐越線では山都驛と徳澤驛からの二つがある、山都驛から山頂まで三軒、徳澤から彌平四郎の部落に入つて三〇軒、羽越線新設田驛から分れる赤谷線赤谷驛から行けば三六軒で何れも途中の部落山頂小屋に泊せねばならない、日程を入れて左に二、三のサムブルを紹介する。



この間の溪谷は黒滑八丁、白滑八丁、それに朱瀧以下十七瀑布懸つて奇勝を謳はれるところ、なほ湖つて中大嶺から山頂行きの道に合するのである。

【早稲澤口】

裏磐梯檜原湖畔早稲澤部落から西大嶺へ約八軒、早稲澤から湖上を舟で金山に至り檜原崎を越えて半澤に入るのである。また檜原湖畔長峯から川上温泉へ出る裏磐梯遊覧路には五色沼の佳景が展開されてゐる。

【小野川口】

裏磐梯小野川湖畔小野川部落から中澤を湖行約八軒にして西大嶺と西吾妻の鞍部に達する、猪苗代町小野川間には森林鐵道の便がある。

【山宿】

仕澤小屋、権現小屋、谷地平小屋、西吾妻小屋、大黒花柏登山小屋、菅平ヒュッテ、ヤケノマ小屋、クロビ小屋、青木小屋、熱樹山荘、家形ヒュッテ、吾妻山荘、五色寮、吾妻小舎

▲安達太郎山

標高二、七〇〇米

参照地圖 二十萬分一福島

本宮の西北、二本松の正面に當る大嶺で、前記吾妻、磐梯兩山に對して鼎を描いて居り北は吾妻山に至るまでの間、船明神(一・六四一)鐵山(一・七一〇)箕輪山(一・七一八)鬼面山(一・四八一)などの山峰連亘を見る、往古日本武尊登臨し嗚呼可憐りと宣

ひしより安達太郎の名が出たと傳へられる、この山の頂上には明治三十三年活動の爆發火口あつて長經三〇〇米の火口には熱水の湖を漂へ硫黄を沈澱し、灰白色の岩塊屹立する休火山で、山麓には沼尻、獄の温泉が湧いてゐる、西方阿武隈平野を瞰下し檜原、小野川、秋元の三湖を隠見する眺めの良さと登山の樂なことが身上と言へよう。

【登路】

- (A) 東北本線二本松驛下車、賦温泉まで八軒、バス三〇錢
(B) 同線本宮驛から賦温泉まで一三軒、バス四〇錢
(C) 磐越西線川桁驛換へて耶麻軌道沼尻驛下車、頂上まで四軒、徒歩二時間

▲飯豊山

標高二、一〇五米

参照地圖 二十萬分一村上、新潟

羽越山脈の南に聳え福島、山形、新潟三縣に跨る、飯豊山(二・一〇五)を主峯とし西ヶ岳、大日岳、種蒔山、三國岳などの連嶺から成り、東北地方有数の深山地帯で、古くより信仰の登山家を集めたこの山は、近時貴重なエーデルワイスその他の高山植物、ブナの森林、溪谷、雪溪及び山落村民の生活、風習など味ふべき要素の多いことが急激にアルビニスト憧憬の的となつて販つてゐる。

【登路】

- 第二日 川入―御澤―長坂―地蔵山―三國岳―飯豊山頂
一四軒小屋一泊
川入から大日岳を廻り地蔵岳の長い尾根を登り狭い岩尾根傳ひ三國岳を登山頂まで約一二軒
第三日 四季小屋―御西―大日岳―御西―三國岳―長坂―川入泊
第四日 川入―山都驛
B、徳澤口
第一日 徳澤驛―奥川―極人―彌平四郎一泊
第二日 彌平四郎―長坂―三國岳―飯豊山頂―四季小屋一泊
第三日 四季小屋―寶鏡山―鍋目屋根―ヌクミ平小屋―玉川温泉(又は長者原)一泊
第四日 小玉川温泉―玉川―小國―羽前沼澤驛―赤湯驛
磐越線徳澤驛から頂上まで約三〇軒、磐梯署森林軌道に沿ひ奥川村を経て一二軒極人着、登壇あたりに大聖歡喜天あるを以て有名である、極人から山麓の彌平四郎村まで八軒、三國岳で一ノ木國に合してゐる、なほ玉川、小國間、玉川、鷹ノ巣温泉間は自動車あり。
C、小松口
第一日 米澤驛―小松驛(自動車)―玉庭―須郷―下屋地泊、又は須郷まで自動車により下屋地―岩倉―大日杉―磐梯署小舎泊
第二日 下屋地―大日杉小屋―地蔵岳―會津切合―四季小屋泊
第三日 四季小屋―御西―飯豊川下り―温ノ平温泉
第四日 温ノ平―赤谷驛―新設田驛
小松驛から山頂まで五八軒、玉庭まで十軒間バス四〇錢、玉庭、須郷間六軒、須郷、下屋地間六軒、岩倉まで四軒、大日杉まで八軒、頂上に飯豊山神社奥社、宿泊小屋がある、山頂附近は高山植物豐富、頂上からは東に吾妻連峯、西南に磐梯、猪苗代、若松平原、西に新潟、新津を眺め、海の彼方佐渡ヶ島、北東間近かに朝日冠峯と眺望の變化と雄大さは特筆ものであらう。

D、新設出口
羽越線新設田縣から分岐する赤谷線赤谷驛下車、赤谷から加治川に沿って四軒、奇勝に富む玉ヶ手に赤谷温泉あり(温泉までバス一五錢)更に頂上まで三二軒、沿道飛瀑と溪流の美に富み風光大いに見るべきものがある。

〔山宿〕

米澤森林署宿所、温身小屋、四季本社ノ小屋、飯豊山助小屋、湯ヶ島口、小屋、要所口、小屋、湯ノ平温泉小屋、洗濯所ノ小屋

〔案内所〕

小玉川登山案内組合
所在地 山形縣西置賜郡南小国村大字小玉川字長者原
代表者 藤田芳太郎
日當 案内一圓五〇、冬季は二圓(楡山澤、大又澤、机差方面五〇錢増)

案内人

舟山直喜(四四)舟山登茂(四一)本間利一(四三)舟山善策(四五)本間義美(三九)本間重雄(三〇)藤田喜一(二九)藤田俊雄(二六)伊藤武雄(二二)伊藤助直(三五)本間彌二郎(二四)遠藤壽(二五)舟山直(二二)渡邊善三郎(三〇)藤田衛(二一)本間七郎(二五)兼實晴雄(二四)

中津川村登山

所在地 山形縣南置賜郡中津川村大字岩倉
代表者 伊藤想吉
日當 一圓五〇一圓〇〇

案内人

上野丑徳(四五)伊藤勝美(四四)
又(又は)刈田番一熊野岳一地蔵岳一最上高湯)
第三日 青根温泉一遠刈田温泉一白石驛一大河原驛又遠刈田、青根間五軒七、バス三〇錢(白石、大河原より直通一圓)この南蔵王コースは北蔵王(Aコース)と趣を異にし、桐、唐松、假松の密林を縫って屏風岳の大背稜を過ぎる奥深いもの、路は相當峻険で岨々、鎌先間三〇軒の途中は避難所もないから然るべき準備を必要とする。

〔山宿〕

寶碩スキー小屋、蔵王山東北帯大ヒユッテ、コーポルトヒユッテ、清水小屋、平倉造林小屋、名蔵峰造林小屋

〔案内所〕

鶴ヶ温泉口
所在地 宮城縣柴田郡鶴ヶ温泉、岨々スキークラブ
代表 竹内直也
日當 一圓〇〇、冬季五〇錢増

案内人

柴田貫久(三七)菅井春吉(三七)會田芳松(三三)會田正(二九)柴田欣一(二三)菅井三次(一九)大宮長五郎(二六)竹内正人(二二)

高湯口

所在地 山形縣南村山郡堀田村高湯、蔵王山々岳部
代表 岡崎彌平治
日當 一圓〇〇(案内乗人夫)荒天の場合五割増

案内人

堀田吉(三一)岡崎忠(三三)佐藤伊衛門(二七)岡崎嘉平治(二七)岡崎勇(三三)庄司七藏(二二)

朝日岳

標高一、八一四米
参照地圖 甘萬分、仙臺、村上
五萬分、左澤、荒砥、赤湯、大

朝日岳

標高一、八一四米
参照地圖 甘萬分、仙臺、村上
五萬分、左澤、荒砥、赤湯、大

觀光の東北

代表者 狩保清三郎
日當 二圓〇〇、冬季五〇錢増
飯豊山赤谷口登山案内
所在地 新潟縣北蒲原郡赤谷村役場
代表 村長井上平次郎
日當 二圓〇〇、登山道なき場所は二割一割五分増、ヒルバ山、琴澤マナイタ山、鐵山、燒峯等日歸りは各一圓五〇

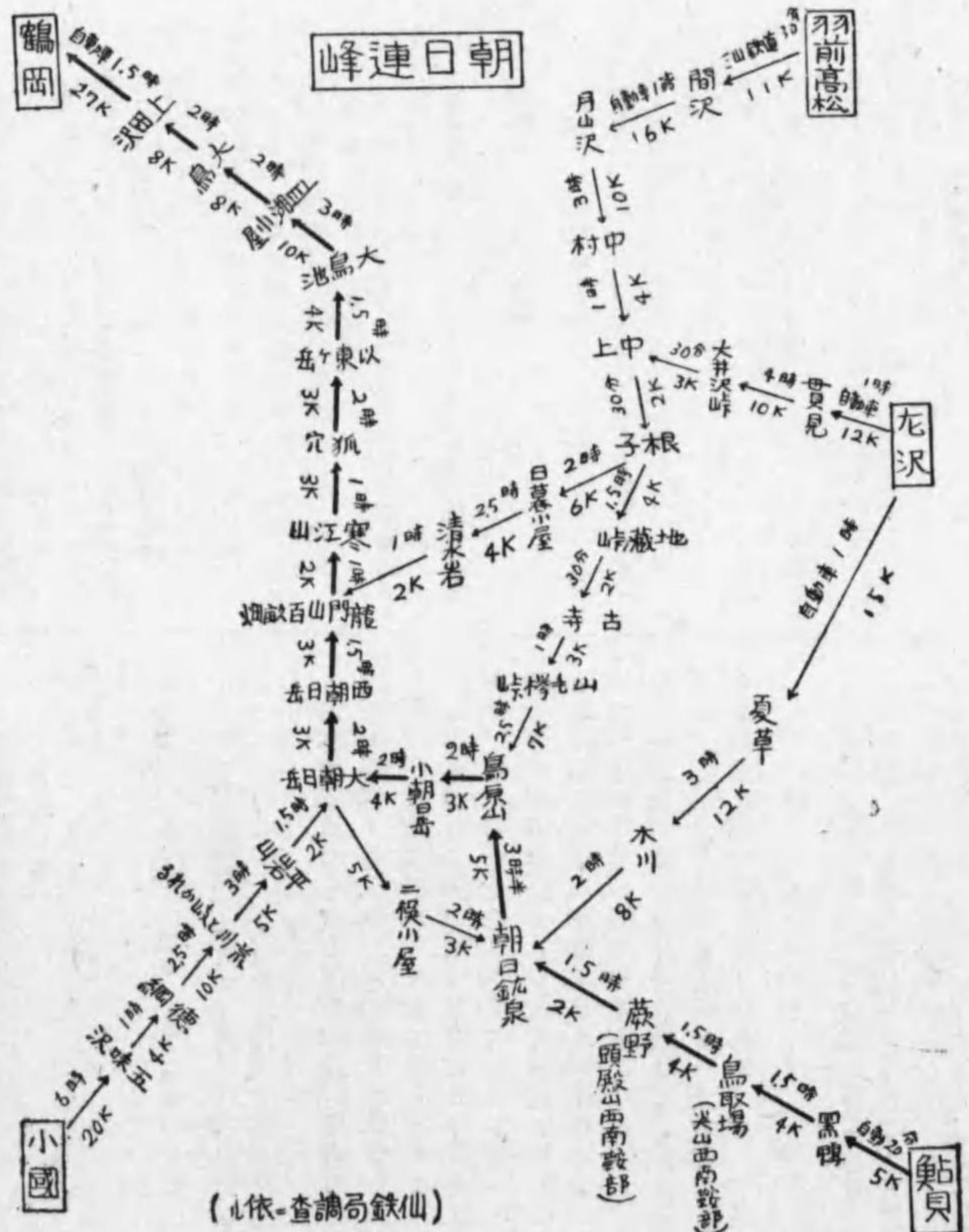
藏王山

標高一、八四〇米
参照地圖 二〇萬分一仙臺
五萬分一白石、上ノ山、山形

阿武隈平原の西方、宮城、山形の縣境に聳える休火山で、冬のスキー登山でも有名(スキーの項参照)熊野岳(一、八四〇)を主峯に刈田岳(一、七五九)五色岳(一、六七四)杉ヶ峯(一、七四五)屏風岳(一、八一七)不忘山(一、七〇五)等の群峯を南北に連ね冬は樹水の美を以て特に有名であるが、一方また氣流天候等に若干の難がある、然し夏分の登山は比較的容易で主に熊野、刈田の兩岳を目指す宮城縣側に岨々、青根、遠刈田、鎌先、山形縣側に蔵王高湯などの静かな温泉を擁してゐるのは四季を通じての魅力であり、冬分は特にスキーヤーの足溜りとして絶對的な存在價値を持つてゐる。

〔登路〕

A、白石、大河原口
第一日 白石驛一遠刈田温泉一青根一岨々温泉泊
第二日 岨々温泉一賢ノ河原一刈田番一熊野岳一地蔵岳一最上高湯
第三日 最上高湯一山形驛(又ハ金井驛)
東北本線白石、遠刈田間二〇軒五、バス何れも片道七〇錢(大河原驛よりは仙南軌道の便もある、五〇錢)遠刈田から刈田岳までは道よく拓けて登破容易だが刈田岳からは熊野岳まで二軒の尾根が古來難所と言はれる馬の背だ、刈田岳頂上に刈田嶺神社熊野岳には熊野岳が祀られて居り何れも傍に石室がある、この兩峰と五色岳との間に火口湖御釜が深碧の水をたゞへてゐる、山頂は概ね砂礫の高原帯で山腹は桐唐松等の疎林が美しい、展望頗る雄大で西に飯豊、朝日連峰、東は平原に蜿蜒たる阿武隈川、太平洋の大海原から松島、金華山を望み、南は吾妻の連嶺、また西北方から北にかけて月山、船形、鳥海等の巍然たる雄姿が見られる。
B、山形、金井口
前記Aコース後半の道を往くもので、奥羽本線山形驛又は金井驛から蔵王高湯までバスで九〇錢、最上高湯から熊野岳まで七軒、熊野岳から刈田岳まで九軒、別に奥羽本線上ノ山形下車、水野經由で登る路もある。
C、鎌先温泉口
第一日 白石驛一鎌先温泉泊
第二日 鎌先温泉一白石牧場一屏風岳一杉ヶ峯一刈田番一刈田岳一賢ノ河原一岨々温泉一青根温泉



鳥池、朝日岳、手の子
新潟、山形の縣境に連亘し、初夏なほ残雪を輝かせて、東北アルプスの異名を頂くこの一連の山群を構成するものは大朝日岳(一、八七〇)を主峯に南から鳥原山(一、四三〇)

小朝日岳(一、六四八)續いて前記大朝日、西朝日岳(一、八一四)寒江山(一、六九五)以東ヶ岳(一、七七一)などが擧げられる、他の如く火山でなく全山概ね花崗岩から成る褶曲山脈であり、山容複雑で溪流美、雪溪の素晴し

さ、ブナの原生林に蔽はれ盡した山腹、樞松の緑と處女雪の白肌の交錯する山頂一帯、そして南から西にかけて吾妻連峯、飯豊山を望み北方間近かに月山に見る雄大、また東に最上平野を隔て、蔵王、船形山々、西に日本海を一望に容れる爽快等々、蓋し山の醍醐味を満喫させて餘りあるだらう。

〔登 路〕

大井澤口、柳川口、朝日鏡泉口などがあるが主として利用されるのは左の朝日鏡泉口である。  
『朝日鏡泉口』東羽赤湯驛で長井線に乗換へ鮎貝驛下車鮎貝驛より朝日鏡泉まで徒歩一七軒四、鏡泉から鳥原山小朝日岳を経て大朝日岳まで二軒三言はれてゐるが、近來朝日岳を廻り直接大朝日への登路が開かれて約二軒を短縮した。

其他に古澤、羽前沼澤、温海、村上からも踏破可能、道路が漸次開拓されてゐるからこれ等を入れて更に興味あるコースのプランが組まれるといふもの、村上から三面村沼邊まで一六軒(自動車三五錢)更に二四軒を三面川に沿ふて三面村まで徒歩八時間(一泊八十錢位)此處から西朝日山麓まで八軒となつてゐる。

大朝日より各驛へのコースとして  
○大朝日—小朝日—鳥原山—朝日鏡泉—鮎貝驛(又は左澤驛)へ  
○大朝日—東ヶ岳—大鳥池—鶴岡驛(又は温海驛)へ  
○大朝日—西朝日—三面村—村上驛へ  
○大朝日—小朝日—羽前沼澤へ  
などがあるが、最後に例によつてティピカルな踏破コースを紹介して置く。

ルな踏破コースを紹介して置く。

- A、第一日 鮎貝驛—鳥原山—小朝日岳—大朝日岳—大朝日神社泊  
第二日 朝日鏡泉—鳥原山—小朝日岳—大朝日岳—大朝日神社泊  
第三日 大朝日神社—西朝日—龍門—狐穴小屋—以東ヶ岳—大鳥池—大鳥池小屋泊  
第四日 大鳥池小屋—茶畑山—四小小屋—上田澤泊(又は大鳥池下り—泡盛—上田澤泊)  
第五日 上田澤—落合—鶴岡驛  
大朝日から以東ヶ岳まで尾根傳ひに一六軒山頂湖大鳥池まで二軒、大鳥湖畔には素晴らしいキヤムプサイドがあり、總じてこの連峯徒走はキヤムピングの山旅にたらしめることが最も興深い、第五日目の落合、鶴岡驛間は自動車の便がある。

- B、第一日 鮎貝驛—朝日鏡泉泊  
第二日 朝日鏡泉—中ツル尾根—大朝日岳—龍門—狐穴泊  
第三日 狐穴小屋—以東ヶ岳—大鳥池—大鳥池下り—上田澤泊  
第四日 上田澤—鶴岡驛

〔山 宿〕

大朝日小屋、二保小屋、狐穴小屋、大鳥池小屋、大鳥池用水工事事務所、シシ小屋、角ナラ小屋  
(案内所)  
鮎貝驛口  
所在地 山形縣長井根鮎貝驛前  
代表 朝日屋旅館古川政治  
日當 一圓五〇  
案内人 古川政治(五三)土屋文蔵(五五)田村勇(二二)  
所在地 山形縣西村山郡西五百川村  
代表 朝日鏡泉古川房吉

日當 一圓五〇(大鳥池より鶴岡に出て解備の場合には五圓)  
案内人 古川房吉(四七)佐藤長五郎(四四)後藤龍蔵(四一)今文(三二)土屋庄五郎(三二)古川光吉(二四)阿部惣吉(四九)丸川榮蔵(三五)  
三面村口  
所在地 新潟縣岩船郡三面村  
代表 高橋喜六  
日當 一圓五〇、冬季二圓

▲月 山

標高一・九二四米  
甘萬分 仙臺、村上、新庄、酒田  
五萬分 清水、月山、左澤、鶴岡  
田妻保

古來出羽三山として信仰的登山の盛んな山で、山形縣中央に美しい半圓形の山容を聳えさせ、山形市方面から月形に見えるところからこの名がある、山頂に官幣大社月山神社があり、毎年七月十五日の例祭には全國から多數参拜者が押寄せるし一般夏季登山者も多しと云ふから、東北で最も早く開けた山として休憩小屋、宿泊の施設も完備されてゐる、いはゆる三山詣はこの月山火山薬に含まれる羽黒山、湯殿山、月山を巡るものである、山開七月十五日、山閉—九月十五日

〔登 路〕

『羽黒口』最も一般的なこの表參道から登り田妻保口に降る順路につき、仙臺局最近調査によるものを左に掲げる  
野川—一〇軒 手向—二軒 洲原—二軒 羽黒—五軒 二  
自動車三〇分 四二分 四四分 四四分 一時間三分

一合目 二軒 二軒二 三合目 一軒一 一軒五  
四〇分 三五分 一六分 三一分 三一分  
二軒九 一軒九 一軒二 二軒六  
五合目 六合目 七合目 八合目 一合目 一合目  
二一分 三一分 三一分 二四分 一合目 一合目  
九合目 二軒二 頂上  
四六分

頂上 六分—鏡治小屋—三分—尾ヶ澤—一分—養衣場—五分  
湯殿山 一七分—仙人澤—一七分—笹小屋—五五分—鏡  
八 八 キ 田妻保 一〇分—柳  
鮎茶屋—一〇分—弘法茶屋—一〇分—  
六 六 キ 五 上名  
清水—四分—大日坊—一時間—地蔵茶屋—一八分—  
川—二キ  
自動車一時間 鶴岡

(頂上宿舎) 一〇〇人収容、一泊一圓五〇、仙人澤一〇〇人、笹小屋一五〇人  
羽黒山には國幣中社出羽神社及び三山神社合祭殿がある、羽黒から月山頂上まで約二一軒五の登路は踏破極めて容易、途中ミヤマウスユキサウ、繁る彌陀ヶ原の有名なお花畑や雪田があり、山頂から湯殿山までは八軒の下り道、左澤線羽前高松驛から間澤まで三山電車三五錢、間澤から月山驛まで一軒四(バス八〇錢)

〔山 宿〕  
頂上小屋、清川行人小屋、笹小屋、仙人澤小屋、鏡治小屋、尾ヶ澤山麓所、岩清水小屋、月山羽黒口ノ小屋、岩清水小屋、手湯小屋、合清水屋、中小屋  
〔案内所〕  
三山折折口

所在地 山形縣最上郡大藤村南山折折  
代表 村松幸次郎  
日當 一人毎に四五錢(三山参拜一泊料及び山賃加算四圓五〇、多数團體の際は割引あり)  
案内人 村松幸次郎(六七)村松榮(二五)其他折折青年團員、同軍團員等が案内の需に應ずる。  
岩根澤三山案内所  
所在地 山形縣西村山郡西山村大字岩根澤  
代表 岩木榮  
日當 一圓五〇、冬季五〇錢増  
案内人 渡邊繁藏(四九)庄司捨藏(四四)東海林清三郎(四四)伊藤春藏(三九)庄司覺道(三三)尾形時雄(三三)櫻部信(三三)岩木要(三三)伊藤雄雄(三三)古澤豊次郎(三三)叶直喜(三〇)伊藤徳治郎(三〇)秋元正治(三〇)片倉惣次郎(三〇)古澤鐵次郎(三〇)大江民部(二九)古澤榮太郎(二七)東海林英雄(二七)

月山神社その處に就て  
國幣小社出羽神社 月山の頂上に鎮座、延喜式内名神の大社で月讀神を齋き奉る、月讀神は天照皇大神の御はらからに在し、御事蹟の偉大さも天照皇大神に次ぐとせられ、由來朝廷の尊崇からざるもので、明治七年國幣小社に列せられ、十八年には同中社、大正三年大社に昇格せられた、山開きは毎年七月十五日、山閉は九月十五日。  
國幣小社出羽神社 東田川郡手向村羽黒山頂に鎮座、祭神は倉稻魂命である、延喜式内名神小伊弉波神社であるのが本社で、五穀の神として人々の信仰は絶對的である、年中登拜可能で、月山、湯殿山兩神社が高嶽麓の上にあつて登拜容易ならざる爲め、本社に分靈を合祀して三山合祭殿と稱し祭事も常にこの合祭殿で執行される慣例である明治六年國幣小社に列せられた。

國幣小社湯殿山神社 本堂は湯殿山に在るが、古來社殿なく熱湯湧く靈窟を御來代としてゐる、祭神は大己貴、少彥名神で共に力を合せて天下を經營し國土を開拓して

萬葉を創始し國家進運の基を建てられた方々、明治七年國幣小社に列せられた、山開は四月八日、山閉十月廿日である。  
主なる三神社例祭、松例祭(一月卅一日)三神社例祭(七月十五日)

▲栗駒山

標高一・六二八米  
廿萬分—一ノ關、新庄  
五萬分—一ノ關、栗駒山、稻庭  
鬼首

從來餘り廣く知られてはゐなかつたが、東北の山を語るに當つてこの栗駒を除外することは出来ない、東北本線一ノ關の西方、岩手秋田、宮城の三縣に跨つて聳立するこの山を『栗駒』と通稱するのは宮城縣側で、岩手縣では酢川岳(又は須川岳)秋田では大日岳と呼んで各々別個の親しみをこの山へ投げ與へてゐるのも面白い、約一、〇〇〇米の高燥な山腹にある須川温泉は泉質の素晴らしい豊富に加へて環境の快適を以て古くより有名、秋から冬にかけて無人の宿となるが、全山紅葉の初秋新雪白き鳥海山を遙かに望んでこの静かな湯に侵る良さは、経験せる人々の例外なしに絶讃するところである。

〔登 路〕

A、十文字口  
十文字驛 一四軒 一四軒 二軒  
バス古鏡 稲庭驛タクシ五圓 湯元温泉 三〇分  
湯より八圓  
大湯 一〇軒 須川温泉 四軒 頂上  
三時間半

(湯元、須川兩温泉間は山麓の便がある)

B. 一ノ開口

一ノ開口 九軒 八歳美彦 一三軒 八歳美彦 瑞山 九軒 中小舎 十一軒 頂上

瑞山は登山者や須川温泉浴室の足溜りで宿屋の設備もある。此處から中小舎を経て原森山(二・三五六)の南へ廻る瑞山よりの「軒標柱」から約二〇〇メートルの地盤で左へ傾斜の急斜面を登る。三軒餘にして頂上に達するが、道路は良い、真面に眺められる鳥海山とその南の月山との間、荘内平野の彼方に日本海と反対側の北上平野彼方に太平洋を併せ見られるのも一興東北の雲表に浮ぶ早池峯山、此は井澤と岩手山が重なり見え、南は船形、大東蔵王を一望に入れて視野頗る宏大、なほまたその脚下に點在して見える須川温泉へは頂上から別に五軒の道が開かれてゐる。

C. 石越口

石越口 一六軒 六歳ヶ崎 一〇軒 七歳ヶ崎

軌道・バス何れも六〇〇 驛よりバス六軒

桑畑 六軒 七歳ヶ崎より三軒 駒ノ湯 表口八軒

バス岩ヶ崎より三軒 行者道 二時間 駒ノ湯 裏口八軒

頂上 駒ノ湯の宿舎は二軒で一〇〇人位泊れる、此處から頂上までは表口、裏口兩道あり、表口は普通御湯がけと稱し山頂の西南駒形根附近に源を發する御湯に沿つて進行するもので、松渡り、石渡り梯子籠等の奇勝あり、盛夏なほ雲霧を踏む趣興かなコースではあるが、徒歩所もあつて特に出水の時など警戒を要するが、これに反し新湯がけのいはゆる裏口は極めて樂なもの、所要時間も半分の二時間で済むところから、湯治客は勿論登山家も一般にはこれを利用する。

〔山 宿〕

羽後本莊驛から分岐する横莊線前驛から矢島を経て登るコース、驛から矢島まで一四軒(自動車一圓)矢島から山頂まで約二四軒、森林美の奥深い路である。

○鳥海から出羽三山をかける人の爲めのプラン

- 第一日 遊佐驛―藤岡―杉澤―横堂―河原宿泊
- 第二日 藤岡―七高山―鳥海山神社―新山―鳥海―駒止―吹浦大物忌神社―湯ノ田温泉泊
- 第三日 湯ノ田―吹浦驛―鶴岡驛―手向―羽黒山神社―大浦原泊
- 第四日 大浦原―冷水水―合清水―彌陀ヶ原―月山頂上小屋泊
- 第五日 頂上小屋―鏡治小屋―湯殿山―志津―木尊寺―間澤驛―羽前高松驛―山形驛(又ハ湯殿山神社―田邊侯―鶴岡驛)

〔山 宿〕

大培養師堂、陣屋小屋、駒止小屋、霊峯本殿参拜人休息所、鳥海神社参拜人休息所、若王子小屋、河原宿

〔案内所〕

藤岡口登山案内組合  
所在地 山形縣飽海郡藤岡村上藤岡  
代表 鳥海成徳  
日當 案内二圓〇〇。人夫三圓〇〇。滞在日當一圓五〇  
案内人 小野岩藏(五五)鳥海榮助(五〇)仲鉢善太(四五)伊藤彌太郎(四五)鳥海米三(四二)仲鉢善助(三三)仲鉢力雄(三二)鹽谷弘慶(三二)鳥海豊(二九)鳥海豊(二六)徳道内郎(三三)

鳥海山吹浦口

所在地 山形縣飽海郡吹浦村  
代表 島中善作  
日當 先達料五人まで二圓〇〇、以上十人まで一人毎に三〇銭増、頂上にて下り口(藤岡口)變更

觀光の東北

中ノ茶屋、駒ノ湯温泉、新駒ノ湯温泉、栗駒頂上御室、頂上看親小屋、須川温泉

〔案内所〕

栗駒村口 宮城縣栗原郡栗駒村  
代表 設場、駒形神社事務所  
日當 案内一圓〇〇―三圓〇〇、人夫二圓〇〇―五圓〇〇、冬季倍額  
案内人 代表者が其程度適宜選定  
所在地 岩手縣陸奥郡 柳村谷子澤  
代表 菅原八右衛門  
日當 一圓五〇―冬季二圓五〇  
案内人 菅原甚吉(四〇)その他

▲鳥海山

標高二、三三〇米

参照地圖

甘萬分―新庄、酒田、五萬分―矢島、鳥海山、象洞、吹浦

月山の北方最上平野を隔て、秋田、山形の縣境に富士に似た秀麗な山容を聳えさせる東北第一の最峯、西北に庄内平野を繞らし、西は日本海にその長大な山裾を没して孤立し由來「秋田富士」「羽後富士」「鳥海富士」などの別名を持つ。奥羽切つての名山である。南から西側にかけて殆ど樹木なき見事な草地の裾野で、僅かに東北側の麓邊にブナ、檜などの原生林を見るだけは些か單調の感を免れないが、大物忌神社を祀る神靈を籠め威容おのづから整つて奥羽の名山を謳はるゝに相應しき山貌は俗界を壓するに充分なものであり、

奥羽線を過ぎる游子の誰しもの目に映ずる一大觀である、山頂は東南に火口壁を繞らし享和年間噴出に成る新山は「享和岳」とも呼ばれ怪奇特絶の岩石地帯をなして居りまた高山植物の種類と量の豊富なることも有名で特に七合目附近に見られる「鳥海フスマ」は山形高松の徽章にも型どられ香り高き郷土のシムボルになつてゐる。山頂の御來光、落日の聖觀は言ふに及ばず、一天晴朗の日、栗駒山、月山、太平山、駒ヶ岳の諸峯を東南北の三方に望み、更に日本海遠く青螺の如き飛鳥、佐渡ヶ島や半環を描く男鹿半島を視野に入れる雄大幽幻は、到底見ぬ人の想像の限りでない

〔登 路〕

「藤岡口」

遊佐驛 三軒 六歳ヶ崎 一軒 横堂 二軒 河原宿 一軒 行者岳 七高山(頂上)

「吹浦口」

羽越線吹浦驛から登るコースで最も一般性を持つもの吹浦驛―吹浦口ノ宮―木落坂―陣屋―駒止―七石―二の宿―河原宿―鳥の海―お田ヶ原―千蛇谷―頂上(驛から口ノ宮まで〇・五軒、頂上まで約二五軒)

「小瀧口」

羽越線湯澤驛下車、小瀧まで七軒(自動車あり)小瀧には金峰神社、奈倉の白瀧、元瀧がある、小瀧から白絲の百瀧、鳥の海を経て頂上まで約一六軒、最短期間で豪壯なスリルに富んでゐる。

「矢島口」

羽越線湯澤驛下車、小瀧まで七軒(自動車あり)小瀧には金峰神社、奈倉の白瀧、元瀧がある、小瀧から白絲の百瀧、鳥の海を経て頂上まで約一六軒、最短期間で豪壯なスリルに富んでゐる。

▲焼石岳

標高一、五六八米

参照地圖

甘萬分―一ノ開口、新庄、五萬分―水澤、焼石岳、川尻ノ黒澤尻

岩手縣の西南にあり、その連峯南に獅子ヶ鼻岳横岳連聳し、西に三界山、北東に六澤山天竺山を経て經塚の奇峰に至る連山諸峯を一望に収め秋田縣側に裾をひいてゐる、交通不便のため従來廣く知られなかつたこと前記栗駒山同様であるが、四百種に餘る高山植物の群落の美と、八月の盛夏なほ雪溪の見られることなどがこの山の特徴であり、近時登山路完成と共に相當の賑ひを見せるやうになつた

〔登 路〕

東北線水澤驛から馬留まで二一キロ(バス八〇銭)馬留から約半軒で懸瀧川と原前川の合流點に達する、この地盤から奥は斷崖と激流と深淵で、楓樹、古松、藤岡などの美しさがこれに交錯し沿岸一二軒は夢見るやうな風景の連続である、この合流點から先二軒のさうに谷子澤部落があり此處が足溜りとなり唯二軒だけの民家乍ら何れも行届いた心盡しを以て泊めて呉れる、此處から横岳の裾を縫つて山頂まで約一二軒(徒歩六時間)下山に同コースを逆に登るが、更に天竺、經塚、駒ヶ岳の嶺頂に夏油温泉に下るコース(約一二軒、六時間)は経路でも更に奥深い、夏油の原始的温泉に疲れを癒し横黒瀧岩瀧驛へ出るのだが、その間一四軒(徒歩四時間)別に奥羽線十文字驛からのコースもある。

▲早池峰山

標高、九一四米

参照地圖

甘萬分―盛岡、五萬分―花巻、日詰、早池峯山

盛岡の東、太平洋岸古港までの間を連ねる北上山脈の主峯で岩手縣第二位の高山、鷲頭山、薬師岳等の雄峯これにならび一帯は大原生林をなし、溪谷美と深林美あまねき深山地帯である、山田線開通までは附近の信仰登山者、植物研究等の特殊な人々以外餘り知られず、随つて最も原始的な良さを持つ山の一つで、指定高山植物帯があり、早池峯ウスキサウは、この山特有のものとして就中有名なもの、山頂から南面にかけて斑瀾岩の岩壁露出し、東北の山には珍らしい岩場を見せ、男性的な山骨を形成してゐる、とも角素朴早池峯も山田線開通により松草驛又は平津戸驛下車の登路開かれてからは登破非常に容易になり一般アルピニストの好対象となりつゝある。

〔登 路〕

『石鳥谷口』 二軒 大通 一八軒 六軒五 河原坊 石鳥谷驛 一五〇〇 鐘 タクシー九圓  
二軒六 頂上  
〔母の寮村には早池峯神社事務所あり、この邊の民家が登山季には宿屋に早替りして本來の宿屋はない〕  
『門馬口』 六軒 門馬 追分  
平津戸驛(又は松草驛) 六軒 門馬 追分  
頂上(向馬) 頂上間六軒、このコース所要時間、登り五時間、下り三時間半  
閉伊川の支流御山川に沿ふ四軒の間は白神の高原帯でそ

れに續いて橋、桂の原生林更に青森松の鬱蒼、次第にソウシ帯から假松帯に入り山頂近く登りつめて廣潤な植物帯の高原を見る順序、その間溪流美がまた至るころ見受けられる。

〔山 宿〕

早池峯山頂小屋  
早池峯山頂小屋  
早池峯山頂小屋

〔案 内 所〕

所在地 岩手縣神代郡内川村安岳  
代表者 早池峯神社、山陰廣司  
日 當 一〇人まで二圓五〇、以上一人増毎に二〇銭増  
案内人 小國謙次郎(五一) 神林正吉(五〇) 小國徳二(四一) 小國由五郎(三三) 伊藤壽(二八)

▲岩手山

標高一、〇六〇米  
參照地圖 廿萬分一盛岡、秋田  
五萬分一盛岡、沼宮内、雲石、八幡平

盛岡市西北に聳える名山、東北にかけて北上平野に優美な裾をひいてるが、南から西にかけては二三の小群峯を連ねて稍々均衡を失してゐるので、南部の片富士の異名あり、また岩木山の津輕富士に對し單に「南部富士」「奥の富士」とも呼ばれてゐる、情熱の詩人啄木が「故郷の山」と稱へた詩の山、東北本線を駈つて旅行く人々にとつて、姫神山と對峙するこの岩手山の嚴たる威容は極めて印象的だ西から北にかけては葛根田川の溪谷を隔て、秋田駒ヶ岳山麓に對し、東南は南部平野

を繞らして居り小岩井牧場を始め多くの放牧地が有名な南部馬を育てゝゐるのである。東北面には殆ど榮林の發達を見てゐないが、この小岩井牧場のある南西側は網張温泉邊りから原生林茂り鬼ヶ城などの侵蝕された火口壁の屹立によつて單調を破られ一見火山と思はれぬ景觀の素晴しきがあり、ブナの原生林、御釜、御苗代などの沼や濕地を巡る樺と針葉樹林の幽幻さは味ふべきである。

〔登 路〕

瀧澤驛―柳澤―馬止―受取坂―不動平―妙高ヶ岳―藥師ヶ岳―頂上  
瀧澤驛―柳澤―馬止―受取坂―不動平―妙高ヶ岳―藥師ヶ岳―頂上  
瀧澤驛―柳澤―馬止―受取坂―不動平―妙高ヶ岳―藥師ヶ岳―頂上

〔大 更 口〕

花輪線大更驛下車、山麓まで八軒(徒歩二時間半)最も容易なコースで七合目までは森林帯を通り途中二合目附近に磐岩帯「雄走」の跡が見られる、頂上附近には駒草繁り「イワテハタザオ」等も多い、山頂に立てば、東南には大北上平原ミの中を縫ふ北上川、盛岡市を俯瞰し、姫神山から北上山脈の連綿が眺められ、南は脚下に小岩井農場の牧場的風景開けその彼方に栗駒の遠望を配し西は葛根田川の溪流を隔て、八幡平の連綿駒ヶ岳、駒ヶ岳

が見られる。  
『小岩井口』  
盛岡驛分岐の橋場小岩井驛下車、網張温泉一泊の上登るのだが、今日は行燈のくらがりで澄るこの原始さながらの山の湯「網張温泉」気分は却々に捨て難きものだらう。

〔山 宿〕

網張温泉  
新網張温泉口  
所在地 岩手縣岩手郡西山村  
代表者 大久保千代松  
日 當 一圓五〇、鳥越の湯案内一圓〇〇  
案内人 馬坂松助(六二) 篠村巳之助(六〇) 楠平繁太郎(三六)

〔案 内 所〕

居りその附近一帯は駒草その他の高山植物が豊富である、東北方に乳頭山を越えて岩手山を望み、南東には雲石の平野、西にはまた明鏡田澤湖を見その彼方に太平、鳥海の雄姿を望んで雄大な展望を授けることが出来る、山頂南方に國見温泉、北山麓に蟹ノ湯その他五つの温泉を擁してゐる。

〔山 宿〕

駒ヶ岳ヒユツテ、水澤温泉  
〔案 内 所〕  
駒ヶ岳登山案内所  
所在地 秋田縣仙北郡生保内村中保内字黒澤  
代表者 千葉忠市郎  
日 當 一圓五〇(駒ヶ岳に限り案内人荷物なし、入夫は六貫匁内外) 冬期は五〇銭、岩手縣國見方面一圓増  
案内人 田口幸作(三九) 千葉喜三郎(三三) 清水隆一(三九) 佐川今一(三五) 千葉金十郎(三六) 高田多左衛門(三四) 藤原喜代治(三四) 高田重左衛門(三三) 佐川久美(三〇) 田口良吉(二八) 千葉忠市郎(五五) 田口清三郎(二二) 田口清(二二) 山田國太郎(二五)

〔案 内 所〕

駒ヶ岳生保内村口  
所在地 秋田縣仙北郡生保内村  
代表者 生保内村長、鬼川貴一  
日 當 一圓五〇、國見温泉廻り一圓八〇  
案内人 最上善助(五二) 平鹿元助(五二) 島山文一郎(五二) 千葉忠一郎(五二) 田口耕之助(四九) 菅原千一(四三) 島山金松(三三) 青柳敬治郎(五二) 高橋忠三(三三) 藤原常治(二九) 藤原彌平(三六) 伊藤吉之助(二七) 稲田公平(二八) 柴田清一(二六) 高橋正吉(三三)

〔登 路〕

奥羽線大曲驛から分岐する生保内線生保内驛終點下車、其處から中生保内まで一軒三、右折して登山口になるのだが此處から頂上まで約一軒二軒、比較的容易な道で、山頂は優美な圓錐状をなし東南に横岳が火口壁状に廻つて

觀光の東北

參照地圖

出羽山脈中の一山塊で、近代において海中より隆起した第三紀以前の火成岩といふのが地質學的鑑定、南北両秋田及び河邊の三郡に跨る前岳、中岳、奥岳の總稱である、西北一帯は全國的に有名な仁別國有林として、奥岳附近からこの美林が素晴しき樹海として瞰下される、前岳附近からは高山植物も見られ標高は敢て偉とするに足らぬが昔から信仰的登山者を集めた山で山麓に田澤湖、抱返りなどの勝景あり、そして比較的深い感じの味へることも特徴であらう。

〔登 路〕

木曾石口、仁別口、砂子瀧口の三つあるが何れも山頂まで約二四軒の距離である。  
『木曾石口』  
秋田驛 二軒 沼 八軒 八軒 木曾  
石六軒 前岳 中岳 奥岳(頂上)  
歸路を砂子瀧コースに求める法もある。  
『仁別國口』  
驛から仁別まで約十四軒、仁別、務澤間四軒、務澤頂上間四軒、鎌め榮林帯の瞭解を求めれば秋田、務澤間約十八軒を森林軌道を利用することが出来る。  
『砂子瀧口』  
奥羽本線和田驛下車、岩見三内まで約一〇軒(自動車片道四〇銭)更に砂子瀧を経て頂上まで約一二軒、途中岩

見三内から岩谷山は筑紫の奇勝を助けて迂迴すればなほ興味深い、なほこの口の頂上から約七〇〇米下る附近「不逞の澤」の種所があり初登山者は注意を必要とする。

頂上小屋 収容力約四〇人、一泊一圓三〇

八幡平

標高一、六二四米  
参照地図 甘萬分一八戸、盛岡、弘前、秋田  
五萬分一田山、八幡平、森吉山

美景を謳はれる青森ト、松の自然林と高山植物の豊富を以て知られ、岩手、秋田の縣境に君臨する山である。鳥海、岩木、岩手、八甲田、森吉等の群峯を一望に収め得る頂上には雄大な眺望、また燒山を含む三里の地帯には蒸湯、後生掛、又一、鹿湯等の諸温泉を擁して至るところ噴湯、湯沼、泥火山が見られ、殊に鹿湯附近には有名な冷水潭の北投石や殺生潭の毒ガス地帯など、近來の旅館施設の整備と共に冬季はスキー地として全国的に知られつゝある。

〔登路〕

A 花輪線小豆澤驛 (又ハ東北本線好摩驛)下車、坂比平まで一四軒(タクシー三圓五〇)坂比平より熊澤園有林を経て一合目まで一九軒(タクシー一五圓)蒸湯までの九軒は徒歩又は馬(一圓〇〇〇)  
○蒸湯一八幡平頂上五軒(一上り二時間半、下り一時間半)  
○蒸湯一後生掛二軒(一時間)  
○後生掛一登川製煉所跡(八軒一〇分)  
○登川製煉所跡一燒山四軒(二時間)

○燒山一鹿湯(蒸湯)四軒(二時間)  
更に鹿湯から田澤湖若くは生保内に出る快適なコースがある。  
鹿湯一湯ノ温泉一玉川一尻高一正神峠一田澤一田澤湖  
畔春山泊(又ハ自動車にて生保内驛)  
○鹿湯一玉川橋七軒(二時間)  
○玉川村一先達村一五軒(四時間)  
○先達村一田澤湖三軒(四〇分)  
○田澤湖一生保内六軒(一時間半)  
(玉川村一先達村附近は木炭運搬船に乗せて貰ふ玉川下りも一興、一人一圓五〇位、田澤湖一生保内間バス四〇分)

生保内から小豆澤へ  
Aの逆コースだが、これには玉川下りの船の便法は求められない。

〔山宿〕

蒸湯温泉、八幡平鹿湯温泉、國見温泉、釜蓋温泉、蟹場温泉  
B 大更、藤七經由  
花輪線大更 二軒二屋敷 六軒二若 旗七軒三  
三時間 藤七温泉 二軒一頂上 一時間四〇分  
藤七温泉 四〇分  
(大更、屋敷間は松尾嶺山専用鐵道がある)

〔案内所〕

八幡平坂比平口  
所在地 秋田縣鹿角郡宮川村長谷川谷内  
代表 阿部貞吉  
日當 一圓〇〇、冬季五割増  
案内人 阿部秀三(二七)熊谷金太郎(三八)櫻田岩藏(三〇)館花小太郎(三五)館花宇八(二八)阿部

〔山宿〕

を志す白衣の登山者が麓から山頂まで續くとときあつた、春秋の静かな遠望も別個の風情あり、わけても残雪を頂きほのかに霞んで春の頃、例の弘前城の名花の書割ともなる岩手山の姿はまさしく一幅の繪である。

〔登路〕

弘前驛 一、二軒 五、五軒 六、見晴臺 一軒 七、山頂  
バス三五、五圓  
タクシー三圓  
往路を弘前驛から岩湯温泉に廻り(バス七〇錢)歸路百澤へ抜けるコースは變化あつてなほ興味深い、登路は割に容易である。山頂は奇岩屹立し岩木神社の奥に二棟の休憩小屋あり、展望頗るひろく、東方山嶺一帯の津輕平野と岩木川の流れを望み、八甲田の姿、青森市から同澤下北半島に恐山北には津輕半島から十三湖、そして西に歸ヶ澤や日本海など總てその一望の中である。

〔案内所〕

田代温泉、田代新湯温泉、猿倉温泉、酸ヶ湯温泉、葛湯温泉  
〔山宿〕  
所在地 青森縣上北郡法奥村葛湯温泉  
代表 小笠原四郎  
日當 一圓〇〇  
案内人 小笠原信太郎(三五)小笠原眞三(三〇)久保伍助(二五)小笠原定三(二二)

〔案内所〕

八甲田山に近くその西に聳え、津輕富士の奥の小富士などの別名からその秀麗な山容が想ひ知られやう、津輕平野に悠々孤立し廣大な草原をなす裾野一帯に森林美を求めることは出来ないが展望あくまで開けた明朗の感また味ふべきだ、由來信仰登山の盛んな山で、豊作の年の夏などは五穀豐饒の御禮詣り

〔山宿〕

見三内から岩谷山は筑紫の奇勝を助けて迂迴すればなほ興味深い、なほこの口の頂上から約七〇〇米下る附近「不逞の澤」の種所があり初登山者は注意を必要とする。  
頂上小屋 収容力約四〇人、一泊一圓三〇

〔案内所〕

八甲田山に近くその西に聳え、津輕富士の奥の小富士などの別名からその秀麗な山容が想ひ知られやう、津輕平野に悠々孤立し廣大な草原をなす裾野一帯に森林美を求めることは出来ないが展望あくまで開けた明朗の感また味ふべきだ、由來信仰登山の盛んな山で、豊作の年の夏などは五穀豐饒の御禮詣り

〔山宿〕

見三内から岩谷山は筑紫の奇勝を助けて迂迴すればなほ興味深い、なほこの口の頂上から約七〇〇米下る附近「不逞の澤」の種所があり初登山者は注意を必要とする。  
頂上小屋 収容力約四〇人、一泊一圓三〇

八幡平山案内

所在地 岩手縣二戸郡田山村役場  
代表 村長、米川權四郎  
日當 案内一圓五〇、人夫一圓〇〇、冬季二割増  
案内人 川又留(四九)晴沼政吉(三九)晴沼竹(三九)晴沼正太郎(三三)川又留之進(二二)

八甲田山

標高一、六〇六米  
参照地図 甘萬分一青森、弘前、八戸  
五萬分一青森東西部、八甲田山  
十和田、七月、三本木

明治廿五年一月、歩兵第五聯隊遺難によつて一躍有名になつた山、津輕平野に流す裾の美しさを見せ青森市の南に聳えてゐる、高田大岳、石倉岳、硫黄岳、大岳、井戸岳、赤倉岳、八甲田、茂范岳、八甲田前岳などの八ツの峯から成るので、八甲田の名あり何れも火山性の圓錐形の山でその二三が舊火山口を持つてゐる八甲田大岳が最高峯で、登山は普通この山を目指す、全般に左程高い山ではないが、北海道通ひの連絡船からクツキ見られる情趣、高原、裾野一帯を彩る牧歌的景觀は何れも素晴らしい魅惑である。

〔登路〕

青森驛又は浦町驛下車、何れからでも省費バスが利用される、青森驛から山腹酸ヶ湯温泉まで三〇軒(料金九〇錢)途中ならかな放牧の裾野を觀賞しつゝ、登る酸ヶ湯は標高一、〇〇〇米の高所で、この高燥地帯に東北帯大の高山植物園がある、此處から山頂まで約四軒(往復所要

の地に遷し奉ると同時にその西端から登山路を拓き、その後は再び災難に遭ふ者絶えて人々の崇敬は年々共に加つたこの地が即ち百澤で、百の餘洞を越えたとこころの意味でこの名が出たといふ、一説にまた、下居宮をこの地に遷したのには鎮守府將軍源義家の命によることといふが、これ等の舊記古文書全部焼失して詳かでない。  
當社は世々地頭、領主等の篤き崇敬の的であり、前後約六回に亘り新築造営、神域の擴張を行つたほか、或は社頭の寄進、或は神器寶物の奉納などこれつゞめ、以て北門の鎮護、藩内の鎮守と仰ぎ、天變地異の際の報告は勿論年々の社参を欠くこと無かつたが、わけても津輕越中守信政の信仰最も篤く、貞享三年から元祿七年に至る前後九年に亘り黄金十八萬兩を投じて本殿の改築堂宇の建立から瑞垣、石垣、華表、門欄、橋梁に至るまで新規造営、修葺補繕を加へて面目全く一新し現在「奥の日光」と呼ばる、莊嚴、壯麗のものとなつたのである。維新以後、神佛混淆仕分の際百澤寺及び附屬の佛堂は悉く廢止されて岩木山神社となり明治六年六月國幣小社に列せられたものである。

仙鐵の登山引列車運轉

仙鐵局では東北の夏山を目指す人々のために昭和十一年七月十日より八月末まで左の表に隨つて運賃二割引をやつた、前年に較べると燒石岳一つ減つてゐるが、此後これ以上減ることにはあるまい。(發着驛指定)





スキーの東北

関東の皆様これから東北の冬をお知らせいたします。秋も末になると二三枚あつた木の葉もちり果て、ミゾレもだんだん本降の雪になつて来ます。そのころになると一夜の中にいつめん(註一)面白くなることがあります。お断の國に、まよいこんだとはこんな時のことを言ふのではないでせうか。

あゝ雪だ!!

思はず知らず、からだはね上るのです。心がおどるのです。冬のまつさい中、朝、早くおきて、山小屋のまどをあけると、朝日がさして、銀色に、かざやいてゐるのです。僕たちは、よく、冬休みには、おとうさんたちと大鰐や、田山などのスキー場に行きます。そこにはひろびろとしたスロープがあります。銀色にかざやくスロープの頂上から二筋のスキーのあとをのこして、すべると、雪もおもしろさうに、僕の足をどりこんで来ます。その氣持は、雲のつて空をとぶやうであります。小さい子供たちも、女の人達もまじつて、すべつてゐます。中には、サーカスの曲乗りやうな面白いすべりかたをしてゐる人もあれば、二十米もジャンプして、僕達の目をまるくさせる人もあります。ペコペコになつた腹をかゝへて、山小屋にとびこんで、つめこ

む御飯のおひしいことつたらありません。東北の冬と言へばさむいやうに思はれますが、こんなに楽しくあそべる僕達はしあはせです。どうぞ皆様冬の東北にお遊びにおいで下さい。(國際觀光局募集小学生觀光作文二等賞選作一調査ノ項所載)

吾妻山附近のスキー場

▲沼尻 二百萬坪のグレンデを有し全国的に有名な沼尻である。スキー場は地形の上から初歩練習コース、普通練習コース、競技用コースに區分してある。練習場と普通いはれて居る場所は廣さ巾三百米長さ四百米もあり八度、十五度、二十四度の傾斜である。粉雪で乾燥質で十二月下旬から二月下旬までは平均一米強の積雪で氣温は攝氏十二度位。  
イ、沼尻沼尻沼尻(上り三十分) 沼尻沼尻(上り二十分)  
ロ、沼尻沼尻(上り二十分) 沼尻沼尻(上り二十分)  
ハ、沼尻沼尻(上り二十分) 沼尻沼尻(上り二十分)  
ニ、沼尻沼尻(上り二十分) 沼尻沼尻(上り二十分)  
ホ、沼尻沼尻(上り二十分) 沼尻沼尻(上り二十分)

▲米澤 イ、米澤沼尻(上り三十分) 東大嶽(上り三十分) 天狗岩(上り三十分) 天狗岩(上り三十分) 天狗岩(上り三十分)



▲五色 イ、板谷驛(上り三十分) 五色温泉(上り三十分) 五色温泉(上り三十分) 五色温泉(上り三十分)

藏王山附近のスキー場

純然たる山岳スキー地、傾斜は概ね緩で雪崩の危険はない。中腹以上には例の怪奇な樹水が見られる。この山の特殊性は氣候の變化の激しいことで、毎シーズンスキーヤーが悩まされるのは熊野岳附近である。

▲白石

▲白石 A、白石沼尻(上り三十分) 白石沼尻(上り三十分) 白石沼尻(上り三十分) 白石沼尻(上り三十分)



▲岩手松尾 A、岩手松尾(上り三十分) 岩手松尾(上り三十分) 岩手松尾(上り三十分) 岩手松尾(上り三十分)

八甲田山附近のスキー場

▲八甲田山 A、八甲田山(上り三十分) 八甲田山(上り三十分) 八甲田山(上り三十分) 八甲田山(上り三十分)

都市近接地のスキー場

▲仙台 A、仙台(上り三十分) 仙台(上り三十分) 仙台(上り三十分) 仙台(上り三十分)

▲奥中山スキー場 東北本線奥中山線の西北三丁、粉雪三尺。  
 ▲區界スキー場 山田線區界線から南五丁粉雪四尺、海拔一キロ以上の岩神山、兜明神嶽などの山の起伏を利用して好スロープが散在して約四十萬坪の廣さを持つ。  
 ▲松草スキー場 山田線松草驛の南、廣汎に開けた百七十萬坪のグレンデは緩急凡ゆる斜面に不自由しない。最近紹介された新しいスキー場である、旅館一軒、宿料八十錢、乾燥室設備あり。  
 ▲東山スキー場 軟雪一尺五寸、附近に奥羽三樂郷ミ瀧はれた東山温泉あり、若松驛から一里十丁の近距離で若松市民の來遊も多い。  
 ▲新庄スキー場 奥羽本線新庄驛から東十丁、陣ヶ森三吉山から東山公園にかけて約十五萬坪の場面、硬雪六、七尺で瀧見への二〇斤コースも拓かれて居る。  
 ▲鳥海山麓小瀧口スキー場 羽越線象瀧驛から一里二十丁、鳥海山の象瀧口へ走る大尾根の大斜面、登山スキー場である。硬雪五尺乃至一丈。  
 ▲岩谷スキー場 羽越線羽後岩谷驛で下車六斤、海拔二〇〇米の丘から麓へ走る自由なコースを擁する。硬雪二三尺。  
 ▲後三年スキー場 奥羽本線後三年驛から約一丁、後三年の役で名高い丘を滑り得るのも愉快。硬雪四尺。  
 ▲小松スキー場 米坂本線羽前小松驛から一、五斤、第一スロープから第四スロープまであり、二十五度から三十度位までの傾斜面が約二十五萬坪、硬雪四尺。  
 ▲平野山スキー場 左澤線羽前高松驛から西南十丁、古くからのスキー場だ。一周二丁のコースがこれ高松小学校内スキー倶楽部には貸スキーがある。硬雪四尺、山形市民の來往が多い。



▲蘆澤スキー場 奥羽本線蘆澤驛下車、驛前鷺の栗山全山これ好スロープ、シャントウも山小屋もある。  
 ▲境スキー場 奥羽本線羽後境驛から二丁、大森山を中心にして五キロ、コースが探れ秋田縣下の競技會がよく催される所である。  
 ▲寒風山スキー場 船川線鶴本線から二丁、寒風山の頂から三段に區分され普通中段から滑降を試みられる。又裏の北浦方面も良い。粉雪二尺で十二月下旬から二月下旬までが好期。  
 ▲猪苗代スキー場 磐越西線猪苗代驛から二十五丁、硬雪三尺。  
 ▲赤崎山スキー場 磐越西線津川線から東六丁、軟雪五尺。  
 ▲手形山スキー場 秋田市から東八十六丁、硬雪一尺五寸位なるも平日は極めて少い。十二月下旬から二月末まで滑れる。  
 ▲富根山スキー場 奥羽本線富根驛の東に二十五丁、硬雪五尺。  
 ▲下瀧スキー場 羽越線下瀧驛から東一丁半、粉雪五尺。  
 ▲笹森山スキー場 弘前市から南西約三、五〇〇米、斜面緩く練習に好適。  
 ▲釜山山スキー場 大妻要港部のスキー場として餘りにも有名である。  
 ▲嘉瀬山スキー場 五能線五所川原驛から北に延びた津輕軌道嘉瀬驛で下車、屢々青森縣下大會が開催される所である。  
 ▲平賀スキー場 弘前市南弘前驛から弘南軌道に乗り平賀驛下車、スキー場は南方一帯にのびコースは藏館温泉、大瀧温泉まで延長出来る。  
 ▲大瀧スキー場 驛から一丁、阿闍羅山麓から眞森へ

かけての大斜面、硬雪五尺、就中狐森附近の緩急幾變化の好スロープは内地スキー場中凡ゆる技術を揮ひ得る場所としてスキーヤーに記憶される所である。昭和八年全日本大會はこゝで開催されて居る。  
 ▲田山スキー場 花輪線田中驛から一、五斤、スキー場の條件として凡そ東北スキー場中の一二を争ふ個所だが比較的世に知られてない。五百萬坪と稱される廣さは實に意のままなる斜面を提供して呉れる。五十斤迄のコースが探れ有効距離八十米のシャントウや山小屋も二ヶ所あり驛からの通路も幅員を擴げた。近くの湯瀧温泉には旅館が三軒ある。  
 ▲鳥臺長嶺スキー場 羽越線蘆澤驛下車、温泉を経て鳥臺八四斤一萬坪のグレンデ、長嶺には六、五斤、五萬坪の大斜面といづれも競技場としてシーズン中何回もご利用される。  
 ▲馬場山スキー場 羽越線鶴岡驛下車、車湯田川温泉を経て九、五斤、馬場山附近に一萬五千坪の廣いそして急な斜面がある。エキスパートは更に虚空藏山と金峰山を指して登る。  
 ▲瀧見スキー場 陸羽東線瀧見驛から麓の澤スキー場は二〇〇米放降山を中心に十萬坪のスロープ。龜割スキー場は四斤三十萬坪の大グレンデ。こゝは新庄へ至る二十斤のコースに指導標がたてられ山小屋には百名の收容力がある。硬雪五尺。  
 ▲鳴子温泉スキー場 驛から一丁、温泉背後の丘陵地帯で手入れの行届いたスキー場として有名。赤湯へ到る四斤のコースには指導標がたてられてある。粉雪三尺。  
 ▲その他 花巻温泉スキー場(軟雪三尺) 高倉山スキー場(硬雪五尺) 淺田スキー場(軟雪四尺) 安積山スキー場(粉雪三尺五寸) 押立スキー場(粉雪三尺) 赤湯スキー場(軟雪三尺)



天童スキー場(粉雪三尺) 東根スキー場(軟雪三尺) 秋の宮スキー場(粉雪四尺) 大瀧スキー場(硬雪四尺) 大瀧スキー場(粉雪四尺) 小野川スキー場(粉雪五尺) 赤倉スキー場(粉雪五尺) 布場、岩原スキー場(軟雪五尺乃至一丈) 等があるが設備等は委細温泉欄を参照せられたし。

水の厚さ七、八寸、夜間照明千八百燭、入場料會員制度。與平沼 仙臺驛から三、五斤、リンクは一萬三千六百九十坪、準油水、氷結七八寸で、別に設備もなく従つて入場料も少ない。  
 高松の池 盛岡驛から三、五斤、池の周囲四斤、水上選手権がこゝで争はれる等その条件の良さにおいて全國有数のスケートリンクである。水の厚さ二尺、入場無料、夜間照明なし。  
 八戸リンク 周囲約四斤、降雪なく寒氣厳しき爲め結氷状態良好厚さ一尺以上、その外ホッケー、リンク、アイスギニア、リンクがある。夜間照明の設備あり、一般來者入場無料。

千秋公園リンク 秋田驛から三〇〇米、濼を利用して約四百五十坪のリンクは準油水で厚さ約一尺五寸、アイス、ホッケー、アイスギニア、スケートリンクに適し一般入場料十錢、夜間照明の設備あり。  
 大山公園リンク 羽越線羽前大山驛から十丁、氷結七八寸。  
 男湯・女湯 奥羽本線追分驛から八丁、氷結七八寸。  
 八郎湯 奥羽本線一日市驛から五丁、氷結一尺以上。  
 田中温泉スケートリンク 陸羽東線鳴子驛から十丁、氷結八、九寸。  
 長沼 東北本線新田驛から三十丁、氷結三尺。

東北の温泉

世界に冠絶する火山國日本、同時に萬邦無比の温泉國でもあることは既に有名である。それを吾が東北地方について見るならば、那須、鳥海の二大火山脈帯有つて、これが諸種の條件のもとに東北地方に温泉湧出の重大なる役割を演じ、山腹、山麓、平原海岸などあらゆる環境に抱かれて一千を越ゆる温泉を有し、九州に次ぐ温泉國となつてゐる。そしてまた温泉の種類も千差萬別で飯坂、上の山、湯田川の如く成年期の圓熟したもの、葛温泉の如く神秘的なもの、淺虫、東山の如く遊樂本位のもの、須川、酸ヶ湯、五色、滑川、青根、碓々の如く高原療養と紫外線浴を兼ねたもの、温海、湯ノ濱の如く海水浴を兼ねたものがあり、成分の上から見れば伊豆修善寺と同質の成分で、それよりも有効成分の多い日本

觀光の東北

一と稱すべき鎌先温泉が有る。草津まで行かずとも、それと同質の信夫高湯、最上高湯、嶽、酸ヶ湯等の温泉もある。又我國の温泉中稀れに存するヨード・ブロム・硼酸含有の食温泉の秋保温泉有り、又海水の食鹽度と同様の熱鹽温泉がある。それ等東北の諸温泉は大體において荒削りなそして處女性に富んでゐるのが特徴である。中には花巻、湯瀧の如く近代工作を施して關東、關西の諸温泉に優るとも劣らぬ温泉もあり、温泉方面の如きも一般に安價でしかも情趣豊かといはれてゐる。吾等は、この國寶的温泉を一般に有意義に應用せしめ、小にして一家一族の健康のために、大にして一國民の健康保全を冀ふものである。

○行基開湯の傳説も各地に少くないが東山温泉も行基の開湯と傳へられてゐる。昔行基が會津の地にさしかると、不思議にも三羽の鳥が、しきりに何か意味あり氣に啼くので、怪んで鳥の尋くまゝにそのあみをつけて行くと、白煙を立て、温泉が湧いてゐた。見れば其煙には羽毛の脱けたれは又は傷を負つて苦しむ禽獸が浴してゐる。温泉の効能を悟つた行基は大いに悦んで、里人を招き此處に湯槽を作らせるところになつた。これが東山温泉の始まりで、それ故今でも此處では、絡湯瀧湯、猿湯、の名が残つてゐる。  
 ×白澤の湯口と秋保温泉  
 ○陸前刈田郡の白澤の湯口といふ所にも昔は熱湯がさん／＼湧き出して、畑の差別なく澆すので、作物が一切枯らなかつた。それを心配した村の人達が刈田嶽の

東北の海水浴場に就て

東北の海水浴場の施設が、なほ改善の餘地を多分に持つてゐることは否めないが、その代り海水の明澄度は東京附近のい

此處に説くまでもあるまい。その意味で吾々は最も理想的な海水浴場として太平洋岸では常磐線の

毒の外人部隊 高山を日本人に尋ねて解らなかつたら異人さんにきて御覽なさい。彼等の大部分は即座に

地在住は勿論、例によつて遠く上海に降りたりからまで種々珍客到来し、松原に滞在する簡素な

昨今温泉浴用の効果のほかに飲泉の効果も認められ、盛んに飲料に供せられるやうになつた。温泉飲用の効果は近年の學説の如く考へられてゐるが、實際は今から一千年も前から行はれてゐたものである

とによつて、その効果を顯すものであるから、温泉業者は飲泉希望者のために岩石や其他の湧出部位より引揚するときは石管、瀬戸引土管の如き温泉成分に影響を來さぬ物質を以て引泉すべきである

神に願かけて、湯止めの祈りをすさむ、神の託宣に「乗牛を一匹求め、三歳の男子に牽掛を懸けて湯を唐子に結んでこの牛に乗せ、湯口の湯を捧げて詰めてそれを一緒に牛の背に乗せて湯に漬けてやれ

東北本線

Table with columns: 湯名, 場所, 交通, 温泉, 質, 温度, 主治効能, 宿屋, 記事. Lists various hot springs and their details.

観光の東北

Table listing various hot springs (温泉) in the Hebei region, including names like 秋保, 定義, 須川, 駒ノ湯, 眞湯, 花巻, 志戸平, 大澤, 西鉛, 湯田, 夏油, and their respective locations, mineral compositions, and medical benefits.

×大鰐温泉

○大鰐温泉は觀世菩薩に導かれた午の教へで發見されたと傳へられてゐる。舊藩時代に加賀や能登の商人が海山越えて諸國へ稼ぎに出かけた頃のことであつた。ある日のこゝ、加賀から来た一人の男がこの果の國の人達には珍らしい品物を澤山牛の背に積んで、弘前の城下へ賣りに行つた。幸ひにも荷はずりか賣割りしてしまつたので、朝かな気分になつて牛をいたはり乍ら松並木の街道を歸りかゝつた。時節は既に春も深い頃で、岩木山の嶺に残る雪も消え、路傍には草が萌え、花も開き始めてゐた。形開な春を我が心に感じた商人は川岸の柳に牛を繋いで土手の芝草に腰を下し一休みをしたがそのうちに畫の疲れで遠うさゝみ前後も知らず深い眠りに落ちた。ふと起りが明るくなつたので、気がついて顔を上げると、觀世菩薩の靈光に包まれて微笑みながら立つて居られたが、向ふを指して何やらいはれたかと思ふこの御姿は消え失せてしまつた。我に歸つた旅人は目が醒めて夢であることに氣づいた時は日は既に西へ沈みかけてゐた。南無阿彌陀佛の口中で唱へながら立ち上つて傍の柳の木に近づくと、驚いで置いた管の牛の影が見えない。不思議に思ひながら少し行く、向ふの方に湯気が立ち昇つてゐる。近づいて見ると一丈四方程の池があつて、濼々として昇る湯煙りの中に夢に現はれた觀世菩薩が、今探してゐる牛の背に乗つて居られる。氣に取られてゐるうちに、神よしい御姿は牛と共に

Table listing various hot springs (温泉) in the Tohoku region, including names like 湯田, 西鉛, 大澤, 志戸平, 花巻, 眞湯, 駒ノ湯, 須川, 作並, 定義, 秋保, and their respective locations, mineral compositions, and medical benefits.

×湯の澤の湯

湯氣に包まれ、空へ上るかと思はれる間に影も形もなくなつて、あゝ唯涙々として上る湯湯と立ち上る湯煙ばかりであつた。非常に正直な信心深い男であつた。それは日頃の信心を喜ばれて佛様がこの温泉を授けて下さつたのであるかと、國元へ歸らず此處で生涯を送る志を立て池の傍に小屋を作り、村人を呼んでその幸を分けた。その中にこの湯が何の病にも効くといふことが知れ、段々遠くから人も人が出出して、村が次第に榮えるやうになつた。今温泉の守護神として崇められる、大日堂には斯ういふ因縁で觀世菩薩を本尊とし牛を合せ祀つてゐる。そして元湯の湧いてゐることを柳の湯といひ、今も榮えてゐる加賀助旅館の主人は昔の旅商人の子孫で、代々加賀助を名乗るこゝになつてゐるといふ。

×嶽の湯

○津輕富士で名高い岩木山の山腹にある嶽の湯近く赤倉の窟に巴鶴林といふ大人(デアイアント)が棲み、不信心な人浴者をひどい目に合はせるといふ。昔は湯口が今の所より遙か奥の方に在つたのであるが、其處へ浴びに行く人達が屢々思ひも寄らない目に遇ふので、この湯へ行く者は次第に稀になり、遂に山道に近い今の山の湯まで退いてしまつた。しかし湯の効能からいへば、さうも元の湯の方が良く効くやうに思はれるので、身を堅固に渡つて、白晝元湯へ出かける者もあつたといふことである。

常盤線

Table listing stations and routes for the Tohoku Main Line (常盤線) and Tohoku West Line (陸羽東西線). Includes station names like 湯本, 高野, 折木, 川渡, 赤湯, 新元湯, 鳴子, 河原湯, 湯本, 高野, 折木, 川渡, 赤湯, 新元湯, 鳴子, 河原湯 and details on routes, fares, and local services.

○黒石の近い湯の澤にも昔はよい湯が湧き出していたのであるが、今では全く冷泉になつて、その名残りをたゞ地名にのみとせざるはかりである。いつの頃であつたか、遙々遠い國からこの奥州津輕の湯の靈驗を聞き傳へて、道中奮れのした母が一人の娘を連れて訪ねて来た。漸く辿り着いた嬉しさに、岩間から湯煙の立ち昇る流れを見て、「どうぞ此の娘を人れてやつて下さい」と村人に哀願した。けれども見れば、娘の肩は目もあてられぬ程の腐れ方で、肌の聲からは盛んに膿汁が流れてゐる。あさが汚れるたらう。何とでもこればかりは止めて貰はねばならぬ。何處から来たのか不問ではあるが裸にならずにゐて下さい。と尤もな断りやうに失望した母娘は思はず泣き伏してしまつた。此處まで来たが浴みせずには長道の甲を再び戻ること出来ぬ。頼みにして来たこの湯に人ごみが出来ないならば、最早生きてゐる甲斐もなさう思ひつめた娘は、母の眼を窺もせずに身を投げて死んでしまつた。母が氣づいて見ると娘の姿が見えぬので、方々探してゐるうちに、古池に娘の死骸が浮んだ。悲みの餘り母も娘のあとを追うて身を投げて死んでしまつた。母がこれらに氣を配つたが、思ひ返してこれらに娘の無情からたゞ深く恨んで、ひそかに娘の骸を湯に入れておぼれぬやうに氣をつけて攝津の有馬の湯へ持つて行つた。母親が立去つたあと、さしもの熱湯も俄かに冷え果て、反對に有馬の湯はこの時かに一層熱くなつた。娘の身を投じて死んだ泡を今十七七といふのは死んだ時の歳が十七歳であつたからといふ。

×大瀧温泉

○大瀧温泉は湯の殻で運んで来た湯が元となつて湧くやうになつたのだといふ。遠い昔、あやしの翁が卵の殻に湯をつめて、これを薄の苞に包み此處に打ち棄て、過ぎ去つた。その後翁は恐らく神か佛であつたらうといふので、祭つて其處に湯を植えた。今湯の傍にある薬師堂に湯を植えるのは別な理由からで、これ故にこの温泉は、別名を薄の湯或は卵の湯と呼ぶのである。

×赤湯温泉

○昔羽前赤湯の地に米野與惣右衛門といふ者が住んで居つた。もろ／＼何處の人は判らないが、既に此處へ来り住むこと四十餘年、その間深く薬師如來を信じ赤湯を寄せて居つた。或る夜夢に薬師様の託宣あり「紀州の高野山に弘法大師といふ名僧留置がゐる、諸國を遍歴すること久しく、明日は必ず此地に来るであらう。宜しく敬ひ尊ぶ教を受けるがよい。又此地に温泉があるが、それは大師がよく知つてゐる筈であるから大師に問ひたせよ」とのことであつた。與惣右衛門は眼が醒めてから不思議に思ふ、また夜も明けないうちに、薬師様へお詣りに行つた。ところが偶然にも長身白眉の僧に會つた。大いに喜んで家に伴ひ厚くもてなす。彼の僧のいふ「自分は弘法大師である。夙に佛門に志し紀州を出て天下の名山聖地を巡ること久しく、遂に此處まで

觀光の東北

Table listing various hot springs (温泉) in the Tohoku region, including 中山平, 鬼首, 栗駒, 赤倉, 瀬見, 最上, 今神, 草薙, 熱海, 高玉, 川上, 中の澤, 沼尻, 湯本, 高野, 折木, 川渡, 赤湯, 新元湯, 鳴子, 河原湯, 湯本, 高野, 折木, 川渡, 赤湯, 新元湯, 鳴子, 河原湯. Includes details on location, type of water, and local services.

Table listing various locations (野地, 野向, 横向, etc.) with details on transportation, water types, and medical benefits.

来たのであるが、生憎と脚に患ひを起したので、暫く此地で療治しようと思ふ。見れば北方に雲氣が多いやうであるがこれは必ず雲湯の埋れてゐるしるしであらう。奥右門も前夜の夢を語り、開湯の望を告げられた。大師は彼を伴ひて石の重疊するあたりに行つて、此處まで教へられた。しかし硬い岩石のため、中々穿つことが出来ない。そこで大師も力を合せて漸くこれを抜けば、そこから湯が噴出して来た。試みに大師の脚を洗ふと、数日の中に全く癒えてしまつた。大師は此處を去るに當つて、「この温泉の効目は更に著しく、世の人を利すること莫大なるものであるから、人々に告げて、天與の幸福を世人に分つがよからう」といはれるのに、奥右門も大いに喜んで土石を除き浴槽を設けたのが、この温泉の起りで、以來後世に傳へ今日に至つたのである。

× 湯

○奥羽本線の峠から西方へ二里ばかり入つたところにある湯湯は、元は山嵐の浴びた温泉であつたが、それが人間の湯になつたに就ては哀れな話がある。昔この山奥に一人の樵夫が年老いた母と共に、平和な生活を遂げてゐた。若人が毎日薪伐りに行く谷向ふの山への近道には丸木橋が架つてゐた。彼は朝夕慣れた足ざりで、この丸木橋の上を往來して居つたが、谷に青い霧のかつて居る時だけは、この橋を渡るに必ず禍を受けるといひ傳へられてゐたので、これを避るに遠廻りして歸らねばならなかつた。或る日、若人は朝出かけに言ひ含められた。「かねてお前の縁に思ひ定めてゐた娘が今夜来る事になつてゐるので、今夜娘言を済ませたいから早く仕事を切り上げて来るやうに」といふ母の言葉に、羨みながらも従順に、午下り早目に仕事を切上げて家路に就いた。所が例の丸木橋へさしかかると、こは如何に谷一面に青い霧が漂つてゐる。遠廻りすれば歸宅が遅くて短氣な母に苦勞をかける。この橋を渡つては禍必定。如何にすべきかと若人は暫し思案に暮れたが若き血に燃ゆる銳心は遂に神祕の言ひ傳へを破つていづしな橋を渡り始めた。しかし一歩一歩を踏み出した足は急に空をついたかと思ふ。彼の身は眞澄様に谷底へ落ちて行つた。幾時か過ぎて我に歸つた彼は過りを見廻すと、もう日は暮れ、片足には劇痛を覚え、腫い血の匂さへ漲つてゐるやうである。家に歸らうにも見當さへつかない闇夜である。ふと闇を透かして、遙か彼方に燈火らしいものが見えたので、或は人里の在處も知れようか、心に獨り合點して痛む足を踏みしめて傍の岩の上を、こけつまるびつ漸くして辿りついた。段々近づいて見れば、岩の上に松明が焚かれ、湯の中に白髪のお婆が一人眼目して浸つてゐるのであつた。一寸ためつた後、恐る恐る聲をかけた若人をふりむき眼を見開いて睨んだお婆の形相は物凄かつた。が彼は此處を先達と腹を据えて人里への路を尋ねた。するとお婆はその路を教へ、更に「この温泉はお前達常人に汚さるべきものではないが傷を負うてゐる様子、餘り痛はしいので

羽越線

Table listing locations (湯の上, 湯本, 湯野, etc.) with details on transportation, water types, and medical benefits.

觀光の東北





Table listing various locations (e.g., 湯の澤, 大鰐, 湯の段) with details on their mineral water types, health benefits, and local products.

を立ち出で、更に東に向つて奥州地に入り、漸くにして、吾妻川の水上なる關谷(今の南京村)まで来たところから、兩脚疲れて最早歩むことも出来なくなつてしまつた。路傍の石に腰を下して休んでゐる。其處へ白髪のお翁が出て来て、「貴女は都人とお見受け申すが、何處へお出でになりますか」と問ふので、小町は事の由を語り吾妻川の在處を訊ねた。すると翁は傍の淺流を指して、「これぞ吾妻川ぞ」との答に小町は大に喜んで更に出湯の在處を問へば翁の云ふが、その出湯は此處から四五町程川下にあります。路傍に牛馬も通はぬ程です。御婦人の御身は其處へお出になることはなか／＼容易ではありません。ですから私が御案内申上げませう」と、小町を背にして草原を分け石を攀ぎ出て出湯の場所に着いたかと思へば、翁の姿は忽ち白髪を化し、消え失せてしまつた。これぞ春日明神の御使であらうと今更年ら感泣した小町が神の教のまゝに湧き出づる岩間の湯壺に浴すること三週間は病氣も全く癒えたところへ、驚き親子の宿縁の致すところか、不思議にも父の郡司が偶々吾妻川のはらに來て釣すのに會した。小町はその袂に纏つて泣き喜んだ。しかし郡司は容易にそれを信ずることが出来なかつた。遠く都に居る管の我が子小町が千里の路を遙々此處まで我が身で越え來る道理がない。病に罹れ、旅籠のした小町の面影、殊には黒衣刺髪の有様である。或は狐狸變化の戯か、暫くの間は疑ふて居つたが、小町の取り出す證據の書置と歌に、漸く疑念を去り、父子手を取つて喜んだ。小町はそれより此處に逗留することになり、翌承和四年(皇紀一九九七年)四月八日峰

Table listing various locations (e.g., 板留, 泥湯, 湯の又) with details on their mineral water types, health benefits, and local products.

上ノ原 ゴルフリンク

宮城縣鹽釜町、鹽釜線鹽釜、又は宮城電鐵本鹽釜驛下車「仙臺カントリー俱樂部鹽釜ゴルフリンク」といふのが正確な名稱で、仙臺の同俱樂部と鹽釜町有志の協力により昭和九年五月、鹽釜神社外苑の理想的廣地上の原に工事を始め、その第一期工事(六ホール)を昭和十年八月末竣功した。リンクの全長は五八六五ヤードにして、アウトコースは二九一〇ヤード、インコースは二九五五ヤードである。目下第二期工事(三ホール)を引續き急いでゐるが、總て十八ホールの全部を竣功するときは總面積優に二十萬坪を超える豫定である。本邦斯

界の最高權威赤星四郎氏の設計に成るもので、那須ゴルフコースと共に東京以北切つての本格的理想的ゴルフ場の完成されるのも程近い眼下に鹽釜港と松島の風光を、一望に收め得るこの丘に仄かなる潮風を浴び乍らクラブを握る爽快さは、列車のスピードアップと相俟つて、この後全東北、關東方面までのゴルフアーに賑ふであらう。入會金は特別會員金五百圓、賛助會員金三百圓、正會員は金百圓也。で官吏會社員等轉任の可能性の多い人のために入會金の分納の便法あり、會費は特別賛助兩會員は不要、正會員は年額金五拾圓である。なほグリーンフィーは五十錢、ビジターフィーは平日金二圓日曜祭日は金三圓。俱樂部の組織は左の通りである。會長 伊達興宗 理事長 一力次郎 専務理事 早川退藏

旅館案内 (主として鐵道指定のもの)

一、東北本線

Table listing hotels and inns along the Tohoku Main Line, including names like 柳屋本店, 角金, 旅いさみや, and details on location, phone numbers, and services.

新しい全東北人の唄

本社選民誌
// 伸びる東北 //
一、續け山脈
二、光れ野面よ
三、おいらの郷土
四、林檎花咲け
五、おいらの郷土

觀光の東北

Table listing hotels and inns in the Tohoku region, including names like 稻荷屋, 赤川屋, 小瀧旅館, and details on location, phone numbers, and services.

田畑はたから
山は黄金の庫だ
伸びる東北
おいらの郷土
名産みやげ集
(※印は驛のホームでも販賣するもの)

不忘閣	青根	出	〇	七〇〇、五〇〇	〇	二〇〇人	特別室	特別室	特別室
佐 勘 名取郡秋保温泉	〇	〇	〇	二五〇、一〇〇	〇	二五〇人	特別室	特別室	特別室
仙 臺 仙臺市駅前	〇	〇	〇	二五〇、一〇〇	〇	二五〇人	特別室	特別室	特別室
針久別館 仙臺市駅前	〇	〇	〇	二五〇、一〇〇	〇	二五〇人	特別室	特別室	特別室
針久支店	〇	〇	〇	二五〇、一〇〇	〇	二五〇人	特別室	特別室	特別室
奥田旅館	〇	〇	〇	二五〇、一〇〇	〇	二五〇人	特別室	特別室	特別室
青 木	〇	〇	〇	二五〇、一〇〇	〇	二五〇人	特別室	特別室	特別室
中村旅館 仙臺市多門通	〇	〇	〇	二五〇、一〇〇	〇	二五〇人	特別室	特別室	特別室
及川旅館 仙臺市東一番町九三	〇	〇	〇	二五〇、一〇〇	〇	二五〇人	特別室	特別室	特別室
芭蕉館 仙臺市南町三七	〇	〇	〇	二五〇、一〇〇	〇	二五〇人	特別室	特別室	特別室
境 屋 仙臺市南町五四	〇	〇	〇	二五〇、一〇〇	〇	二五〇人	特別室	特別室	特別室
瀬戸 仙臺市南町三九	〇	〇	〇	二五〇、一〇〇	〇	二五〇人	特別室	特別室	特別室
針久本店 仙臺市南町五〇	〇	〇	〇	二五〇、一〇〇	〇	二五〇人	特別室	特別室	特別室
大泉本店 仙臺市南町五二	〇	〇	〇	二五〇、一〇〇	〇	二五〇人	特別室	特別室	特別室
菊 平 仙臺市南町七八	〇	〇	〇	二五〇、一〇〇	〇	二五〇人	特別室	特別室	特別室

白河(名譽饅頭、饅頭、仙臺柿)  
 北白河(鮎、仙臺柿)  
 大河原(鮎よし鮎)  
 岩沼(稲荷あんもち、仙臺白菜)  
 増田(仙臺白菜、燒餅、芹、墨表)  
 仙臺(九重(菓子)政岡豆、\*鯛味、\*牡丹、\*笹蒲鉾、埋木細工、仙臺平、八橋餅、味噌饅頭、\*萩の露、\*松島(菓子)\*さんざし(菓子)\*松島(菓子)  
 岩切(仙臺白菜)  
 利府(梨)  
 松島(紅蓮餅、饅頭、蟹、牡丹、實竹)  
 小牛田(\*子持饅頭、\*餅雀焼、\*おまくら餅、\*子福最中、子寶はん)  
 瀬峰(仙臺白菜)  
 新田(海老、鮎)  
 石越(若柳蚊帳)  
 一の関(田村の梅、時の太鼓(何れも菓子)、\*加子の甘露漬、\*鮎味噌、\*巴まん頭)  
 平泉(漬餅、排慶の力餅)  
 水澤(高砂巻、饅頭)  
 花巻(名物おこし、花巻土人形、首人形)  
 盛岡(\*豆銀糖、\*かめ餅、南部饅頭、南部馬(玩具桐人形)、\*松山せんべい)  
 北福岡(胡桃半饅頭、桑茶)  
 尻内(南部せんべい)  
 野邊地(帆立餅、帆立貝柱、\*錦鶏饅頭)  
 淺蟲(久慈良餅)

内海旅館 仙臺市東一番町九一	〇	〇	〇	二五〇、一〇〇	〇	二五〇人	特別室	特別室	特別室
鹽 釜 宮城郡鹽釜駅前	〇	〇	〇	二五〇、一〇〇	〇	二五〇人	特別室	特別室	特別室
太田屋 〇	〇	〇	〇	二五〇、一〇〇	〇	二五〇人	特別室	特別室	特別室
旅 館 〇	〇	〇	〇	二五〇、一〇〇	〇	二五〇人	特別室	特別室	特別室
海老屋 鹽釜駅前	〇	〇	〇	二五〇、一〇〇	〇	二五〇人	特別室	特別室	特別室
觀 光 宮城郡松島町	〇	〇	〇	二五〇、一〇〇	〇	二五〇人	特別室	特別室	特別室
松 島 宮城郡松島町	〇	〇	〇	二五〇、一〇〇	〇	二五〇人	特別室	特別室	特別室
白鷗樓 宮城郡松島町松島	〇	〇	〇	二五〇、一〇〇	〇	二五〇人	特別室	特別室	特別室
觀月樓 〇	〇	〇	〇	二五〇、一〇〇	〇	二五〇人	特別室	特別室	特別室
パ ー ク 〇	〇	〇	〇	二五〇、一〇〇	〇	二五〇人	特別室	特別室	特別室
ホ テ ル 〇	〇	〇	〇	二五〇、一〇〇	〇	二五〇人	特別室	特別室	特別室
東洋館 宮城郡松島町海岸	〇	〇	〇	二五〇、一〇〇	〇	二五〇人	特別室	特別室	特別室
小 牛 田 遠田郡不動堂村	〇	〇	〇	二五〇、一〇〇	〇	二五〇人	特別室	特別室	特別室
ホ テ ル 〇	〇	〇	〇	二五〇、一〇〇	〇	二五〇人	特別室	特別室	特別室
石 橋 岩手縣西磐井郡一関町	〇	〇	〇	二五〇、一〇〇	〇	二五〇人	特別室	特別室	特別室
ホ テ ル 〇	〇	〇	〇	二五〇、一〇〇	〇	二五〇人	特別室	特別室	特別室
勢登屋 〇	〇	〇	〇	二五〇、一〇〇	〇	二五〇人	特別室	特別室	特別室
清水屋 岩手縣西磐井郡一関町	〇	〇	〇	二五〇、一〇〇	〇	二五〇人	特別室	特別室	特別室

青森(\*林檎、津輕饅頭、\*津輕鮎、\*昆布半饅頭、木通細工、木曾饅頭(玩具)\*昆布菓子)  
 ▲常盤線  
 久の濱(俵牛、玩具)  
 富岡(\*富久饅頭)  
 原の町(\*雲雀あんもち、\*相馬饅頭、\*柚子羊かん)  
 中村(柚子砂糖漬、相馬饅頭)  
 ▲鹽釜線  
 鹽釜(しほがま菓子)鯛、不老團子、鯛味噌、笹蒲鉾)  
 ▲陸羽東線  
 中新田(牛蒡漬)  
 鳴子(わらび餅、鱧魚煎餅、こしけつ子(玩具)木細工(玩具))  
 川渡(\*鱧魚饅頭)  
 ▲石巻線  
 石巻(石巻最中、牡丹餅、磯衣)  
 ▲大船渡線  
 氣仙沼(鮎味噌、鳥賊煎餅、海苔羊羹、\*磯の松)  
 ▲八戸線  
 八戸(八戸煎餅、干菊、八幡駒(玩具))  
 ▲奥羽本線  
 庭坂(梨)  
 ▲奥羽本線  
 峠(\*力餅)  
 米澤(\*時雨の松(菓子)\*くるみ、\*ゆべし、\*葡萄羹、切山椒、常盤漬、\*酒、\*櫻桃、\*松笠人形、\*笠野駝、\*相模物、\*しほ、\*梅菜、\*牛肉和漬)  
 赤湯(葡萄、葡萄酒、櫻桃、\*菓菜、

Table listing various locations in Hebei, including hotels, inns, and public houses, with details on their services and facilities.

石焼唐辛、\*ころねん(菓子)\*くるみ羊かん、時雨の松、上の山(紅柿、干柿、山葡萄、麻布紙、きび團子、櫻桃)...

Table listing various locations in the Tohoku region, including hotels, inns, and public houses, with details on their services and facilities.

ランデー、生葡萄酒、\*林檎羊かん、津輕塗、木通草細工、松笠人形、土人形、木馬(玩具)\*岩木餅、\*巖おこし...